

第三部「特集・II」

わが街川越
沈澱党始末記

わが街 川越

やっぱり川越っ子

佐々木 雄 司

一、古文書の発掘——新入生總代「宣誓」（口絵参照）

私は極度の原稿恐怖症である。この世の中から原稿用紙がなくなったら、どんなに暮しやすくなるだろうと希い続けて生きてきた。ワープロをマスターしたとしても所詮は同じ。大学教員としては失格である。

青柳・堀・松村の諸兄から、礼儀正しいソフトな電話や手紙が重なった。出版社からの厳しい催促には耐性ができていた私も、これは放ってはおかず、苦慮した。追いつめられた拍子に、古文書の存在可能性に思い当り、見事、その発掘調査に成功した。寝たきりで闘病生活中の母（八十八歳）が、整理魔だったのが幸いした。

總代だった——などひけらかすのは、私の美学にはあわぬが、全員が還暦を過ぎた今となっては、それも時効であらう。それにも増して、四十八年ぶりに読み返してみると、なんとも凄まじいあの時代が、まざまざと思い起される。やはり、「時代」を語る貴重な資料として記録に残すべきだという「想い」が私の美学を上まわった。それに、われわれ同級生の出発の日の記念碑でもある。

A3の用紙に毛筆。難しい漢字とカタカナ、もちろん旧カナづかい。数か所朱筆が入っている。記憶をたぐると、

入学式の前日に川中の教員室に呼び出され、学年主任予定の那須大輔先生のチェックをうけたものだと思う。これにそつてその夜に清書し、当日使用の最終稿は、そのまま川中に提出してしまったのであろう。見当らなかつた。

二、武蔵高への転校とその後の転勤人生

川中の大好きな「軍国少年」は、こうして入学した。川中生活は、かけ値なしに楽しかった。では、なぜその川中を中途で背にしてしまったのだろうか。今でも罪の意識が残存しているが、理由は単純である。私には放浪癖があるらしい。生来性のものであろうか。学制が変わって新制高校となり、六年間の在学となつたら耐えられなくなつたのである。そして、五年目に武蔵高校に転じた。

同一個所に長くないで変化を好むというこのパターンは、医師になつてから現在まで一貫した私の生き方であつた。「東大精神科（↓同愛記念病院）↓ハワイ大学↓都立精神衛生センター↓埼玉県精神衛生センター↓琉球大学↓都立精神衛生センター↓東大精神衛生」と、われながら見事に動いた。そして、昨春東大を定年退官して、今、獨協大学（章加市）に勤務している。同一企業や同一自治体での人事異動ではなく、すべて自らの意思による「転職」である。もう一度繰り返せといわれても不可能だろうし、精神医学・精神衛生学の領域でも、空前絶後の転勤人生といえそうである。

もちろん「変る」ことには功罪両面あろう。しかし、私にとっては、数年間全力投球しては、又、新天地を求めるといふパターンが最も適していたし、又、それを可能とした条件にも恵まれていたというほかない。「変る」ことの最大のメリットは、よき仲間が各地に増えること！ 現に私は、こうして川中と武蔵という二通りの同級生がい

る幸せ者である。小熊兄弟のご尽力で、先日、名実ともに川高同窓会に入会させて戴け、心から感謝している。考えてみると、一年休学したので、小学校でもやはり、同級生は二通り……。しかし、残念なことにワイフは三十一年間まだ変っていない。

三、佐々木医院

私は川越で生まれて川越で育った。そして現在も、連馨寺の裏、旧大工町通りの佐々木医院に住んでいる。川中時代と同じである。父が昭和十年頃、借金して造った家屋で、そろそろ「文化財」ものである。核家族には広すぎるし、木造なので冷暖房も難しく、管理も絶望的である。堀・柴崎兄弟が心配して改造などアドバイスしてくれるのだが、肝心の私が仕事にかまけ、まだ真面目から考える余裕がない。大体、私の能力を超えた「大事業」であり、つい逃げたくなる。じつと、暑さ寒さに耐えて任んでいるほかない。そもそも、土地が何坪あるのかも関心がない。医学部卒業時、内科と精神科の何れにすすむべきか、かなり迷った。内科医になったら、父のあとを継いで、佐々木医院をやっていたのかもしれない。結果的には精神科を選び、後に精神衛生に転じ、前述のように各地の公務員を渡り歩いてしまった。佐々木医院は、ワイフが、精神科外来診療所として、細々と継いでくれている。この点では、ワイフには頭が上らない。かくして私は、名実ともに川中時代と同じで、佐々木医院に住んでいる。

四、川越女子高

昨春から、月に一回ほど、川女の門をくぐることになった。残念ながら、還暦をすぎてもはや胸もとときめか

ない！これは、私にとっては地元での三回目の仕事である。

最初は埼玉県精神衛生センター所長時代（昭和四十六年五月～五十二年一月）。土地っ子所長として、県庁でも県内各地でも応援団が多く、快適な七年間であった。もちろん、川越も守備範囲の一つ……。

二度目はマンション建設反対運動！昭和五十年代後半、東急と大京を向こうにまわして闘ったが一敗地にまみれた。そもそも地域組織化や社会運動などは、精神衛生活動の一分野であり、プロ中のプロのはずだった分野だが、如何せん、仕事の「片手間」では歯が立たなかった。旧大工町通りには、今、十五階建てのライオンズマンションが、高々とそびえている。佐々木医院の冬の寒さは格別である。

今度の川女は、小林洋左校長との「共同作業」。精神衛生に関する校医となったわけである。幸い、先生方は、意欲的だし、生徒たちは可愛い。各地で積み重ねた私の体験をつぎ込んで、精神衛生に関する全国のモデル校にできれば——と、熱意を燃やしている。川中に入りながら川中に背を向けた私が、川中の同級生の縁で川女の仕事に手を染め始めたというのも、やはり川越っ子なのだろう。

私の川越物語

正木 一男

私が川中、川高にお世話になったのは昭和二十年の五月から昭和二十四年の三月末までであります。当時いろいろの疎開者であり、川中への転入者であります。

父親は康作といひまして川中の先輩で、貧乏な刀鍛冶の倅でありましたが、横浜高工（今の横浜国大工学部）卒業後米国のユタ州立大に学び、その後MITに通い帰国した変わり種であります。彼は生まれ故郷川越をこよなく愛し、昭和十六年には自分が役員を務めていた非鉄金属の精錬工場（三徳工業川越工場）を川越に誘致したり、自分が学んだ菅原小学校に何かと寄付をしたり、並以上の愛着があったのではないかと思います。前置きが長くなって申し訳ないのですが、父親のことに触れないと何故川中にお世話になったか分からないし、又、この拙文にアクセントを付けることが出来ませんのでご勘弁下さい。

さて私の方であります。川越の住人になりましたのは昭和二十年の三月十三日からであります。同年三月十二日に東京は下町（千代田区、江東区、墨田区）を中心に米軍B29による大空襲に遭い焦土と化しました。私は大空襲の翌日、集団疎開先の伊豆の湯ヶ島から東京経由で川越に辿り着いたのであります。

同日東京で垣間見た焼け野原の広がり、煤だらけの多数の被災者の群に子供心に大変に不安を感じたのを覚えております。戦況芳しからず、川崎にあった軍需工場の被災を機に父親は東京での活動と生活を諦め、川越に居を構えることになり、私はその後、上京して一旦入学した青山学院の中等部から川中に転入したわけです。川中には最初は菅原町から、後からは宮下町から通いました。

一年では転入者（平和な時なら転校者或いは中途入学者というのでしようが）のみで構成された五組に入れてもらいました。他の組の皆さんと比べると五組は何となく元気がないというか、私を含めて情緒不安定の生徒がかなりいたと思います……（I may be wrong.）

人間守備範囲が急激に変わると地がでないもので、悪名高き上級性の扱きを五組の全員がやられたときは不覚に

も小便をちびりかけました。終戦の年の前半は、小江戸川越も平穏な銃後ではなくて米群のB29が軍需工場のあった群馬県の太田方面を直指して北上し、何層もの飛行機雲をえがいたり、川越の郊外にB29が落ち、米軍飛行士が目隠して川中に連行されたり、川越駅が艦載機の機銃掃射がうけたりしたことが思い出されます。

この頃の学校の記憶は、勉強よりは楽しいような、馬鹿馬鹿しいような勤労働員の毎日でありましたが、思い出すのは石川製糸所？ の繭の袋と日清製粉のコッパンであります。

さて終戦後になると、私の川越物語は都合の良いことは記憶がやけに鮮明で、具合の悪いことは正確に思い出せず、統一を欠きましてすみません。中でも今いうところの部活では郷土班に入れてもらったり、軟式テニス部に入れてもらったが、嫌々やらせてもらったか分かりませんがとにかくテニスはやりました。お陰で今でも硬式を楽しんでいます。郷土班では松村さん、小川さんが一緒だったと思います。テニスでは岡田さんという名手がいきました。草野球の思い出はいろいろあります。当時はチビでしたので一人前に扱ってもらったことがないのではないかと思っています。

正課の長距離のランニングは不得意で、年一回の五千メートルの競走では完走がやっとで息が上がり、吉村先生に扱かれた思い出があります。断片的にはいろいろあります。例えば斉藤恒さんの家の側での川遊びとか、新河岸川の周辺の景色とか、どれもこれもテンポのゆったりした思い出ばかりであります。還暦まで生きてくればいろいろな事がありますが、川越のあの頃の思い出だけがゆったりトーンです。毎日毎日が価値があるとか、意義があったとかよりは、大袈裟にいうと私の一生の中で一番余裕のあった時期ではなかったかと思っています。先日、久々に記念文集編集新年会に参加させて頂いて懐かしい皆さんにお会いしまして、思い出話に花が咲きましたか、日本に

とっては終戦後の混乱期で何もかも目茶苦茶だった時代にも拘らず、私にとってはあの頃が時がゆっくり流れた良い時代だったとおもえてなりません。

友人に恵まれ、環境に恵まれ、私の川越物語は何も凹凸のない日々で埋まるはずでありましたが、昭和二十三年になって徐々にスピードが増し騒がしくなるわけであります。

東京の小学校時代の友達から刺激を受け、東京の学校への転入試験を目指すこととなります。運良く都立日比谷高校二年に編入し、ここでは中内さん、小川さんに再会することになりました。東京に通うのに宮下町から川越市駅まで毎朝歩きました。当時はバスがなくなりハードでしたが、これが体力をつけ、背丈を伸ばす元になったのではないかと思います（只今一七七センチメートル）。

さて折角最愛の故郷に戻って色々と試行錯誤をした父親は、結局は自分の専門である非鉄金属の合金の仕事が旨くいかず、東京で再起を計るべく川越を去る事になります。一寸時代に先駆けすぎたかと思えたフェロチタン、ボロン合金に活路を見出したかと思えた事業も成功せず、父親は昭和三十三年六月鬼籍に入りました。

菅原町に妙善寺というお寺がありますが、その墓に母と一緒に収まっております。私の方はその後就職難をなんとか乗り切り、典型的な会社人間として、時には年間二百日を超える海外出張をこなしたりして、過労死もせず、今日までやってきたわけであります。今は社長の肩書きが付いておりますが、何のことはないチイママ（オーナーでなく、雇われママ）稼業であります。

後期社長をやらせて貰えるか、一にかかって健康と気力と運次第であります。長い間会社人間をやっているとリタイアしたあとはひたすら粗大ごみになってすることがなく、ぼけがやってきますが、川越に若し安住の地を見

付けることが出来ると一旦終わった私の川越物語は、又ここで『直れ』が出来る事になります。

私の思い出にある川越は、昔の町並みを彷彿させる近代化し過ぎていない町の姿であります。只今は残念ながら相当変わりつつあって、川越駅の周辺の変わり様には驚くばかりです。今やショッピングアーケードが次々にできて、墓参りに来る度に新しい町を訪れている感じがします。私はやはり貨物の引き込み線があって、日通の木造の事務所であった川越駅が好きです。あの光景にはこの物語に書き切れない思い出が一杯詰まっています。こんな訳で無理に私の川越物語を続けたいほうが、『直れ』をしない方が良いでしょうに思います。

だから、ながながと駄文が続きました。皆さんのご健康を祈念して終わります。

小江戸 川越

堀 陽

新河岸川(旧名 赤間川)は、旧川越市街の西側、野田町あたりから端を発し、三光町(堀)、末広町(松村祐二君)を通り、高沢橋をくぐって志多町(新井貞夫君)をすぎ、宮下町(中村生秀君の生家)から氷川神社の裏を廻り、初雁球場の東側を流れて、上福岡市方面に走っている。御存知のように、江戸時代から、明治、大正時代にわたって、川越と江戸を結ぶ物資輸送の重要な水路であったとのことであるが、私が物ごろついた頃、小学校入学前後の頃は、川幅二、三メートルで、台風時には時々氾濫する、水量豊かな川であった。

松村邸の前の坂を西へ下ると星野女子高校のたもとに木の橋があって、その橋の下で、十センチ位の大きな鮎を

釣り上げ、胸を躍らせた記憶が、今でも鮮明である（当時は星野女子高校はなく、田圃であった）。

戦後は、他の川の例に洩れず、水量が減り、川の周辺の人が、ゴミを投げ入れ、ドブ川になっていたように思う。五十五歳でサラリーマンをリタイアし、犬と朝晩散歩するようになって驚いた。川の水は結構綺麗になり、時々、緋鯉、真鯉が数尾ずつ泳いでいるのである。

初めは我が眼を疑ったが、逐次、川下の石原町や志多町方面に足を延ばすと、だんだん鯉の数が増え、しかも姿の大きいのが悠然と泳いでいるのである。稚魚も増え、一年毎に成長するのが感じられ楽しみである。

石原町の故大島和道君の家の前は、昔は川幅も五、六メートルあり、堰があつて、高さ二、三メートルの滝が落ちていた。堰の上はかなり深そうで、満々と水が湛えられており、時々、男女の入水自殺もあった所であるが、今は堰もはずされ、なだらかな流れになっており、一メートル以上もある大きな太った鯉が数百匹群遊していて、橋の上からパン屑等を投げると、餌の争奪戦で、まことに壮観である。

家鴨あひるも七羽、ちやぼ鳥も三羽、放し飼いにされており、鳩も五十羽位集まって来て、子供達を喜ばせている。川の南岸は通称「パンダ公園」と呼ばれ、余り広くないが、市営の公園になっており、保育園児達が、先生に引率されて遊んでいる。

天気の良い日には時々、二歳になる男の初孫を自転車に乗せて行き、ここで一緒にブランコに乗ったり、滑り台で滑ったり、砂場で砂いじりをして遊ぶ、いや、孫に遊んで貰う。誠にのどかな平和な良き時代になったものだなあと、戦後のあの荒れ果てた、魚も住めない位汚れていた川を思い出し、しばし青い空を見上げる。

川の護岸工事も、徐々に川上の細い支流迄整備され、三光町あたりの両岸も立派な杭が打たれ、コンクリートの

石が敷きつめられた。

所々に木札が建てられ、緋鯉の絵と共に「観賞魚なので取らないでね」と書かれている。昔なら、夜にでも誰か鯉を取って、喰べてしまう者が多かったろうが、今はそんな不心得者は少なくなったのであろう、年々鯉の数が増えているように感じられる。

同期の皆さん、御来川の折には、是非、新河岸川のほとりを散策して下さい。冬眠の冬を除いて、春から秋にかけて。

川越の原住民も、忙しく現役で働いておられる方々は、案外、鯉をいまだゆっくりと観賞されていないのではないのでしょうか。

宮仕えの生活中は、川越は単なる塙^{ねぐら}で、街の変化をゆっくり眺める余裕がありませんでしたが、五年前から「毎日日曜日」の身分となり、街の中をうろついてみると、小学校時代の同級生とばったり会って、道路の端で懐旧談に浸ったり、川越駅の駅前再開発や、本川越駅の大改造の話を聞きましたが、何かピンと来ませんでした。

「小江戸・川越」とか「蔵造りの街・川越」という、観光都市として売り出そうという宣伝文句は、あちらこちらで、目につきましたが、自分の生まれ育った街は、物珍しくも何ともなく、街のあちこちに住んでいる、知人や友人との人間関係も生々しく、「蔵造り」なんて言っても幾軒もある訳でなし、「小江戸」なんて言ったって、言葉の上の美化に過ぎない。川越市が観光都市として成り立って行くのだろうかとかと危惧の念を抱いたというのが実感でした。

しかし、ここ二、三年の川越に対する私の感じは大大分変わって来ました。

街の中で、喜多院へ行く道などを尋ねられることが、しばしばあります。

観光客の多くはリュックサックを背負い、カメラを持っていく人が多く、定年を過ぎたと思われる御老人ばかりでなく、三十年代、四十代位の御婦人や男性も結構多いようです。

世の中、こんなに閑ひまな人間が多いのかなあと感心し、平和で豊かな世の中になって、結構なことだなあと思いました。

反面、今まで随分あくせくと働いていたものだと、心の中で苦笑しました。

中学生の団体が、四、五人ずつ市内の観光地図を片手に歩いていくのを目にすることもあります。聞くと、「社会科の勉強です」とか、「京都への修学旅行の予行練習です」などと答えが返って来ます。

三年前のNHKの大河ドラマ「春日の局」は、川越を観光都市として、飛躍的に発展させる契機となったのではないのでしょうか。

「家光誕生の間」や「春日の局化粧の間」のある塩入亮善大僧正の喜多院は、全国的に有名となり、観光客はバスを連ねて川越に押しかけました。

初雁球場の傍の元の川越商業高校の跡地に立派な「市立博物館」が出来、元の「武徳殿」の中も江戸時代の復元がなされ、川越駅前には、「アトレ」と名づけられた七階建のビルが出来て、バス発着所も整備され、駅構内には「観光案内所」も開設されました。

西武線の本川越駅ビルは全面改造されて、プリンスホテルとペペが入り、駅前広場は整然と整理されました。

元の南町通り（現在名は幸町通り）は電柱が撤去されて、電線が地下に埋められ、空が明るく、蔵造りの家々が見やすくなり、「蔵造り資料館」も市営で開設されており、お茶碗の「ヤマワ瀬戸物店」や芋菓子銘店「亀屋栄泉」なども大改築して、再び立派な蔵造りとなりました。

戦前から有名であった菓子屋横丁も、各店が改築して、軒先に戦前からの駄菓子を一齐に並べ、ここの舗道も独特の石畳に敷き替えられました。

喜多院入口にある「西山歴史博物館」も是非一見する価値のある所ではないでしょうか。子供の頃は聞いた覚えの全くない「川越の七福神まいり」なるものも、何時の頃からか喧伝され、観光地図と共に「七福神まいり」の綺麗なパンフレットも用意されております。

因みに川越の七福神詣でのコースとは以下の通りで約二時間半で廻れるそうです。

- | | | |
|-----|------|-----|
| 第一番 | 毘沙門天 | 妙善寺 |
| 第二番 | 寿老人 | 天然寺 |
| 第三番 | 大黒天 | 喜多院 |
| 第四番 | ゑびす天 | 成田山 |
| 第五番 | 福祿寿神 | 連馨寺 |
| 第六番 | 布袋尊 | 養寿院 |
| 第七番 | 弁財天 | 妙昌寺 |

当局の発表によれば、最近の川越の観光客の数は、年間約三百五十万人で県下第四位とのことだ。

同期生の皆さん、定年後時間的余裕が出来ましたら、小江戸・川越をゆっくり歩いて、見て、昔、川中・川高時代の、戦中戦後の街並みとの変化を十分に眺めて、古き学友を訪ねて、お茶でも啜りながら、昔話に花を咲かせるのも良いものではありませんか。

歓迎します。

「友あり 遠方より来る 又楽しからずや」(佐藤徳四郎)

(追伸)

川中時代は、落ちこぼれ者で、騒いでばかりいて、授業の妨害をし、皆様に御迷惑をお掛けしましたことを深く反省しております。今更、遅いのですが、誌上を借りて、お詫び申し上げます。

でも、県立川越中学校に入学したお蔭で、多くの畏友に恵まれ、社会人になっても、多くの面で助けられ、お蔭様で、還暦を迎えることが出来ました。感謝しております。

雑感

小鷹 邦夫

「失われた時間は取り戻せないが、その分、思い出は残る」と三月二十日の読売新聞編集集手帳の中にあった。

仕舞い込んであった古いアルバムをめくる。高校時代の思い出が、いくつかの懐かしい写真の中にいっぱい詰まっていた。

その中に、腰を掛けて水彩画の額を支えている一枚の私の写真があった。

当時、私は絵が好きで（今でも好きだが）美術部に入っていた。その絵は、川越南町に建っている第八十五国立銀行の面影を残す、当時の埼玉銀行の建物の絵であった。

画面左側に見える重厚な建物は、今は壊されてなくなっている。貴重な記録になったなあと今にして思う。

写真のような手掛りがあれば何年経っても思い出せるものの、二、三日前に壊した建設現場の前をふと通りかかった時など、前身の建物が何であったか、という事も思い出せない時もある。皆さんはいかがでしょうか。

特に、近年は町の移り変わりが激しく、たまに訪れるような町を歩いてみると、かつて町を歩く時の手掛りであった道とか、建物とかの目標物が、いつの間にか、すっかりその姿を変えてしまっていることも少なくない。

変り方が少ない、と言われている川越でも例外ではないようである。

生まれて育った、思い出がいっぱいの郷土川越は、また城下町としての長い歴史と、貴重な文化遺産を数多く持つ町である。

人々の暮しと風土が、長い年月を掛けてゆったりと刻み込まれてきた城下町の表情を、現代の新たな都市づくりの狭間で、見落さずに見直していきたいものである。

定年を迎えた今、微力ながら郷土史を探り、人にもそれらを語りかけていきたいものと考えている。



赤間川

自転車部隊
(平方: 河村方面)
坂田安
石倉
松岡
電
機
屋

自転車部隊
(山形 弁原 多崎方面)
芳原恒
野口木保
木村田
半加加

自転車部隊
(三保川 川田新方面)
小島町
高橋元
高橋隆
清水
小沼
長島(一時)

自転車部隊
(山形 弁原 多崎方面)
宮金子
生野
小正
反

藤田塚稲荷

北条以上杉
川越夜観跡

東明寺
新神

水川神社并

大連寺

本応寺

今成町

鷹部屋町

五反町

橘町

赤間川

然に儀成する殿が、この杉の積を
三層まで建てあげた。陽気には
三層まで建て上げて、陽気には
初層の出来とった天杵。

赤日さん
書いて色紙に
つけた

運動会の跡は停電なし
一色のマツタレのおかけ
田舎電所

マーチン
たまり場

久保町
久保町
(旧電)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

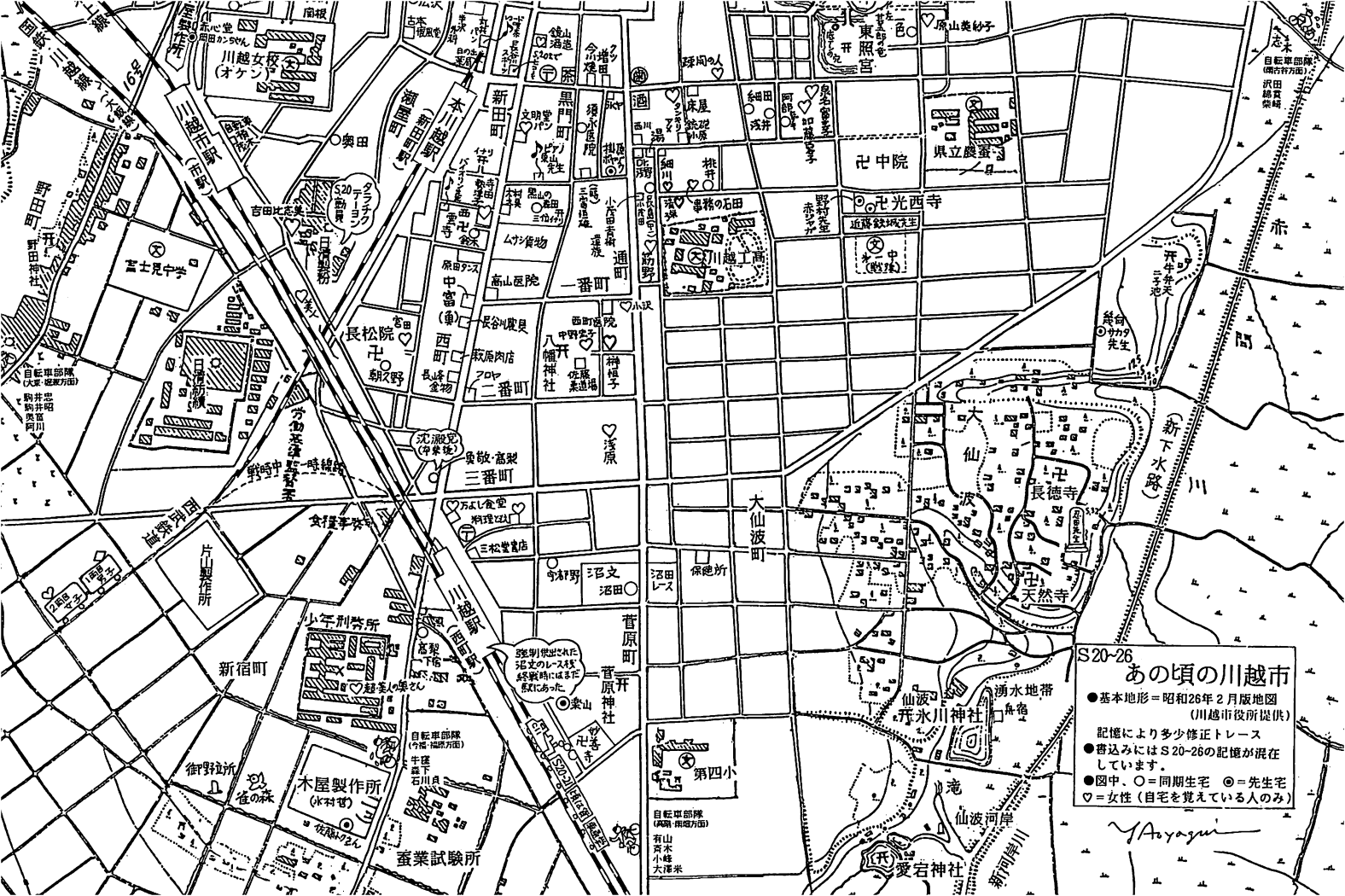
石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)

石川蚕糸
川越製糸
(高いストラス2本)



S20-26
あこの頃の川越市

- 基本地形 = 昭和26年2月版地図 (川越市役所提供)
- 記憶により多少修正トレース
- 書込みにはS20-26の記憶が混在しています。
- 図中、○ = 同期生宅 ◎ = 先生宅
▽ = 女性 (自宅を覚えてる人のみ)

Y. Arayama

3張別提供された
本文の1-5枚を
経緯線にはまた
戻した。

自転車部隊
(麻州南方面)

自転車部隊
(大東・肥後方面)

自転車部隊
(南河内方面)

自転車部隊
(備前竹野方面)

有山
高木
小峰
大澤米

「あの頃の川越市」マップについて

青柳 安彦

数年前、昭和十六〜二十年頃の街のマップを作ったことがある。約四十三年振りに訪ねた私の母校の新宿区大久保小学校で校長先生から、この街が空襲で焼ける前はどんな街だったんでしょねと熱心に尋ねられ、それなら私の記憶を地図にして描いてみようと思いついたのが始まりだった。始めてみると私一人の記憶だけではもの足りず、同窓生の協力を得て街に在住の先輩やら、昔住んでいた人を尋ね回り、二年がかりでやっと完成。母校の創立百十周年のお祝いとして同窓会からプレゼントした。その地図は新宿区の教育委員会を経て同区の歴史博物館にも贈られ、朝日・読売をはじめ、TBSの広報誌にも紹介され、「東京人」では種村季弘氏が触れてくれた。

跡形もなくなった街のようすを、人の口から聞き出すのはたいへんだった。疎開や戦災による級友の離散、資料の焼失、残存者の高齢化、記憶の薄れ、それにも拘わらず自分の記憶への固執、人によっては逆の情報が入ってくる。その整理がたいへんで、いまだに思わぬ先輩から情報がとどけられ、修正に頭を悩ますことがある。でも、この取材がきっかけでちりぢりになっていた級友何人かの消息がわかり、同窓会の復活につながったのは嬉しかった。今でも地元で神主をやっている一級友の「歴史に空白があってはならない」という、誰かの言葉の引用が私を引っ張ってくれたのだ。

その時、もしこれが川越だったたら簡単だっただろうなと思ったのが、こんどの地図の引き金である。しかし、私は事態を少々樂觀し過ぎていたようだった。川越の街は歴史の古い町だから昔とあまり変わってはいまい。戦火も受けてはいない。当時の市民もいっぱいいるし、先輩方の労作『遠い飛行機雲』の地図と、現在の地図をベースに



川越市駅前。右手奥にオケンの塀が見える



本川越駅前から中央通り



川越駅に通じる新富町商店街

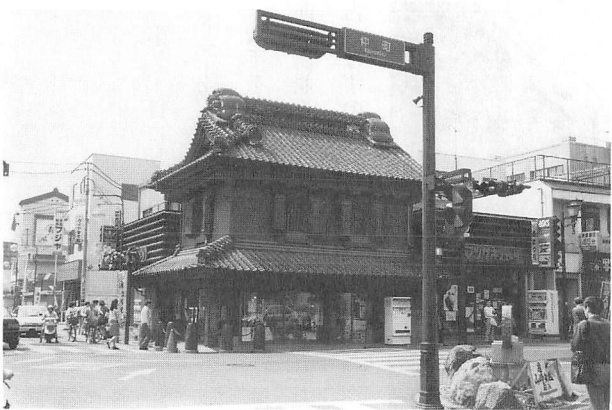
してそれにチヨイチヨイと描き込めば出来上がりじゃないか……と軽く考えていた。それが「大間違い」だったことは、取材のために川越に行った時にスグわかった。第一、目に写る風景が変わっていた。バス・ターミナルが整備され、ビルが立ち並び、昔はどこからも見えたランドマーク(目印)がその陰に埋没し、中には跡形もなく消えてしまったものさえある。それにあの頃、隊伍を組み、大手を振って歩いた中央通りの何と狭く感じられることか。当時はさすが大都会の盛り場と感じた蓮馨寺や立門前の街並みも静かになって盛り場という感じにはほど遠い。通い慣れた昔の通学路線に沿って歩いてみても、この古いはずの街から、昔のままの



電柱がなくなった中央通り、さんかめ付近



静かになった？ 蓮馨寺



仲町、松崎運動具店

風景を小さなカメラで切り取ることさえできなかつた。おまけに母校も我々の卒業後に二度も建て替えられて、立派といえば立派だが、よその町の高校ともたいして変わり映えがしなくなってしまうている。

ヤッパリ古都川越も生きているのだ。高層ビル化は仕方ないとしても道路が整理され、拡幅、新設などにより、地がたが変わってしまっている。だから今の地図は使えない。しかも「飛行機雲」の地図も古過ぎて我々の時代には適合せず、全く役に立たなかつた。その上、ランドマークたるべき官庁、公共施設の移動、増設、あるいは消滅など地図に影響の現れそうな変化もいっぱいあった。堀君が市役所から昭和二十六年（卒業の年）の地図を捜して来

てくれなかったらエライ苦労をするところだった。

さらに意外だったのが、ここに住み続けた人たちの記憶の食い違いだ。無理もない、昨日の次に今日が来て、今日の次に明日が来て、どこが、いつ変わったのか多くの人が思い出せないのだろう。かえってあの時だけ川越に通い、その後川越を離れてしまった市外の人のほうが、途中の記憶がない分だけ鮮明な場合もあった。

でも、嬉しいことに、川越の街はヤッパリ古い。東京の変わり果てた姿に較べれば、川越には何と昔の香りが多いことだろう。失ったものを復元するにしても、川越には歴史を守る心とか、民間資料とかがいっぱいあって、や



中央通り、旧・山吉ビル



川越プラザ(鶴川座)前から蓮馨寺を望む



松江町、佐久間旅館

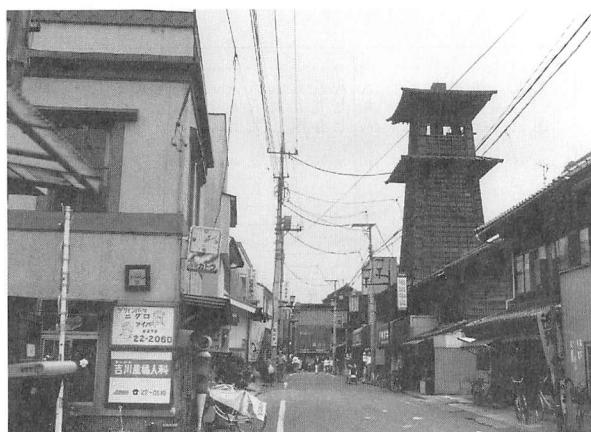


(注)

- 図中、原則として◎ Ⅱ先生 ○ Ⅱ級友 で記入しました。
- この地図は六年間の変化・移動を、完全にフォローしていません。戦時中と戦後の情報も同居しています。
- スペースの都合上、大部分の町名は省略してあります。
- 記憶の食い違いは、多数決、説得力、逸話の絡むものなどによって調整しました。
- 正確な家の場所がわからず、おられたことが分かっていながら地図に書き込めなかった方もたくさんあります。ご容赦ください。
- 万一、個人情報の間違いなどでご迷惑やご不快な点がありましたら「時効」ということでご容赦ください。
- たくさんの情報を寄せられた諸兄、及び、ベースとなった昭和二十六年度川越市地図を捜し出し提供してくださった川越市役所の担当の方に厚く御礼申し上げます。

りやすいのではないかという気がする。安ものの近代ビルが林立するよりは、たとえそれが客寄せのためであつても、古い昔の良いものが残され、復元されることのほうが心嬉しいものがある。

思いもかけず古い街の復元地図を二度も作ることができ、街の歴史の空白を多少は埋めることができた。そして、それ以上に昔変わらぬ多数の友達と再会できたことは幸せだった。皆さんも落ち着いたら、この地図のコピーでも抱えてもう一度、「デイスカバー・オールド川越」の散策を試みられては如何？ できたら奥さんやお孫さんを案内、いや、川越にご縁のないご家庭だったら「巻き添え」になるかも知れないが……。



時の鐘。突き当りは中央通り、旧・太陽堂書店付近



川高正門から見た正面の坂道（左は第一小）



川高正門と楠の木

川越市と母校の歴史 概略年表

西曆	年号	武蔵・川越	母校	一般(含・近似年)
一八七六	天智五	百濟渡来人を東国に移す		七〇一 大宝律令
一八〇六	大同七	三芳野神社創祀(伝)		七九四 平安京へ遷都
一八三〇	天長七	星野山無量寿寺開山(慈覚大師)		一五六 保元の乱
一六一〇	永暦頃	河越氏の莊園できる		一三四 建武の中興
一三〇一	正安三	星野山仏地院(中院)、関東天台宗本山として勅許		
一四〇六	天文八	太田道灌(父道真と川越城を築城) 謀殺		
一四八六	天文一五	川越夜戦 北条氏康が上杉朝定に勝つ		
一五七四	元龜一	川越に市が立つ		
一五九九	慶長四	川越 喜多院へ(一十七世)		一五九〇 秀吉天下統一
一六三八	寛永五	川越大火(喜多院 東照宮類焼)		一六〇〇 関ヶ原の合戦
一七五一	宝暦元	甘藷栽培始まる(所沢)		一六三九 鎖国
一七九二	寛政四	元町 大沢家の醸造り落成		一七七六 アメリカ独立
一八二七	文政〇	藩校「博諭堂」開かる(松平奇典)		一七八三 天明の飢饉(一八七)
一八四四	弘化元	安岡領南の「日本外史」校訂(川越版日本外史)		一七八九 フランス大革命
一八四六	慶応三	川越城二の丸焼失		
一八六七	慶応三	藩校「長善館」開かる(松平康英・宮下町)		
一八七一	明治四	鹿藩置県: 川越県設置(後に 入間県→熊谷県)		一八六八 明治維新
一八七六	明治九	熊谷県、埼玉県に合併		
一八七八	明治一一	第八十五国立銀行 川越に設立		一八八九 明治憲法発布
一八八九	明治一八	高林謙三 茶業機械を発明、特許を得る		一八九四 日清戦争起こる
一八九三	明治二二	川越町発足		一八九五 無線電信発明(マルコーニ)
一八九五	明治二六	川越大火(一三〇〇余戸焼失)		
一八九七	明治三〇	「時の鐘」再建		
一八九八	明治三一	川越鉄道(現・西武線)開通(川越→国分寺)		
一八九九	明治三二	星野女塾 開校(女学校は川越女学院・後にオケン、一九〇三が最初)		一八九八 米、ハワイ併合
一九〇〇	明治三三	川越商工会議所 設立 認可	四・一九 県第三尋常中学校設立認可	一八九九 ドイツ、南洋諸島占領
一九〇一	明治三四	大洪水で入間川堤防決壊	一〇・一 市内に川中予備校設置	
一九〇三	明治三六	県下初の幼稚園(後、初雁幼)	二・六 埼玉県第三中学校と改称	一九〇二 日英同盟
一九〇四	明治三七	川越女子学院(初の女学校)開校	四・二九 川越城址の新校舎へ	
		川越電話所開設	五・二三 理科階級教室新築	
		埼玉県最初の電灯 川越に	八・二三 埼玉県立川越中学校となる	
			三・三〇 第一回生卒業/川中同志会結成(九・一五 安部立郎)	
				一九〇四 日露戦争起こる
				一九〇五 孫文 革命同盟会結成

一九〇六	昭和三九	川越電気鉄道開通(川越→大宮)	五・二八	校歌制定	一九一〇	日韓併合
一九〇八	昭和三九	川越地方未曾有の大洪水(八・二二)	一一・二七	大正天皇川中御駐輦(六泊)	一九一四	第一次世界大戦勃発
一九〇九	昭和三九	川越高等女学校開校(オケン)	一一・九	校旗制定	一九一七	ロシア革命
一九一一	大正四四	川越地方陸軍特別大演習	一一・一	明治文庫開設	一九一九	ヴェルサイユ条約成立
一九二二	大正三三	東上線開通(池袋→川越)	六・二八	講堂新築落成	一九二二	関東大震災
一九二二	大正三三	私立川越図書館創立	三・	全国選抜野球大会出場	一九二六	日本放送協会設立
一九二二	大正三三	私立川越図書館を町立に	九・二二	川中陸上競技倶楽部誕生	一九二八	電光ニュース登場
一九二二	大正三三	川越市制執行(二・二・一)	四・九	S・七年度生まれ川中に入學	一九三〇	ロンドン海軍軍縮会議
一九二二	大正三三	新河岸川改修工事着工	四・一	埼玉県立川越高校創立	一九三一	満州事変起こる
一九二六	昭和一	川越商業学校(後の商業)開校	五・二八	開校五〇年記念祝賀式	一九三三	ハチ公銅像序幕
一九二八	昭和三	川越実科高女(後のオイチ)開校	九・一五	定時制四分枝開校	一九三七	日華事変起こる
一九三〇	昭和三	山村裁縫女学校認可	五・四	全日制生徒会成立	一九四一	太平洋戦争開戦
一九三一	昭和三	新河岸川通船停止	七・二四	岡田・芹沢テニス 全国優勝	一九四四	敗戦
一九三四	昭和三	国鉄川越線開通	一一・二八	「生徒会会報」創刊	一九四六	日本国憲法発布
一九四〇	昭和三	銀行合併、埼玉銀行を創立	三・六	S・七年度生まれ川高卒業	一九四八	全学連結成
一九四三	昭和三	新制高校発足	八・	野球場甲子園出場	一九四八	太宰 治入水
一九四五	昭和三	新制高校発足	九・二三	合唱全国コンクール優勝	一九四九	ドッジ・ライン
一九四八	昭和三	新制高校発足	一一・一八	開校八〇年記念祝賀式	一九五〇	古橋活躍
一九四九	昭和三	新制高校発足	一〇・二六	全国高校駅伝初出場六位	一九五一	SFシールズ来日
一九五〇	昭和三	新制高校発足	一一・二一	校舎改築着工	一九五二	文化財保護法公布
一九五一	昭和三	新制高校発足	一一・二二	校舎改築着工	一九五三	マッカーサー帰国
一九五二	昭和三	新制高校発足	一一・二二	校舎改築着工	一九五三	民放開局
一九五三	昭和三	新制高校発足	一一・二二	校舎改築着工	一九五三	「羅生門」グランプリ
一九五九	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一一・二一	校舎・体育館落成祝賀式	一九五九	NHK-TV 開始
一九六四	昭和三	山車(〇台)	九・二三	野球場甲子園出場	一九六四	皇太子御成婚
一九六七	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一一・一八	開校八〇年記念祝賀式	一九六七	東京オリリンピック
一九六八	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一〇・二七	三期生同窓会/文集提案	一九六七	美濃部都政始まる
一九七八	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一一・一八	開校八〇年記念祝賀式	一九七八	宮城沖大地震
一九八五	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一一・一八	開校八〇年記念祝賀式	一九八八	電電公社民営化
一九九一	昭和三	本丸御殿 県文化財指定	一一・一八	開校八〇年記念祝賀式		

参考資料 川越市史、川越大辞典、川越市案内図(昭文社)、川高五十年/八十年記念誌、「知恵蔵」他(作表・青柳)

沈澱党始末記

高梨昌夫（談話）

柄にもなく長患いをしていたのだが、最近元氣になって来た矢先、川中時代親しくしていた連中が入れ替り立ち代りやって来て、記念文集に何か出せ出せと言って仕様がなない。それでも不精をきめ込むつもりでいたのだが、「じゃあ、おめえの炉辺談という形で代筆してやろう」というひまな人まで現れた。月給とりになった人達は、還暦を過ぎると急にヒマになるらしいな。ま、余り気は向かないのだがそいつの顔も立てることにした。まあ文集にこういうのも一つ位いいだろう。

城下町ということとぼけていた川越駅付近も、この最近目まぐるしく変わって高層の駅ビル、デパート、ファッションビル、ホテルが林立し、一帯はビジネス街、盛り場となって正に湖底、桑変の感があるが、駅にくつつくようにしてあった魚屋だった俺の家も、この変化をもろに受けたよ。銀座や新宿のビル街の真ん中に時々周りの景色に背を向けてシモタ屋が残っているのを見ることがあるだろう。今の俺の家がそんな風だ。やはり俺は昔のままだよ。

川中時代の話が中心だそうだが、少し違ったのも面白いと思うので卒業後の話をしよう。ひなびた田舎の駅とはいうものの、俺の家は走って十秒という近所にあつたので、いろいろな奴が入りしな。昔の国鉄、当時は石炭を焚いて走る汽車だったが、西は高麗川、吾野、越生。東は大宮、指扇から通う連中。川越に着いた後、町を縦断

して半里は歩かねばならない。何しろ駅は南の端、川中は北のはずれにあつたからなあ。登下校に俺の所で一休みして油を売らなければ間がもたなかつたんだらう。

俺の家は「魚敬」という魚屋で、親父はどういうつもりか川越第四国民学校を卒業した俺を川中に入れた。川越は商都だから家業を継ぐ長男を進学させる時は川商に入れる風習があつたんだが、きつと先生の勧めに乗つたんだらうなあ。そのころの第四というのは川越の南のはずれ、すこし前までは仙波小学校と言われていた位の分教場みたいな小さな学校だつた。第一と第四、第五が村部の在郷っペー。第二と第三が町方の坊や、というコンプレックスがあつたものだが、実際に第四から川中に入ったのは沼田ヌマ公と渡辺カンちゃんと鈴木それに一人だけお坊っちやまの朝久野、それに俺の五人だけ。川中はそこの村の一番二番を集めた名門校ということで、この連中の両親達にとっては自慢の息子だつたんだ。

卒業後は家業を継ぐ約束で川中に行つた。おかげで受験のプレッシャーなんて全くなく、のびのびとやれた。子供ながら家業を手伝つていたので部活動は出来なかつたな。しかし何時行つても必ず俺が家、つまり店にいる、という風説がみんなに流布したのだから、国鉄川越線以外の連中も俺の店に遊びに来るようになった。店先でガキに駄弁られたり、遊びにつれ出されたりでは両親も困つたらうが、きつと嫌な顔をしなかつたのだらうな。とにかくいろんな奴がよく寄つたよ。

全くそうでした。ご当人の兄貴的な魅力によりますが、彼のご両親、二人のお姉さん達でかもし出す人徳というものは、今気付いてみると正に半端ではありません。忙しい鮮魚を扱う店先、朝は三時に起きて魚河岸へ、夜又遅く十時まで開店。その当時はプロの所でさえも電気冷蔵庫というものがありませんでした。さぞかし大変だつたでしょうに、いろん

な悪童が押しかけて来て商売のお邪魔になったに違いありません。代筆者をはじめ、川中・川高時代、そして更に進学や浪人という形で延べ十年以上、魚敬の店にはいろんな友達がトグロを巻いておりました。駅への通過の便もよかった動機もあったと思いますが、魚敬をサロンにして青春の一時を過ごさせてもらった人達で覚えのある人は五十人、いやそれ以上いるのじゃないでしょうか。長い間の付き合いで嫌な顔一つされたことがありません。当時僕等は世間知らずのガキですから、「迷惑」という事を全く考えませんでした。これが分かったのは仕事や家庭をもって世間のシガラミに接してからのことです。

高梨家の人徳誠に半端ではありません。魚敬の店先は学校のキャンパス以上の想い出のある人は多いし、そのおかげで人生を豊かにした人も多い筈だと思います。(代筆者独白)

そうおだてるな、むしろ川高を卒業してからの方が来る奴の数がグッと増えたナ。皆進学や浪人で東京に通い出したからなあ。国鉄と東上線を利用する奴等が途中下車、そして自転車ややって来て預けていく、ずうずうしい奴もいたな。

俺の「卒業したら家業は継ぐ」という大方針は微動だにしなかったので仕事はマイペースでこなした。来る奴は拒まずで放っておいた。店の帳場になつてる上がり框で来た奴が勝手に議論をしたり、駄弁ったり、中には感心に勉強まで始めるのもいた。俺のレコードを勝手にかけて聴く奴もいた。俺は仕事の手が空くと、一緒に駄弁ったり、レコードを聴いたりする。それが自然体で途切れもせず十年もつづいたんだから不思議だな、全くの話。

そういえば卒業直後からレコードに凝ったつけ。最初はSP盤に手廻しの蓄音器。青木ヤス、竹沢ヤス、宇都野雀狂、正木オカズ、松岡へんじん、平井アンダヤ、内海トツパ……。

夜十時、お店を閉めてから一里も離れた大仙波の滝壺のほとりまで重い宝物を皆でかついて行き、木立ちにランブを吊り下げ、ベートーヴェンやシューベルトの名曲を草に寝ころがって聴いたのなんか懐かしいな。一曲毎にレコード針をとり換えたり、ぜんまいを巻いたり役割が決っていた。

将棋は竹沢や青木がよくやりに来たが、俺はお魚を料理するなどで手がぬれているから、一手毎に口で指示して対局したことがあった。——マージャン、これは皆そのとりこになつてしまいいよくやったなあ。宇都野には俺が教えたつもりだが、彼は仲間の中で勝手に雀聖ジャンセイと名乗ったが誰もそう呼ぶ奴はなく雀狂ジャンキョウという名で落ちついた。正木、竹沢、松岡は性格からか打ち手が単純で俺に勝つことは稀だった。青木は頭がよかったなあ。平井のあだな、アンダヤはこの時決まったようなものだ。彼の生まれた高麗川村では「何だ」を「アンダ」と言うのだ。マージャンは夜ふかしがつきもので困った。何しろ俺は親父に代つて河岸に行く為に、毎朝三時起きだったからな。風来坊の学生共とはちがう。電車の中で熟睡して補つたものの、よく体かもつたと思う。余りみんなが遊びに来るものだから俺は悪い遊びをするひまがなく、そっちの方はおかげで品行方正だった。両親も商売の邪魔はされるが、そうなるよりはいいと諦めていたようだ。

遊びの中心は議論だった。皆東京の大学に行つて結構いろいろな知識を得てくる。「世界」とか「群像」とかを読んで世界情勢を論ずるのがファッションだった。そのころは左翼がかった論調がかつこよいというムードだったが、本物の共産黨員になる奴はいなかった。世の中は朝鮮戦争、レッドページ、メーデー事件などがあつたが、早大事件というのがあつて、松岡は俺の所で遊んでいたおかげで怪我をしないで済んだ。何故つて彼はそういう騒ぎが好きだから、学校にいれば必ず巻き込まれ、機動隊になぐられたに違いないから。

何が気に入ったのかよくわからないがみんなよく来たな。今迄名が出たの以外思い出してみると府瀬川チューホー。奥隅ズミちゃん、宮崎ゴリさん、阿部タコ、森田ボン、中カムカム、山下ブンちゃん、田島ダンチョー、細谷のテツ、佐々木リョーユー和尚……。こうやってみると先生になった人が多いな。森岡キリン、東カイチョー、長島長いもは勉強がよく出来たがただのガリ勉強じゃなく、よく卓球をやったな。大島デシヤは本田技研につとめてオートバイに乗りマフラーを風になびかせよく来たが、それがモトで若くして散ってしまったなあ。市村エテムラ、柳田ラッキョー。藤田クロ、青木カンスケ、木村サーボー、松本デコ、方角ちがいの入間川族もどういいうわけか縁があつたな。エテムラ、デコ、デシヤの三人は若くして逝ってしまったが惜しいことだよな。内海トツパ、新井ソーヘー、青柳大頭領はレコード仲間で当時のSP盤をよく貸し借りしたつて。有山、吉田カゲ、そうだ、槽谷クマさん、柳下マンちゃん……。想い出し切れないな、洩れたら失礼だからこの辺りにしておこう。

浪人してる奴、進学してる奴、あばれ者もいればおとなしいのもいたし、勉強家も結構いた。軟派師は余りいなかったな。だから女の子はここには余り出入りしなかったのが特徴といえるだろう。川越駅前・魚敬社会大学は男子校の観があつた。

誰かがこの集まりに名前をつけようと言ひ出し、沈澱党と命名した。そして規約まで作ったが、そのノートが手元に残っている。面白いことが沢山書いてあるよ。一同で裏磐梯の檜原湖に野宿で遊びに行つたことがあつた。青木、宇都野、竹沢、正木、吉武、松岡、といった面々と沈澱党に加わつた何年か後輩の荒小姓、稚児連中も引きつれて珍事を重ねながら二泊三日、青春を謳歌したものだ。その当時の青年達の風潮としては、社会にはめ込まれていない特権を最大限に利用して、奇妙なパフォーマンスをしたものだ。

上野駅のプラットホームで麻雀をしてみたり、汽車の中でめしを炊いたり、客車の横腹にかかっている行き先を書いたネームプレートをかけ変える国鉄泣かせのいたずらをしたりして嬉しがった。この銘板の一枚は持ち帰って沈澱党の本部魚敬にぶら下げたりしたが、分別のある親父が叱って天井裏にかくすことになり、今でもそれは松岡の家に家宝としてあるそうだ。野宿先に女学生のキャンプの一行がやって来て、テントを張る土地争いをして、引率の若い男の先生と喧嘩をし、仲直りにランプの灯の下で麻雀をやった。夜中に雨に降られ、女学生のテントに入れてもらい、意外に大歓迎を受け、下山したあとも仲間の一人は文通したりしていたっけなあ。

俺の店は駅前で便利だから溜り場として単に利用している、というセコイ友情ではなく、俺みたいに家業を継いだ者、浪人、会社勤め、教師、大学生、そして中退などいろいろだったが、みんなそんな事は一向気にすることなく、遠慮のない友人として交遊できていた。

沈澱党始末記と題したのでそれらしいオチをつけよう。足しげく川高三期生で門前市をなした魚敬に、ある節目が来た。それは沈澱党員もそれぞれ上の学校を卒業して社会人二等兵として「入営」して行くという時節が到来したからだ、可哀相だが下っ端には俺のような自由がないように、また勤務先も遠くになったり、中には外国に飛ばされたりで自然に集まることも少なくなった。仕方がないことだが、これも人生だ。又会う日までということに段々なっていた。

魚敬から沈澱党の看板をおろす日がやって来た。俺の親父が彼岸の地に旅立ち、葬式の日にお寺に立った花輪の中に「沈澱党一同」というのがあった。決してふざけたのではない。皆の志を感謝したものだ。

代を継いで「魚昌」^{ウオマサ}となつて当主となり、日もたつて悲しみも薄らいだ或る日、河岸から帰った俺にお袋が「今

日刑事さんが聞き込みに来たよ」と少し笑いながら言った。「何で又？」とよく話を聞いてみると、駆け出しの若い刑事が「沈澱党」という花輪を見て公安調査書をとりに来たらしいのだ。当時は当時で革マル派や赤軍みたいのがあったのだろうな。それと間違つてトチつたのだをうだ。訳をきいて笑つて帰つたそうだがこの日が沈澱党解散の日だったかも知れない。

その後俺は鮮魚流通革命、つまり市場をスーパーに奪われる時代を乗り越えるため魚昌改め「萬昌」マンシヨウとなつて中華のお店をやりがんばつた事もあつた。思わぬ大病をして皆に心配かけたこともあるが、川越駅前再開発の時、何とか一家で持ちこたえて川越駅前ファッションビル・アトレの一階入口にドイツのハーゲンダッツ・アイスクリームのフランチャイズ店のオーナーとなつて自宅は元のままで収まっている。

俺は分かっているんだ。社会人二等兵になつて「入営」して行つた奴等は、還暦になると定年になつて除隊することさ。そして又俺の所に遊びに来る様になるだろう、ということ。幸い大病は嘘のように病み抜けた。遊びに来いよ、また！俺は昔のままだぜ。

この様なケースの場合、代筆を申し出ること自体、余程仲よしてないと出来ないことです。高梨と僕との仲はこんなものです。彼の家に押しかけて原稿を朗読したら奥さんと二人で聞いてくれて「ま、いいじゃないか、御苦労だった」と言ってくれました。彼はそんな男なのです。どうせ御迷惑のかけついでですが還暦すぎでひまになった人から、また久しぶりに川越を訪れた人など試しにあそこに行つてみて下さい。沈澱党の残党がトグロを巻いていると思えますよ。

(代筆人独白、文責松岡章次)

豆事典

ペビー・モーターズ商会

蓮馨寺の近くの横丁にあった模型鉄道の店。ラジオなども扱っていて青柳、関口などが常連だった。後年、その近くに住んでいた堀君に聞くと、素晴らしい美人の娘さんがいたとのことだったが、気が付かなかった。惜しいことをしてしまった。いや、私たちに発見されず、運のいい娘さんと言うべきか？（ここに一時レコード店がなかったっけ？）

丸共バン

「丸共」の共は共産党の共。中央通りにあったその直営のパン屋の二階がレコード店喫茶だった。私たちは共産党には関係なかったが、そこにたむろして随分たくさんレコードを聴いた。とくに交響曲などの組物は普通の家庭には少なかったので、テイボー&コルトの「フランクのソナタ」やカザルスの「バッハの無伴奏」、ザウアーの「リストのピアノ・コンチェルト」、ストコフスキーの「新世界」など長い組物をいっぱい聴いた。今でも「新世界」の第二楽章を聴くと、ワイオミングの草の香りに混じって、ジャムパンの甘い匂いが漂って来るような気がするから妙だ。

第四部 「華甲篇」——還暦までの私たち

神童・悪童、社会へ飛び立つ

交友抄

中村 生 秀

一、夜空を真赤に染めた昭和二十年三月十日の東京大空襲は、遠い川越からもはっきり見えた。それから間もない四月に、近隣の町村から、一人か、二人、選ばれた少年達が、埼玉県立川越中学校に入学してきた。そして、連日の空襲下に、疎開転校してきた者を加えて、同級生は二百人余に達したが、皆それぞれ優れた才能の持主であり、これが交友のはじまりである。英語や数学、国文法など新しい教科に刺激される一方、軍事教練、勤労働員、農作業などにかりだされ、あの独得な玉音放送による、八月十五日の終戦までの体験は忘れられないものである。そして、戦後の占領軍の管理下での民主主義教育を受け、食糧難の中の旧制・併設中学三年、新制高校三年と六年間過した同窓生との生活は、まさに、青春のドラマであって、とても書き尽すことができない。そこで、必ずしも正確ではないが、昭和二十六年三月に母校を卒業してから、畏友がどのような分野に進み活躍されたかを、敬称を略して、素描してみることにした。卒業してすぐ就職した人にとっても、大学進学後就職した人にとっても、未だ戦後のこととて就職難の時代であった。しかし就職するや、その苦難をのりこえて、働き蜂として、日本の発展の原動力となったことは確かである。

二、まず我等が誇る佐々木雄司は、前東大医学部教授（現獨協大）で、精神保健衛生学の権威者である。大学教授職には、富山医科薬科大の川崎匡、茨城大人文学部長の東敏雄、東洋大経営学部（現東洋大）の齋藤弘行がおり、前藤田保健衛生大外科教授の吉崎聰が最近健康を回復された由で何よりである。しかし、東京医科歯科大で、病理解剖の実績をあげた、三友善夫の早逝は惜しまれる。

三、臨床医では練馬の産婦人科医関根憲治が母子の愛育に貢献しており、清水市では水村博光が整形外科病院を営み、茂原市で竹内達人が皮膚科を、地元では遠藤公平、君塚功、宮崎義宣が地域医療にあたっている。田口陽世は病没された。薬剤師になった福田（鳴田）實は東松山市立病院事務長になっているが、第一製薬入りした越克己は、惜しくも病没された。歯科医は稲生義彦、相田俊孝、中田仁成（西宮市）が開業中で、同窓で治療を受けた者も多い。

四、学校の先生になった人は三十一名に達し、小、中学、高校の校長経験者が多く、全員の紹介は割愛させていた。だき、中大の教職課程を経て教員になった小林洋左が、この三月まで、県立川越女子高等学校（あのお県ですぞ）の校長であったこと、異色として比留間和夫の音楽教室主宰兼音大講師をお伝えする。

五、地方公務員組は、新宿区役所の高橋幸男、川崎市役所の桃井良之、入間市役所の柳沢隆、東京消防庁の大野春雄である。

六、銀行関係に行ったのは、埼玉の土地柄もあって、埼玉に奥田誠、柴崎建治、沢田明、赤田康二、有山豊、武銀に浅見茂男が、そして太陽神戸に清水良平、都民銀に宇都野正章が在職された。証券界では新日本証券の長島恒雄が調査畑で活躍、日興証券には野口八郎がいる。保険の分野では、安田火災に丸田邦夫、日産火災に新井貞夫、

東亜火災に西川博、大東京火災に吉野正武、富国生命に大澤米吉が在職された。大澤米吉は、成績抜群の名支社長であつたが、働きすぎて体調を損ねて自重されていたがこの五月に亡くなられた。誠に大ショックである。

七、次に、マスコミ、出版、広告関係では、日経B P販売社長の松村祐二、電通の内海俊郎が現職にあり、NHKには菅間昭、斎藤賢治、長江不二男、教育出版に宮崎敏昭、光文社に平岡泰之、朝日広告社に青柳安彦が在職された。KDDの小熊忠三郎は、田中総理の訪豪に同行し、誕生日祝いに色紙を貰つたと聞いている。田中修は出版プロダクション自営。

八、実業界では、ジャパンエナジーの専務守谷互をはじめ、石川島汎用機サービス社長正木一男、ダイヤモンドラニングサービス社長田中崇、山田照明常務益子弘道、埼玉トヨペット専務石田照男、東京プラント取締役小島一雄、セガからジャレコに移った金子武司、関西電力の原子力部門にいた森岡昇、日本石油の内沼一雄は関連会社で、ヤマト運輸常務の竹沢靖、前川産業(株)常務の松岡章次(日経の交遊抄に登場した)、ソニーの伊藤明は現在も活躍中である。カセイ商事取締役堀陽は津上を経て、テレコムイケノ社長の山田和宏とともに、退職後、悠々自適の身分である。西武鉄道の斉藤恒は高田馬場駅長、沿線事業統括を経て最近退職、住友ベークライトの朝久野貞郎も同様である。

九、同じ実業界でも、元アジアカラー社長大川解はカラー写真現像所を一代で築き、目下、次の事業のため充電中、水野洋策も元同社の役員であつた。東幸商事社長の森田重敏は靴販売、コンビニエンスストアと多角経営中、コスモの特約店油新石油社長新藤邦泰、家具のカタヌマ社長潟沼(峰岸)稔、中屋と十和田石の社長中秀男、越健産業社長丸田謙三、狭山人形社長小沢孝志、入間三菱自動車販売社長青木勘輔は、創業の精神を生かして事業を発

展拡充させて頑張っている。

十、ダスキンの柳田径伸、米穀の柴田五郎、岩澤富世、中島喜三郎、酒販の村山祥男、貸ビルの新井淳平、同、高梨昌夫、セーターの小高省三、織布の糟谷熊、所沢の大地主深井康弘も自営組である。しかし、木屋製作所の水村哲也、岸浅商店の岸昌次、ゴムシートの駒井忠彦、肥料の竹内健治、製茶の市村栄一（当時県会議員）が他界されていているのは淋しい。

十一、川越の名刹喜多院の名声を、不動なものにした、塩入亮善をはじめ、教職もかねる山崎孝雄、そして佐々木良祐が僧職にある。

十二、ユニークな存在としては、大映の助監督から月丘夢路との共同事業者になった沼田芳造、興信所経営の加藤健、炭火焼の町田郁夫、南国交通の谷巖、協和観光の前田行雄、そして武蔵野ゴルフクラブ支配人の新井治雄がおり、川中二〇会ゴルフが八十七回目を迎えることができたのも、この人のおかげである。

十三、裁判官になった奥平守男は、この度、熊本地方裁判所長に栄進したが、このような経歴を持つのは、川中、川高を通じて戦後では、この人がはじめてだろう。高橋信良は、革新系の弁護士として活動していたが病没された。村山利喜は、税理士業務の外に、コンピュータによる計算センターを経営し、ビジネスソフトを開発している。

十四、かつて美少年であった我等が友も、このように、社会の各分野で、荒波をのりこえること四十年近くとなり、平成四年から五年にかけて、続々と、還暦を迎えるに至った。そして、あるいは、第二の人生を歩みはじめたり、充電中であつたり、あるいは、今までの事業や家業を、より一層充実させ、二十一世紀に向って頑張っており、

誠に心強い限りである。かくいう私も、恩師掛原俊雄先生のいわれていた「棒ほど願って針ほど叶うのが世の中だから努力せよ」とのお言葉を体験しながら、新宿にそびえる、新都庁を毎日眺めつつ、ささやかな弁護士業務に励んでいる。色々の面で、同窓諸兄のお世話になっていることはいうまでもない。川越中学、川越高校で学び、多くの友に恵まれたことは本当に幸運であつたと感謝している。持つべきものは良き友である。

ハイスクールの頃

森岡昇

化学部にいた松岡君から突如として電話があり、「お前の原稿が来る迄は印刷に出さない」と強迫されて止むなく何か書くことになつた。

投稿依頼があつたのは昨秋であつたが、その時は既に渡米時の質問項目や発表する論文の準備等で手一杯であつたし、一月は日本にいないし、帰国後は次期の開発計画に追い廻されることが判つていたので、今回は失礼させて頂くことに決めていたのである。

次の投稿が何時になるか知らないが、その時は落ちついて川中・川高時代の青春を懐かしんで長文を書きたいと思つている。

さて私は、良くも悪くも強い個性の人間だつたから今も同じようにやっている。オフィスに着くと、先ずクラシックを掛ける（自前のオーディオが置いてある）。仕事中也丸一日掛けっ放しのことが多い。仕事の合間に、アップ

ルのマッキントッシュで好きな数値計算をやる。大概時間が掛るのでその間電話を掛けたり人と会ったりする訳である。昼休みは若い人達とテニスやる。若い人達に負けないつもりでも身体丈は言うことを聞いてくれない。家に帰る途中または朝出勤の車中でヘラルド・トリビュンを読むことが多い。時々、「この人、本当に英語読めるのかいな？」という顔をする人がいるが構わない。私は英語の西川先生に失礼な質問をした事がある。「先生、こんな英語の勉強の仕方で本当にしゃべれる様になれるんですか？」今は心臓英語である。

日本の新聞は日経しか読まない。その他の大新聞なんか馬鹿馬鹿しくて読む気になれない。私は自分が頭が良いと思つたことは殆どないけれども、日本の大新聞文は読む気になれないのである。

高校の頃に好きだった物理は、途中で嫌いになるのではないかと思つたけれども、馬鹿の一つ憶えてこの齡になつても一番面白い。従つて電力会社の仕事を放り出して今の仕事に熱中している。そういう意味では、今は最高に幸福である。物理と言えば那須先生を思い出す。先生には申し訳ないが、教え方は余り上手ではなかつた様に思うが、今も先生の御尊顔を思い出すと無性に懐かしいと感じるのは、矢張り先生の徳であらうか。

私は大変な合理主義者であつたから、終戦後、漢文等やる必要がなくなつたと早合点して全く勉強しなかつた。熱血漢の佐藤先生から「森岡、零点」とやられた時は、それでも恥ずかしかつた。その後漢詩が好きになつたのは、佐藤先生の御蔭だと考えている。

大学の受験の頃（既に音楽氣違ひだつたから）、レコードやラジオのクラシックを聞こうか勉強しようかと迷つたことがよくあつた。夏の暑い真最中に、レコードを持って吉崎の家に遊びに行つたことがある。好人物の吉崎も、さすがに「何でこんな暑い盛りに来るんだ」という顔をした。理由は、暑い盛りは勉強に向かないから音楽を聞い

たり小説を読んでいたからである。三年の夏休みは、自分で時間割を組み、キッチンとその通りにやるのが面白かった。夜十時就寝、朝七時起床だったと記憶している。就寝前は、大概小説を読む時間だった。バルザックの「谷間のひめゆり」を読んだのを何故か思い出す。大学受験の後、四月になる迄はゲーテの「ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代」(上中下)を読んだ。ともかく文学気遣いでもあった。大学を出る頃迄には、一生の間に読みたい小説は殆ど読んだように思う。

川中に入り、落下傘を作る為の絹工場へ学徒動員され、重いまゆの袋を運んだり、鬼軍曹から教練の教科書を頭におぶつけられたりした時代は、我々の暗い経験であったが、何か真剣な、ひた向きな時代でもあった。軍国主義を弁護するつもりはさらさらないが、その後の米国の民主主義の時代は、自由ではあったが、人の生活に必要なひたむきさを喪失した時代であると考えている。今の私は過去を振り返ると言うよりは五、六年先を見る未来に目が向いている。これも今回何となく投稿に気が進まなかった内的な理由だろうか。六十歳と言ったって我々はまだ若い。だから未来を見詰めたいと感じている今日この頃である。

戦争の影響を受け、戦後は民主主義とやらいう主義に頭を切り替えさせられた同窓生は、今どうしているのだろうかと一瞬目を細めて思いを馳せてみた。

競技生活を離れた体操馬鹿の五十年

新井 澄夫

小学校四年生のころ、学校の近くに住んでいたわたしは、学校が終わって家に帰るなり鞆を縁側に投げ出して、学校の運動場で過ごす生活が多かった。ある時、高等科のひとが鉄棒で大車輪をしているのに遭遇し、びっくり仰天してしばらく石のように身を固くして見入ってしまった。け上がりさえできなかったわたしは、どうしたらあんな神がかったことができるようになるのかと考え込んだものだった。その後、低鉄棒で盛んに練習して、やっとけ上がりできたとき、何度も何度も確認して、誇らしげに早く誰かに報告したくてたまらなかつたあの瞬間を忘れられない。

大東亜戦争たけなわで、剣道・銃剣術などをさせられたりしているうちは、鉄棒のことは忘れてしまっていたが、戦後併設中学校三年生のとき、上級生に誘われて器械体操をやることになって、幼い頃のあの思い出を胸に秘めながら練習に励んだものだった。

英語部にも同時に所属していたわたしは、高校三年のとき、川越市内高校生の英語弁論大会に参加し優勝してしまった。事前の練習にはかなり満足していたものの、県女の一同学年生にはかなわぬものときめ込んでいたので、特別な緊張もせず、練習の成果をそのまま出せたことが結果に結びついたものと思った。審査員には外人牧師もまじっていたことが、特別な配慮はなかつたとの念を強くした。これが市の予選で、県大会に参加資格を得た。とこ

ろが、県大会の当日と、わたしがかねてから予定し挑もうとしていた、体操競技の県大会兼国民体育大会県予選の期日とが合致してしまった。わたしは欲張って、どうか両方に参加できないものかと考えたが、どうしようもなかった。

英語の弁論大会には、二位の県女の生徒に参加資格を譲って、体操の大会に参加した。体操では、浦和高校に對抗馬がいた。彼は全種目に秀でていた。最初の種目ゆか規定で、大失敗をしたわたしは、人前をばからずくやし泣きした。もう優勝はないと諦めたわたしは、その後の種目は無欲で演技した。最後から二番目の平行棒自由で、対抗馬の彼が大失敗した。しかし、あれくらいの大失敗は、彼にとつては問題外だろうと思っていなかった。しかし、結果としてわたしが優勝者となつてしまった。彼に何となく申し訳ない気持ちだつたことは今も忘れない。わたしは、英語にしても、体操にしても、万全を期して準備し、絶対の自信を持って臨んで勝ち得たものではなく、自分なりに努力はしたものの、なんとなく他人によつて援けてもらつたもののように思えてならない。そんなわたしを、当時多くの人が過大評価していたように思えてならなかった。

この大会で、もう一つ悔しいことがあつた。それは、わたしが長身だつたために、鉄棒で大車輪をするたびに足先がマットをこすつて、技としては完全であるのにその都度減点されたことだつた。こんな理屈にならないルールがあるものかと、当り先を区別もせず、やたらと友人にぼやいたものだつた。鉄棒だけは優勝してやる、できるという自信があつただけに、なんとも悔しかつた。このことがその後のわたしを体操界にのめり込ませた因となつたように思えてならない。

第五回国体名古屋大会に県代表選手として参加したが、ゆかで三人が揃つて同じミスをしてしまい、おまけにわ

たしは筆に大きなマメをむいてしまい、個人でもチームでも芳しい成績は収められなかった。その直後修学旅行に、家庭の経済事情等の理由で不参加者となり、ひまを持って余した自習時間にある詩をつくった。体操部員がみんなして鋸やかんなをかけて運動場の片隅に立てた平行棒をたたえた内容の詩が、その年の生徒会誌の文芸欄のトップに掲載されたことは大変嬉しかった。

大学入試では、英語科を選んで、失敗し、一年間高校卒で中学校の代用教員を勤めた。そこでは英語と数学と体育を指導した。英語や数学には教科書があったが、当時は指導書などは各教科ごとに揃っているはずはなく、大変戸惑ったものだった。中でも体育の指導は、自分が体操に多少秀でているぐらいでは指導にならず、年齢に感じた体育活動はどのようにしたらよいか分からず、暗中模索したものだった。その経験がわたしを体育の道に進ませたと思っている。

きつと立派な体育の教師になろうと決意して、翌年、東京教育大学体育学部に入學した。そんな関係から体操部にすぐ入部するつもりはなかった。二か月くらい経った頃、体操部の練習場を覗いて、わたしの体操の血がさわいでしまった。全国から強そうな選手が集まっていた。わたしも一生懸命練習し、少しでも一年以上のおくれを取り戻そうと思った。オリンピック選手であった小野喬先輩に指導を受けたりしながら、少しはましな選手になれるかと思っていたが、心臓肥大症と誤診されたり、思わぬ失敗から右手首捻挫、続いて右足首のひどい捻挫と負傷にあつて、しばらく練習から離れることになった。回復して練習に復帰しようとしたとき、各大学が派遣する全国学生体操競技連盟の役員に推薦され、あまり気乗りがしなかったが承諾して、全国学生大会（インターカレッジ）の企画運営にあたることになった。これがわたしの体操競技団体や競技会運営の役員としてのはじまりであった。結果的に、

自分の競技生活からは離れることになった。それでも、大学四年のときは東京選手権に出場し個人五位を得た。

故あって、埼玉県の公立高等学校の教員になったのは昭和三十五年であった。直ちに埼玉県の高体連体操部の役員、体操協会の役員となり、県体操界のために力を注ぐことになった。当時は関係者が少なく、関東や全国の関係団体への派遣役員をつとめることになった。昭和四十二年の埼玉国体の体操競技の企画運営は、わたしが全国の体操関係者のために寝食を忘れて打ち込んだもので、大成功に終わることができたのは嬉しかった。その時期を同じくして、関東体操団体の主要な役員を引き受けることになり、同時に全国高体連体操部の役員まで引き受けることになった。これらのほとんどの団体のために、規約の草案、役員組織の確立等わたしの努力が今でも生きているのは嬉しい限りである。日本体操協会の理事であったときには、競技団体の基盤といえる、選手・役員の登録規定と審判員認定規則を草案して、全国の関係者に評価されていることを誇らしく思っている。

昭和四十三年、カナダ・マニトバ州の周年記念行事に日本選手団が招待された際、团长として派遣され、二軍メンバーで優勝することができて喜んだが、当日が終戦記念日で食堂で祝杯をあげられず残念がったことや、サヨナラ・パティで团长挨拶を通訳なしてやったことなどが懐かしい。また、昭和五十四年高校・大学の選手団の团长としてアメリカ各地で交歓競技会をした際、審判打ち合せ会に日本人で単独出席した時など、高校時代に楽しんだ英会話が実地に役だったこと、アメリカの選手諸君と英語の早口言葉の競争をして勝ったりしたことも、また懐かしい。

最も長く携わったのが、全国高体連体操部の役員であった。ここで責任があるのは、全国高校総体(インターハイ)の運営と高校生選手の強化育成である。インターハイ体操競技の運営は、昭和五十年から平成四年までの長期間で

あった。主要役員であった故に、昭和五十三年福島大会には皇太子殿下・同妃殿下（現天皇陛下・皇后陛下）の御来臨を仰いだ折、御説明役に任じられる光栄に浴し、また、平成四年宮崎大会では秋篠宮殿下・同妃殿下への御説明役に任じられ、大役を果たすことができたことを喜びとしている。

小学校で鉄棒の大車輪に魅せられた少年は、高校・大学ではオリンピック選手を夢みて、ついに果たし得ず、後輩や教え子たちの世話役になって過ごし、今、体操界の現役役員を終わろうとしている。なにごとにも、専念して他人のために尽くすことによって自分もまた他人から恩恵を浴すことができることを経験し、関わった多くの皆様に対し感謝の気持ちで一杯である。

本職の教員としては、熊谷商工高校に三年、浦和高校に十六年、浦和通信制高校（移転して大宮中央高校と改称）に十四年で、本年三月、公立高校教員を定年退職した。この分野でもかなり精力的に働いてきたつもりだが、このことは、酒のこと、女のことと共に、今回は割愛させていただくこととした。

今後、暇と金があれば、外国の通信教育の現状を見聞してみたいなどと考えている。

もう・まだ

中島 正博

卒業してから何年たったのだろうか。

昭和から平成に変わって、今年は何年だろうか。

早いものであれから四十二年。

卒業の年に生まれた人たちでも、その子供はもう、高校生になるほどのオッサンだ。勤めの仲間も定年の年だ。六十歳になったが、これからの人生は「もう」ではなく、「まだ」の気構えて生きていきたい。

このごろ

齊木敏雄

'93 蘭展のキップを頂き、久し振りに東京ドームに出掛けました。既に川越の愛培家の春蘭入賞のニュースも伝えられており、楽しみにしていたところでした。会場中国際的な蘭展に相応しく、洋蘭をはじめ色々の部門の作品が溢れんばかりの盛況であります。

初めて春蘭を手にしたのは数年まえ友人に誘われて、千葉の親父さんが趣味で栽培している二百鉢ほどの蘭舎を見せてもらい、又東洋蘭の内面的な美しさや作り方の手解きてぎのお教え受け、丹精された一鉢を頂いた時にはじまります。以来、展示会や園芸雑誌を見ながら折にふれ求めた一鉢一鉢が、失敗を繰返しながらも予定していた数には足りませんが三十五鉢になりました。なかには土佐の知人から譲り受けた本場の春蘭が今では可憐な花を付けております。

いつの間にやら還暦を迎え、三十数年続けてきた「つくる」言葉からはなれ、何やら手持ち無沙汰の中に、今迄趣味としてやって来た蘭栽培に新しく「作る」ことを見出し、毎日楽しみにしているこの頃です。

感謝

小川 司郎

私の川中・川高時代は、多くの友人から暖かい友情に包まれた明るい六年間でした。その中で特にお世話になった方々について、簡単に紹介させて頂きます。

修学旅行で

私の家は戦災で焼かれ、川越に疎開しておりましたので、生活は貧しいものでした。高三の修学旅行の話題で賑わっていたある日のこと、中一からの親友、笛木勇三さんに、

「俺、修学旅行、行けねえよ」

といったところ、

「小川が行かねんじや、俺も行かねえよ」

と喋ってくれました。

そして、数日後、笛木さんが、

「みんな心配してるよ。金は俺が貸すから一緒に行かねえか」

とまで喋ってくれました。

その上、私の母親にも頼んでくれました。

高校卒業後、私は小学校教員になりましたが、その年に、確か二千円だったと思います、笛木さんに差し出したところ、笛木さんは受け取りませんでした。始めから返して貰う気持がなかったのです。

また谷巖さんにも大変お世話になりました。谷さんとは、中一から高三までの六年間、同じ学級で過した唯一の友人です。それだけお互いの気持を知り尽した仲でした。

修学旅行の数日前、

「小川、今日の帰りに家へ寄らないか」

といわれ、立ち寄ったところ、

「この靴、履けるかな」

と、スパイクの金具を外した靴を私の目の前に突き出しました。

修学旅行に履いていく靴がないのを知っていたのです。

大学入試で

沼田芳造さんとは、高二の頃から親しくさせて頂きました。私が映画部に籍を置いていた関係上、よく映画に誘ってくれました。新宿の名画座、池袋の地球座や人世座等で、主にフランス映画を観賞しました。

大学入試が近づいたある日、

「小川よ、一緒に日大芸術学部へ行かないか。学費は二年分俺が出してやるよ。あとの二年はバイトで稼いで……
とにかく一緒に行こうよ」

と勧められました。

母親に相談したところ、

「沼田さんの気持はありがたいけど、人様の世話になってまで大学に行く必要はない」

と、即座に反対されました。この時ばかりは私も母親の意見に従わざるを得ませんでした。

教員生活で

山下文司さんとは、中学・高校時代よりも、教員になってからお世話になりました。

教頭試験を受験する時でした。当時、山下さんは、川越市教育委員会の学校教育課長の要職にあり、多忙な日々を送っておりました。それにもかかわらず、更紙一枚の私の論文を、一対一で二時間も費やして論文構成、文法、表記上の注意等、幅広い立場から指導して下さいました。

また、私が校長職に昇任した時も、私の力に見合った学校に配置して下さいました。お蔭様で三年間、大過なく職を全うすることができました。

この他にも、私が疎開者ということで、教科書や参考書を届けて下さった、先輩の渋谷健先生。演劇部でお世話になった、根岸宏さん等々……。

尚、おわりになりましたが、今はなき、水村哲也さんのことを記して筆を置かせて頂きます。

水村哲也さんを偲ぶ

水村さんとは、中二の頃、小沢孝志さん、橋本正一さんとよく遊んだ仲でした。水村さんは慶応高校に移りましたので、二十年位、交際が途絶えておりました。

昭和何年頃だったでしょうか。衆議院議員の選挙の年でした。突然、水村さんが私を訪ねて来ました。

聞けば、二区から立候補したK氏の責任者である水村さんの車が、警察にマークされているので私の車を貸して貰いたいとのことでした。地方公務員である私は、選挙運動が禁止されているにもかかわらず一週間程でしたが、毎晩六時頃から知人宅を訪問しました。勿論私はクビを覚悟で同行しました。

このことがあってから、水村さんとは、年に二、三回飲むようになりました。時には、赤坂の高級クラブへ行き、夜中の二時頃帰宅したこともありました。

こうした付き合いの中で、ある時、私は胃の具合が悪くて飲めない時がありました。すると翌朝、私の家まで薬を届けて下さったことがありました。水村さんは、木屋製作所の社長として多忙を極めているにもかかわらず、わざわざ届けて下さったのです。

その水村さんが、昭和五十四年八月二日、突然の死。

私にとって水村さんは、よき友人というより、兄のような存在でしたから、今でも時折元町の見立寺でお会いし、心の安らぎを求めています。

(敬称については「君」と記すべきかもしれませんが、私から「君」などと呼べませんので敢えて「さん」をつけさせて頂きました)

同窓三代

小 高 省 三

小熊忠三郎氏をはじめ、諸兄各位のお骨折りで、私どもは埼玉県立川越高等学校同窓会に、正式に加入することができました。非常に喜ばしいことで感謝しております。

それまでの同窓会では、斉藤恒氏及びその他諸兄各位にお世話になりました。ありがとうございます。

そこで私事で恐縮でございますが、私が入会できましたことで、我が家では川高同窓会員が三代揃ったこととなります。

父（中二十六） 私（高三） 私の四男（高三十七）です。

以上、お礼かたがた、ご報告いたします。

あの世からの生還

吉 崎 聰

約四年前、平成元年十月四日、私は脳梗塞で倒れ、その時は、すでに亡くなっている私の尊敬するM司祭に会いに行こうとしており、川越の教会のことばかり口走っていた様で、結局M司祭には会えず、生死をさ迷った末、少

しずつこの世に生還致しました。今では書く方は何とかなるものの、内容そのものが表現足らずで残念ですが、リハビリテーションが奏効して、現在かなり元にもどり、大動脈瘤や、胃癌、肝癌、乳癌等の手術が出来る様になりました。運動は、卓球、テニス、下手なゴルフ、車は昨年愛媛から名古屋まで、高速道路で、一人で八時間飛ばしましたが、一応大丈夫でありました。血圧も百三十／八十で安定、恐らくその時は、コレステロールが高くて、心臓近くからの血栓が飛び出し、脳の末梢部が閉塞したものと思われまます。

さて、中学から高校時代の思い出は、敗色濃い戦争の真つ只中、勉強どころか長い竹槍の訓練や、私の父親が「吉寅」をやめ、新河岸の某製作所で、プライマリーグライダーづくりをしており、戦争のための小さな木製の飛行機を大まじめで私に見せてくれておりました。

昭和二十年八月十五日終戦で、米軍が進駐し、ある時、私の家まで入りこんだMP達が「〜パン!!」、「フライ!!」と叫びました。言葉が通じないので、彼等は怒っていましたがあきらめて、何とか帰ってゆきましたが、私は言葉を理解出来なかった口惜しさを、今でも覚えております。後で考えると当り前ですが、「Fly」ではなくて「Fly」だった様です。以来医学部からサンフランシスコへ留学で二年半、日本に戻り、学会でもあちこちヨーロッパにも行き、英語の勉強を続ける羽目になりました。

昨年、藤田保健衛生大学医学部第二教育病院院長・外科学教授を退職し、今は日本語も英語も十分ではありませんが、いつも私は、かの有名な比島のマッカーサーの言葉の様に「I shall return」をモットーに、毎日毎日、時には夜中の午前三、四時まで手術を致し、過ごしている次第です。

隨筆 二題

関根 憲 治

その一・私の「田舎教師」

もうかれこれ三十数年にもなるだろうか。まだ、古き良き時代の面影が残っていた小さな城下町では、医学部の学生にはきわめて寛大であった。加えて、当時の国立大学の医学部ほど呑気なところはなかった。社会勉強だ、などと勝手な名目を振り廻してアルバイトに励み、書籍代のはずがいつの間にか飲み代に化けるといったパターンで、どうみても医学部を卒業したというよりも、アルバイト学部を卒業したといった印象の方が深い学生時代であった。

そんな投げ遣りな日々を送っていたある日、私の母方の祖母の写真を公開提供してくれまいか、という話があった。若気のいたりて渡りに舟と飲み代欲しさに簡単に同意してしまったのは、今もって自分自身、心の内なる世界では釈然としていないことはいままでもない。

明治スタイルのいわゆる丸まげの写真で、祖母が十七歳のときのものであった。後年、この写真が「日本文学アルバム 24 田山花袋」(筑摩書房版)の冒頭を飾ることになるのだが。

小説『田舎教師』を現今の若い方で読まれた人は少ないだろうが、明治四十二年に刊行された自然主義作家田山花袋の代表作のひとつであることはいうまでもない。利根川周辺地域をバックに貧困と病魔に負けずなおも夢をも

ちつづけるが、遂には現実には押し倒されてゆく小学校の青年教師の悲哀をモデル小林秀三の日記を基として描いた大作である。そして、作中のヒロイン北川美穂子のモデルこそ私の祖母なのだ。

祖母は花袋とは全然面識もなく、また秀三も殆ど知らず、小説も虚構であるといわれている。祖母美代子は忍藩（現在の行田市）の士族の娘で、非常に厳格な教育を受けて育ったが、生来陽気で勝気な性質であったので、いつも男の子にも負けず、水泳なども常に一着で派手な存在であったようである。ちなみに仄聞したところによれば、奥平守男君のお父上とは小学校で同級生であった。やがて当時創設された埼玉女子師範学校の一回生として入学、その才媛振りを発揮したという。

「女を教育しても仕方がない」と考えられていた時代の、しかも封建色の濃い地方でのことである。そして「美穂子は白緋を着て居た。帯は白茶と鶯茶の腹合せをして居た。顔は少し肥えて、頬のあたりがふっくらと肉附していた。髪は例の庇髪に結って、白いリボンがよく似合った」と書かれているように、流行の先端とはいえないにしても、当時としては目立った衣裳をつけた地方インテリ女性の一人であったようである。

卒業後、間もなく祖父のもとに嫁し、『田舎教師』の刊行された年には、私の母を産み、すでに二児の母親であった。明朗で陽気で、しかも当時としては最新の教育の洗礼を受けた祖母ではあったが、年とともにかたくなな、厳格な母親になっていったようである。それは当然、小説のモデルにされたということに対しての、姑をはじめとする地方封建社会への弁解であり、抗弁であったと私には思われてならない。舅が県会議員や村長などの要職にあつたため、ますますその傾向は助長されたらしい。そして敗戦直後の農地解放による地主没落の嵐は、祖母にも例外ではあり得なかつた。それは祖母には大きなショックではあったが、しかし、それは同時に目に見えない精神的解

放であつたと私には思われる。

やがてライバシーなどが問題となる時代を迎えて、祖母もその殻かを一年毎に少しずつ破り捨てて、近代文学に関する卒業論文の資料集めて訪れる学生たちと喜んでいろいろ話し合ったりしていた。ちょうど東京オリンピックのころから、急に美しかった祖母も年をとり、皮膚の色も一段とあせて、その老化振りが傍目には気になりだしたが、結構本人は私などより元気で意気軒昂たるものがあつた。しかし、寄る年波には勝てず、漸次衰えて、もつとも気に入っていた吉田茂元首相の国葬の日にこの世を去つたが、これも何かの縁であらう。

虚構にしても、モデルにされたことは、明治生まれの祖母には、この上ない迷惑で、苦痛この上ない手錠の如き感じがしたことであらう。診療の余暇を利用して、亡き祖母の小説の舞台である大利根べりを歩き廻り、赤城を中心とする北関東の風物に接してみたいと思つている。これが、これからの私の老後の楽しみのひとつである。

その二・命名

海外へ出掛けるたびに、未知なる国への旅の期待感がさして裏切られずにすんでいるのに、どうも国内の旅では、全身に溢れるような新鮮な感激を味わうことが、年のせいか自国内のせいか、めっきり少なくなつてきていることに気付いてから数年になる。もちろん、国内でも是非訪れたいと思いつつ、未だに行きそびれている土地も多い。昨夏、凶らずも宿願であつた上杉氏十五万石の、川越と同じような旧城下町米沢をゆっくりと訪れることができた。すでに数回は所用での途次、その町並みは目にしてきたから、正確にいえば「上杉家御廟」などの史跡をゆっくりと巡ることができたということである。

国の史跡として指定されている米沢藩主上杉家墓所を、地元では昔から「御廟」とか「おたまや」と呼んで親しんできたという。いうまでもなく、上杉家初代は謙信、二代景勝は越後から会津若松へ、更に関ヶ原の敗戦後、米沢へと転封されている。名君として名高い治憲（鷹山）は十代、藩主としては九代である。旧藩時代は御廟將を置き、御廟守、御廟番によって守護され、領民は、立ち入ることができなかったというが、今はたくさんの参詣者で香華に包まれている。樹齢四百年に近いといわれる杉の木々が、昔の面影は失われたとはいえ、今なお往時の名残をとどめている静寂にして風格のある杜であつた。御廟順位、初代謙信から向かつて左で五番目と離れた場所に、鷹山公のそれが在る。静かに手を合わせ宿願成就となつた。

話は溯る。桑名から忍へと転封につれて、江戸末期に関東へ移住した母方の曾祖父は、熱烈な鷹山の信奉者であつたという。鷹山公にあやかつてよい名を孫たちにつけたいと念願しながらもかなわず、その熱い思いは口伝的な申合せ事項として昭和まで生き続けた。そして遂に曾孫である私に、鷹山公の名そのままの「治憲」では非礼であるから逆様にして「憲治」と命名したとのことであつた。

自分の名前の由来を知つてはいたが、小学校時代に修身の授業で習つた鷹山像は、一に儉約、二に孝行、三に師をうやまえ……などと、少年の心にはきわめてケチで堅苦しい人物との印象が強すぎてあまり好感はもてなかつた。それでも一度は鷹山公の御廟を訪れたいとは思つていた。

たまたま、童門冬二の『小説上杉鷹山』を読み、大統領に就任したケネディが、日本の新聞記者連の質問に「もつとも尊敬すべき日本人は上杉鷹山である」と答えた話、封建時代の藩主でありながら主権在民に徹した宣言ともいえる「伝国の辞」の話、正室の幸姫は心身の発育が異常で障害者のようであつたのに心から慰め続けた話、……

等々に深い感銘を受けたことが急遽米沢行きを決めた。私にとって、名前負けの原点への旅であった。

わが国では名付親は、古例では母方の祖父がこれに当たったものだが、核家族化の顕著な今日では、若い夫婦の大多数は二人だけで命名している。わが子の将来に幸あれと、よりよき名前を考える親心には今も昔も変わりはないが、私の病院で出産した子供たちの、イチゴ、マエカ、ホップ、マリア、……といった名前をみると、これ为本当にいいのだろうか、思わず考え込まざるをえない。

急速にかつ確実に時代は変化している。小和田雅子さんの皇太子妃決定もその証左のひとつであろう。人々の意識や価値観も時代の流れに沿って当然のように変わり、赤ちゃんの命名でさえトレンド(時流)に敏感に影響を受けている。命名に限らず、二十一世紀へ向ってこれからの若い妊産婦を取り巻く周辺に起こりうるいろいろな地殻変動は予想をはるかに越える激しいものといえるだろう。

中学時代から今、定年退職を迎えて

石井(荷田) 精治

中学時代、一番苦しくいやだった事は、体育で走らされたのがね橋までの往復五千メートルだった。裸足で走った上尾県道の砂利道は、足の裏の感覚がなくなり、何でこんなにまでして走らなければならないのか、うらめしくも思った。この道は、小生の通学路で、まだその先、二キロも歩いての登校であった。同時に伸び盛りの年の者にとって、空腹もまたこたえた。

しかし、この苦しさ、空腹は、後に就職して役立ったのだから感謝しなければならないのかも知れない。就職は、当時いわれた、デモ・シカ先生である。先生にでもなろうか。先生にしか、かなれない先生である。

高校しか出ていないデモシカ先生は、若いからというだけで体育主任の仕事させられたのである（ちなみに、この時の校長が、加藤（健）さんのお父さんであった）。子供達の先頭に立って走るのにめがね橋までのかけ足は役立つかも知れない（裸足ではなかったけど）。

仕事の上でも苦しい時も幾度かあった。でも、空腹で裸足で寒風の中を砂利道五千メートルを走った事を思えば苦しさもかなり少なく感じられたものだった。

私たち同期の方々には教師になった人が多かった。今、定年を迎えて、その大勢の先生方にお世話になった事に對して感謝し、お礼を申し上げたい。

体育主任をしていた時代には、小川司郎先生や秋山輝一先生と一緒に川越市の小学校校体育の仕事と一緒にやることが出来た。このお二人とは、教頭時代や校長になってからもいろいろとお世話になった。定年最後の学校となった上福岡五小では、金島壯行先生と四年間一緒にいろいろとご協力をいただきながら仕事が進められた。一緒にいえば、水口重雄先生とはずいぶん分かかわりが深かった。先生とは、昭和三十四年芳野小で一緒に教鞭をとり、三十五年春には一緒に転出した。そして二十年経って水口先生が大東中へ、私も大東西小へ教頭として同じ地区に着任した。教職最後の平成四年は、東部班（富士見市、上福岡市、大井町、三芳町）の校長会で、水口先生が会長を、私が副会長をつとめ最後の仕事と共に出来た。川中一年二組で同じ級だったことから数えると、実に四十八年間お世話に

なったことになる。この年、入間地区の小学校校長会の会長は中義智先生で、お体が万全でない中を精力的に会のまとめをされ本当に感服した。先生は、県校長会の常任理事をされ、理事会でもずい分お世話になった。私たち教員が教頭校長になるのには試験があるのだが、奥隅英夫先生とは富士見市に勤務していたころ、試験勉強で共に、学んだ仲だった。とは言え彼の方が先に合格され登用されていた。試験でお世話になったのは何と言っても山下文司先生である。入間教育事務所所長として地区の要として教育行政を推進されていた。先生には私と共に子どもも陰に陽に援けられたいきさつがある。子どもも、となると金子勇二先生にも長女が初雁中でお指導をいただき感謝している。先生は、校内暴力等で荒れたあとの学校へ校長としてつとめられては平静にされ、その教育力の大きさに感心させられている。また、学校の行事に国家斉唱、国旗掲揚をすることになった頃、私は先生のお話から自校の実施を試みようまくいった事を感じている。その他、国語研究等で活躍された江原襄先生、中学校で川合敬三先生、西海英夫先生、府瀬川忠芳先生、川越女子高の小林洋左先生等々、それぞれの分野で活躍されていた。色々な会合に出る度に誰かの顔が見える。一人も知らない所より、一人でも知っていることの心強さはかけがえのないものであった。

今、定年をむかえて四十一年をふり返って、本当に多くの人々に援けられ支えられて来たのだとつくづく思う。終わりになったが、諸兄の益々のご健勝、ご多幸、そして長寿をお祈りする。

冬景色

五十嵐 統 祥

カーテンを開けると、羽田の冬の朝やけがとび込んできた。天空いっぱい蘇枋すおの色が薄らいて、バミリオンの光が濃く広がっている。浜川崎から大師あたりに立ち並ぶ煙突のそちこちから、少し傾いてふんわりあがる煙のシルエットが穏やかな朝を告げる。大師橋を渡る車のヘッドライトや、街路灯や、消え残りの工場の明かりがヤケに白く強い。川崎大師の藁はまだ闇の中だ。ガラス戸を開け、ペランダへ出ると全身に寒さがぶつかってくる。慌てて後ろ手に戸を閉めた。サンダルをつっかけ、冷えきった手摺に寄りながら、また東京灣の方を見やれば、ガラス越しの景色と違って、澄んだ色彩がまた目に新しい。上空に月齢も終りの日だろうか、月が細く細く、くつきりと照っていた。幅広い多摩川の水面上、曙色、レモン色、赤丹、山吹、金色、琥珀、いろいろの輝きが散らばって、少しずつ変化しているような。そして、右岸から川の真ん中あたりにかけて、けし紫色のさざ波が浮んでいる。六郷水門先に穂を固くして突っ立つ葦の茂みは、トンボロのように川中へ突き出て、川面に映る影と一緒に鈍色にびいろのかたまりを際立たせていた。

このあいだ、世田谷の下馬へ行ったとき、三階の廊下の窓から夕やけを眺めた。街路樹らしい亭々とのびた櫛の梢の向こうに、茜色あかねの静かな光が澱とどんでいた。左手に富士山の消し炭色をしたシルエットが透けて見えた。武蔵野では見馴れてる景色である。今にも焚火か、炊煙がすうっと立ちのぼり、長く棚引いて来そうな夕暮だった。こん

な高い場所て夕やけを見ていると、高校生の頃、帰りの車窓から見た夕やけが懐い浮かぶ。それも同じ冬の景色である。

南大塚から入間川までの五キロ余を突っ走る間の移り変りが美しかった。入間川駅に近付くと、線路は土手の上をどんだんのぼって、スピードを落としながら、鳥瞰の素晴らしい絵図を恵んでくれた。ゆるやかな起伏をもつ畑は、いつも丹精のあとがいつぱいだった。野菜と麦畑の畝が縞を織り成して綺麗だった。桑畑もあった。法の際にあった境界樹らしい一本の茶の木は、今はどうなつたろう。きちんと家の形に刈り込まれてスツと立っていたっけ。畑の続く少し先に、線路に並行して凸凹道があった。といつても電車から見えたわけではない。入間川の町に近くなるまでは人家も木立もなく、自動車や三輪車が通ると、しばらくは埃が納まらない光景がよく見られた道だった。道の向こうもずっと低くなつていて視界にない。そこは入間川の河川敷までずっと落ちていいる自然堤防の領域だ。こんな入間野に薄暮が濃さを増して、茜をバックに秩父連山が黒く浮き出始めると、景色はぐんと広大になつてくる。

あのころの武甲山は、確かに兜を少し傾けて据えた形をしていた。群を抜いてその存在感を誇示する山容だった。そこから北の方は、ずっとなだらかな奥武蔵や比企の丘陵が続いて、やがて高さを沈めていた。反対側は、大持、子持から蕨山、さらに奥多摩や秩父の山々だ。楽譜のように小さい波を描いて南へ南へと連なっていた。暮れ泥む中空と入間野の間に、紫黒色のシルエツトと清明な茜が、落ち着いた静かな映発の美しさを大きくひろげていた。武甲山あたりの山巔に絡んでいる雲が盛んに千切れている。強烈な西風と寒さが見える。ぞくつとするほどの寒気が伝わってくる。窓ガラスの結露を擦っては、目を凝らしていたのを思い出す。

二月の典型的な冬型の気圧配置になったある日、上越新幹線に乗っていた。左の窓に真っ白に突兀する富士山が、丹沢や道志の山塊を従えていた。前の窓には秩父の山がうつっている。薄藍の山肌に薄雪の縞模様がよく馴染んでいた。朝の陽を真正面に受け、清らさが冴えている。とその時ハツとした。あれは確かに武甲山だ。しかし、何たる姿だろう。もう兜ではない。右側がすっかり削がれて左が角のようにそそり立っていた。触を見せられ、触を感じて、覚えず目を見張った。

随分近く見えていた男体山や奥日光の山が後方に廻る頃、上越の山々を越えてきた雪雲が赤城や榛名にかかっているのが見えるようになってきた。でも、それはもう名残りの雲である。その日は高崎で下車した。ぴりりとした寒さだ。ここまできると榛名の向こうの谷川岳が堪らなく懐かしい。もう行けないのだろうか。正月のマチガ沢へもう一度入ってみたい。いつしか脳裏ではその情景を追いかけている。

吹雪止んで上越の空、プルシャンブルー。目眩くほど深く澄んでいる。遙か山巔に雪煙が舞う。飛天が遊ぶ回廊のように稜線が繞る。歩一步、ゴボツ、ギユギユツと雪を鳴らし軋ませながら、マチガ沢S字状の真ん中に進めば、踏みしだくことを許さぬほどの清らかな雪が、正面の谷をふんわりと埋めている。岬々たる東尾根を包み、谷底へむけて流紋を走らせている雪、岩頭を噛む雪、歩を止めて仰ぎ見れば限りなき皚々への誘い。歓喜とフアイトがヤツケのうちでふつふつと滾る。

西黒尾根に取りつき、ユブを過ぎ、滑らかな雪庇の基部伝いに深くラッセルされて登り易くなっている尾根を辿ると、谷川岳とマチガ沢がガンガン迫ってくる。コルにかかると手前で眺望を楽しんでいると、先行するパーティーが

幅の広くなった急斜面をゆっくりと登っているのが見えた。丁度大きな岩が二つずつ上下に並んでいるすぐ左脇に登っている。間隔がばらばらなのが急登を思わせる。稜線あたりに突出しているのがザンゲ岩だろうか。

コル付近は一段とたっぷりの雪だった。急登も、オキの耳を形成する累々たる露岩や、東尾根の繊細な白の稜線や、荒削りに落下するルンゼに描かれた美事な流紋、それから、五月の連休に詰めたことがある、本谷最上部あたりを目を取られながら登っているといつしか高度を稼いでいる。

あとから来た単独行の青年に追いつかれる。大雪山の麓の村からやってきて、この晴れるのを二週間も待ったという。これで思いが叶った、帰れるという。憧れの山だったのだろう。口数も少なにも眺望を貪っていた。

肩の広場をもう頂上に立った気持ちでじっくり踏みしめながら進む。岩肌にはビッシリ海老の尻尾をつけているトマの耳に立つ。鞍部を隔ててオキを、谷を隔ててオキを見る。飛天が舞う回廊に見えた稜線が弓なりに延びている。六十度を超す斜度をもつマチガ沢は篩ふるいで振ったような雪に覆われ、滑らかな肌を光らせている。景観は登ってきた時の荒々しさとは一変していた。なんと優美なんだろう。鏡天に端然たる姿で浮かぶオキの耳、真っ白な被衣をかざして佇む女性のように清婉であり、気品を漂わせている。ゆっくり慎重に近寄っていく。コリドールと意識しようとしても、足元から崩れ落ちそうな、風に飛ばされそうな不安が身を固くさせる。このすぐ先が一ノ倉沢と思っただけで、異質の空間に踏み出してゆく思いに襲われる。戻れなくなるような怯む気持ちも揺らめく。ラッセルの痕もずっと細っていた。

山を下りて武蔵野へ戻ろう。

武蔵野の冬景色は心に暖かだ。そして、武蔵野といえは松本先生が住んで居られる三芳町あたりが最もその倂おまけを

止めているのではないだろうか。

三十数年前のある日、雑木林の中をガサガサ突きついたり、畑の道を通つてどこまでも樗の並木が続く石ころを呑んだ固い道へ出る。どの家も、生垣とその根元を飾る竜の髭などの植込みがあつて、そこに数メートルおきに樗の大木が並んでいた。ゴシック建築の大聖堂の天井のように頭上を枝が蔽っている。暫らくは仰ぎつつその枝振りを見て、それから左へ折れ多福寺の山道に入った。そこはまた石ころをまったく含まない赤土だけの窪んだ小道、人の踏み痕の消えてしまった綺麗な一本道だった。蹠あしもちに心地よい柔らかさが伝わってきたのが忘れられない。

疎ま覚えの中にあつて鮮明に残っているのが境内にあつた古井戸である。当然使われてないから、太い釣瓶の縄は束ねられて滑車の所に不恰好に括り付けられていた。滑車は立派な屋根の下に渡された頑丈そうな桁に吊り下げられていた。これを支える四本の柱、その一本の上の方に空蟬が止まっていた。真冬の季節に不思議なものを見るように見つめていた。数か月もの間、どうしてずっと止まっていられただろう。目の前のすぐ手が届くところなのに、強い風が何度か吹いたろうに、ここは別世界なんだろうか。無漏路むろじに近い故なのか。人影を見かけることもなく、いかにも静かだった。三富山は、雑木林や松林や杉木立に深く包まれたそのまんまん中。

先日、変つてしまつてしまいかと恐る恐る訪ねて見た。変つて戸惑つたところもあつたけど、まだまだその良さが一杯あつた。

樗並木は今も立派に保存されていた。山道は舗装され、北側には住宅が建て込んでいたけれど南側には雑木林が続いていた。総門の扉は新しくなり、古井戸は石柱と鉄パイプに囲まれ、釣瓶は外されていたけれど、山門や素朴な鐘楼に吊られている梵鐘ぼんねが醸かすオーラは微動だにしない。井戸の側に生えている百日紅ひゃくじつべいも腕のような枝をの

ばし、肌も模様が大きくなり白さが増えていたが、丈や姿は前のままだった。なにかほつとする。庫裏から出てきた女の人が、この庭で一番古い木はやはり、井戸の側に生える胡頹子の木であることを教えてくれた、よく見ると少し斜めに立つその老木は中がすっかり空になっていて樹皮だけのようだった。庫裏に入って案内書を頂く。高い敷居を跨いで土間へ入ると独特の落ち着きを感じられた。暮れるのが早いので庭園を見せて頂くのは後日することにして、地藏堂の方に廻り、林を求めてまた歩いた。

綺麗な松林があった。落葉を敷いている土はいかにもやわらかそうだった。ここなら春になるときつと金蘭や銀蘭が花をつけるかもしれない。

小楢の多い雑木林に入る。根元のあたりが少し変わったかな。以前は、切り株の樹皮ばかりが育ち、重なり合って大きな瘤をつくり塊をつくっていたのをたくさん見かけた。そんなごっつい根元から二本三本と新しい木が立ち上がっていた。今はそれが少ない。腰掛けになるようなごっつい根元が見られなくなり、すっきりした林になっている。

もう随分暮れてきてしまった。

今度は、あまどころの花が見られる頃でも来ようか。

ひとりなり霜枯れ道はなお続き

齋藤 清 一

未来に輝くべき高校生の時、「獺祭」に投稿し掲載された駄作が、私の生涯に粘つくくつき纏っている。

恥の多い「ひとりよがり」の時期に、人生の「わび・さび」、無常感を感じ得すべくもなく、多くのひとに支えられての存在感や有難さを知らぬままの、唯我独尊の「ひとり」であった。いわば蟻螂の斧が砕けたときの身勝手な徒労感だった。

愚鈍な私は他の人達よりも思い上がった時期が長く、三十代初めに大きな交通事故に遭い長期入院し、闘病経験やその時出会った多くの書物を通して、遅ればせながら漸く「ひとり」の真意を垣間見たような気がした。

しかし、それは未だ錯覚でしかなく、自我の妄執を周囲と調和させる処世術の域でしかなかったようである。零細企業が業界第二位になり、急成長の中で自然に押し上げられて得たポストを「百年の計」という大義名分のもとに振りかざしていた。

経営の苦しい多くの出張所・営業所の犠牲の上で暴利を貪り贅を尽くす支店長や一部の大営業所長に業を煮やし、「組織の再編成・体質改善」を叫んで全国を揺るがし、結果として何千人もの弱小セールスマンの整理と何百もの弱体出張所の閉鎖をし、最も改善すべきクラスは手付かずし喜ばせ、セールスだけは飛躍的に伸ばすという皮肉な仕事をってしまったのである。そして、自らの無力感として「ひとり」をとらえず虚無感として受け取り、昇格への

誘惑を断つため、丁度スカウトのあった外資系の会社に転職することになった。

季節は冬であり、転職先は組織の解体・再出発の「冬の時代」であり、また「ひとりなり……」が続くことになる筈だったが、この社会で出会ったヘッドクォーターの会長が、私に「ひとり」の本当の素晴らしさを教えてくれた。

唯我独尊の「ひとり」でも、虚しさの「ひとり」でもなく、「支えあい」「分かち合い」「育ちあい」をベースにした限りない可能性を秘めた「ひとり」であった。

彼はどんな苦境の時でも終始笑顔で私に言い続けた。

「君がいて私がいる、それぞれが零でなく一だろう、一は可能性の原点だから」

この会社は十八年後、年商八百億の企業に再生した。私は営業部門の責任者だったが気持ちもポストも自分の意思で「コーディネーター」に徹した。

会長が亡くなり会社も大きくなれば色々の人がいる。私の心の隅にすきま風がおるようになった。その隙間に「元の「ひとり」」が忍び寄って来た。

五十歳過ぎて一日に譬えれば太陽の位置は午後三時頃かと思える時期に、六十五歳の停年に未だ大分あったが、「ひとり」が形を変えてアメンバーのように繁殖し始めた。「自分の人生の集大成」その仕事を懸命にこなしながら五年間、勉強し準備して、退社した。

退社後、半年後に独立し会社を設立した。今度こそ、全くの「ひとり」であった。家内は、その時を予期していたと、「ひとりでなく二人よ」と言った。

それから、五年半がアツという間に経過した。「牛歩」「一進一退」、そして種々の試行錯誤を繰り返し、人並みに

「裏切り」にも遭いながらも、零細企業ながら全国展開の組織となって来た。

今の「ひとり」は充実感に溢れエキサイト出来て快い緊張感のある「ひとり」である。

私は何時の間にか「無所有の所有」を自分の生き方に行っている。それを意識して自分の心に育んだ頃から、「感動・感謝・感激」が素直に受け入れられるようになって来た。

以前は優秀な仲間や部下が欲しかったので叱咤激励、ハードな訓練をしようとしていた。しかし、「自分が変わり成長すれば黙っていても部下は優秀になる」と思い直した。教えたつもりが教えられる事の方が多いと気づき、支えたつもりが実は支えられている事を知り、分けて上げた筈が何倍もの心を戴くことを識って、無償の行為を自分が先に実践する事をやっと覚えた。そして、「ひとり」がニッコリと微笑みかけてくれるようになった。「霜枯れ道」を歩いても、心躍るようになった。

しかし、私は生来の凡人であり、また煩惱の輩である。未だ諦観や達観には程遠い。今度は、どんな姿で「ひとり」が、立ち塞がるのか楽しみである。本当の「ひとり」を認識するのは、未だ先の事である。

末筆ながら、駄文を寄せる気にして下さった同窓生と編集幹事の皆さんに心からの感謝と敬意を捧げると共に、益々のご健勝と御隆盛を祈念する。

〈追伸〉

このところ忙しく老骨に鞭打っておりますので、ウィークデーのゴルフに時間が取れず、「川中二〇会コンペ」にも不参加が続いております。年をとったら時間が自由になると楽しみに歩いて来ましたが、逆に不自由しておりますのも、零細企業の悲しさでしょうか。

一番リラックス出来て懐かしくもある仲間達と楽しめず、最も心労の多い営業ゴルフを道路もクラブも混んでいる土・日曜日にする煩わしさから早く解放されたいと思っておりますが、なかなか思うに任せない日常です。

土・日曜日でメンバーに欠員でもあるようなときには、是非ともお声をかけて見て下さい。今年の目標は三十回（昨年二十八回）ですが、未だ三回しか消化していません。

ただし、私はオフィシャルハンデ17ですが、実力は23位で、ご迷惑をかけると思います。

ゴルフ人生

新井貞夫

三月十一日、第八十六回川中二〇会ゴルフコンペに久しぶりに参加。コースはいつもの武蔵野G.C。晴、微風的好コンディションに恵まれ、パートナーは青木・深井・斉藤（恒）の三君。最終組で八時過ぎにインコースをスタート。今年になって四回目のプレーとなる。スタートホールはダボ、二番は下りスライスラインの四メートルがきまってパー。三番ショートホールもパー。四番は上り五メートルのパットが入ってパーディー。五番はボギー。ここまでで2オーバーと最近にない好調な滑りだしに二年半前の思い出が脳裏をかすめる。それは九〇年九月の同じ会のコンペ。前回久しぶりに優勝し幹事をつとめた第七十六回コンペの時のこと。インコースからのスタートで、いきなりパーディー。その後パーが五つ、ボギーが三つで38。昼食時のお祝いのビールではろ酔い気分でスタートしたアウトは連続ダボのスタートながら、四番でパーディーをとり44。トータルで82。私にとっては最高のスコア

で、今もってこの記録は破れないでいる。そんな思い出に浸りながらのプレーに、六番ショートホールもボギーと続く。七番でダボ。更に八番で快心のティーショットが左にこぼれ木の根っこ。ショットはできたもののチョロ、次もオンセずにあがってみればトリプルボギー。夢破れたショットで最終ホールもトリプル。トータル47。最近はどうも最後のつめがあまい。アウトコースもパーが二つ。最後の三ホールが、ダブルパー・トリプル・ダボで50。おまけに最終ホールでソケットが三回も続き、悩みの種をかかえる。次回迄には調整をしておくつもりだ。

それにしても川中二〇会のコンペは本当に楽しい。取引先とのゴルフ、グループ内の懇親コンペ、会社の仲間とのゴルフ、プライベートなものと種々な形のゴルフがあるが、それなりに気も遣う。中・高校生の頃に戻った気分でプレーできるこの会のゴルフが最高だ。プレー中は勿論、終わった後のパーティーでの語りもまた、楽しみの一つだ。

六七年、日産火災の千葉時代、霧の中の鹿野山CCで始めたゴルフも四半世紀になる。熱し易く冷め易い私もゴルフの魅力にすっかり取り付かれ、止めようと思ったことは一度もない。幸い健康にも恵まれプレーを続けていられる幸せをかみしめている。プレーの思い出にスコアカードや記念のボールを保存し、年月別のスコアを比べ楽しんでる。

プレーをしたゴルフ場は東北・関東甲信越が主で約八十コース。思い出に残るコースは、水戸時代、海辺の林間コースでコースレートも高く、いつもフェアウエーの手入れが行き届いていたのが印象的だった大洗GC。秋田時代、春雪の舞う中でプレーした秋田CC。十年程前、会社のコンペで、 HALFではじめて39をだした伊香保国際CC。更には会社の同期会のコンペで、一打目OBの後二打目が直接カップインした小山GCのショートホール等思

い出はつきない。

最近、回数も減っているが、ホームコースのユニオンエースGCで同年代の友人とのプレーや、会社でメンバーとなっている星の宮CCでのプレーが多くなっている。川中二〇会や日産火災の同期の集まりである三〇年会にはできる限り出席をと思っているが、なかなか思うにまかせないでいる。

ハンデも16を最高に現在19と下降線を辿っているが、日頃の運動不足とストレス解消に少しでも役立てばと頑張っている。

使用クラブはWはクートのパーシモンヘッド、IはアルタスMSP、ボールは専らアルタスを使っている。今後も健康には充分留意し、七十過ぎ迄プレーできるように精進しようと思っている。

我がさすらいの旅

大野 春雄

転入組ということもあり、川越高校在学当時の思い出話は、これといって書くべき程のものもない。題名に「我がさすらいの旅」としたのは、後に述べる海外旅行のこともあるが、何となくわが人生がそのような表現にふさわしいような気がしたからである（私は事情があって、他の同窓生より少々年上である）。

これから述べることは、私の人生のうち仕事を除いて印象の深かったことを二、三拾い書きしたもので別に他意はない。

川越高校卒業後朝霞の駐留軍でバイトの通訳をしながら、昭和三十一年（一九五六年）になんとか早稲田大学第一商学部を卒業した。その後何回か就職試験を受けたが、バイトで学業をおろそかにして成績がいま一だったためか、バイトが本職になってしまつて、語学手当も付いて収入が増えてしまったためか、どうも別に気に入つた仕事が見付からずに二、三年が過ぎた。

その間に仙波（川越工業高校グラウンド向かい）に家を建てて乾物屋を始める一方、その二階で英語塾を開いた。「二兎を追う者は一兎をも得ず」という諺があるが、半ば夢中で三兎を追つていた感がある。今考えてみれば、随分無理をしたものだと思ふが若さで頑張つたということかもしれない。これが我が人生において、かけ持ちで何かをやる始めとなつた。

これでは一生「うだつ」が上がりないと考えていた昭和三十三年（一九五八年）の秋に、友達の紹介で東京消防庁で語学ができる者を採用する特別の試験を受けた。しかし、しばらくの間何の通知もないので半ば諦めていたところ、東京消防庁の人事課から呼び出しがあつて、同庁に勤務しないかと言われ、喜んでお引き受けした。後で分かつたことであるが、幸運にも「並みいる強豪の中から」私ただ一人が合格したということであつた。

翌昭和三十四年（一九五九年）同庁に東京都の地方公務員として就職して、川越の家も商品も売り払つて上京した。東京消防庁における二十八年間は、私の人生における最良の期間で、特に総務部の副参事に昇任した時は、自分もようやくここまで来たかと感慨深かつた。

昭和六十一年（一九八六年）退職後同庁の推薦で、外郭団体である全国消防長会に再就職して現在に至つてゐる。この間に仕事の関係とプライベートで約二十回にわたつて世界各国を回つてきたが、仕事以外で何か記憶に残つ

ていることも主に海外旅行に関することだ。

昭和四十六年（一九七一年）に海外視察ということで約三か月間一人で英国、ドイツ、フランス、スイス、オーストリア及びイタリアを歴訪した。最初ロンドンのヒースロー空港に近付いて、空から下の方に赤レンガの住宅が並んでいるのが見えた時、なにかおとぎの国にきたような不思議な気がした。外国ではできるだけ歩いて見て回るとにしている。大英博物館は何といつても規模が大きい。特に気に入ったのは、玄関を入ったホールのガラスケースの中に入っている、エジプトの歴史解明のカギとなったロゼッタストーンと、もう一つ大人のこぼし大の何の変哲もないような石である。後者は恐らく最初に発見された恐龍のツメである。それには発見者の妻と恐龍発見に夢中になって廃業し、離婚したという医師夫妻にまつわる悲しいエピソードもある。

特別の計らいでビッグベンという大時計のある英国国会議事堂の中を、分厚い議事録のある地下室まで見学させてもらった。上院と下院との間に狭いキズだらけの石造の通路がある。第二次大戦中空襲で国会議事堂が破壊されたが、戦争を忘れないためにその一部を残してあるのだそうだ。また、イングランドの西にあるウエルズ地方を回ってみた。静かで素朴な感じのする山あいの風景があった。この地方では、主にウエルシュという英語とは全く縁のないような言葉が使われていた。文字はアルファベットを使っているが、wやyが続いていたりして発音もできないようなものも多い。興味を感じたので、勉強する気もないがウエルシュ英、英ーウエルシュの辞書を買ってきた。両地域の境界付近にある道標にはウエルシュと英語で地名が書かれているが、ウエルズ地域では英語が塗り潰され、イングランド地域ではウエルシュが塗り潰されていた。同じ国でありながら仲たがいは止めたらいいのにと思った。北方のスコットランドでも昔はゲリーリックという言葉が使われていたが、いまではほとんど使われ

ていない。エディンバラではプリンセス大通りを、エディンバラ城からホルルドハウス宮殿までほぼ一日かけてぶらぶら散策した。途中、たまたま自由主義の基本となった『国富論』を書いたアダム・スミスの墓を見ることができて感慨深かった。

イギリスでのことだけ幾つか思い出したことを取り留めもなく書いたが、外国ではいつも特に遺跡と言語について関心を持って見て歩いた。その後、アメリカ、タイ、インド、フィリピン、シンガポール、台湾、香港、インドネシア、中国、エジプト、ギリシャ、韓国、パキスタン等の国々や地域を訪れたが、日本はどいい国は他にないというところをつくづく感じている。

最近としては、平成五年（一九九三年）の二月に国内ではあるが、沖縄にグループ旅行で行ってきた。沖縄では第二次大戦で日米双方に二十万人以上の犠牲者を出した九十日間の死闘の話聞いて、改めて二度と戦争をしてはならない、とつくづく考えさせられた。摩文仁の丘にある埼玉県出身軍人の慰霊塔の前で、英霊の御霊に心安らかに眠られるよう冥福を祈った。慰霊塔の説明はなかったが、恐らく荒波をモチーフしたものであろう。

悪ガキ

青木 勘 輔

どんな人生であろうと、生きていく途上ではいくつかの壁にぶつかり、それをどう乗り越えていくか自分は自分なりに悩み考え、失敗を繰り返しながらよじのぼっていく……。

中学、高校時代、太平洋戦争、終戦、当時の食糧難の時代、自分は農家故の農業の手助けて学業どころではなかった。学問に対するおくれから劣等感、劣等生であったことを憶えている。実弟の事でお世話になった佐々木雄司先生から、学校時代は「勤輔は悪ガキだったなあ」といわれた劣等生であるが故に、ワンパクながキ大将を装う自分を懐かしくしてならない。佐々木雄司先生には感謝にたえません。有難う御座居ました。

家庭を持ちながらワンパク時代が二十九歳九か月迄続き、父より勤当され最後通告として、三十歳から五十歳まで働く時に働かない人間は自分を悔いることになる。一生は戻らない——この言葉こそが自分を変えてくれた一言でした。

心機一転、二十九歳九か月、埼玉日産自動車販売(株)ダットサントラック課営業部員(セールスマン)として入社、三年十か月勤め独立、青木武州自動車販売(株)設立、昭和五十三年四月より入間三菱自動車販売(株)設立、今日に至る。父に、女房に、感謝すると共に若い社員(平均年齢二十五歳)に囲まれ、社員に教わりながら感謝しながらの毎日です。

学校と私

宇都野 正章

私と学校とはあまり相性が良くなかった様に思う。鶯谷に生まれ蒲田で幼稚園時代を過ごした私の気管支系統が極めて弱かったので、両親は空気の良い浦和郊外に転居することにした。この引越しが小学校入学式と重なり、私

は入学式を欠席した。これがつまずきの第一歩となった。

入学したのは浦和第五尋常小学校本太分校という各学年男女一クラスずつの小さな学校。この学校、卒業時には本太国民学校と改称され独立していたが、新興地にあり比較的レベルが高かった様だ。特に私の学年は粒揃いだったと思う。男子卒業生約六十名中、浦和中進学者八名（例年二、三名）そのうち五名は東大に入学している。その中で私は毎年級長をしたりしていたので、まあ出来の良い方であった。但し桜井君という文武両道はもとよりリーダーシップにも傑出したのがいて、学業はともかく総合力で太刀打ち出来ず、一学期の級長は彼ときまっていた。現在彼は第一生命の社長をしている。

中学受験について、受験勉強、筆記試験の記憶はまるでない。運動神経が鈍く苦手としている鉄棒・とび箱の特別の記憶だけが鮮明に残っている。とにかく名門と言われる浦和中学に無事入学、同時に剣道部に入った。ところが剣道部のしごきは猛烈、毎日這う様にして帰宅、勉強どころの騒ぎでない。一学期の成績表を小学校の恩師に見せに行ったところ、仲間を見てにこにこしていた先生の顔色が私の処でさっと変った。大変ひどいものだった様だ。しかし以後改心して勉強した記憶はない。その年の夏、終戦、剣道部解散となったが、野球がブームとなり、手製のグローブ、ボールで野球に熱中していた。ただし運動音痴の私はつねに「ライパチ君」であったが。

そのうち、父が戦地から還り、勤務の都合で佐渡に転居するという。佐渡中学の編入試験を受けたところ、浦和中の成績はひどいが試験の結果が良いので編入を許可すると言われた。浦和のライパチ君も野球後進の佐渡では堂々たる中心選手、草野球に明け暮れているうちに学制改革があり、いつの間にか佐渡高校併設中学卒業、佐渡高校入学ということになった。

高校一年の冬、新津に転居、新潟高校の編入試験を受けることになった。この時はさすがにのんびり屋の私もナンバースクール相手というところで慌て、正月休み、目の色変えて勉強した。おかげで無事パス。この情性で高一の三学期はよく勉強した。汽車通学の途中でサイン・コサイン等暗記したりした。学生生活で勉強した唯一の期間である。その結果、成績表を見て驚いた。「特」という今までない評価であった。このまま続けばよいのだが、クラス替えて隣席になったのが牛木君（最近まで読売新聞の編集委員）、誘われるままたちまち文学少年に変貌、映画と文学に明け暮れる懶惰な生活となった。今でも授業をエスケープ、学校裏の砂浜に寝そべっての幼稚な文学談義が懐かしい。

高校三年になった途端、川越に転居、川越高校に転入することとなった。編入試験のないのは始めてで、随分おらかな学校と感激したが、新潟高校の成績が物を言ったのかも知れない。川高での思い出はあまりない。転入直後の英語の時間、森岡君から「転入生に新潟の話をして貰いたい」との動議が出され、西川先生から英語でやれとの指示、目を白黒させながら、「佐渡の冬は豪雪があつて、バスが止まる。十二キロ離れた学校まで徒歩で通うことが何回かあつた」と話した。先生目を丸くして「Oh, Twenty?」という。あつと間違いに気付いたものの、とっさに言い直す言葉が見付からず、「Yes」と強弁、無事放棄されたぐらいいである。この頃は牛木君から饒別に貰った太宰治の「富嶽百景」に感激、太宰治に取りつかれていた。図書館と川高の校門から直進した突き当りの古本屋での文学書漁りに熱中していた時代である。

そのうち「進学適性検査」があつた。知能指数のテストみたいなものだつたと思うが、結果は埼玉県で何番目かの高得点とのことであつた。新潟高一年の好成績もあり、佐々木（太郎）先生は当然東大を受験するのだらうとい

う。いくつかの学校を転々とし、あちらで化学の前半、こちらで物理の後半を学ぶといったテイタラク、文科系は何とかなるにしても理科系などはまるでチンプンカンプン、全く自信がなかったが恰好よく東大を受験した。当然の事ながら物の見事に失敗、一浪生活に入った。浪人中も蓄膿症を患い、集中出来ないのを口実に文学書に耽溺、ろくに勉強しないまま再挑戦となった。一・二期校ともあえなく敗退、すべり止めの早稲田・商学部も筆記試験は通ったものの二次の面接でふるわれた。世話係から面接官は北沢という名うての早稲田狂、併願はと聞かれたら早大本槍と答えろと注意されていたにも拘わらず、馬鹿正直に東大受験と答え、慥然とした顔で結構ですと言われ一巻の終りであった。慌てて新聞広告で募集校を探し、青山学院二部を受験、何とか潜りこんだ。

翌年昼間部の編入試験を経て普通の学生生活を送ることになった。と言っても、登校しても教室は素通り、マージャン屋に直行する明け暮れ、代返とカンニングで何とか単位を取得していた。しかし最後に冷汗をかいた。就職が決っているのに卒論が一行も書けないのである。ゼミの教授に泣きつき未提出のまま何とか単位を貰い卒業したが、つい最近まで夢に見てウナされることがあった。

概して言えば、どうも知能指数がまあまあで何とか小手先でごまかすことが出来るので、それに溺れ努力を怠り痛い目に会うというこの様だ。私の息子が良く似ていて、川高卒業時、担任教師から「ご子息は入学試験の成績も良く、知能指数も高いという珍しいケースで注目していたが、矢張り駄目でした」と言われた。今も昔も中途半端に知能指数が高いのは努力しないので駄目だということの様である。

この様に何とも締らない学生生活であったが、あちらこちらでのふれ合いから形成された人脈は私の貴重な財産となっている。特に卒業後の川高同窓生との交友には良い思い出が沢山ある。大学生時代、高梨君宅を根城にして、

青木（安）、松岡君等と沈澱党なるものを結成、コンパ・マジヤン・キャンプ等々で青春を謳歌した（高梨君のご両親には随分迷惑をかけた）。又益子君に誘われた小島家での俳句会、堀君に引きずりこまれた蓮馨寺読書会等々楽しいものであったし、又ここで築かれた交友関係は社会人となっても引き続き、現在もゴルフ・ハイキング・会食等々で私の生活を心豊かなものにしてきている。私の老後の最大の楽しみは川高OBとの交友と言っても過言ではない。

因みに私の妹は二人共川高OBに嫁ぎ、私の息子も川高卒業、甥六名のうち三名までが、川高OBで、学生時代稀薄だった川高とのつながりが極めて濃厚となっている昨今である。

回想四題

水村 博 光

一、富士山にこだわって

新幹線で富士川鉄橋に差し掛かると、車内放送で富士山を紹介されることがあります。急いで外を見ると、窓枠に入り切れぬ程壮大な富士山を仰ぎ見ることができま

す。年間何回位新幹線を利用するでしょうか。そのうち何回富士山を眺められるだろうか。率で言えば、大略三分の一だろうか。

冬場、富士駅のプラットホームに立つと、雪を頂いた富士山が頭上に覆いかぶさるばかりに迫ってきます。さ

らに富士川の辺りから眺めると、富士山の稜線は一気に駆け下り、宝永山のこぶを越えると次第に緩やかなスロープとなり駿河湾まで達する、非常に雄大なパノラマの景観が望めます。

富士山には連座する山もなく、唯一基あたりを睥睨し聳え立っている。西からの季節風や南からの黒潮に運ばれた海風が突き当たり、上昇気流となり乱気流となる。時には美しい傘雲ともなるが、積乱雲を生じ雨を降らせ、吹雪となり荒々しく雪を舞い上げる。時には霞となつてたなびき、富士の裾野を覆う。

冬場、太平洋高気圧に覆われ、天候が比較的安定する時期でも、新幹線の窓から富士山が眺められる機会はそれほど多くありません。

外国からのお客さんは、新幹線の窓から雪の富士山が眺められることを、楽しみの一つにして日本を訪れると言われます。

他県からのお客さんを迎える時は出来るだけ天候の落ちつく時季を選びます。澄み切った空に綺麗な富士山を望めば、誰でも必ず喜びます。それだけで大変な持て成しになります。こんな好都合なことはありません。

朝一番、いつも東側の窓を一杯に開け、富士山を眺めて今日の天気確かめます。

家を建てる時、どの部屋にも東側には出来るだけ大きな窓を開けました。お陰で四季それぞれの富士山を、いつでも窓いっぱい眺めることができます。

陽春、我が家の庭にも桜が咲き競う季節、気まぐれ風に裾野の霞が吹き払われ、白い雪を頂く富士山が爛漫と咲く花々と艶を競って姿を見せることがあります。

絶景かな、絶景かな。一畝、また一畝。

春宵一刻価千金。快々なり我が人生。

東海沖地震の噂が喧しく伝えられる今日、敢えて危険を承知の上で病室の壁にもいっばいに窓を開けました。そのため病院の設計・建設に当って、かなり余分な努力と負担を強いられました。

その甲斐あってベッドサイドからも富士山が眺められ、入院患者さんだけでなく見舞いに訪れた皆さんからも喜ばれ、計り知れぬ安らぎを与えているものと自負しています。

私の墓所は清水の鉄舟禪寺の高台にあります。真正面には富士山の全景が眺められ、眼下には春は桜が咲き、その先には清水港を抱いた駿河湾が広がります。この景観に惚れ込んで死後の安住の地と決めました。

二、初めて静岡県に赴任する

三年という約束で大学から派遣され、静岡県の片田舎にある榛原総合病院に赴任して来たのは昭和四十年六月でした。

静岡は極めて遠い存在であり、これ以前に来た記憶がありません。学会などで東海道線を利用することがあっても通過してしまい、立ち寄ったことはありませんでした。

教授から与えられた研究テーマの資料集めや実験が予期以上に進捗し、データも揃い、ようやく論文の構想が出来る上がり掛けたところで教授に呼ばれ、研究室から放り出されることになり、辺鄙な田舎の病院の一人医長として赴任して来ました。

当時、整形外科医は大変不足しており、専門医が獲得できず診療科目に整形外科を標榜することが出来ずに困っていた病院が決して少なくありませんでした。また一人医長の病院も稀ではありませんでした。

当時は東海道線の藤枝駅で下車し、駅構内を出て駿遠線に乗り換え、三十分程で榛原町に着きます。当時としても貧弱な二輛連結のディーゼルカーが走っていました。途中大井川に架かる鉄橋は、松丸太の杭に線路が敷かれただけのものでディーゼルカーが通る度にヒヤヒヤしながら眺めていました。

この駿遠線も赴任して翌々年の秋の台風で橋脚が流され、これを機に全線が廃止され、以後、榛南地方の交通手段は路線バスのみになってしまいました。

東名高速道路も未だ全線開通しておらず、国道・地方道の別なく道路事情が極めて貧弱であり、何処へ行くにも必ず洗濯板のような道を通らなければなりませんでした。

未だかつて東京を離れたことのなかった女房は、最初から榛原病院への赴任には大反対であり、何時も口論の原因になりました。

昭和四十年と言えば、ようやく若者が原付バイクを、一般市民が小型乗用車を購入出来るようになり始めた頃でした。道路事情は一向に改善されぬまま、自家用車のみが爆発的な勢いで増加しました。それに比例して交通事故が多発し、患者は昼夜の別なく病院に運び込まれました。

ようやく一日の仕事を終え、帰宅して一息する間もなく呼び戻され、救急患者の処置に没頭し、気付いたら手術室で朝を迎えてしまうということが珍しくありませんでした。

若さとヴァイタリティーに任せて我武者羅に働き、土地柄にも慣れて人達とも融和し、友達も沢山出来たし、周囲の人達から少しは認められるようにもなりました。

幸い、人に恨まれるような失敗もなく、夢中で頑張っているうちに約束の三年が過ぎ、無事に一人医長としての

任を勤め上げることが出来ました。

三、清水市に医院を開業する

昭和四十二年頃と言えば、医学部のみならず大学紛争が最も激しかった時期でした。

応援を頼んで病院の診療をやりくりし研修日に大学に出掛けても、研究室の机や椅子は放り出されて自分のいる場所はなくなっていました。

昼夜忙しく働いていた間にも、大学の研究室にいる間に集めたデータを整理し、何とか論文を纏めることが出来ました。学会誌への掲載も済み、学位審査委員会の審査も通り、あとは教授会の認定手続きのみとなり、学位記の交付も間近になりました。

いろいろ考えた結果、開業するも人生、医者としての一つの生き方、社会への貢献の仕方であるという結論に到達しました。教授に相談し、賛同も得られました。

骨を埋める根拠地、永住地となる医院の開業場所には県庁所在地か新幹線の停まる都市にと、早くから決めていました。

榛原町に三年間住んでみて、静岡の辺鄙な田舎では些いささか不便過ぎるが、気候が温暖で経済的にも豊かであり、人味もそれ程悪くないことが分かり、開業場所の第一の候補地として静岡・清水近辺がわかりました。

水戸市内の病院に勤務するという話もあり、ここを足場にして開業する方法もあり、水戸市が第二の候補地となりました。

当時、静岡市と清水市との合併話があり、合併すれば草薙の辺りが中心になることが想定され、期待して現在地

に決めました。

最初の規模は土地二百七十三坪、鉄骨モルタル二階建て、総床面積百坪、入院設備も揃えて昭和四十三年十一月に開業しました。

資金は銀行からの借り入れで賄いましたが、生れて初めてした借金が重荷になり、眠られぬ夜が幾晩もありました。今にして見れば小度胸であったことよと笑止。

長男三歳、次男一歳。典型的な核家族であり、開業当初、女房は子供の面倒を見ながら事務の仕事をごなし、看護婦の面倒を見、入院患者の食事の支度もしました。

よく夫婦喧嘩もしましたが、それでも二人して力を合わせ、何とか創成期の苦難の時期を乗り切ることが出来、今日があります。

十二年前、これまでの全ての施設を撤去し三階建てにしました。この時住居は別棟にとも思いましたが、用意してあった土地は方角が悪いという人があり、やる気がなくなってしまう、診療所と別棟で並べて建てました。

四、それでも進学できた

大東亜戦争が勃発したのは国民学校三年生の時でしたが、当時の記憶はあまり残っていません。唯、毎月八日には全校生徒が奉安殿の前広場に集合し、校長先生が恭しくぬかずき奉安殿の扉を開き、天皇陛下の御真影を拝し、大詔奉戴日の参拝をした記憶だけは今でも鮮明に残っています。

四年三学期のことだったと思いますが、担任の先生から上級学校進学希望の調査がありました。本当に私は四年生まで上級学校がどのようなものか知りませんでした。中学の上に更に高等学校、大学があることなど教えてくれ

る人もなく、まして自分が中学から大学まで進学するなどは考えてみたこともありませんでした。

親に相談すると、予想に反し試験を受けてみると言われました。我が家の経済事情が良くないことが分かっていたので、何か申し訳ない気がせぬでもなかったが、親の言う通り進学希望を出しました。

戦争中でしたので理数科系万能の時代であり、たまたま理科系が比較的得意でしたので、家庭の事情などとは関係なく、学校では気楽に進学希望を出すことが出来ました。

五年生になると「残り勉強」が始まりました。放課後、上級学校進学希望者だけが残り、受験に備えて特別補習授業を受けました。

担任の先生は何時も忙しく、残り勉強は自習勉強になることが多かった。演習問題が与えられ、答え合わせをするだけのことが多かったが、それでも親に作ってもらった半纏を着て、夕方遅くまで寒くて薄暗い教室に残り、充実した時間を過ごしたという思い出が強く残っています。

しかし残り勉強はいつも真面目だったとは限りませんでした。地理の勉強では地球儀を壊してしまったり、理科の教材をめちやめちやにしてしまい、全員が真つ暗な教室に正座させられ、夜中まで帰してもらえなかったことも何度ありました。

それでも子供心にも言葉には表わせない優越感と言うか、幸福感を意識した記憶が今でも思い起こされます。

男女は別々の組編成になっていましたが、時折女子生徒と一緒に残り勉強をすることがありました。そんな時には皆張り切つてしまい、勉強に熱が入り、能率が上がりました。

川中の入学試験は書類選考が主体であり、形ばかりの面接試験と体力検査でしたので、幸いにも合格することが

出来ました。

週刊誌などの調査では、最近の国立大学医学部の学生の親の年収は、平均的家庭のそれよりも飛び抜けて多いとのこと。私などたまたま良い時代に生まれ合わせたので、親の年収などとは係りなく大学にも進むことが出来たし、医者にもなれたのだと幸せに思う次第です。

来し方を顧みて

関口英輔

矢張り、うかうか人生の裡に耳順を迎えた。

思い返すと川越高校の師及び学友諸兄に種々と御迷惑をお掛けしたのが昨日の事の様に懐かしい。同窓生のうちでも既に物故された方が可成りの数になられた由、改めて今生の生を感謝すべきなのに、我利我利の私見が取れず、悪業三昧の内を彷徨する自分が疎ましい。

東北大を卒業して東大第一内科入局、そして東京通信、国立熱海、関東労災と各病院を巡り、漸く埼玉へ戻って防衛医大、東所沢病院と諸兄の近隣に勤務しながら、臨床医の常で忙中無閑、同窓会も御無沙汰続き。しかし父親を防衛医大、母親を東所沢病院で見送ることが出来て、親不孝の大罪の万分の一でも償えたとい惚れるのだから始末が悪い。風樹の歎もかくやで、当方が老境に入って親の恩をしみじみと知らされることになった。

東所沢病院は停年で退職。御縁があつて所沢に隣接する東村山の東京白十字病院に勤務させて貰えることになつ

た。その上東京医大にも行かされてとんと休ませて貰えそうもない。余程仕事地獄の鬼に好かれ、捕まった様だが、白隠禪師様の南無地獄大菩薩という処までとはとても徹底できない。まあ多少は共生というものが臙げながらみえてくるかの程度に止まっていて、言うこと成すことうつせみの虚偽ばかり、ややもすると我見が立って弥陀の誓願におまかせも出来はしない。

やはり六十歳となると、杖とも柱とも頼むは我が身。ところがこれが実に当てにならない。仙崖せんがいさんの六歌仙ではないけれど、「皺しわが寄る。黒子はほでできる。腰曲る。頭は禿げる。髪白くなる」そして、「手は震う。足はよろめく。歯は抜ける。耳は聞えず。目はうとくなる」いくら眼鏡を変えても肝腎の水晶体のピントが中々合わなくなるし、階段の二段降りには危ない。その上「くどくなる。気短かになる。愚痴になる。出しやばりたがる。世話焼きたがる。／＼聞きたがる。死にともながる。淋しがる。心が僻む。欲深くなる」何かと言うとヒガミ根性が出る自分を見出して慄然とする。四苦八苦というのも、今迄は愛別離苦、怨憎会苦などが主なのに、より本源的な生老病死の苦が実感されるようになってくる。

老化と死という現象は、現在までの生の体験から見る限りでは苦そのもの。加えて御時勢はプラグマティズム、能率一本槍ということになると老人にはお先真つ暗。問題は苦に対処する自己の側にあるので、折角の御命を頂いて生まれて来たのだし、その上医者が生業なのだから患者さんを主体に治療に専心していれば充分なのに、現実には実に怪しいもので、フラフラ、ヒヨロヒヨロ、右顧左眄して道に迷っているばかり。

共生というお示しがある。御縁に結ばれて長い人類の歴史上の瞬間を共に生かして頂いている皆様方に、宜しく御教導を頂いて一層の努力精進を行うのが本来なのに、すぐ別の妄念が浮かんでくる。本当に罪悪深重、煩惱熾盛

とはよくぞ申して下さったものだ。

随 想

橋 本 正 一

「此の翁^{おう} 白頭 真に憐れむべし 伊^これ 昔は 紅顔の美少年」 (唐詩選)

これは唐の詩人、劉廷芝^{りゅうていし}が白頭を悲しむ翁に代わってうたった七言古詩。

さて、今年も「自衛隊木更津OB会」があり、大勢の白頭翁(?)が年一回のこととて、ニコニコして集まって来るに違いない。世界一の長寿国に相応しく参会者の数も益々増え、それが壯者を凌ぐ程元氣ときているから、会場はまことに騒^{さわ}かしい。

「いやあ、久し振り……変わりませんな」「あんたこそ、若いですな……」

Aさんとこんな挨拶をし、昔話になった。Aさんとは昔は結婚や恋人の話題が多かったのに今は孫の話に目を細める。

近くにいた同年輩のBさんと喋っていると後輩^{ごはい}がやって来た。つくづく私の頭部をみて言った。

「だいぶ薄くなりましたなあ」「国家のためにご奉公したんだ。この年齢になっても、ふさふさ、黒々ではご奉公が足りない!」

とたんにBさんがイヤーな顔をした。

この種の気の置けない人ばかりの会はまことによろしい。酒もすすむ。そのうち最初に会ったAさんとまた一緒に
になった。Aさんがしみじみ言った。

「あんたもよいお爺さんになったなあ」「……」私は返答に困った。「変わりませんが、お若いですな」と先程言
葉を交わしたばかりなのに、Aさんはこともなげに「お爺さんになった」と言ったのである。

私は反発しなかった。実は次の言葉を思い出していたからである。

へ友達が若く見えると寝めるようになったら、年をとったと思っていることは間違いない（米国の作家 ワシント
ン・アービング 一七八三―一八九五）

さて以上は去年のOB会での寸景である。今年の挨拶はどう言ったらよいか、迷っている。

「いい年になりましたな」にしようか、それとも「年より若い」と言おうか……。

それともその場で出まかせに言おうか、どうせ白頭翁なんだから……。

人秘 当時の美女の消息を知りたい。

一、旧姓 藤野 すみ子。

二、勤務先 とらぎさま 川越市内の建設会社？

三、理由 高三の時オケンのグラウンドで春季合宿が行なわれ、裏方さんとしてガンバった「お嬢さん」です。

お逢いしてお礼がいたい（中島喜三郎兄が紹介してくれた方です）。

先方は忘れているかもしれませんが。

おじいちゃんのパソコン修業

阿部 新一

最近、日課にしているのが「散歩」と「パソコン遊び」である。散歩はあまり遠くまでは出かけないが、少しでもないから歩くことにしている。また、午前中はパソコンやワープロで遊ぶ時間をもっている。傍からみると優雅に見えるだろうが、病み上がりの身としては、からだや心の健康とリハビリ、それにストレス解消も兼ねていると思っている。

在職中は教職という仕事から、ワープロには多少の知識はあった。とは言っても、松山高校を最後に病氣退職するまでのほんの二、三年の間、自己流で習っただけである。それまでは、いちいち活字を拾って打つ手動の邦文タイプで、良くて電動式のそれであった。ワープロもまだこれほど普及しておらず、よほどのマニアか一部の人が持てるものではなかった。

パソコンとの本格的な付き合いは三年前の六月、我が家に最新のパソコン本体やディスプレイなどが届いた時からである。多少の割引があったとしても、そう簡単に買えるものではない。秋葉原にでも行けば、安く手に入るのだろうが、それも出来ない。まあ新車を買ったと思えば、ずっと安い買物だと、慰めたりもした。

ノドの手術で発声が出来なくなり、定年までの数年を残し退職した。長期の入院中、これからのことをあれこれと考えた。商売道具とも言うべき「声」を失い、その時点で退職は覚悟した。残念至極という反面、内心はホッとしたところも……。

待望の退院後はしばらくの間、外来診療のため定期的に通院したり、自宅でも療養生活に専念した。その甲斐あってか、通院の回数もだんだんと減り、健常者に近い生活が出来るまでになった。そうなると、何かしたい、何かしなければ、というのが人の常。老化防止やボケないためにも、「清水の舞台から飛び降りた」つもりで、オモチャにしては高価だったが、パソコンを購入したわけである。

初めのうちはマニュアルと首っ引きでも、パソコン（パーソナル・コンピュータ）の基本的な操作やパソコン用語などがなかなか硬いアタマにはしみ込んでくれない、だい分手間と時間がかかった。その涙ぐましい努力を是非察してもらいたいものである。挙句の果てには、せっかく苦心して作った文書や時間をかけて蓄め込んだ大切なデータを、一瞬にしてそっくり消してしまい、パニックをひき起こしたことも一度や二度ではなかった。

毎日少しでもいいから新しいことを覚えようと努力し、真剣に解説書などを見ながらキーボードに取り組んだ。パソコンは使い方を間違わなければ、主人の命令には忠実に従ってくれるが、融通が利かないとか、頑固なところの上ない面も持ち合わせている。例えば、あるプログラムの入力で、スペースやピリオドなどちよつとした約束を忘れてしまうと、ガンとして先へ進んでくれない。こんな時、ディスプレイに「コマンドまたはファイルが違

います」などと、人間様を小馬鹿にしたような表示を出すから始末が悪い。初めのうちは、そうした初歩的な間違いに気が付かず、アタマからやり直しても堂々巡りをして、諦めたこともしばしば。しかし、こうした失敗を繰り返しながら地道にやっていると、ある日突然前が開けることがある。「石の上にも三年」、神様も捨てたものではない。それに、偶然叩いたキーが正解だったりすることもある。

何事もある程度、時間が解決してくれるものだ。「日本語変換」ソフトで文書が作れるようになったり、「表計算」ソフトが少し使えるようになり、データをもとにいろいろグラフが描けたりすると、もう専門家気取り。いい気になって、何でもかんでもフロッピーに保存しているうちに枚数が多くなり過ぎて、何がどこにあるのか自分でも分からなくなる。それにフロッピーの操作が煩雑になり、固定ディスクの導入ということになる。

固定(ハード)ディスクにはフロッピーディスクの何十倍もの量が保存できる。だから一つのプログラムで五、六枚ものフロッピーディスクをそっくり登録できるので、入れ替えの手間が省ける。言うなれば、自分が使い易いようにきちんと整理した引き出し(ディレクトリ)をいくつも作るのと同じである。こうして、目的のディレクトリからファイルまでアクセスする時間も飛躍的に速くなり、パソコンが誠に勝手の良い道具に変身してくれるのである。

ここまでくるのには、相当の時間と費用がかかるのは言うまでもない。それにメーカーもあの手この手で、次から次とプログラムをバージョンアップして、新製品のソフトを売り込んでくる。初めのうちはお付き合いしていたが、いい気になって手を出していると、いくらお金があってもたまらない(市販のソフトの購入費用はバカにならない)。

パソコン通信は、いくらかパソコンの操作が分かってきてから導入した。このメディアに少しでも手を染めた者なら、その魅力のトリコになるには、そう時間がかからないだろう。パソコン通信は電話回線があれば国内はもとより、海外へもアクセス出来る新しいコミュニケーションである。ある解説書によれば、「パソコン通信をひと言ていうと、『電話回線にパソコンを接続することによって形成される新しいタイプのメディア』ということである。

これを始めるには、パソコン（ワープロ）本体に電話回線や多少の機器（モデム）が必要である。それにネットへ加入し、会員番号（ユーザID）を取得する手続きもいる。さらに、情報を得るためには多少の費用と電話の通話料を負担しなければならない。現在、二つの大手商業用ネットに加入し、何十万人もの会員と一緒に、それらのネットからサービスされるメニューを楽しんでいる。勿論、草の根的な小グループや個人的ネットも少なくない。

パソコン通信はあらゆる情報の宝庫と言われるが、それを利用する人すべてが情報の受け手であると同時に、情報の送り手でもある。総ての会員は『法に反しない限り』誰でも、ホストコンピュータに対して、文章をアップロード（書き込む）したり、他人の書いた記事を自分のファイルにダウンロード（読み込む）することも自由に出来る。しかも、情報のやり取りにはほとんど時間がかからない。

ネットの会員の中には、コンピュータの専門家やプログラムを作ることを趣味にしている人も大勢いる。フリーウェアはそんな人が作ったソフトの発表の場である。それらのソフトが詰まったライブラリー（フォーラム）は文字

通りパソコン「図書館」である。会員はそのソフトを無料で入手でき、作成者の意図に反しない限り、自由に使うことが出来るので、「感謝・感激・あめ・あられ」というところ。フリーウェアの中には、一般に販売されているソフトよりずっと使いやすく、素晴らしいものがたくさんある。

最も多くの会員が利用していると思われソフトの一つである「ファイル管理ツール」を例に挙げると、すでに登録してあるファイルのコピー・移動・削除やハードディスクに大量にあるファイルを、自分に都合がいいように並べ替えたりすることも極めて簡単に出来る勝れものである。そのほか、テキストファイル（日本語の文章など）の中身を手軽に見ることが出来たり、フリーソフトウェアを使う人にはありがたい機能として、プログラムの「解凍」や「圧縮」が極めて簡単に出来ることである。このフリーウェアもある個人会員が作り公開されたプログラムで、ほかの会員はホストコンピュータから自由にダウンロードすることが出来るソフトである。

大手商業ネットにはパソコンを通して、同じ趣味の人々が話し合ったり、意見をたたかわしたりする、会員同士の情報交換の場がある。そのジャンルは千差万別で、パソコンのアプリケーションやパソコン通信環境が中心だったり、アミューズメントゲームであったり、十人十色というところ。そして、それぞれのジャンルにはアップロードされたご自慢のフリーウェアが「ゴマン」とある。こうした数えきれないほどのソフトや新しいファイルだけの情報誌や単行本が何冊も出版されている（興味のある方は書店をのぞいてみて下さい）。

「ゲーム・オタク」と言われるかも知れないが、ダウンロードしたオセロやトランプ、花札、麻雀、囲碁、将棋などに時間を費やすこともある。これがまた良く出来ているものが多く、ついつい夢中になってしまうものばかり。

ゲームの点数が記録されたり、昇段や昇級制度を取り入れているものなど、会員同士の要望を入れ改善を重ねたソフトもある。

或る日曜の午後、我が家での会話……。

嫁「おじいちゃんのお仕事（パソコン）の邪魔しては駄目よ」

孫「おじいちゃん、トランプゲームやっているよ」

嫁「？……」

こんな訳で、ついついパソコンゲームのトリコになっていることもしばしば。こんな自分の姿はあまり他人には見られたくないが、孫にそれを看破されたのでは、おじいちゃんの株は下がったままである。これから孫に負けないうまますます修業し、腕を上げなければと思う次第である。

これから数年、新しい世紀を迎えるころ、世の中はどのように変化し、マルチメディアはどこまで進歩していることだろうか。我々がこの六十年間で経験したことを、孫たちは次の数年で、想像以上のことを何なく受け入れることが出来るだろうか。

「還暦」という言葉は、遠い遠い他人ごとのように響いたり、いつかは来るんだらうなど、漠然と考えたりもした。現実には「その時」はいつもと変わらない時間の流れとして過ぎてしまった。何はともあれ、生まれてから六十歳の誕生日まで、二万一千九百十六日の日数を過ごせたことに感謝せねばなるまい。因みに、日本人の平均寿

命(男子)をもとにコンピュータに「六十歳」を入力すると、「残りの人生は二一パーセント」と表示してくれるが、この数字をどう考えたらいいのだろうか。これからの日々は、今まで以上に大きな変化が待ち受けているのではなからうか。

暦の上では、生まれた「干支」の歳に本卦還りした訳である。赤いチャンチャンコで昔風にお祝いもいいが、出来れば高校生時代へタイムスリップして、パソコンでもたたきながら、もう一度青春を謳歌したいものである。

そばに合う酒を求めて

加藤 康 夫

私の小さな茶屋「富士見茶屋」は皆様から手打ちそばが美味しいと言われている。一九九三年一月号「旅行読売」にもこの手打ち「顔振そば」はおいしいこと天下一品とおほめの言葉で紹介していただいている。このそばに合う酒即ち日本酒、ビール、ワイン、焼酎等、どの時季に、どの種類のを、どの状態で、又どんな環境で客に提供したらよいか。それには今の茶屋をどんな建物に替えたらよいか等々、今そのことで頭が一杯である。私は無類の酒好きであると思負している。三年程前までは日本酒一辺倒であった。会社をやめて、さあ何をやるかと思っていた時、サントリー・スクールでワインの勉強会を開催し、OLや若い主婦でにぎわっているとの新聞記事を見て、おもしろそうだと申し込んでみた。最初の日に講師よりまず一杯飲んでみて下さいと言われ、酒(ワイン)を飲みながらの勉強なんて、こんなにすばらしいことはないと思ひ、すっかり気に入ってしまった。週一回二時間ず

つの八回の講義も無欠席で通し、その上のソムリエコース（週二回で十四週）にも早速申し込んだのであるが、このコースはワインを飲みながらという様な訳にはいかず、ピッチリの授業と多い時には一時間に十種類以上のテイーディングで、ワインを味わうという暇は全然なく、学生の時もこの位、勉強してたらと思う様な日々であった。更に上のマスターコースも結局出席して、二月から十一月までの十か月間、ワイン、ワインの毎日であった。この時の「ワインと料理」「ワインの温度管理」が今までのただ飲むだけの日本酒の考えを変えさせてくれた。その翌年、日本酒サーブス研究会が出来、第一回の利酒師呼称認定試験があり、これも講習を受けて資格をとった訳だが、ここで又日本酒についての考え方を全面的に変えた訳である。日本酒を四種類のタイプに分け、料理に合った酒を客に提供しようということである。今までの日本酒には考えられないことである。一般にこの酒はうまいからということで客に勧め、料理との合性は殆ど考えていなかった。福島の蔵元にも二日間の体験実習に参加し、日本酒の醸造を学び、「生酛造り」という手作りの酒作りを体験してきた。この時に、わが茶屋の手作りそばとこの様な手作りの酒をマッチさせたいと思いついたのである。近頃、手作り銘打った酒が多くなってきている。その中からそばに合い、山の頂上という環境又季節に合った酒を求めていくことは、還暦を迎えた今、楽しい仕事になっていきそうである。

米ぬか健康法

岩澤富世

最近、食生活の多様化と欧米風食物の摂取によって、かつてはあまり聞かれなかった病気に、悩む人が増えつつあるようである。ゆとりある生活がもたらす、美食と運動不足による肥満がもとで、若い年代から成人病を心配する昨今である。私ごとで失礼とは思うが、米を販売する身になって感じることは、日本人には昔ながらの、野菜と魚介類と米を中心とした食生活で、健康な人生を、末ながく送っていただきたいからである。ひいては、それが米の消費拡大と、我々の生活安定につながるからである。

ところで玄米にはビタミンB₁をはじめとして、B₂・B₆・E・カルシウム・ナイアシン・鉄など、健康に必要な成分がかなり含まれている。にもかかわらず精米作業の過程によってそのほとんどが、胚芽とともに、糠として捨てられてしまっている。まことにもったいない話である。そこで考えられるのが、副産物である米ぬかを栄養源として食べてしまおうというのである。

「ぬか」とは糠の字をみてもわかるように、米へんに健康の「康」からできている。もともと、「康」とは、「健」とおなじく、「やすらか」の意をあらわす糠の原字である。かつて、米糠健康法なるものがマスコミなどによって紙面を賑わしたことがある。それがいつのまにかまったく忘れ去られて、最近ではあまり聞かれなくなってしまうが、私はずっと以前からこの米糠を毎日常食している。そのせいでもないが有難いことに、今のところ病氣らし

い病気を患ったことがない。医者には申し訳ないほどまったく無縁である。

この健康法の特徴は、糠を食べることによって腸壁が刺激され、蠕動運動が活発になり、宿便まで排泄してくれることである。このことによつて、一般的には痔疾から頭痛、高血圧、便秘その他の病気にまで効果があると言われている。

つい先日、六十三歳でこの世を去つた、世界的女優のオードリー・ヘップバーンが大腸癌だったことは記憶にあらしく、典型的な欧米型の病気である。最近、日本でもこの種の病気がかなり増えているそうである。私は医者でないから細かいことはわからないが、健康な身体にとつて、便秘ほど万病の引き金になるものはないと思つている。言い換えれば、毎日が快腸で便秘さえなくなれば、ほとんどの病気から解放されるのではないかと思ふ。

ご承知のことと思ふが肉類は消化がよく、繊維質の野菜類は反対にわるいと言われている。糠もまさに消化の悪い食物繊維？である。したがつて糠を常食することによつて、前日食べたものは、翌朝すべてを排泄してくれる。いつも腸のなかをきれいに掃除してくれる。

消費者のなかには、それならいっそのこと食事をすべて玄米食にと、毎日続けている人がいるが私は疑問に思ふ。なぜなら、このように消化の悪いものを毎食ごとに続けることは、消化不良をおこしてただ単に胃から腸に食物が通過するだけで、せっかくの栄養分も、まったく吸収されないからである。したがつてこのような人にかぎつて、かならずといつていいほど体調が良いといつているが、そのような人ほど、顔色がくすんで瘦せている。逆に太りたくても太れないのである。それでもという人には、一日一食を限度に勧めている。では、除草剤などの悪影響はないのか、と心配する方もいると思ふが、かつて水銀系残留農薬が問題になったことがあるが、いまではきびしく

使用が禁止されているので、そのような心配はまずいらない。安心して食べることができる。

さて、いろいろ述べてきたが、では実際にどのようにして食べるのかお話ししよう。まず注意していただきたいのは、新鮮な米糠を用意することである。糠はとくに酸化が早いので、古い糠は絶対に使用しないで欲しい。かえって害にもなりかねないからである。それと、できれば、有機栽培による安全な糠をあらかじめ精米店に注文をしておくといよい。糠は殺菌と酸化防止をかねて、油を完全にふきとったフライパンなどで、弱火でゆっくりと炒める。少々きつねいろになり、香ばしくなったところで火を止めて、あとは自然と完全にさめるのを待つだけである。炒った糠はポットなどに移して食卓の上におけば、食事ごとに忘れずに食べることができる。便秘などで困っているときには、三食ごとに大匙一杯ずつ、お茶などと一緒に飲めば、どんな宿便でも一週間もつづけければ、ほとんどの人が解消されるはずである。

余談になるが、某製薬会社の整腸剤は、その原料の大半が米糠と聞いたことがある。いわれてみれば薬の色とい、大量療法といひまさしく、そのものようである。なにも高い金を払ってまで買う必要はないのではなからうか。

最初の頃は口当たりが悪く、いささか抵抗があるかもしれないが、慣れればこがしのようにたやすく食べられる。それでもという人には胡麻や、いりこなどを入れてふりかけにしたり、あるいは子供さんたちには、クッキーなどにして食べることもできる。要は、どのようなかたちにせよ糠を腹のなかにとり入れる事である。もし便秘等でお困りのかたは、今日からでも実行にうつしていただき、健康な日々をおくっていただきたい。

なお、この記事は、一部昭和六十年九月の、全国商工会議所ニュースに記載されたことがある。

ささやかな哀歎の一こま

守谷 互

母校「川越高校」と大学での学業を終え、日本鉱業株式会社に入社したのが昭和三十一年四月、四十年に新設の共同石油株式会社に移った。その両社が平成四年十二月に合併し、株式会社日鉱共石となった。この商号も新たなコーポレート・アイデンティティ確立の観点から、新社名をジャパンエナジーと変更した。現在同社の役員に名を連ねている。

還暦を過ぎ、いずれ、後進に道を譲る日も来ると思うが、来し方を振り返り、想い出の幾つかを綴ってみた。お気楽にお読み下さい。

その一、統合時の人事屋。解のない方程式を解く思いが、新幹線に乗るここちに変る

昭和三十九年、日本中が東京オリンピックの話題で湧きたっていたその頃、石油産業の国民経済上の意味合いから、外国資本に比肩し得る、民族資本の大同団結の構想が叫ばれ始めた。夢は大きく、精製販売を一貫し、更には原油開発にまで及ぶ、いわゆる、「和製メジャー」構想であるのだが、現実にはいろいろな経緯があり、とりあえず日本鉱業・アジア石油・東亜石油の石油販売部門を集約し、「共同石油」としてスタートをきる事となった。

当時、日鉱の人事担当であったが、昭和四十年九月に共石に出向を命ぜられた。課せられた仕事は、来るべき販売集約時の人事の一元化に備え、新会社の給与、その他労働条件の調整を図るというものであった。

総論の骨子は、(1)移籍する社員の取り扱いが公平を旨とし、差別待遇をしない、(2)新会社の賃金水準および労働条件は、総体として出身会社のそれを下廻らないよう努力する、という二点であった。この最大公約数に賛意を求める事はそれ程困難ではなかったが、各論になるとそうはいかない。個人別の人事序列の決定、あるいは給与水準の調整という段になると各社各人の事情・見解が複雑にからみ合う。

長い歴史の中で、各社それぞれに異った制度を持ち、異った人事管理を運用してきた。これを同じ土俵に上げ、一本の線に揃えるという事は、あちら立てればこちら立たず、さしずめ、解のない方程式を解く作業の観すらした。カンカンがぐがぐ、夜を徹した時もしばしばである。幾多の曲折を経て、すべての作業を了え、全員新会社に移籍の段取りが終ったのは四十一年十二月末。一年数か月という長い道のりであった。

こうした作業は、このたびの日鉱と共石の合併時にも存在した。「人事は客観公平を旨とし、実力第一主義で行う。労働条件は合併前の水準を下廻らない」この基本は、かつてと変らない。だが個人へのあてはめは他に例をみないスピードで完了した。まさに、新幹線と乗り継ぎを重ねたかつての鈍行列車との差を感じたのであった。

その二、男女バスケットチームの完全優勝を夢みる

日鉱・アジア・東亜三社社員の共石移籍が完了し、プロパー社員の採用も始まった四十三年の春頃である。合併という会社の生い立ちから、社員の心を一つに盛り上げ、なおかつ、対外的な宣伝効果が期待できるものはないかという事で、スポーツクラブを作ったらという話が起こった。

たまたま日鉱が、男子バスケットの名門として活躍していた事もあり、共石は妹チームとして女子バスケットでいうということになった。

会社の許可は得られたものの、当時、会社自体の知名度も低く、選手集めから始まる苦勞は並大抵ではなかった。それでも兄貴チームの日鉱男子の力も借り、四十四年四月には何とかチーム結成にこぎつけた。

当時、私は人事課副課長の職にあった。選手のリクルートで、会社から金を引き出すのに好都合という事もあったが、スタート時からチームの副部長を仰せつかった。

チームの成績は、若干の廻り道はあったものの、先ずは順調な足どりを辿った。特に四十九年、長崎県の鶴鳴女子高校で、当時、わが国高校女子バスケット界の頂点を極めていた中村和雄氏を監督に迎えてからの、わが共石チームの活躍は、大方の諸兄がご存知のとおりである。

五十年にバスケット部長となり、五十九年仙台支店長に任ぜられて本社を後にしたが、その間、日本リーグで三回、オールジャパンで三回、都合六回の日本一の胴上げ部長の幸せを味わった。日本リーグも時折、TV放映があるが、オールジャパンの決勝戦は必ずお正月のNHKで放映される。そのシーンを見た級友からお祝いの言葉をいただき、喜びをかみしめた事も一再ならずである。

監督・選手と苦樂を共にしたという方もあるのだが、樂や喜びの方がはるかに多かった。

それにしてもいささか強引に、わが女子バスケットチームの「産みの親」、「育ての親」を自称しているが、これも愛着の表われとお許し願いたい。

なお、今回の日鉱との合併で、期せずして同一社内に男女両チームを持つ事となった。四年度のリーグ戦は男子が三位、女子が準優勝、オールジャパンは男子が優勝、女子が準優勝とまずまずの成績である。今は一日も早い男女の完全アベック優勝を夢みている。

その三、冷や汗ものの三日間。情報開示の難しさ

冒頭にも記したように平成四年十二月一日、日本鉱業と共同石油の合併が成った。「和製メジャー」を目指した国による共同石油の当初構想は、その後の諸事情もあって、必ずしも所期のとおり進まなかったが、このたびの狙いは、原油の開発から精製・販売までの石油事業の一貫体制を基軸とし、これに新素材、光エレクトロニクス・医薬・バイオ等、成長性のある先端新規事業を併営し、二十一世紀に向けて、より強固な経営基盤を構築する事にあった。話は昨四年三月九日、午後七時頃にバックする。会社の近くで、ある支店に転勤する社員の送別会をしていた私に、急ぎ会社に戻るよう電話が入った。午後六時のTBSのニュースで両社の合併話が報道され、問い合わせが殺到しているという。

善後策が検討されたが、現段階ではすべての段取り完了というわけにはいかず、この報道を肯定すると、事と次第によっては、世の先例の幾つかにあるように合併そのものが、ご破算になるおそれなしとしない。したがって全面否定の方針で臨む以外にないという事になった。

両社連名で、その旨の文書連絡をしたところ、エネルギー記者クラブから、「何時までも待つから、少なくとも常務以上の役員が来て事情説明をせよ」という。

やむなく午後九時半頃、日鉱の今井専務と私が連れだって、経団連内の記者クラブに赴き、報道された内容は事実無根と申し述べた。随分と鋭い追及もあったが、合併成就を願う一念で、徹底して否定の線で押し通した。

夜が明けて、翌十日の読売新聞朝刊最終版の一面トップは、両社合併の大見出し。それから同日夕刻になってからの一部肯定。すべての合併の段取りを了えて、両社社長の記者会見で、全面肯定に至ったのが十一日の午後九時

頃。まさに文字どおり苦渋の三日間であった。

この情報開示の適応のまずさ、という事でいろいろ追及された。証券取引所における日鉱株の取引停止(共石株は非上場は、合併について上場審査が必要ということではなかったが、記者クラブへの両社の立入禁止等痛いお灸をすえられた。それもこれも、九日夜の日鉱今井、共石守谷両専務の全面否定が、すべてのボタンのかけ違いの始まりという。数日後、この事が日経新聞の解説囲み記事で実名入りで報道され、恥を天下にさらすこととなった。このような際の正しい対応は、ノーコメントで通すことだと教わったのは後になってからである。それにしてもノーコメントが否定でないとしたら、肯定とされるおそれは多分にあつたであろう。今でもあの時の処置は、やむを得ないことだつたと思つている。

いずれにしても、高度情報時代の昨今、情報管理の徹底と、適切な情報開示(ディスクロジャー)の難しさを骨身にしみて感じた次第である。

社会に入ってから星霜三十有余年。激動する国際政治経済のうねりの中で、適切な経営進路を求めて、苦惱する企業に身を置いた。苦勞話、いささか自慢話。そして冷汗たらたら……想い出はつきない。

昭和ヒトケタ生れの大方に共通する、不器用さは変らず、また今も会社人間を脱しきれない。いささか恥ずかしく思うが、来し方に悔いはない。

京で五年

内 沼 一 雄

私は五十五歳で横浜の石油会社から京都の化学会社に移り、約五年京都で単身赴任を経験した。去年から東京でまた石油関係の仕事をしている。二度目の勤めは六十歳までと決まっていたので、この機会とばかり京都周辺の名所めぐりに精を出した。ガイドブックに出ている所を片端から歩いた訳だが、興味の中心はやはり歴史や小説で前から知っている所になった。ここではその間の見聞を川越の思い出も交えて若干書いてみたい。

京都で住む家を探しに行ったとき、関ヶ原あたりからかなり雪が降っていた。その時私が知っている数少ない俳句の一つである「下京や雪つむ上のよるの雨」という句を思い出した。これは佐藤徳サンから「去来抄」で教わった句で、最近調べたところ凡兆の作であった。そういう感じが似合う風流な住まいがみつからないかと思っただけが、現実は大違いで、奈良へ行く国道に面した一日中自動車がるさい伏見のワンルームマンションに住むことになった。しかしここは京都、奈良の見物には至極交通便利な場所だった。

京都は観光コースもよいが、町なかも面白い。寺町通りで、御池通りをすこし上がったところに「川越芋」という看板の店があった。寺町通りは三条から下は修学旅行の高校生などでにぎわっているが、それから上、つまり北になると落ち着いた町になる。梶井基次郎が書いた「レモン」と読む難しい漢字の名前の小説の舞台になった喫茶店や一保堂という有名な茶舗の近くにこの八百屋がある。店のおばさんに聞いてみると、以前は芋が川越からきて

いたが、今は四国の方から仕入れているとのことで、ちょっと残念だった。

大和郡山は、川越の城主だった柳澤吉保が移封された城下町で、川越と同様城跡の一部が高校になっているが、石垣や内堀がかなり残り、大手門が復元されているなど川越よりも昔の面影をよく残していた。法隆寺のついでに寄ってみるとよいだろう。ここで川越の城跡の堀というと思い出すのが、高校三年の時の事件で、一緒に化学部にいた松岡君と爆発音で放課後の学校を驚かせたことがあった。彼が化学部らしく、みんなをびっくりさせようと考えて、特に大きな試作品を作ったのではなかっただろうか。私は点火のための電気のスイッチを押す役だったが、スイッチを押したとたん大音響で、そこから中から校長をはじめ先生方や課外授業や運動部の人々が飛んできた。実害がなかったからよかったものの、本当に冷汗ものだった。これにこりて実験には注意するようになったせいか、会社での実験室の仕事ではなんとか事故を起こさずんだ。

博物館や展覧会にもよくいったが、仁和寺に残っている貞観寺という寺の財産目録で「武蔵国高麗郡山本庄」という地名をみたことがあった。律令政治が衰えて、荘園による土地私有が始まった頃の文書だった。飯能、日高近辺にあったに違いないが、そういう場所は耳にしたことがなく、調べても見あたらないので、あるいは新発見ではないかと考えて、中学の頃の郷土班の二年先輩で、飯能にいたKさんに電話してみた。Kさんの反応は身辺に色々なことがあって、かまっていられない、お前は暇で、優雅でいいなといった感じであったが、しばらくしてお手紙をいただいた。それによると、やはり二年先輩のAさんに話した結果、これは埼玉県の通史にも出ている有名な文書とのことで、新発見ではないことがわかった。ところでKさんの手紙には、市議会で飛地の整理に取り組んでいるが、それで昔の権力支配の絡み合いを思わせる入り組んだ大字がなくなつたとあり、なるほど根は同じかも知

ないと思った。

それから印象深かった場所を一つ挙げると、奈良の田原本町の近くにある唐古、鍵池周辺の奈良時代の条里制地割である。これが凄いと分かるには五万分の一の地図か航空写真と照らし合わせる必要があるが、歩いてみると区割りは元より畑のうねの方向まで奈良時代から変わっていないのではないかと気がした。

名所めぐりの一つの柱は、前に勤めた会社のOBが作っている漫歩会という会で、常連になって色々な所に連れていってもらった。このしゃれた名前の名付親で、私が京都を離れるすこし前に惜しくも亡くなられたMさんから仏像鑑賞の手ほどきを受けた。大体名所といえぱ寺が多いので、仏像に興味を持ったから飽きもせず回ったともいえるだろう。

仏像の中では、私の亡母の実家がある越生の大字如意（ねおいと読む）が、重要文化財になっている平安期の如意輪観音に因む地名であることから、如意輪観音のことを書いてみたい。

楠木正成が勉強したという観心寺の像が有名だが、四月十七、十八日しか開帳しない。写真では如意輪観音は右足を左膝のあたりに上げたり、頬づえをついていて尊敬できる姿には見えない。しかし実際に拝むと、きよらかな美しさをたたえていて、写真とは全然印象が違っていた。お坊さんから開帳の日は雨が降る年が多く、今日は晴で運がよいといわれたが、そのあと金剛山から千早城、下赤坂城と回る途中やはり降られてしまった。

また滋賀の石山寺の本尊は、いつの頃からなのだろうか天皇の即位ごとにしか開扉しないそうで、平成では三年に行われた。台座は岩、お付が不動明王など、修験道のような雰囲気、堂々たる厳かな像だった。ふと手の先から紐が細長く立っている蓮華に繋がっているのに気づいた。質問すると蓮華に触ると御手に触れることになるのだ

というので、有難く触らせていただいた。多分紫式部や清少納言もお参りの度にそうしていただいたのではないだろうか。川高の山岳部の連中は、木村先生を中心として卒業後も山賊会と称して今も集まっている。京都では久しぶりに山歩きをしたくなって、一千メートル以下の低い山ばかりだったが、歴史的に名のある山を歩いた。京都では東山三十六峰、愛宕山、醍醐山、天王山、笠置山、奈良では三輪山、二上山、飛鳥三山、滋賀では三上山などである。こうして京の五年を有効に、しかも健康的に過ごすことができた。

私の履歴書

伊藤 純 夫

私は川高卒業後、所沢米軍基地車輛部品の現場に勤務、その後、短期大学英文科を卒業後、学校当時の友人の紹介で、東京丸の内の外商（スイス）の輸出事務に従事、約三年間。新橋の商社で電子機器の輸入販売に従事、約十年。その後、丸の内の国営商社（インドネシア）の輸出業務に約三年従事。その後、中野の商社、電子機器販売に約二年半。有限会社を設立し、約二年位自分一人だけでやってみました。資金不足で中断。もとの商社が新宿移転し、そこで、輸入理化学機器の販売を約十二年間勤めました。会社の状況が悪化し、その後、横浜の外商で研究機器（ドイツ製品）の販売に勤務中。中断していた自分の会社関係の仕事も、土、日休みを利用して輸入関係の仕事に従事しています。

人生の大半が輸入販売の仕事になりました。甚だ簡単ですが、私の履歴書をご報告させて頂きました。

雑 憶

川 崎 匡

終戦後まもなく「わが青春に悔なし」という題名の映画を鶴川座かどこかで見た記憶がある。覚えている人も多いと思うが、かい摘んで紹介すると、第二次大戦中、京大の学生が反戦運動をやり、特高に捕まり、投獄され、結核に冒され、戦後釈放されたが間もなく死んでいくという話の筋だったように思う。印象的だったのは、戦時中、家族にも累が及び、村八分にあい、田舎の家が村人から投石を受けるシーンである。今でも鮮明に記憶に残っている。

高校卒業後、菅間昭君が結核から開放された頃だった。菅間君の家だったか何処だったか記憶が定かでないが、大川解君と三人で話したことがある。「青春をどれだけ続けられるか？それが人生を決める」というような意味のことを大川君が言ったようで、菅間君は例の如く白い歯を見せながら細い首を縦に振り、「うん、うん」と言って特に反論しなかったと思う。なぜか、「青春の持続」が幾つかの脳細胞に銘記されたらしく、以来、これを続ける運命になったようだ。今から思えば、熱血菅間家の影響が大きいのかも知れないが、生まれたときからの宿命だと勝手に思い込み、若さを発揮してきてしまった。大学に入って、教授や先輩から「卒業して、医者になってからが勉強だから学生時代は遊んでおけ」という有難いアドバイスをまともに解釈し、野球にのめり込み、ラグビー部、サッカー部を助け、よく遊んだ。遠征試合で、高校時代に行かなかった奈良まで行ったこともある。卒業して、さて先

輩の言ったとおり、これから勉強だということの研究室に入れて貰った。医者としての修業のかたわら、研究もせよとの教授のお達しもあり、モルモット、ウサギ、ネコなど動物を相手に数年間を過ごしているうちに、医者になる筈が、いつの間にか、学校の先生になってしまっていた。

一県一医科大学という、時の政府の肝いりで国立医科大学が乱造された。現大学が出来、学生が野球部を作りたが大学の許可がいるということで、任しておけと請負い、そのまま、野球部の顧問をしている。顧問といってもコーチもする。「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」で、毎年同じ年代の若い者を相手に生業を立てているためか、あるいは、血の気の多い家系か、すぐ若さを發揮してしまい、現在に至っている。

ところが、先年、医学部卒後三十周年記念の同級会が開かれ、その宴席で「学生を相手に若さを誇っている」と言ったところ、すかさず「バカさだろ」というヤジがあがった。眼から鱗が落ちるといふ言葉があるが、恥ずかしながら経験したことがなかった。「ここで使うには不適當である」と徳門の筋からお叱りを受けるかもしれないが、その時、これだと思つた。音声学的にもBaとWaで余り変らないではないか。「バカさ」なんだ。年をとつて少し耳が遠くなった我々昭和ヒトケタ族には聞き分けられないこともあるだろうし、五十歩百歩だといった次第だ。

「人生は短く、学芸は永い。好機は過ぎ去りやすく、経験は過ち多く、決断は困難である」は、ヒポクラテスの言葉の故中田瑞穂教授（日本の脳神経外科の創始者で、ホトトギス派の俳人）による訳である。還暦を過ぎた現在、その意味を噛みしめさせられている。

ところで、老化現象について少し書いて置こう。人間の脳味噌には百五十億もの脳細胞があると言われている。生まれたときから百五十億である。成長するに連れ、先天的運命と後天的運命（環境と言つた方がよいかも知れない

い)に弄ばれながら、配線が複雑になることよっていろいろな組合せが出来て行く。十八歳頃に完成する。その後は、老化が始まり、一日に二十万もの脳細胞が死んでいく。一年で七千二百万、還暦のとき、二十八億強、約五分の一もいなくなっている。

医学の発達と昭和・平成元祿で寿命が延び、高齢化社会になった。人間が引き起こす現象は長所欠点表裏一体である。老人の生存競争が激しくなる。そこで、この厳しい時代を生き抜くために、老化防止策を考えて実行しなければならぬと思う。戦争中の標語——欲しがりません勝つまでは——(今では懐かしくさえ思えるこの字句)になぞらえて、「頑張りましょう寿命まで」と、経験から考えていることを少し書いてみることにする。その第一に上げられるのは欲である。欲のなくなったものは死ぬ。動物には二大欲が備わっている。これなくしては生命は維持できないし、種族の保存もおぼつかない。それは食欲と性欲である。飯を喰い、異性と交わって子孫を残す。まさに天からの贈物である。これを否定するバカはいないであろう。まだある。金銭欲、名誉欲なんでもよい。生きる意欲を生み出すものなら。「欲張って、暮れる間を元気に生き抜こう」ただし、ここで、孔子を登場させなければならぬ。「己の欲するところにしたがいて、規を越えず」限界を知ることであり、中庸に徹することと解釈したい。学生とつき合って、なおかつバカさを發揮している。しかし、過ぎたるは及ばざるが如しである。ヘルメットを被って学生と野球をした。酷い肉ばなれを起こし内出血した。血は筋肉の間を下り足首の辺りが真青になった。若さが残っていた。自然に治した。しかし、年よりの冷や水である。危険だ。したがって、若いものとき合うのはよいが腎虚もいけない。飯は腹八分目、酒も程々、喜怒哀楽も程々に、そういう人になりたい。これが、老後を力強く生き抜く必要十分条件である(……こんなのが分からない? 小学校はすぐそこだろ? 聞いて来い……掛象先生の

授業を思い出しながら。昔の人はよく言ったものだどつくづく思わされる。足を衰えさせては終わりである。歩け、歩け、歩け、歩け、道なき道を歩けとまでは言わないとしても、程々に歩いて、少し汗をかくと、悪玉コレステロールも少なくなるという。ここまで努力しても短命なら、寿命と思ひ、諦めるより仕方あるまい。

さて、「我が青春に喰ひ話し」これは誤字ではない「我が青春に悔いは無し」と「太郎」に似たところ、この変換が出てきたのでわざと残した。誰かも書いていた、ワープロは便利であるが思いもよらない同音異語ができる。便利さを追求した結果の産物である。便利さといえば、才能のなさを棚に上げる訳ではないが、若い人の英会話の上手なこと、テープレコーダの価格が六十―七十パーセント関係しているのではないかと備みたくなる。土金君の姿がそれを否定しているようにも思える。雨ガエル先生には失礼のダンお許しを乞わねばいけないが、英語には苦しめられている。偏仁松岡(昔は、銅線集めに余念がなかった)から原稿の催促のあった数日後、学会の帰り墓参りかたがた、川越に寄った。帰りに、農蚕学校の近くの角で、出会いがしらに恩師とスレ違つたような気がした。思わず声を掛けてしまった。一時間ほど喫茶店でコーヒーを飲みながら世間話をしたが、それは紛れもないジュニアであった。

小生が、まだ医者をやっている、しかも名医と言われた小話を紹介しよう。今でも貧乏だが、若い頃はもっと貧乏だった。その頃の話である。大学からは一切給料は出ない。そこで、雪深い山間の町にある病院へ月に二度ほど一泊二日で当直と診療のアルバイトに行っていたことがある。ある雪の降る寒い夜半、急患だと夜勤の看護婦が起こしに来た。余りの寒さに頭まで布団に潜らないと痛くて眠れないような夜だった。「どんな患者？」と布団の中から顔も出さずに聞いた。「旅の女芸人で、お腹が痛いと言っています」「それは子宮外妊娠だ。専門が違うよ。婦人

科だ。婦人科の医者を呼んでくれ」翌朝、当直室から出て廊下を歩いていると、見知らぬ看護婦が「先生は名医ですぬ」と言う。「何故？」「だって、夜中の患者さん、先生の言ったとおりで、あれからすぐ手術でした」

これには、二つの訳がある。第一に、その婦人科の医者は同級生で、しかもサッカー部で一緒によく遊んだ仲間。第二番目は、学生時代に読んだ、ある有名な婦人科の先生の書かれた「誤診百態」という本に「女を診たら妊娠と思え」という章があったのを憶えていたためである。まさに、記憶力と同級生のお陰である。

何年か前、氷川様での同窓会の帰り、菅間、朝久野、大川、弁護士の中村、そのほか何人かで昔話をしながら西町の駅近くまで歩いてしまった。このまま別れるのもなんとなく惜しく、日もまだ高いしということで、二次会をやることになった。一軒の居酒屋に入り、宇都野の家が近いので、彼も呼び出し、飲んだことがある。飲むほどに話が弾み、菅間が「俺は記憶力がいいんだ」と言ったので、「菅間、記憶力がいいのは頭は良くないんだってさ」と言ったら、「うん、俺は頭は良くないよ」

「山気日夕に佳し」に居を移して十七年余、記憶力にも翳りがみえるようになった。雑憶もこの辺で終ることにする。

我が学生記

松 木 信

私は一九五八年から今日まで、東京の世田谷にある惠泉女学園という、キリスト教に基づく教育を志している私

立の女子校に勤めている。毎年毎年、卒業生を送り出し新入生を迎え、授業の準備と生徒指導にあたふたと過ごしているうちに、いつのまにか三十五年が経過し自らも六十一歳となった。この度この還暦記念文集に何を書こうかと昔の書き物を捜しているうちに、私が上記の学校に勤め始めた頃生徒に頼まれて自分の高校時代の思い出を書いた文章が出てきたので、それをここに再録することにした。何しろ勤め始めたばかりの二十五歳という若い時に書いたものなので、今読みかえしてみるといやに気負った文章で気恥ずかしい感じがするが、それはそれとして、敢えて書きなおさないでそのまま記すことにする。高校卒業後まだ七年位しか経っていない頃のもので、今四十数年前的のおぼろな記憶を呼び戻すよりは遥かに鮮烈に高校時代を振り返ってみていると思うので、これもそれなりに一つの記念碑になるかと思っただからである。一九五八年の秋ごろ「惠泉高校新聞」に「我が学生記」と題して掲載されたものである。

☆

☆

☆

私の卒業した高校——埼玉県立川越高校——は、迷路のように入り組んだ道路や、格子戸をはめこんだ厳しい土蔵造りの家並の未だ残っている古い城下町にあった。そして学校は、太田道灌によって築かれ初雁城と呼ばれた城の本丸跡、鬱蒼と茂る老楠の緑の中に立っていた。時は昭和二十二年から二十六年まで。敗戦による古い価値の急激にして余りにも脆い崩壊と、新しい基準の奔流の如き導入・衝突そして混乱から、新しい秩序の確立と安定を求めて、日本が瘦せた体に重荷を背負い、よろめく足を踏みしめながら歩み始めた時期、この時期に私の高校生活は始められた。

学校の施設は随分荒れていたし、教材も不十分、不揃いであった。教室の窓ガラスは壊れ放題、机や椅子もガタ

ガタ、教科書もノートも現在のものと比べたら雲泥の差といってもよい程粗末なものだったし、凶画や書道の教材も品質の実に粗悪なもので、今から振り返ってみてよくあれで勉強出来たものだと思議に思われる程である。

このように社会が混乱している時に、学校だけが別世界であることは出来なかった。生徒の生活もまたひどく荒れたものだった。これは男子だけの学校であつたため特にひどかつたのだと思うが、三時間目、四時間目に授業中先生の目を盗んで教科書のかげでそつと弁当を食べたり、冬にはストーブのない寒い教室で暖をとろうと教室のはめ板や椅子を叩き壊して雑巾バケツの中で焚火をしたり、新任の紅一点の音楽の先生をその最初の授業時間に野次り倒して泣かせてしまつたり、恵泉の皆さんには凡そ想像もつかないような乱暴な事件が起つたものだった。

しかしこれが全てではなかつた。多くの生徒は、社会のもたらず混乱と不安に動揺しながらも、その幼さと純な無垢さと明朗さを以てその混乱を乗り越え、また社会の混乱そのものもその後急速に回復に向かい、私達が新しい知識の吸収や運動や友情や議論にがむしやらになつてゐる間に、いつのまにか落ち着きが取り戻されていった。

高校時代の私の学校生活の中で一番大きな比重を占め、また私に一番深い影響を与えたものはクラブ活動であつた。小学校の頃から国語の好きだつた私は「国文学部」というクラブに終始属して、エネルギーの大半をこのクラブに費やした。顧問の先生が俳誌「獺祭」の同人だつた関係から、部活動の重点は俳句の実作と芭蕉研究に置かれていた。毎月一回の句会で席題に苦吟したこと、作品の批評や反論に口角泡を飛ばしたこと、三年がかりの輪講で「奥の細道」「猿蓑」「去来抄」等を次々に読んだことなど懐かしく思い起こされる。

俳句のほか「源氏物語」も生徒の輪講で読んだ。牛の歩みのように遅い進み方ではあつたが、それでも卒業の頃

には未摘花まで進んでいた。また月に一度くらい文学関係の先生及び生徒の個人研究を発表する会を開いた。「芥川龍之介論」「日本近代詩論」など頭に残っているが、私もこの会で麻生磯次氏の「藤栗毛研究」を紹介したことを覚えてゐる。この他夏休みや休日に、近くの村々をはじめ秩父の山奥から東京・鎌倉まで、吟行を兼ねつつ文学名所や史蹟を尋ねて歩き回った研究旅行の楽しかったことは、忘れようにも忘れられない。

当時の私達は議論の為に生きていたようなものだった。話の内容は今から考えれば思想性に乏しいものだったが、文学論に始まって映画批評、女性論から人生論まで、次から次へと尽きることがなかった。経験の範囲は狭いくせに、感覚ばかりが妙に鋭かったあの頃。既存の権威は何でも否定して、自己を主張しなければ止まなかつたあの頃。感情の動揺が激しく、不安と憂鬱と無力感に絶えず捉えられながら、不思議に希望を失わなかつたあの頃。自己に目覚め始めたばかりで、半ば惰性で生きていたに過ぎなかつたけれども、片意地に純粹さを貫き通そうとしたあの頃。あの頃の私は、クラブの友人との裸のぶつかりあいの中に、ひた向きに思いつめた友情の中に、自分の生を確かめていたのではなかつたらうか。

☆

☆

☆

以上が、三十五年前に女子高校生を相手に我が高校時代を語った文章である。一部すつかり記憶から消え去っていったことも文字になっていて、そんなこともあつたかと今更のように思うが、改めて高校時代が私の人生の中でとりわけ明るい光のなかに輝いている感^がしてならない。

自分自身が高校教師として生きているからであろうか、高校時代の恩師、特にトクサンこと佐藤徳四郎先生と三年の時の担任佐々木太郎先生とは忘れられない。忘れられないというよりは、今も常に私の心の中に生きていて下

さつて、時に叱咤し、時にあたかも同僚のごとく語りかけ、喜びも悲しみも共にして下さる感がある。有難いことである。

工房人生

高山 恵 介

よくあなたの趣味は何ですか？ と聞かれる事がある。人それぞれ生き方が異なる様に、趣味についてもあの人があんな趣味を持っていたのかと目を見張る事があります。なかなか一言で「何々です」、だなんて言えるものではないと思うが、私の場合工作かな？ と思っっています。ペンを持つのは苦手だけれども、種々の道具を手にするのは大好きで得意で生き甲斐を感じる時がある。

子供の頃よく模型飛行機作りに熱中した。自作機が青空に舞い上がるのは何とも心地好い、戦中の事としてゴムひもがなく専らグライダーを作り、糸で曳行して飛ばす方法だった。

学校の教科にも飛行機製作があり、どここの家庭でも一機や二機、天井からぶら下がっていたのを憶えている。

又当時の新聞に新鋭飛行機の三面図が掲載されていたので、それをもとにミニスケール・モデルも作ってみた。

胴体がマッチ棒の零戦やB 29・25、P 51や38等々

冬休みの頃、女の子達は羽根つき、男の子達は凧上げときまっていた。竹を裂いて凧を作り、日だまりを見つけては北風を背に終日凧上げに熱中した頃があった。

水が温ぬんで来ると三角網を作り魚取りに出かける。近所の水路でもフナ・タナゴなど結構取れた。夕べには置針を仕掛け、翌朝まだ夜の明けぬうち引上げに行ったものだ。

高学年になり、ふとした事からトランスを手に入れ、ブリキを切り重ね、エナメル線を巻いて大小種々のモーターを作った。軸受のミシン油の焼けた匂いが今でも思い出される。

電気に興味を持ち始めた高校時代、磁気的作用で出力を得るスチールギターの製作にとりかかる。関連楽器のウクレレも作ってみた。音は出たが？ 又ウッドベースも型紙製図してみたが、材料が調達出来ず残念ながら製作は実現しなかった。スチールギターは傑作で（誰が作っても必ず音は出る）、当時大ブームだったハワイアンのバンドを有志の仲間と作り、学園祭やダンスホールのアルバイトなどした事もあった。以後ラジオ作りに熱中し、毎日曜には秋葉原に部品集めに通ったものだ。真空管時代であった。なかなか満足の行く物が出来ず苦勞した。時に低周波回路に興味を持ち、電蓄、テープレコーダー等に挑戦した。

音にうるさい電蓄ではスピーカー用の箱は大きく作った。材料に洗い張り用の板を無断で使ってしまった事があった。オープンリールのテープレコーダーも自作し、自転車に積んで川越祭のお囃子などの録音もやった。

歌のない歌謡曲というキングレコードのドーナツ盤があった。毎夜家族揃ってそれを電蓄にかけては、カラオケに夜の更けるのも忘れる程楽しんだ事もあった。再生しては爆笑していた。両親共結構歌っていた。

もう四十年も前の事だ。そのカラオケが今ブームなのだから面白い事だ。

あつと言う間に時が流れ、有無を言わさず年を取らされてしまった。

これからの人生、又何かを工作しながら楽しく過ごせたら幸いと思っている。

道のり

奥平守男

還曆を迎えた私どもの文集を企画し、推進している同輩諸兄には、小生なんの手伝いもしないままで相済まないと思つている。せめてまとまつた一文を送ろうと期しても思うにまかせない。延引の許されない時期となつたので、昔はやつたオムニバス形式を借りて、小生の歩んでいる道のりの報告をし、責めをふさぐことにする。

険しい道

思い返してみても、小生、もともと元氣はつらつと外を飛び回るほうではなかつた。今もそれがそのままなのであろう。関心は動より静に向かい、趣味を聞かれると、碁とか陶磁器とかに話は及ぶことになる。

碁は、今の道に入つてからの手習いで、しかも、ずっと打ち続けることができたわけではない。ある勤務地で、ある時期、たまたま人と時に恵まれると、それに興じたことがあつたという程度である。若者は、一般に、碁は「くらしい」と感じるようである。確かに、前かがみになって黙々と白黒の石を並べ合うだけといえ、そのとおりである。なのにそれに引かれてきたのである。どこがおもしろいかのせんさくは控えるが、少しでも強い相手に勝ちたい気持ちは、若い情熱のほとばしりと言つたら、笑われるであらうか。願望であり、執念なのかもしれない。

下手の横好きは、後年、市ヶ谷にある日本棋院の段位認定大会に足を運ぶ事になる。同じ段位を目指す見ず知らずの相手との勝ち抜き戦である。ン、段の免状は、所定の連勝をして免許料を払わないで取得しようといふ決心に決め、大

分何回も参加料を支払って挑戦した。やがて、その目的は無事に果たした。そのン段は、昭和の末にかけて東京、浦和に勤務していたころ、確かに通用していたように思う。少なくとも、一応は通用していたといえる。

ところが、世の中はあまくない。平成二年秋、小生は福岡に転じた。アマ碁のレベルは高いと聞いていた九州に飛び込んでしまったのである。たまたまの大会では、その段で一勝するのはやっとの始末となった。今、碁を打つ機会はほとんど持てない状態の中にいる。もう一つ上の段をねらう夢は棚上げどころか、日本全国に通用するン段保持者になるだけでも、誠に険しい道である。

懐かしい道

九州北部、中部は、春からの長雨が続き、折々繰り返される集中豪雨に悩まされていた。それが、その日はうそのように晴れ渡ったのである。

日田（大分県）で高速道路を下りてからは、山あいの道を南下する。九州横断山波ハイウエーと交差する辺りは、瀬の本高原から久住高原へと続く阿蘇くじゅう国立公園の一角である。ここから更に南下し、左手すぐそこに久住山の頂を、右手向こうに阿蘇五岳を望む道は、滝廉太郎ゆかりの岡城址で名高い竹田への道であり、四半世紀の昔、初めて自動車免許証を手にして、家族と楽しみ、親しんだ道である。小生、東京から竹田（大分地裁家裁竹田支部、竹田簡裁）に転じ、東京に戻るまでの三年間、小規模庁勤務を体験していたころのことである。

その日、平成三年七月六日、小生が久方ぶりに九州に戻ったというところで、当時そこに勤務していた職員十数人が、小生夫婦を竹田に迎えてくれることになったのである。竹田に近づくと、遠くに見える山々のたたずまいばかりでなく、目の先の丘陵地帯におりなす木々の緑も、道際にせまる段々畑も、昨日見たような錯覚に陥った。すん

なりした直線の道筋に出くわすと、昔のくねくね道が改修されたことに気づいて今浦島の心境に目が覚める思いを味わった。

そして、昼下がり、二十余年ぶりの面々との再会である。要職を経て既に退職している者、今や本庁の幹部職員として重責を担い、あるいは中堅として活躍している者、結婚して既に子育ても終わったというおばさん、更には簡裁判事となつて定年まで数年を残している者等々、みんな地道に成長し、発展している。互いの健康を喜び合い、往時に思いをさせ、尽きぬ話に時を忘れた。正月ごとに官舎で新年会を催した折の妻の労までも回顧され、謝意を表されるに及んで、妻も、みんなの情に感激した。

二十余年前にタイムスリップしたような思いに浸りながら、会の結びには、あのころと同じように、「荒城の月」を合唱した。

人との出会いをいつも大切にできるように教えてくれた、それは、懐かしい道であった。

模索の道

硬い話になり恐縮であるが、小生の来し方は裁判所一筋であり、見返すと、ほとんど一色と言ってよいほど民事裁判に携わつて今日に至っている。それは、小生にとって、過去から現在までの、そして、なお未来に通じている限らない道である。

本年初頭、熊本に移った。ここは、また昔話になるが、三十五年前この道に入り、初めて赴任し、初めて所帯を持った土地である。おのずから当地への思い入れはひとしおである。今は、法廷には入らない立場となつており、ちよつと寂しいようでもあるが、幸いにそれを思ういとまのない日々である。裁判所も、ご多分にもれず統廃合の

波に洗われたが、この熊本地裁は、本庁のほか、なお管内に六つの支部と十一の簡易裁判所を抱えている。組織がどうのこうのは別として、その屋台骨が揺らぐことのないように、相変わらずの細身ながら、あわただしい毎日を送っているわけである。

限らない道と言った民事裁判は、今、大きな岐路に立っている。あちらの百人、こちらの百人に、民事裁判のイメージを問うたら、どこの百人からも、時間がかかりすぎる、費用も……、手間暇も……、そしてまた、手続きが難しい、現代の経済生活にそぐわない、企業社会には合わない等々の答えばかりが返ってくるのではないか。いや、そのような答えなら、具体的に指摘してもらえたわけで、まだましである。怖い感じがする、裁判所は近寄りたがたい、更には、なんだか分からないというように、相手にしてもらえない向きもあるのではないか。反省は尽きない。持ち込まれる事件が減っているわけではなく、各係は次々と新しい事件を受け、膨大といってよい数の事件に取り組んでいるのであるが、これをさばきながら、民事裁判の在り方は、改革を図らなければならないのである。

その方向は？ 目標は？ 具体策は？ 問いかけは矢継ぎ早に耳に響く。少なくともも言えること、果たさなければならぬことは、審理のより充実を、判断のより適正を図りながら、ありきたりの言葉であるが、迅速な裁判を実現すること、世の中のテンポに合った形で紛争解決のお役に立つことである。そして、地域に密着している簡易裁判所は、小額軽微な事件を、文字どおり分かりやすい、簡単な手続きで、手早に処理する裁判所であればならない。敷居の低い、開かれた、利用しやすい裁判所、願わくは市民に親しまれる裁判所となければならない。

裁判所への道は、明日には明るい道になるとまでいうつもりはない。が、小生、なお第一線でこの道の一翼を担っている。模索の道をしつかり踏み締めながら、残された年月を、生き生きと、伸び伸びと、明るい道づくりのた

めに精を出してゆくつもりである。

でもしか先生

奥 隅 英 夫

三年生の三学期の始めごろだったろうか。担任の太郎先生が「小学校の教員を募集している。是非川高の生徒を欲しいということなので、希望する生徒は申し出るように」

記憶は確かでないが、申し出て友人数人と試験に望んだ覚えがある。テストは一時間くらいで数学は連立方程式の応用問題などで非常にやさしかったが、音楽は音符があり、曲名の質問だったような気がする。休み時間に他の人の話を総合するとまぐれあたりをしていたようだ。面接は入間教育事務所の下長の清水英先生であり、「大学に受かったらどうするのか」という質問は覚えている。入試は見事失敗、浪人生活をしていて五月中旬、明日より高麗川中学校へ出勤するようにいわれ、慌てて散髪屋へ、今度は着るものがなく父親の背広を借りて、出勤。担当は理科と体育。生徒との年の差は四つ。全く頼りない代用教員の誕生であった。当時は宿直があり、チョンガの私はよく頼まれ三日も四日も続けて学校へ泊まりつづけたものであった。その年の七月、村の役場に勤めていた父が役所で倒れたとの知らせを受け、家へもどると「勤務中になぜ帰ってきた。すぐ学校へいけ」が遺言となってしまう。進学の道が絶たれたのと「先生と乞食は三日やったらやめられない」という言葉のとおり、教員は楽しかったので、通信教育や夜の大学等に通ってやっとなり、教員の資格をとり、四十二年間中学校教育に携わってきた。川高で所

属していた演劇を生かし、予餞会ときには教員だけの劇を計画し、自分が主役になったり、生徒会の顧問を進んで引き受けて生徒を動かしたりして、一人得意になっていた青春教師の時代があり、自分が管理職になってみると手のやける教師であつたなとつくづく思つた次第。当時の生徒は素直であり、よく家の手伝いをしたものだ。尤も子どもは大きな労働力であり、農家にとっては欠くことのできない存在であつたように思う。農繁期になると、麦刈りや麦蒔き、田植えなどの手伝いで泣きながら早退していく生徒がいたものだ。勉強をしたかつたのか、皆と一緒に学校にいたかつたのかはつきりしないが、学校をやすんだり、早退することは悲しかつた事だけは事実であつた。最近はずきや観光旅行等に、子どもに学校を休ませて出掛ける家庭が多くなつてきたのとは雲泥の相違である。

大して力もなく、良い教員とは必ずしもいえなかつたと思う私でも、教えた子どもから有難い思い出がある。

○二十年ぐらい前であつたらうか、ある正月遊びにきた卒業した生徒が、帰り際に「先生三月の休みはいつからですか。また、遊びにきます」といつて帰つた。三月の末のある日小型トラックが入つてきた。つなぎの作業服をきた若い男が下りてきた。この正月遊びにきたK君であつた。「先生、床の間の壁を塗装させてください」私の家は当時わらぶき屋根で、大雨のときなどはよく雨漏りがして壁や床の間はしみだらけであつた。金もなかつたが、家の修理などかえりみる余裕のないときであつた。K君は中学校を卒業するとすぐ八王子のペンキ職人のところへ弟子いりして、腕を磨き独立していた。薄いブルーで床の間や壁をきれいに塗つてくれ、見違えるほど明るい部屋にしてくれた。

○この二月十三日、外出から戻ると玄関に清酒二升入りの箱が置かれていた。ポストには何通かの手紙の中に、

酒の贈り主の葉書があった。

還曆に青春の色、古稀まげて喜寿に米寿にWHITTE（白寿）の究明

千代鶴の一合徳利をあたたためて、まずは一献百歳の味

還曆おめでとうございます。長寿のお祝いをさせていただきますと、私の六十歳誕生日。「千代鶴」の美酒に酔い、四十代後半の教え子の若き中学校時代に思いをはせた夜であった。

中学校長の現職時代の小論を同封しました。

一人十色

十二年ぶりに教育課程が改訂された。これからの社会の変化とそれにもなう生徒の意識の変化に配慮しつつ、生涯学習の基盤を培うという観点に立ち、二十世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を図ることを基本的なねらいとしている。

画一的な教育指導でなく、個性伸長の教育がいままで以上に期待されている。

昔から十人十色といわれ、同じ人間は一人もいないにもかかわらず、一律な教育を受け、皆同一線上に並びたいという平等？の願いが日本人には昔よりあった。良い意味にも悪い意味にも皆一緒がよいという考えが多くの人たちの共通したものである。このような考えは今でも世の中を支配していると思うが多様な社会の変化への対応ができる人間の育成には、多様な考えを容認できる広い心をもつことが必要ではないだろうか。

「一人十色ということがあったら皆さんはどのように考えますか」と私の学校の教員に質問してみた。皆さんはどう思いますか。

以下は答えの一部です。

○ 一人の人間は、いくつかの異なる面をもっている。一つの面だけを見ないで、他の優れた面を見つけないものである。

○ 生徒指導でよくいわれる教師に見せる顔、親に見せる顔、友達に見せる顔というようにそのときその場面で異なった顔をするので、一面だけで判断をしないことが大切である。

○ 生徒一人ひとりにそれぞれ良いところ悪いところ、いろいろあるので多方面から理解してやりたい。一面だけでその生徒を決めつけてしまう発言がときにはありませんか。

○ 一人の人間のなかには、いろいろな面をもっている。その中には長所も短所もふくまれますが、とかく短所ばかりが目につきやすく、ついあの子は悪い子だとレッテルをはりやすいのですが、固定観念で見ることなく、必ず良い面をもっていると感じて、見出し認め、その面を伸ばしていけたらよいなと思います。

○ 一つの見方をもう一方違った目で見ていくことだと思えます（プラス思考で）。

暗い……物静かな。思慮深い。

○ 「○はまじめな子 □は素直な子 △△はくせのある子……」私たちは人の断片を見て安易に言葉をだしてしまうようです。黙って、心で思うのは勝手ですが、隠れて見えない部分でいろいろの性格が考えられるからです。夏休みに子どもたちが農場で共同生活をしている様子を見る機会がありました。殆どの子どもの目は輝いていました。この子どもたちは家庭や学校でもこのような輝いた目をしているのだろうかと思われました。環境が変わることによって、各人の個性も微妙に変化するように感じられました。場面によっていろいろな色がでてくるよう

です。

子どもの良い面を見出し伸ばしてやろう、子どもの心をとらえてその心になって指導しよう、子どもの心は時と場所・雰囲気などの環境によってたえず変化するのだ。良い環境をつくり、子どもの心をとらえ、その心になったときに個に応じた教育ができるのではないでしようか。

昭和二十年夏の思い出

佐久間 幾雄

天気の良い休日の午後ぶらぶらと郊外を歩き、回りを見ると、いつの間にか初夏の緑に変わり月日の早さを感じる。太陽の日は高く強く、夏が近いことを感じながらしやがむと、雑草の匂いがする。その時幼き日の思い出として鮮明な記憶がよみがえって来る。

私は父の勤務先の関係で東京から飯能へ疎開、転校した。飯能第一小学校から川越中学に入学、通学を始めて少し馴れた頃であった。

戦争中なので服装の記憶はあまりないが、白線一本入った上に初雁の象徴である徽章が輝いていた帽子だけは印象に残っている。その帽子を被り家を出た朝七時のニュースで、ラジオは敵(アメリカ)艦載機F6Fヘルキャットが東海上沖(茨城沖)から日本に向っているとのこと、心配しながら学校へ行った。

学校では英語を教えていた(さすがである)。授業を終えて学校から西武線本川越迄歩き電車に乗って南大塚から

入間川駅（今の狭山市駅）へ向っている時に空襲に遭い電車は急停車。乗客は我れ先にと降車口から飛び降りて麦畑へ四散した。

蜘蛛の子を散らすとはこのことである。私達も慌てて電車から飛び降りて少しでも遠くへと全力疾走して麦畑の中へしゃがんだ。麦の穂は頭の上であり、陽の光が強くと汗がふき出していた。

十分位隠れていたろうか、飛行機の影とごう音が消えた。ようやく電車に戻り、乗客も全員無事で動き出し入間川駅に着き帰宅した。後で聞いた話では、飯能で機銃掃射で兵隊さん二人、民間人一人が殺されたと聞いた。その後何度か経験したが恐しい思い出として残っている。

平成五年初夏、新緑の広がる今、カンボジアPKO派遣と世の中騒々しいが、私は政治とか戦争について無縁だが、よく考える時代になったなと思うこの頃である。

学校では那須大輔先生にいろいろ習った。校庭の隅でよくジャガ芋、大根、サツマ芋を作り、学校から持ち帰り母に大変喜ばれた。先生指導のせいか物理が好きになり、電気のことに関心をうばわれ電気、ラジオ、オーディオ、音楽以外は勉強しなくなった。

今振り返ると、私が今日あるのはその時に形成されたと思っている。

父の關係で学校を卒業すると東京へ引越し、日立製作所中央研究所に就職、電気の基礎をこまれた。二年遅れて大学機械科を専攻し沖電気工業に入り、切符自動販売機、銀行窓口端末、紙幣支払機（ATM）等々の開発に従事、コイン・紙幣で苦労した。真空管部長・IC課長・LSI主任といわれる今日この頃でも、小さい会社で相も変わらずLCDを作る機械の設計製造に奔走し、未だにお金に苦労している。

思い出すまま、比べてみれば

加藤 健

川中から川高へと六年間も同じ校舎で机を並べていた我々であり、それぞれ独自の思い出がある反面、共通の思い出も多いと思う。そこで記憶力の乏しい小生が断片的に思い出す事をいい加減に書いて諸君の失笑を買うよりは、ぼつりぼつりと當時を思い出しながら現在と比較し気になる事、はたまた癪に障る事などを年寄りの愚痴だとの批判は覚悟の上で思いつくままに書いてみようと思う。

一、言葉遣いが気にかかる

小学生の間はともかく最近の中学校、高校に於ける教師と生徒の間柄は言葉遣いひとつとってもまるで友達同士のようにある。我々の時代には口より先にゲンコツ型の先生や、かなり独善的な先生もいた、しかし少なくとも先生に対し面と向ってはキチンと敬語を使って話していたと思う。特に最近の中学校では親たちに気を遣ってばかりいる先生が多すぎる、教師たる者、もっと毅然とした態度で生徒に接して貰いたいものである。

ところで近ごろ気になる事のひとつにいわゆる『ラ抜き言葉』がある。例の食べれる、見れる、着れる、というシヤベリ方である。どうしてキチンと食べられる、見られる、着られる、と話せないのだ、大体四十代以下は殆どこれで最近ではラジオ、テレビのアナウンサーまでが平気で「食べれる」なんてやっている、もう許せません、私は。

二、食事及び食生活について

我々が子供の頃は食後に茶碗にたとえ一粒の飯粒を残してもひどく怒られたものである。又、我々の育ち盛りとも言える中、高校在学中は戦後の食糧難の真っ只中で、うまい食べ物をたらふく食べたような記憶が全く欠如している。ところが今レストランなどで特に若い娘さん、奥さん連中が出てきた料理を残しているのが気になって仕方がない、というより癪に障る。我々の年代ともなるとたとえ糖尿病でカロリー制限されていようと勿体ないが先にたち、出てきた料理は残さず食べてしまうのだ。それともうひとつ気になるのが食生活の、変化と言えばそれまでだが家庭料理の衰退、特に若い奥さん連中が手間のかかる料理を作らなくなったことである。冷凍食品、半調理済み食品の普及に加え、最近はきざんであるキャベツや大根、人参、野菜炒め用野菜などが店頭に並び、電子レンジでチンすれば出来上がりである。包丁や組板のない家庭があると聞くが満更嘘ではないようである。従って手間のかかる煮物や肉ジャガなどのいわゆるオフクロの味を知らない若者がふえて当たり前なのだ。嘆かわしい。

三、テレビ番組に八つ当り

私達が在学中は勿論テレビなどなくニュース、音楽などの最新情報は専らラジオから入って来たものである。そのラジオは今や二軍落ち、完全なテレビ時代である。ところがそのテレビたるやいずれの局も同工異曲、ワイドショー番組では相変わらず目立ちたがり屋の大学教授や評論家と言われる連中が、いかにも正義漢ぶって時の政治経済を批判しており、お笑い番組では芸とも言えない、つまらぬギャグを連発する落語のできない噺家、スタジオ内をただ走り回り、自分が楽しみ遊んでいるような騒々しいだけのタレントが目立ち、ニュース番組では天下のNHKまでが「貴・りえ」で大騒ぎ、かと思えばずうずうしいだけが取りえのリポーターと言う輩が、しつこいまでに皇太子妃候補を追いかけ回している。更に腹に据え兼ねるのが「食べ歩き番組」という奴、本業が余りパツとしな

俳優、歌手、タレントなどに高級料亭、高級温泉旅館、高級レストランで特別料理を食べさせ、わざとらしく感心させている。金に糸目をつけず高価な材料を、仕入れ値でキロ・ン万円の牛肉を使えば美味しいのは当たり前、安い普通の材料を使って美味しい料理を食わせるのが本当の板前、コックの腕前というものなのだ。視聴者をナメるのもいい加減にせい。

四、読書をしない若者たち

我々の在学中は理解の程度はともかく曲がりなりにも、小説、随筆、紀行文など結構本を読んでいたように思う。ところが今の若者は本を読まない。そう、本を見ているのである、彼らは専ら劇画なのである。劇画は見るもので読むものではない、従って劇画は漢字を殆ど使わない、そう、今の若者は難しい漢字が読めないのよ。大体就職試験を受ける大学生が□肉□食という問題を焼肉定食と解く時代なのだから嘆かわしい。それにしても句集『初雁』を見れば実に難しい漢字を実にさりげなく当然のようにつかっているのに今更ながら驚くばかりである、我が輩などはクリスマスを漢字で降誕祭と書いているのだ。

五、修学旅行

我々の修学旅行を思い出してみよう、たかが関西方面へ行くのに今では珍しい夜行列車にゆられて、なんと十時間余もかけてたどり着いたものである。宿泊地で多少羽目はずしたことはあったものの、記念写真を見れば全員制服、制帽に身を固め結構真面目な顔をして写っている。それがどうです、最近の修学旅行ときたら、いまや新幹線は時代遅れで飛行機利用は当たり前となり、生意気にも海外旅行を組む高校も少なくないと聞く。生徒の方もわがままで寝るのはベッドでなければとか、パンツをはいたまま風呂に入ったりする男子生徒がいたり、あきれた

ものである。しかも京都、奈良の神社仏閣、観光名所をハイヤーで巡る高校もあると聞く、贅沢にも程がある、いい加減にしろと言いたい。

六、体格を比べてみれば

この原稿を書くに当たって改めて川高卒業時の記念写真を取り出して見て、体格の貧弱さを改めて痛感した。小中、高校と育ち盛りを食糧難の真つ只中で送ったとは言え、どう見ても胴長短足なのだ、身長一七〇センチ以上の者が果たして何人いるだろうか。それに引き替え今の若者の大きいこと、癩には障るものの欧米型に近づいたとかで足も長くなり、残念ながら我々よりスマートであると認めざるを得ない。食生活の向上、生活環境の改善もあり致しかたなしと諦めもつくが、この連中が電車のシートに背中（尻ではない）で座り、長い足を投げ出しているのを見るともう我慢がならない、思わずケトバシてやりたくなる。ところが先日気をきかせたつもりの若者に席を譲られそうになった時はもつと頭に来た。ひとを年寄り扱いするな、バカタレイ。

まだまだ書き足りないような気もするが今回はこの辺で切り上げよう、次回、米寿記念文集なんていうのが出される時、もし生きていたら改めて書くことにしよう。今この原稿はボケ防止？ の為にと最近始めたばかりのワープロを使い四苦八苦してつづっているが、決して若いとは言えない年齢となり、一時代前であれば余生と言われた生活に入って行く訳だが、これからはまず健康に留意し、経済的にはともかくとして、せめて心にはゆとりのあるシルバー・ライフを送りたいと思っている今日この頃である。

私と海釣り

奥田 誠

いつ頃から釣りを始めたか、はっきりと覚えてはいないが、たしか小学校へあがる前からだと思う。小学生の頃は近所の悪童と、近くの川へよく鮎釣りに行った。夕立の後などは「それっ」と延竿をかついで出かけたものだ。社会人になってからも子供連れで、あちこちの川でハヤを釣り歩いた。

以前はこのように川釣りだったのだが、現在は海釣り専門である。釣りは鮎に始まり、鮎に終わると昔は言ったそうだが、私の場合は鮎に始まりアジに終わりそうである。

海釣りを知ったきっかけは、銀行の支店から本部へ転勤した時、ある先輩から「奥田さんは釣りやるのか？」と聞かれ、「好きですよ」と答えた為、幸か不幸か銀行の釣り部「銀鱗部」に入れられてしまったことである。当時銀鱗部は、キス・イシモチ・カレイなど海釣りの大会が多かったが、道具を持たない私はいつも貸道具のお世話になっていた。ある時例の先輩に「県庁の人と釣りに行くのだが、奥田さんも行かないか」と誘われ、その時初めて「ヤリイカ」なるものに挑戦した。二月のことである。寒い冬の海は想像以上にもものすごく、北風ですつとぶ水洩（ミズツパナ）を悴（かじ）んだ手で拭いながら、船頭の手解（ほど）きで夢中で釣った。この船上で「奥田さん食べてみろよ」と出されたのが今釣ったばかりのヤリイカのイカソーメンである。とろけるようなイカの舌ざわりに海水の塩加減も丁度よく、こんなにうまいものはないと思った。この味が忘れられず、又連れてけと頼む程であった。このように釣り部

に入れられて大海原にひっぱり出され、おまけにイカソーメンのあの味が忘れられなかった為に、私はどんどん海釣りにのめり込んでいったのである。

さて、海のない埼玉県人が海釣りとなれば、東京湾か相模湾、又は外房が釣り場となる。釣り場までの足だが、往き帰りの交通を考えると車より電車の方が無難なので、いつも電車を利用して行く。最近では、一度行った大アジ釣りが忘れられず、相模湾の大アジ釣りが主となっている。神奈川県あたりで電車で行けて出船に間に合うところというところ、江の島近辺が限度となる。私の常宿は片瀬江の島の「幸次郎丸」で、ここは周年アジ・サバ狙いで出船している。この宿は駅から近いし、帰りも始発電車に必ず座って帰れるので便利にしている。もう通い出して十年にもなるが、今では常連の端くれで「奥田さんはうまいよ」と言われており、少々気を良くしている。

海釣りは大ものから小もの、深場の魚、浅場の魚、釣り方の難しいものといろいろあるが、大アジ釣りは易しい方ではないかと思う。深さは約百メートル前後で、エサは「アカタン」と言われるイカの五ミリ角を食紅で染めたものを使い、向う合せて釣れる。しかしそうはいつでも深場のアジはそんなに簡単でもない。二枚潮と言って上層と下層の流れが違う時、又は潮の流れが速い時、あるいは水温の急変した時等により釣果は左右される。水温が急に下がった時などは魚探に反応があってもエサを食わない。アジは大体海底から三メートルから五メートル位の所を泳いでいる。隣の人バンバン釣っているのに自分だけ釣れないという人がいる。これはエサ(針)がアジの泳層(タナという)にないからで、二枚潮の時などは特に難しい。どんな条件の時でもエサをアジの泳層に落とし込むにはやはり年季が必要だ。自分だけが入れ喰い(仕かけを下ろすとすぐに喰うこと)の時は最高の気分である。そんな時隣の人などは横目でにらみ「又釣りやがった」と思っているのだろう。こういう時は自分の腕の悪さを痛感してい

る時だ。私も何度も経験している。

さて道具だが、竿（手釣り用もある）・リール・道糸・アンドンビシ・仕かけ・クーラー・雨ガッパ・防寒具（冬場）、これらは最低必要だ。中級品でめめて五万円位か。最近は竿もカーボンだの、リールもメーター付きだ、電動だなどとやたらに高価なものが多くなつたが、アジ釣りには高級品を使っても変わりはない。私のは竿もリールも安もので、竿はグラスのビシ竿、リールはメーター付きの手巻で五年も使っている。これらを担いで出かける前の日は、子供が遠足へ行く前日と同じで、嬉しさと寝過ぎしてはならないと思う心でなかなか寝つかれない。早起きも一向に苦にならず、目覚まし時計の音と同時に飛び起き出発となる。車中でもうつらうつらしながら、「今日は海の状況はどうか。アジの喰いはどうなのか。今日も家族で食べられる分釣ればいいなあ」とかいろいろ思い巡らせ楽しい一時である。又、休日には道具の手入れをしながら、リールをカラカラ廻し、大ものを釣った時を思い出し一人悦に入っている。

ところで、大アジといっても皆さんあまり見たことがないだろうが、私の釣った一番大きいのは体長が四十二センチあり、片手ではなかなかつかめない程だった。大もの時は、まず重いリールを巻いていくとビシが上がり仕かけが上がってくる。すると大きなアジが針を銜え胸ビレをピンと立て悠然と泳ぎながら上がってくるのである。この時が心臓の鼓動が最高に高鳴る時で、魚を逃がすまいと慎重に仕かけを手で持ち、玉網で掬う。大きな目をしたアジが網に入り、掬い上げた時は安心感と嬉しさで一瞬気が抜けたようになる。やおら両手に魚もちあげて船頭にみせると船頭は顔で答えるだけだが、「前の方で大アジが出たよ。みんなガンバッテ」と檣を飛ばす。潮が変わって喰いが遠のくと、クーラーを開けては釣り上げた大アジをながめ、「よしもう一匹」とコマセの振りに力が入

る。今までで一番数を釣ったのは、三十センチ前後のアジを五十六匹で、十八リットルのクーラーに入りきれないので、お昼頃に釣るのを止めてしまったことがある。一日中釣っていたら何匹ぐらいになっただろう？ 大釣りした時の帰りの電車は満足感と疲れとで、乗るとすぐに大いびきで新宿迄グッスリである。

我が家では家族皆、魚好きである。刺身・タタキ・塩焼・フライといろいろな調理をするが、自分の手で釣ってさばいたとれたてのアジは、どれをとってもスーパーの店頭のアジとは一味違う。大漁の日は近所へも配って歩く魚を引き取ってくれる先は四、五件あり、「この間はありがとうございます。とてもおいしかったですよ」などと言われると、あの肩に食い込むクーラーの重さも忘れて、またまた頑張ってしまうのである。

どうです、皆さんやってみませんか。大海原で潮風にうたれ一日のんびりと……。体が丈夫になりますよ。

近況報告と思い出

小 沼 達之助

私は昨年三月定年退職し、現在家におります。第二の職場もあったのですが丁度区切りのよいところでやめました。勤めを離れてみるとやはり手持無沙汰で一抹のさびしさがあります。そこで老後に備え家の改築を始めました。サッシュのない時代の建物が老朽化したことと、家にいる機会が増え、今までそれほどの不便を感じなかったものがいかに住みづらいかを痛感したために踏み切ったのです。

一昨年同窓会に出席し、忘れていた遠い青春の記憶が徐々によみがえりなつかしい一刻でした。幹事になる方は

大変でしょうが又計画していただけるようお願いします。

私は旧制一年の秋に土浦中学から本校に転校してきて新制高校中途で二部に転学して卒業しました。戦後のドサクサの中で何もわからずとまどいながら通学していたのが実感です。

茨城育ちのため少しズーゾー弁だったので、一年生の時か二年生の始めだったと思いますが漢文の時間に順番に読まれた時、どうしても「十(ジュウ)」が「ズウ」になってしまったため、トクさん(佐藤徳四郎先生)に竹棒で三度頭をたたかれた痛い記憶も今は懐かしい思い出の一つです。

蝦夷風来坊抄伝

男には渡つてはいけない海峡がある

土耳

田村武男

むかし、男がいた。

その流れの速さゆえに、アイヌの人たちが「しよっばい河」と呼んだ津軽海峡を、男が単身渡ったのは大学を三年遅れて卒業した春だった。男が育ったサイタマでは桜が満開だったが、戦時この地に住んだことのある男の身内が「蕃地」と呼んだ蝦夷ヶ島は、吹雪が舞い狂い、連絡船に乗る人々は誰もが無口だった(註・「津軽海峡冬景色」)。

敗北、という言葉が男の頭を一瞬よぎった。

男は、行き暮れた旅人を暖かく迎える旅籠はたごの灯を見たように、サツポロに草鞋わらじを脱いだ。あくまで一宿一飯の恩義をうけるためだけのつもりであった。

いまの帝が皇太子としてご成婚あそばされたのは、この翌年であった。男は皇太子と同世代であった。その父君が戦をはじめられ、男の家は焼かれ、兄は醜しづの御楯となり、一家は離散の憂き目にあった。

男は、少年期にシナノに疎開させられ、中学入学と同時に戦火に追われて、都の下町から古い城下町カワゴエに暮らすことを強いられた。いま又、青春の燃える身を「蕃地」へと追いやるのは、いかなる神の気まぐれかと男は歎き、怨んだ。

カワゴエでは当初、男は「疎開もん」として差別を受けてきた。

『今でこそ、東京人は川越には甘藷よりほかに用はないような顔をしているけれど、道灌が築城した頃は、土地に人間がいないので、川越から工夫の供給を仰ぎ、僅々百日の間に築き上げた。道灌が入城してのちも、川越は地方文化の中心で、風俗、言語すべて川越を真似るのが、ハイカラだったから、東京人は川越に対しても頭が上らない。』
(矢田挿雲「江戸から東京へ」とは違った意味で、「疎開もん」の男はカワゴエに虐げられた。

もともとカワゴエは、男にとって血脈の深いところであった。文化財である「時の鐘」や「山車」を製作した棟梁りょうは、男の伯父やその血筋の人であるし、男が初めて生の芝居を観たのも（当時、中学生は映画館さえ出入は禁止されていた）その伯父の妾腹の子が経営する劇場であった。外題は「追われいく男」という股旅物で、その筋は年老いてからもはっきりと記憶していた。いわずもがな、男が童貞を捧げたのも、カワゴエの女であり、カワゴエの

聖なる河原であった。だから、虐げられた、というのも多分に男自身の自虐的意味においてである。

城址を学び舎とし、山岳部に属して秩父の山々を庭として歩いた六年間は、男にとってはやはり愛しい時間であったには違いない。

しかし、その後の軌跡をみれば、カワゴエの時間は、男に気付かない残酷な影を刻んでいたことも確かであった。当地産のサツマ芋を「栗よりうまい十三里半」というのは、都とカワゴエを結ぶ運河の長さであることから、などということを教えた男の伯母は、江戸趣味をたっぷりともち、狂歌などに長けた人だった。彼女の影響で歌舞伎、寄席通いをはじめたのが男の因果だった。その半可通はんかつうの知識をたっぷりと詰めた鞆を抱えて、津軽の海を渡ってしまった。

広大な原始の森や野山をもつ北の大自然に生きていくには、 unnecessary 荷物であるばかりか、邪魔なものですらあった。鎌くわや槌つちのほうが喜ばれ、快く迎えられたのかもしれないなかった。

この海峡は生物学的には「ブラキストン・ライン」と呼ばれ、ここを境にして動物の分布がまったく異なるのである。ニホンザルはいない、ヒグマはいるがツキノワグマはいない、四本足の動物ばかりか空飛ぶ鳥すら、その種類はほとんど本州と異なる。

では、人間は？ この自然に住めるものと住めつけないものがあるのか。

土地の女を娶めとり、子供もでき、仕事にも慣れ、十年ほど経った頃から、男の胸中に、大雪山に住む天然記念物のナキウサギが穴から顔をのぞかせる時に素早く見え隠れするように、攔とまえない煩悶ぼんもんがふつふつと湧湧いてき

た。

冬、世界は白一色となり、零下の大気の中で雪をはねる。夏、めくるめくような緑の大地を引き裂くように、真直ぐに走る道路に車を駆る。確かにそこには誰もが憧れる大自然がある。しかし、陰翳いんえいをもつ文化をインプリントされ、軽妙飄逸ひょういつに生きていこうとする男にとつては、この大自然のもつ荒々しさやそこに生きる人間の猛々しさと協調することが、どんなに困難なことだかを感じはじめてきた。

自然しぜんが厳しいほどに、洒落冗談しゃれ（雑談）が生きる弾みになるものを、何故許されないのか。男はかつて旅した東北地方のことを思った。この島と同じような生活条件でも、そこに住む人たちの躁そうに過ぎるぐらいの陽気さを。あの祭り、あの喋り、あの唄……。

男は考えた。オホーツクのちっちゃな漁港で蟹を食いながら、トカチの山を滑りながら、ススキノで女の腰に手をまわしながら……（註・ススキノは東京以北最大の歓楽街で、およそ四千四百軒の飲み屋が軒を連ね、雪国特有の白い肌をもった女たちが、尻下りの言葉で男を口説く。例えば、エガッタラトマツテモイイジヤナイカイ）。

粋とか風情といったものにおよそ縁遠い風土、伝統や格式を求めながらも理解できない人々。やむをえないことでもある。この人々の二代、三代前の親たちは文字通り、敗れて北の海峡を渡った敗北者たちであったのだから。演歌などこの海峡をうたった歌は多いが、ほとんど本州から北海道に落ちてくるものばかりで、北から南に向うものは全くといっていいほどにない。北海道に渡ることはすでに、故郷を捨て、人間関係を絶つことでもあったのである（註・現在は四代目、五代目となり、街づくりも盛んに行われており、また本州企業の進出で、俗にいうサツ

チヨン族などもふえ、都市のアイデンティティも生れてきているようだ。近代化を装いながらも、この土地には他所にはみられない独特な人間差別が残るのは、敗者の屈折した心理から因るものかもしれない。男はなれない穿鑿せんくわくをつづげた。

男は気がつきはじめた。カワゴエでも「疎開もん」と区別されたように、ここ北の蕃地では、ブラキストン・ラインを越えてきた「珍獣」のごとく扱われていることを。

洒落のつもり言葉もキザと聞かれ、瘦我慢やせがまんもイップリコキ（註・土地の言葉で、見栄をはること）にとられ、さなきだに「し」と「ひ」の区別のつかない口舌と、酒好き女好きをあからさまに表に出したがる性格がたたって、軽佻浮薄の誘りまでうける始末。もうダメ。

男は、何年か努力を試みたが、ダメ。

そして男は、ある年の春のある日、生暖かい風を頬に受け、梅の薫りが鼻の孔に忍び込んできたとき、覚悟をきめた。

「おれは風来坊になるぞーッ」

男は、この時から旅人として生きること覚悟した。西行、芭蕉、山頭火も足跡を残していないこの北の大地で、風来に生きる。

男の脳裏には、中学生の頃カワゴエで観た旅芝居「追われいく男」の舞台が鮮明に映った。

この瞬間、エドもエゾもカワゴエもシナノも、境をはずし男にぐつと身をすり寄せてきた。男はブラキストン・ラインを越えたと頓悟した。そして一句が口から洩れた。

歩くだけ 生きていくだけの 雪を掻く (註・盗作)

それからさらに十年、男は北の自然や人間とも素直に付き合えるようになり、花街の女も上手に口説け、美味しいものも求めずして口に入るようになった。

しかし共に語る友をついに見付けることはできなかった。

ただひとつ、この大地がこの国のどこよりも秀れていることがあるのを、やがて男は知った。それは漢詩の朗読にもっとも適した環境であることを。あくまでも大陸的なのである。

北の歌枕テイネ山の頂に向って立つ時、男は、カワゴエの一人の教師の顔を思い浮かべる。佐藤徳四郎というのが教師の名前であった。男は教師がつけねづね愛誦し、伝授してくれた一編の詩を読むことで、いま風来の道を楽しみ、三十五年前に渡った海峡を、胸底深くそつと仕舞いこむ(註・冒頭の「土耳」は男の号)。

登幽州台歌 陳子昂

前不見古人 友は遠くにみな老いて

後不見來者 北の大地にただひとり

念天地之悠悠

五蘊皆空 色即是空

独愴然而涕下

涙をながしてどうなるものか

豆事典

薯・いも・芋

東京より川越の距離に引っ掛けて「九里四里（粟より）うまい十三里半」とは誰が言ったか知らないが名キャッチフレーズだ。坪焼芋、石焼芋の匂いは川越の誇りとする香りだ。しかし何となく芋は川越の恥部という気もしないでもなかった。埼玉では名門の川越高校生も東京ではつい、芋兄ちゃんなんて言われて芋高コンプレックスを感じてしまう。オケンの才女・美女もやはり芋姉ちゃんなんて言われて恥ずかしい思いをしていたのかなあ。

挫折

柳田 徑伸

私の兄弟姉妹四人共、立川越にお世話になり、川越は縁の深いところである。特に戦中戦後厳しい時代に、私のような田舎者が優秀な同窓と中学・高校と、肌で六年間接して来られた事は何物にも替え難い事であると感謝している。

兄は幼少の時から何をおいても大学教育をと父母は熱心であったが、私は着るものから兄のお古、両親の熱い視線から逃がれ原野を闊歩出来たのは幸いであつたが、勉強は第二、第三であつた。体の弱かつた私にとって、今にして思えば良かったのかもしれない。

父は何事も明治の人間らしく苦学して、電気専門学校から今の東京電力ひと筋に努め、私が高校一年の時に定年となつた。私にとって父は最もこわい存在であつたが、会社をやめた父の力の抜けた後ろ姿をみるにつけ、私は大進学を諦めた。高校三年になり、姉が小学校の先生をしている関係からか、突然母が「ゆうべはお前の事を色々考えたら一睡も出来なかつた。大学の夜間部と、小学校の先生の試験を受けるように」ときつい要請があつた。結局小学校の先生になり、早稲田大学の第二文学部で心理学を専攻したが、教員生活というものは、あまりにも平穩であり、堅苦しい。愚かな事に一年で止めてしまつたが、もう一年先生をやっていたら、子供が可愛くて、生涯その道を通していたと思う。いずれの道が何であれ神のみぞ知る事である。その後、不景気で定職もなく、転々とアル

バイト如き色々な仕事を経験させられた。教員をやらないのなら、心理学を学ぶよりも、心と肉体を繋ぐ分野即ち、早稲田をやめ日大の医進コースへ入った。学内で中学時代同級の道又君と逢った。彼も来ていたのであった。彼は今、開業医として活躍していると思う。ところが皮肉にも運命の神は私の前途に立ちはだかった。私が医進コースを終了するのを待っていたかのように両親が相次いで病気で倒れた。健康保険のない時代であり、私は金の掛る学部への進学を諦めた。私が味わった生涯最大級の挫折感も、生来樂天的な私にとっては、立ち直るのに、あまり時間が掛らなかつた。というよりも、くよくよしている余裕がなかつたのである。その頃ヤクルトの仕事、未だ海のものとも山のものともわからない仕事であるが、私にはもはや選んでいる余裕も資格もなかつた。何もかも中途半端に推移して来た自分ではあるが、愚かな自分ながらも、その時点では、精一杯努力して来たのであると、自らに言い聞かせ、自己卑下こそ次のステップに有害であると思ひ、ヤクルトの仕事が、「自分が唯一生きて行く、この道の他になし」と自他共に公言し、朝早くから夜遅く迄打ち込んだものである。

はらきり記

小島 一雄

一面に抜がるお花畑、暗くそして長いトンネル、ジェット気流に乗ったようにフルスピードで走り抜けたと思つた途端、「お父さん」「おやじ」という家内、息子の声にふと我にかへつたが言葉にならずすぐ眠りに入ったようだ。それから何時間経つたのだろうか……。

集中治療室のベッドで物々しい器具につながれ横たわっている自分を発見した。これは私の切腹後の回想である。思えば一九九一年の定期検査で胃大彎下部に陰ありとの事で精密検査を受けた事に始まる。

医師は何事もないような顔をして一言、「悪性腫瘍です」

私「悪性という事は即ち癌ですね」医師「そういう事です」

一瞬ガンと頭をなぐられたような気がした反面、告知された事で救われた気持になった。

二週間後手術室へ!! その後の事は前述の通りである。

幸か不幸か私の場合、術後の経過もよく一か月弱で退院する事が出来た。そして現在に至るまでに数回の腹部の不快感はあったものの何とかのりきり、「お前は胃が四分の一しかないのだぞ!」と告げられているようで今までのような不節制な生活は慎めとさとされておるように思われる。

お互い年を重ねた現在、「無病息災」に一層努力する事を願い、諸兄共々長生き出来るよう頑張ります。

甲子園からの便り

中田 仁 成

昭和二十六年大阪歯科大学へ入学以来四十数年間関西に住んでおりますが、未だに関西人になりきれない埼玉県人です。新聞、テレビなど埼玉のことがいつも気になって仕方ありません。卒業以来母校で教職についておりましたが、四十歳から開業医に専念することに（大学の給料は安いから）して、非常勤にしてもらい、現在に至ってお

ります。

阪神タイガースの甲子園球場の外野（ライト側）のすぐ横のところ、ノンビリと開業中です。三年前から週四日だけ働くことにしました。又、休日は仕事のことを忘れるように、住居も車で二十分程のところに移しました。六甲山系の東の斜面で、海拔三百メートル位あるらしく、大阪湾や、大阪の夜景がとても美しく見えるところです。暇ができた諸兄に一度遊びに来てもらいたいものです。歓迎します。

スポーツはゴルフを三十年以上やっていますが、ハンデは15〜19の間を上下して、中々上達しません。現在宝塚ゴルフクラブのハンデ18です。雨天の日はやらない軟弱ゴルフアークです。高校時代は五十五キロだった体重が、三十五歳位から太りだし、今は八十五キロです。頭も白くなりました。減量すべく近くの甲子園都ホテルのフィットネスクラブに、週二回以上通うようにして努力中です。

子供達も成長して長男は内科医、長女は今年から放射線科医として大阪大学病院に勤務するようになったので、親の方も自由になりました。元気なうちに世界各地へ旅行しようと思っていたので、いよいよ実行に移せるようになりました。

こうして川高の文集への筆を走らせていると無性に埼玉時代が懐かしくなつて参ります。できることならもう一度高校時代に戻つて東上線で通学してみたい気持でイッパイです。でも現実は「太った白髪の老歯科医」だ。諸兄へ——暇があったら御一報ください。歓迎しますヨ……。

卒業以来

潟沼（峰岸）稔

昭和二十六年春、第一志望のK大学入試に失敗し、立教大学経済学部に入學した。

入ってみると川高同期の友人、渡辺謙君、石田照男君、糟谷熊君を始め十数人の仲間と一緒に大変心強かった。大学の勉強は大変楽で、常に暇を持って余し、友達と麻雀に熱中した。

川中・川高時代、バスケットボールに熱中して自分にとって何となくもの足りなかった。そんな時、弟に柔道をすすめられ自宅近くの警察の道場に稽古に通った。間もなく柔道同好会に入っていたクラスの友人に誘われるまま入会した。川高時代陸上競技をやっていた中島喜三郎君も入ってきた。

学校には道場がなかったので、専ら巣鴨拘留所や池袋、目白警察の道場に出稽古を重ねながら、お蔭様で有段者となった。

昭和三十年春卒業したものの、世の中不況の真っ只中で企業の採用門戸は固く閉ざされ、就職浪人の身となった。そんな折、同郷の平沼康彦氏に乞われて埼玉トヨペット(株)の設立と同時に幹部候補生として将来を約束され、渡辺謙君と共に入社した。間もなく車好きなた石田照男君(現在副社長)を平沼社長に紹介、彼も入社しお互い一生懸命楽しく働いていた。

そんな折、姉の嫁ぎ先を通じて、取引先家具問屋の跡継ぎ娘との縁談(婿養子)がもち上った。モーターゼーション

ンのはしりて、仕事に興味を覚え、将来性も感じていたので充実感あり、会社を辞める気など全くなく、すぐお断わりした。すると前社長の親友でもある得意先の社長を使者として再度要請され、親戚の皆さんからも強く勧められ、暫く考えた末承諾した。自分自身の性格として、商人向きではないので躊躇したが、町内で金物店を営んでいたおおよそ商人らしからぬ無愛想な叔父が盛業している姿をみて決断した。商売も、番頭さんそれぞれの持ち味を生かし、企業として組織的に各自の役割を果してゆけばやっていると信じたからだ。

入社前三か月程、親戚先の家具店（小金井市）に住込み修業させていただき、基礎的なことを教えていただいた。昭和三十二年三月二十九日、渦沼琴子と結婚し、㈱カタヌマ商店に専務取締役として入社した。当時の資本金は二百四十万円、社員十五名、年商一億円前後だった。

昭和三十四年八月、前社長渦沼栄太郎が病気のため五十九歳で急逝し、お先真暗な中、弱冠二十七歳で代表取締役社長に就任した。

その後、家具業界も順調に発展し、得意先の増加と共に売上げは飛躍的に伸展した。

昭和三十八年、木造二階建の店舗・倉庫を鉄筋コンクリート五階建ビルに建て替え、これを記念し日本水難救済会事業に寄付したことにより紺綬褒章を授与された。

昭和三十九年（東京オリンピック開催）には家具業界団体の先輩及び仲間と共に初めてヨーロッパ十か国の海外視察旅行に参加した。この頃になると車も増え、都心で倉庫を持ち、家具問屋を続けてゆくことに限界を感じ、郊外に流通センターを設置すべく土地を物色した。その結果、草加市谷塚上町に決定し、直ちに倉庫及び事務棟からなる配送センターを建設、流通業務を全てここに移す（昭和四十一年二月）と共に東京の倉庫はシヨールームに改装

し、本社・東京ショールームとした。これ以降、郷里埼玉県にずっと税金を支払うことによりご恩返しの一部となった訳である。この配送センター建設に当っては親父から勧められていた方除けのため、前後九か月間単身大宮住いをした。この時は部屋を借りるに当り石田君に大変お世話になった。

業績の伸展と共にコンピュータの利用を始めたがうまく軌道に乗らず困っていた時、川高で同級の村山利喜君と出会い、相談の結果、彼の計算センターに処理を依頼し、更には当社の事務所(章加)内に出張所を設けていただき、事務処理上大変お世話になった。

その後コンピュータセンターは独立し自前でやっているが、それ以来彼には顧問税理士として会社の経理をみていただいている。又堀陽君には学卒の求人者で苦慮していた時、大学の就職部窓口の知人を紹介していただき大変助かった。

業容の拡大と共に仙台に営業所を設置、西は箱根の山から東は青森までをテリトリーとして家具専門店、百貨店、量販店、通販、ゼネコン等を得意先として家具全般の卸売りを主体とした営業を展開している。

昭和五十九年二月、本社ビルを解体し、鉄骨鉄筋八階建延二千八百平方メートルの本社、ショールームビルに建て替えた。これを契機に今まで会社に併設していた住居を文京区白山四丁目に移した。

長女智栄子、次女弘子それぞれ山口家、湯原家へ嫁し、孫(男子)三人に恵まれた。最後に生れた長男孝則は、現在松下電産(株)東京HALS支店で修業中である。

私の趣味としては、下手だがゴルフが好きで月三回位のペースでやっていたがハンデは19のままである(この二年间は心臓病のため殆どやっていない)。

昭和六十一年夏、五十四歳で心筋梗塞を患い、更に平成二年二月、東大病院で腹部大動脈瘤の切除手術を行った。その節は同期の佐々木雄司君が東大の教授をされており大変お世話になった。その後平成四年一月末には冠動脈のバイパス手術をし、その結果が思わしくなく入院を繰り返し、健康の有難さを身をもって感じている昨今である。

業界団体の役職としては、昭和六十二年より東京家具卸商業組合の理事長を務め、他に全国家具卸組合連合会副会長、日本家具デザインセンター副理事長、学校法人環境造形学園理事等もやっている。地域社会の役職としては町会長代行、浅草法人会理事、東京上野南ライオンズクラブ元会長として社会奉仕にいささか精進している。

平成二年秋には既製家具販売の㈱カタヌマより、特註、造作家具の設計・施行、内装・リフォーム等コントラクト対応の子会社㈱ケーデックを南青山に設立した。

いろいろな場面で同期の友人に大変お世話になったことは既に申し述べたが、松村祐二君、宇都野正章君、畑喜千松君、金子武司君、長島恒雄君、新井治雄君、柳下満君、今は亡き大澤米吉君を始め、列記しきれないほど大勢の友人に家具をお買上げたいたり、知人をご紹介いただいたりして、同窓の友人の友情と好意に深く感謝致している次第である。一回優勝経験のある「川中二〇会」、たまに出席させていただいた「むらさき会」等にも御礼傍傍もつと出席せねばと思いなながらも忙しさにまかせ、欠席ばかりで失礼している。

㈱カタヌマも、現在は平成不況で業績が落ち込み大変苦労しているが、昨年は創業四十五周年を記念して全社員でハワイ旅行を実施した。資本金八千五百八十万円、社員数二百三十名、売上高百七十億円前後で頑張っております!!

自然災害の恐さを知る

糟谷 熊

平成五年七月十二日午後十時十七分ごろ、北海道と東北地方を中心に大規模な地震が発生した。小樽、寿都、江差（以上北海道）、深浦（青森）で震度5の強震を記録したことを、翌日十三日の新聞は報じた。また、気象庁は震源は北緯四二度四七分、東経一三九度一二分の北海道南西沖で、深さ三十四キロ。マグニチュードは七・八と推定される、と発表した。

折しも、TVは第四十回総選挙の立候補者政見放送中であつた。テロップが流れ、地震発生と同時に津波警報も報じられたのである。報道関係者も人命に関わることであるから、アナウンサーは懸命に津波報道を繰り返していた。ブラウン管にはアナウンサーと日本の地図が交互に出て震度と津波の発生場所を盛んに報じていた。報道からするとかなりの被害が出ているような印象を持った。

暫くして震源地に近い奥尻島から、たった今、津波を逃れて高台に避難したという時点のレポートが入ってきた。生きている回線を確保しての電話で、現場の凄惨な模様を聞くことが出来た。

たまたま紀行番組で偶然居合わせたというNHKの某女性ディレクターが頑張つて報道したのだという。日付が変わつて十三日の午前五時、NHKは映像を流した。「週刊文春」七月二十九日号によると現場でのVTRは札幌から飛んだヘリで吊り上げたのだそうだ。燃え盛る島の南部、青苗地区の、啞然と見つめる人、消火活動をする人、

怒号が飛び交い、まさに想像を絶する大惨事であった。

翌朝の新聞には奥尻島からの被害の写真はなかった。当然のように夕刊には、絨毯爆撃にあったような写真が載った。死者三十六人、行方不明者約百人を、そして家屋は三百戸が炎上したと報じた。

気象庁は「平成五年北海道南西沖地震」と名付けた。

土砂崩れでホテルが倒壊して、人が下敷きになったり、海沿いの住宅から幾つかの破裂音と共に火の手が上がり、瞬く間に風に煽られ、集落をなめ尽くしてしまったという。

七月十七日の新聞は、この地震の被害調査のため、奥尻島を訪れていた東大地震研究所の都司嘉宣助教授は「百年に一度あるかないかの規模だ」津波の規模は、島の南西部が一〇メートル以上と高く、藻内地区の谷では三〇・五メートルに達していたと報じている。

この頃になると、新聞には津波から命を守るには「まず逃げろ」「車を使うな」といった反省から、仮設住宅をどうするか、見舞金の話等現実的の話が出始めていた。これまでに道警のまとめで確認された死者は百四十六人、不明者は百七十七人となり、今日も行方不明者の捜索は続いていると報じていた。いずれにしても、自然災害の恐ろしさを思い知らされた。緊急の場合は、まず安全な場所にいち早く逃げるのが大切であると思った。

最後にちよつと付け加えさせて頂きたい。原稿の提出が遅れてしまい再三再四I氏より、もうそろそろ出せないかといった友情のこもった連絡を頂いた。仕事が多忙だったのと、生来の筆不精がたたりなかなか行動に移せなかった。たまたま地震が発生し、津波も来たという大事件があったので、思い付くままにこれを題材にして書かせてもらった。

川越中学の思い出

森田 賢

耳順の年を迎えた今、川越高校の友人達からはるばる長崎の地まで記念文集発刊の通知を頂き、四十五年前のニギビ華やかなりし頃を思い出し、送られて来た名簿を見て当時の少年達の面影が走馬灯のように蘇ってきた。

昭和二十年初夏の頃、東京大空襲が再三再四行われ、本土決戦を覚悟しながら、埼玉県北足立郡指扇村清河寺へ疎開したが間もなく終戦。川越中学に転校手続きを取るべく、父親と自転車で平方経由で荒川の橋を渡り往復三十キロもあつた夏の道を、十三歳の子供が健気にも走つた日が昨日のように思い出される。

それから四年の間、学校制度が変わり併設中学となり、中学三年で新制高校へと。

その頃川越高校一年は何故か十年生と呼び、私は十年E組となつた。当時の輸送機関は今では想像できないほどの貧弱なもので、川越線は朝の通学の七時台一本が記憶にあるのみ、帰りの汽車は一時六分の次が四時五十分台になつていたので土曜日以外は常に四時五十分台の汽車だつた。

私は入学当初は、自宅より指扇の駅までの四キロを自転車で行っていたが、修理に出した自転車が自転車屋で盗まれて徒歩(約四十五分)で通学するようになった。指扇より川越まで汽車で十六分。川越駅より川越中学まで歩いて三十分はかかった。したがって、毎日片道一時間十五分、往復二時間半を歩いて通学したことになる。その時の経験が今でも自信につながっているのか、歩くことには全く抵抗がない。

しかし、当時の国鉄はしばしばストライキで運休があり、自転車で川越まで行くこともあった。また、台風により荒川が氾濫するのも日常茶飯事だった。

川越中学、高校を通じての思い出の一つに冬の体操の時間に氷川神社を右折して、めがね橋までの五千メートルマラソンと称した競技があり創立五十周年だったと思うが、全校生徒のマラソン大会で十九位になった記憶がある。そのためか陸上競技部の長距離班に一時所属して一万メートルを走らされて顎を出し、すぐ退部してしまった。

教室での思い出はやはり筆頭が中学一年の担任だった佐藤徳四郎先生、怒った時は茹蛸ゆでたこのようになって体罰を加えていたが、今ならPTAで問題になることだろう。しかし、その時に自家製の漢文の本で習ったことは今までの六十年の間でも時々思い出される。特に「人間万事塞翁が馬」は、私の人生の多くを占めている。

その他数学の忍田先生、英語の野口先生、物理の那須先生、工作の白井先生等が四十五年経った今でも名前だけが挙げる事ができる。

友人の中では、東上線で電車とホームの間に挟まれたが幸いにも助かった郷土部の、チョロ松こと畑喜千松君をはじめ「瀬祭」に投句し、度々選ばれた益子君。夏休みの宿題で鳩の求愛をレポートした横田君。指扇から通った石川一次君、薮島昭君、田中小平君、南古谷から通っていて、埼玉銀行に通勤していた美人の姉君がいた沢田君。バスケットの練習中に亡くなった永田正君。大田区長原より二時間もかけて川越中学に通った浦部君。どことなくボンボンという感じの柳下満君。……その頃の笑顔が未だに脳裏に残る友人も今は六十歳。機会があれば、会って旧交を温めたいと思うのも年齢のなせるものか。

川越高校から医者を目指して慈恵医大付属高校へ進んだが初志貫徹ならず中央大学経済学部へ。そして、石原裕次

郎が活躍していた頃の日活に入社し、東京オリンピックの年にホテルニューオータニに転職し、昨年ニューオータニの常務取締役を辞任して、ハウステンボスのホテルに転職したが、まさに「人間万事塞翁が馬」の心境だった。恐らく今後も、自然体で残された人生を心豊かに過ごしていくことと思う。

川高思い出雑感

大川 解

世界的な体験を敗戦国日本から受け、平和社会復興へと歩み出す中で、私達の青少年期は、あまり良き時代とは言えないまでも、今にして思えば、多彩なエネルギーに満ちた、思い出多きなつかしき時代を、とにかく人間くさく生き抜いて来たと感じ懐する。戦後社会の激変、食糧難時代、経済的な困窮、個人差こそあれ、皆が平等に体験した時代であり、平和社会への希望が、全てに優先させる新時代に、若き魂が息づいていたと思える。先輩達のように戦争体験こそない我々世代は、幸せであつたと考えられる。自然の美をたのしみ、人間の真であることを考え、人の善を信じて純粹に生きる喜びを知り、貧しさもさほど苦にならず、その日の糧を若者らしく、消化し、生き抜いて来た様に思える。個々にはつらい思い出として残る経験も多々あると考えるが、それも今にして語れば、なつかしき良き思い出となり得よう。ただただ昔日を振り返つての青春の思い出は、詩歌の一篇をはるかに越えるたのしみものとなっている。私の現在いまの生きる源泉になっていると確信する。多くの青春の友も、そろそろ老友となりつつあるが、青少年期の顔立ちは、今も若き日のそのままであり、久し振りに逢つても歳月の経過はさほど感じない。

菅間昭君とは永い交わりとなり、良き親友である。高三の夏、大宮球場での応援の疲労より病に倒れ、三年の病氣療養をしてしまった。そろそろ散歩にでも出かけられる迄恢復した彼と二人で、川越を出て、水富村の木島先生宅にお邪魔し、散歩のお供をした折に、私が先生の青春時代(三高)の話聞かせて欲しいと申し出ると、先生の返事は即答「青春は今も続いている、青春は人生である」と禪問答の様な答えが返ってきたのをはつきりと記憶している。どう私はその時受け止めたか、ただ一途に生きる老人の姿だけでなく、人間の生きる大切な真理を感じたようであり、これから生きて行く自分に勇気を見出したようにも感じ、大切ないただきものをしたような気分、帰路にいった思いが残っている。川高時代、長兄大川明治が物理、数学の教師であり、兄に較べ、出来の悪い生徒であったが、妙に木島先生の英語の授業が気に入った。英米文学論とも言える先生の講義に、カーライル、エマソン、ソロー、と言った十九世紀の英米の思想家紹介は、アメリカの歴史を知る上で大いに感銘を受けたようである。商船大学時代の話もたのしく聞いたものである。クリッパー型の船の由来、京都のインクライン等、先生なりの英語の解釈も興味があった。

私は、中学一年入学は不幸にして川中は落ち、兄弟四人の兄三人が入学しているのに、涙をのむ思いを経験した。小学校は、川中の正門のはす向いの、川越第一国民学校である。全寮生活を校則とし、戦時中に創立された最後の七年制高等学校(男爵・枢密院議長の名誉校長)の正明中学校に、川越の同窓数名と入学し、高校一年の二学期に小学校以来の親友、川崎匡君と転校してきたものである。山行きの先輩、若月洋三さん始め、小学校時代の友人、先輩諸兄、雲外塾(習字)時代の川越の友人、長島恒雄君を始め多くの友人の歓迎で、川高時代が始まった次第である。高二は旧中学の名物教師とも言える佐藤徳四郎先生の担任クラスとなり、多くの友人が出来る。私の文学趣味は先生には

反発しながらも、先生の熱意ある授業には敬服する。源氏物語から芭蕉の俳詩文学まで幅広く、漢文においては、論語の解釈に徹底し、その意欲は我々生徒にいやでも、自然と国漢の学力を培ってくれたものと考える。個人的には高三進級に際し、陸上競技部を辞め、受験に専心するよう他をばばからず説得を受けたことは、その人柄としては嬉しく思えたことがなつかしい。本来、川高に転校し、第一の目的は勉強する筈の私が、なんで受験コースからはずれて行ったか、未だに判然としない。中学時代から続く剣道（明信館間中道場）の他に欲張って石井柔道場へ、そして登山に興味をもってしまふなど、家人に注意を受けることは、しばしばであった。高一の三学期は、その山行きがすぐ実行に移され、大島和道、柴野昭信、金子勇二君等と計画し、三月の奥秩父縦走に出かけ、積雪の霊取小屋主人、鎌田仙人の忠告により途中より下山、大切な米を小屋に寄贈して帰るなど、又高二になり松岡章次、双木貞夫、川崎匡、柳田径伸君等と奥武蔵縦走、夏休みは金子勇二君と二人で奥秩父完全縦走を行う。途中甲武信小屋近くで、那須大輔先生を含む物理部員の一行と逢い、甲州側、韭崎まで先導して、感謝されたことなど思い出す。余程先生は嬉しかったようで、その期の物理の成績は「優」を金子君と二人、もらったのはたのしい思い出である。

余り足の速くないのに、陸上競技部に入り、棒高跳びの選手となり、五十嵐統祥君と競ったが、彼のように関東大会に出場出来ず、無念の思いを残してしまった。何かと行動することがたのしかったと思える。予餞会には大野良三君の演出による、漱石の「坊っちゃん」の主役まで演じさせてくれ、大島和道の赤シャツ、川合敬三、守屋互君等の出演で大熱演、大喝采で幕となる。同級生との交友は三年余の川越ブランドを埋め合わすように、たのしく忙しく過ぎ去った感がある。山行きの関係で化学の木村先生とも親しくなり、先生の下宿で、人生論、哲学論を旧

制高chool生気分て話し合つた日々、ちよつぱり酒も飲んだが、とにかく目が輝いていたようである。誰でも満足な衣服はまよつていない時代であるが。

受験にチャレンジするのを、なんとか自分に理屈をつけ、延ばし延ばし、三年に進級、春には生徒会長に菅間君をかついで立候補応援に奮闘、我が陸上競技部の畏友東敏雄君と競うなど、作戦的に新入生の票田をせしめ、ままと副会長に当選を果たし、自身は生徒会審査委員長にまつり上げられ、運動部の予算、文化活動の予算を拡大して、なんとか切り抜ける。本橋教頭にめずらしく感謝されるなど、たのしくもなつかしい論議で、十円値上げが大変な時代だったことを想起する。

いろいろと因縁のある野球部の応援団長を引き受けるはめとなり、高校最後の頑張りとはかり大号令、東生徒会長始め全校大結束により、川高応援団の意気を全校あげて大宮球場に展開したが、その後菅間昭、関根憲治君等、炎暑の応援と疲労が重なり病気で倒れてしまい、なんとつらく思ったことが、秋の国体予選、恒例の運動会も終ると皆受験の為、静かになってしまふ。家の都合というか、自分の自信のなさか、受験を取り止め、母や兄達の説得にも従わず、社会人となることを宣言してしまふ。二年半の在校期間は心底しんぞこたのしんだ感がある。

私にとつてなんとと言っても感謝せねばならぬ第一は、幾多の親しい友人に巡り合えたことである。小学校時代からの旧友、柴田五郎、桃井良之、松岡章次、阿部新一、岡田立彦、岩澤（丸田）謙三、喜多弘君等はもとより、菅間昭、東敏雄、森岡昇、松木信、丸田邦夫、内沼一雄、中村生秀、中秀男、朝久野貞郎、水野洋策、塩入亮善、阿部秀樹君等、又陸上競技部の中島喜三郎、平岡泰之、五十嵐統祥、橋本正一、宮崎敏昭君等、故人となった杉本雅夫、三友善夫、正木茂、細田英雄、大澤米吉、小峰忠夫君等、名前を書きつらねるだけの紙面がないくらい、多く

の友人に恵まれたことを幸せと思う。又社会人となって就職する時も、田中崇、宮崎敏昭君とは同じ会社に入り、寮も同室、三年間起居を共にすることが出来るとは、青春は旧制高校の時代にありと考えていた私にとって、友人に関しては川高時代そのものであったと思う。学窓より社会に出てから、同窓の友人の良き面を深く知るにつけ、余りに短き在校期間が惜しく思えてならない。自分では気づかない友の良き面を知り、もっと友誼を深くすべきだったと悔やまれる次第である。

人並に少し勉強をしてみたくなり、四年遅れて大学へと進学の為、会社を辞めるが、余りに長い不勉強はなかなか取り戻すことは出来ず、望む学校には入れず、やっと学生証を持てるようになってもアルバイトに忙しく、とうとう在学中に事業を手がけるはめになってしまう。依然として、川中、川高時代の友人、先輩、後輩の力を借り、人並の会社にすることが出来た。

川高時代を思う時は私の今まで続いている青春そのものであり、又、多くの友人達である。還暦を過ぎて人さまざまの人生を回想することがあろう。しかしその中で私にとってとはとくにたのしい思い出として、多くの友人と共に青春が去来する。今日も親友中村君と相変わらず、新宿の飲み屋で歌をうたい、酒を飲み、青春そのものをたのんでいる。家路につくのが惜しまれてならず、彼に迷惑をかけている。

健康なたのしみは旅行である。すでに日本国内は歩き終えた感があり、しばらく休み、最近、海外旅行をたのんでいる。仕事で欧米によく出かけたが、現在は中東、インド、アジア州といった国々である。先月、チベットから帰り、まだまだ体力に自信を持ってそうである。七十歳迄には全世界を歩いてみたいと考えている。今のような円高が続いてくれると大変助かる。旅をしてつくづく若き日に、語学ばかりでなく、音楽、美術、歴史、宗教、自然

科学、何でも欲張つて学ぶべきであると痛感する。食文化もその内に入るかも知れない。家の中に写真を整理して収納する場所もなくなってしまう。海外に移住とまでは無理でも、気に入った国には一、二年住んでみたいと考えている。その節は諸兄の来訪を心より期待いたします。旅先で見聞することは心がはずむものばかり。若い人達との会話も実にたのしい。何時も青春にときめいている。

友を敬愛し

齊藤 恒

地球の生成、そして人類の誕生、その歴史、どんなに長いものなのか、短いものなのか、私には計れない。

還暦六十年を一ミリの目盛に記せば人間の歩みはどの位の長さのグラフになるのだろう。誰にも分らないと思う。仮に計れたとしてもそれは推定の域をでないのではないだろうか。広い地球、長い歴史、縁あってこの地域、同世代に生を受け、川越城跡に人生の最も花やかなりし青春時代、共に学びともに遊びそしてともに過ごした仲間達、その奇しき触れ合いは想像不可能な何とも深い因縁の成せる業とても言わざるを得ないのではないでしようか。

還暦六十歳、凡人である我が人世にも刻み込まれた長い歴史の道がある。昭和二十年敗戦を迎えるまでの日本では、農家の次三男坊はどんな大百姓の子息でも、長男でなければ農業を継ぐことはできず、勢い軍人の道を進むか、女系家族の婿養子になるか二者択一、それが手っ取り早い生きる最良の策の時代であった。

昭和七年川越の在、入間郡山田村の農家に三男として生まれ、軍国主義教育を叩き込まれた生一本の田舎少年で

あつた私には将来は軍人になる運命が待っていた。

昭和十九年春、北支出征中の長兄から両親のもとへ一通の手紙が届けられた。内容はこれからの軍隊では学歴がない者はお国のために役立つ立派な人間には出世することはできないと思われるので、何とか工面してでも弟達を中学へ進学させて欲しいという主旨の文面だったそうである。

四か月後には敗戦の悲報が待っているのも知らずに、憧れの川越中学へ希望を胸一杯脹らませて入学したのが翌二十年四月のことである。

終戦を機に方向感覚を失った大家族農家の三男坊には将来の進路も定まらず、親からは折角入った中学だから高校を卒業するまでは面倒を見よう、だが大学は諦めろ、お前だけを優遇する訳にはいかないので進学せず就職する様宣告されていた。しかし身内に有力企業のサラリーマンがいる訳でもなく将来の仕事口も覚束ない有様であつた。あまり芳しくない成績の生徒が当時の西武鉄道に採用されたのは、天下の川越高校出の肩書きが成せる業と今でも感謝の気持一杯、少しも変らないでおります。

昨今と違い、当時は入社初日からもう一人前としての仕事が盛沢山で、本当に世間の風は厳しく身をもって体験させられたものである。

昼間は改札係と広い構内除草、清掃、散水、先輩の食事作りからお茶汲みの雑用は新米の仕事。貨車の入換作業は昼夜を問わず夜明けまで続けられる。真暗な深夜機関車で運ばれ、河原での砂利満載貨車の組成入換。冬には枕木が霜で真白になり滑りやすく、小さな怪我は数知れない命がけの作業の連続。また専門の鉄道用語も多く使われ覚えるのも一苦労だ。女性連れの角帽姿の先輩の切符を切り、後輩が乗っている電車に向つての駅名喚呼、「次は本

川越終点でございます」だが私企業とは申せ、公共性の強い仕事に従事、少しは社会のためにも奉仕しているのだという気概からこの道一筋に励むことができました。

駅務員、電車運転士、駅助役、駅長、乗務所長、本社事務職、課長、最終は売店を総括管理する事業所支配人、即ち四百余名の責任者として間もなく定年のゴールを迎えようとしている。ここに足かけ四十二年、サラリーマン生活も目出度く卒業となります。

昭和二十六年高校卒業以来、A組では毎年クラス会を開いていたと聞く。四十五年、池袋白雲閣で開催されたこの会には勤めが東口で近かった訳か誘いがかかったので出席し、久方振りに懐かしの顔ぶれと対面懇親を深めることができ大変意義があった。その席で次回からは第三回高卒者全員に呼びかけて同期会を開催したいとの意向が纏まり次の幹事の一人として選出された。これが切っ掛けで何故か無性に旧友の消息が気になり出し、知りたいと思うようになって住所録作りを始めることになる。

平素から年賀状の交換があった人は連絡できるが多くは皆日分らなくなっていた。母校には同窓会名簿が完備と知らされ早速四十三年発行の第十五号を購入調べてみると、小生の場合も三十二年暮に現在の松江町に転居したのであるが住所は生家の儘、こんな具合で氏名住所は載せてあるが丁度働き盛り転勤ざかりの面々、転居先不明者続出、連絡不能で一苦勞。手紙探索や電話作戦展開、そのうえ多くの方々の手助けも借り奔走の末手作りの名簿ができたのが四十六年三月。これには二十年川越中学入学当時から仲間も判る限り掲載、同期生の輪を広げることを考えた。残念ながら努力が報われず不明の方もあったが、できあがった名簿は全員に送って感謝の電話や手紙を頂き、大変喜ばれ本当に感激させられました。以来これが忘れられず年初皆さんに賀状の挨拶をすることによって住

所確認に努めることに決め実行している。反応を頂ける人はよいが、一方通行の場合も屢々あったが便りは送り続けた。

今年も二百通発送したが約二割の人は音沙汰なしである。しかし住所不明で返送されない限り健在なるも業務多忙と断定、傍迷惑かも知れないが続けたいと思っている。また返送された時は早期に親友と覚しき者から聞き出し、手許には正確なものをメモし同期会の都度変更者分を整理、個人名簿の訂正案内を心掛け、本校同窓会事務局へも郵送、名簿整理のお願いに努めた。平成元年発行第十七号についても事務局からの問合せに応じ変更者分を連絡、多少お手伝いができたのではないかと思っている。こんな御節介を始めて早や二十余年が過ぎた。有難いことに近ごろでは同期会の前に幹事さんから変更者分について問合せがあり、立派な新名簿を作成、出席者全員に配布して頂けるようになり大いに助かっています。ひとの運命とは申せ他界の報にふれ、無上の悲しみ幾度か涙に暮れた日もありました。

平成三年十月、川越プリンスホテルで開催された同期会では、中学卒の十数名の皆さんが川越高同窓会会員として新たに承認されたとの発表を聞き、四十六年の私製名簿が役に立ったのかと感慨無量の慶びに浸ることができました。瘦せることはあっても太ることない宿命にある同期会名簿が四十六年振りに太ることになってくれました。前代未聞のできごとと言っても過言ではないと確信し、第十八号名簿発行は何時かと首を長くして待っている者でございます。昭和四十七年十月十五日、川越祭の当日、山車の囃子を耳にしながら旧交を暖め合った同期会、今でも思い出の一つとして鮮明に脳裡に刻み込まれております。

遡り昭和四十三年、社内忘年会の席で「これからは社交上ゴルフが最適なのは？」と上司から教えられ信じて

下手の横好きが始まり、第一回社内コンペを開いたのが翌四十四年六月だが、八名で始まった会現在十六名、昨暮には八十三回を数えて定年退職後も生ある限り年四回のペースで続けられることになっている。

駆け出しの頃、ゴルフなるものに大いなる興味を覚えた矢先、四十六年六月六日第一回川越高校三回生の同期会が六十三名の出席のもと、本川越駅前福登美で盛大に開催された。幹事の一人として親睦ゴルフ会開催を提案し、賛同を得て翌四十七年六月一日（木）第一回ゴルフ大会を実施することができた。名称は川中二〇（ふたまる）会、即ち二十年川越中学にお世話になり、二十六年川越高校卒業までの間在籍した同期生の会という事で始めた会である。場所は川越初雁カントリー、川越カントリー、武蔵野ゴルフクラブと変ったものの初回十二名でスタート、途中消滅するのではないかとの当初の危惧も大勢の皆さんの並々ならぬ御尽力に支えられ、今日では申込順先着二十名締切り、キャンセル待ち多数といった盛況振りと聞く。平成五年三月十一日第八十六回、親交を深めながら春の一日を有意義に満喫できることになっている。創立九十五年の母校同窓生のなかでも他に類も稀な気心の合った同期生の集まりではないかと鼻を高くし、自慢の一つとして周囲に吹聴している。願わくは百回そして百五十回、いや同伴者居る限り永遠に栄えんことを祈念しているところでありませう。

またこれからも小生健在である限り、年始には皆さんに挨拶を送り続けたいと考えている。なお年賀挨拶届かぬときは伴侶に負担かける意志なしと心底心得ております故、床に伏すか既に土の下で静かな眠りに就いているものと独断認定差支えなし、どうぞよろしくお願い申し上げます。

思えば縁あって人生の基礎形成期、多感な青春、善きにつけ悪しきにつけてお互いに多くの助力影響を与えながら学んだ総ての友を敬愛し、感謝の念寸刻も忘れず、微力ながら精一杯の奉仕を心掛けてきた成果、ささやかなり

とも同期生のお役に立てることができたのではないかとこの幸せ、感慨も新たに自己満足を覚える今日この頃となりました。

追記・川中二〇会

「友を敬愛し」で触れているが、皆さんの要望、否命令に応え、再び「ふたまる会」についてペンを走らせる羽目になった。

昭和四十六年六月六日(日)開催の、第一回全クラス合同の懇親会での、ゴルフ愛好会結成提案への賛同者は多数であったが、翌年六月一日(木)の第一回コンペ参加者は十二名即ち三組であった。初回としては上出来の部類と勝手な評価、どうぞお許し下さい。

幹事役は斉藤恒、松村祐二、水村哲也の川越トリオ。場所は水村が川越初雁CCの役員ということで、多少融通が利くのではないかという思惑から選んだので、勿論松村と二人の仕業である。競技 27ホールストロークプレイと張切った案内を書いた。原稿は今でも手許に残っている。実際には懇親会を重視、お陰で18ホールとなった。ルールスルーザグリーン・ワンクラブプレーソク(二回目から六インチと変えた)。ホールアウト・ワングリッポOK、その他、ローカルルールによる。ハンデII申告制(紳士を信用) 但しクラブハンデ又は競技会ハンデのある者はそれによる。賞II優勝、一位、二位、ニヤピン、参加賞で始まった。ドラコン賞については飛ばし屋は決まっている様なものでつくりせず、第十三回以降の賞である。BB、ラッキーセブン、大波、小波、当日賞などその時々の場面で当番幹事のアイデアで勝手に決め、購入して来た賞品を配っている。

会費は初雁のメンバー三千円、ビジター三千五百円。これでキャディー費を除き、昼食、競技終了後のパーティー代を含む一切の費用。これはビジターも水村の顔をあてにして設定、案内したもので大失敗、大赤字を負担させられる破目となり反省。同情者も出て有難い事に第二回からは参加者に千円前納を義務づけ、これを連絡費、賞品代、パーティー代などに充当、個人の諸経費については各自精算に変更、現在も行われているシステムとしたのである。

有志から寄付を募り、第三回からは持廻りの豪華な優勝杯も出来た。歴史が刻み込まれたカップは、今でも優勝者の手から手へと大切に引き継がれ、いよいよ重みを増して来ている。

賞品については会を盛り上げる意味で、各自一点ずつの持寄りを義務づけ、交換会形式をとり賑やかなものに発展して来たがいつしか消えてしまった。ただ青木勘輔・小沢孝志の出席する会では、両君が今でも副賞を寄付し続け、皆さんから大いなる歓迎を受けている。

当初コンペの連絡案内役を担当し、会社内で周囲の目を盗んで行っていたが、初め笑って見逃してくれた同僚もいつしか眼差しが陰しく変って来る。上司からは仕事の割当量も増やされ多忙を極め、已むを得ずサイドビジネスは家庭へと持ち帰った。

「川中二〇会」五回も続けば基礎づくりは終了と思ひ、メンバーと談合の末、第六回からは優勝者とブービーの二名で幹事を担当してもらう事に決め、以後この方式がとられている。

会場についても他の場所という意見が屢々出たが思うようにならなかった。漸く新井治雄が勤めていた川越Cに決まったのが、第九回、四十九年八月二十二日からである。以後お世話をかけ続け初雁には戻らなかった。結

局初雁CC八回、川越CC四十五回 新井の転動にともない武蔵野GC(第五十四回、六十年三月六日)に移り三十二回を数える。途中浮気をしたのは第五十三回、川高第五回卒(いぬい会)との合同コンペ、武蔵CC豊岡コースと、第六十回記念大会甘楽CCの二回だけである。

第一回の優勝に輝いたのは山田和宏で、アウト47、イン43、トータル90、ハンデ26、ネット64、実に8アンダーという驚異的なスコアであった。賞品は水村寄贈の大トロフィーと、小沢寄贈の和服姿もあてやかな豪華な日本人形を副賞として獲得、奥さん呼び寄せ愛妻運転の所謂サ、イカーに乘車、得意満面引き上げて行った笑顔は今でも忘れられないひとこまである。第二回堀陽、第三回中村生秀と優勝は続き、八十七回チャンピオンが生まれているが、公平に優勝にあやかれる為に上位入賞者については、次回からのハンデを厳しく修正している。優勝三割、一位二割、二位一割、マイナス後アンダー分差し引くと最初はしていたが、第十六回からアンダー差し引き後優勝三割、準優勝一割、三位〇・五割を引くと改正、同ネットの時はハンデ上位者が上位から、現在はジャンケンで決める事になっている。入賞呼称についても優勝は変わらないが、一位二位から二位三位と、幹事の裁量で変ってしまう。今は優勝、準優勝、三位という事で定着した感がある。とは申せ肝心かなめのハンデ修正にしても、決定に意義申し立てをすれば個人のゴリ押しも素直に受け入れられよう塩梅されている。その時の仕草や口頭弁解の優劣が大きく左右貢献する習わしなのである。それぞれ口角泡をとばす場面もあり、気性剥き出しになる実に面白いひと幕の上演もあり、傍目では実に愉快なひとときでもある。何れにせよ、裁定は時の幹事の腹づもり、独断と偏見大幅に罷り通り、シャンシャンシャンの誠に和気あいあいの楽しい同期生である。

長い歩みの中で優勝回数の筆頭は小沢孝志の七回、次いで山田和宏六回、青木勲輔、益子弘道五回と続き、連続

制覇となると四十回四十一回の青木、四十八回四十九回を制した新井貞夫の二名であり、ベストスコアとなると第八回沼田芳造の76、この時はアウトワンアンダー35と見事なスコアを記録したのである。又、ワンハーフを四回行っているが、第七回同じく沼田の120がベストで共に初雁CCのものである。川越CCでは水村哲也の第二十二回の78、武蔵GC第六十六回の新井治雄の同じく78、流石地主の貫禄と敬服する。

記録といえれば第五十回記念大会で、松村祐二が川越CC西八番で、ホールインワンの大記録を達成している。その後青木が記念大会でホールインワンを出した者には、乗用車贈呈を申し出、その都度案内されるが例会ですら記録する者がいない快挙である(松村は後日某料亭に関係者を招待、全私財を投じて大パーティーを開いた)。過去十回の優勝者によるレブリカ争奪戦も八回行われているが、同ネットの場合モーニングファーストという取決めもある。まだ二個のレブリカは持ち帰った人はいない、如何にも互譲精神の厚いメンバーの集りであるかが窺える一面と、高い評価をせざるを得ない。

ハンデ改正は第二十一回、第六十九回の二回行っており、近々三回目を行うべく現在準備中と聞いている。過去最高ハンデは、水村の2ということであるが残念ながら他界し、第三十回を最後にノートが変わったのと同時に二冊目第三十一回(五十四年六月十四日)以後名簿に残されていない。約半数百名に近い同期生が一度は参加してくれた二〇会ではあるが岸昌次、田口陽世、水村哲也をとして五月大澤米吉が故人となり寂しい限りである。改めて御冥福をお祈り申し上げる次第である。

天候は心がけに左右されるものと相場が決まっているらしいが、皆さんの平素の行状の証明を調査した結果はクリンなものであった。天候に災いされ延期されたのは唯一度だけで、第五十八回(六十一年二月二十日予定)の例会

が降雪のため四月十七日（幹事さん悪しからず、参加者の中に心がけの悪い者がいたんですよ）に実施されただけである。

その後第六十四回は台風十三号関東に接近のため風雨強かったが決行する。後半は快適となると記されている。当日優勝はネット91で宇都野正章、高橋幸男、小熊忠三郎の三名が該当。相談のうえ未経験の小熊と決定、準優勝三位はそれぞれハンデ順としたとある。同期ならではの微笑ましい配慮であった。第六十一回のベスグロ賞も面白い。加藤博と山田和宏のくじ引きとなり、加藤に女神がウインクしたのである。連続出場十回の表彰状を持つ小生も業務に追われ、欠場勝ちになり、長年の夢であった優勝杯をやっと手に出来たのが第八十六回、平成五年三月十一日、実に二十二年目の快事である。由緒あるカップも収納箱の痛みが激しいので、新品と交換したいと専門店へ駆け込んだ次第であるが、新調は申すまでもなく修理すら不能と断われ、当座は処分の相談まで浮いたものであった。しかし帰宅し床の間に飾って見ると重厚な輝きのあるカップ、安易な処置は許されぬと気付き、第八十七回皆さんに凶り、そのまま延々と引き継ぎ最後は健康で長生き、あの世行きを頑固に拒み続け、我慢比べの優勝者即ち生き残り、友人から供養も受けられない、孤高の御仁へのありし日の仲間からのプレゼントにしたい。そしてその家の子孫への家宝となれば幸甚という、取決めも出来たのである。

第八十七回は去る六月二日に行われた。不思議なものである、キャンセル者が出て急遽呼び出されたピンチヒッターの斎藤清一が大ホームランの優勝、締切り後頭を下げた人格者大川解が準優勝、そして誠に申し訳なかったのであるが、海外旅行中欠席裁判、本人の承諾抜き強引な勧誘で、時差ボケも直らない糟谷熊がBB、次回幹事として骨を折られる結果となり、詫びを入れたが御本尊様は例の笑顔で快諾、次回も肩身の狭い出会いとならず安心し

て出かけられそうである。

こんな具合だが、還暦を迎え会社を定年となったり、家業を次代に引き継いだりの人などひと区切り、現役時代と違い、多少体には余裕ができた方も増えてくる頃かと思われます。改めて同好の方々に連絡誘いあって、新会員の掘り起しに努力、メンバーを増やして、第二の人生ワイワイやるのもいいでしょう。御賢察のうえ遠慮せず御参加下さい。昭和二十年から二十六年、どんな短い出会いでもみんな同期の桜、川中二〇会隆盛発展のため気楽に顔見せをよろしくお願い致します。

皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げ筆を置くことに致します。

なお敬称略、また記憶相違、調査不足のため記載漏れなどは友人の誼よしみに免じ、平に御容赦の程よろしくお願い申し上げます。

平成五年六月記



定年式で川高の校歌を歌う

第五部「特集・III」

職員室

反省……三尺進んで師の影を踏んではいないか？

キタ・セクスアリス川中

職員室



思えば先生って不思議な人々だ。あのトクさんも忍テも、今の我々よりは年下だったはずなのに、とてもそんな風には思えない。

実際、先生は長命だ。少なくとも教え子の最後の一人が生きている限り、御顔も声もあの頃のままで生きておられる。そして我々は今の自分より若いあの頃の先生から、今もいろいろ教えを受けているのだ。

何しろ塾のなかつたあの頃、先生は勉強はもちろん、我々の悩み、相談その他全てを一手に引き受けてくれた、もう一人の親だった。

それなのに、この文集の至る所で先生を馴れ馴れしくアダ名で呼んだり、狂言廻しに使ったりして、たいへん失礼があつたように思えてならない。

それが我々の懐かしさ、敬愛の情の表れであることは先生方にもお分かりいただけると思う。三尺進んで師の懐に飛び込んだ人も、或いは五尺下がって師の影から逃げ出したヤツも、その心の中は、先生に対する敬慕の念でいっぱいなのだ。

そこで、この特集の「職員室」を先生方に捧げ、その罪滅ぼし? としたいと思う。ともかくも、今日の我々に残された、先生方の大きな置き土産に感謝しながら……。

S.23.春 教職員 (敬称略)

(写真提供 西澤孝先輩)

後列左→〇〇、長谷川(事務)、佐藤

仲、関根、山口、田中、関根(事務)、本橋、河盛

前2列左→望月、野口、岡田、横田、忍田、松本、芳村、那須、掛原、原田、大護

前左→石川、鈴木(睦)、松田、市川、木村(冉)、日新、小島、西川、佐々木(信)、鈴木(業)、佐々木(太)

「職員室」に寄せて

小林 洋 左

(前川越女子高等学校長)

戦中から戦後にかけて、未曾有の激動期に、しかも、明治以来の一大教育改革の中で学校教育を体験した私たちはいわば、この時代の生き証人である。入学後わずか五か月足らずで敗戦を迎え、その後、物心両面の貧困と混乱の中で中学校・高校時代を過ごした日々の思い出は尽きることがない。

今日では、高校は「国民的教育機関」となり、内容もきわめて多様化した。同時に生徒の意識、親の期待や責任感、学校の指導力など、いわゆる教育力は、とみに低下しつつある。私たちの頃は、画一主義的教育であったようにも思うが、それにも拘らず、多彩な人達が育ったのは不思議である。教育の評価というのは、なかなか難しいものだと思う。

私たちの記念誌の寄稿文には御薫陶いただいた先生方に関するものが多い。良きにつけ、悪しきにつけ、それ程鮮烈な印象を生徒に与える先生が多かったのである。「師弟の情思濃か」だったかどうかは別として、当時は師弟の関係が私たちの生活の大部分を占めていたのは事実である。先生方にとっても、あの時代、大変な御苦労があったのではあるまいか。威厳に満ちたあの態度の陰で、生徒を教育するに当り、苦しみ、悩まれたであろうことは想像に難くない。先生方も必死に生きられたに違いないと思う。

卒業後、半世紀近くを経た今、あの当時のことは、霧中に風景を見るように、穏やかで、やさしい。私たちは、全ての先生方に、敬愛の情をこめて深く感謝申し上げます、御恩に報いたい。

「先生！ これでヨクありますかーッ!？」

出会った教職員の皆さん

担任一覧	中1	中2	中3	10(高1)	11(高2)	高3
1 (A) 組	那須	那須	那須	松田*	佐藤	佐々木信
2 (B) 組	原田	原田	石川	佐藤	那須	掛原
3 (C) 組	忍田	忍田	忍田	望月	野村	木村
4 (D) 組	石川	石川	中?	木村?	掛原	佐々木太
5 (E) 組	佐藤	佐藤	野口	掛原	野口	西川

●学校資料による (西川) *10A 後半忍田の記録もあり (小熊)
中3…4 西川、10E 佐々木、11E 木村説も有力 (川合)

(3)入学後に入って来られた教職員 (着任順)

	S.20.4	23.4	26.3		科目	愛称・記事
	中学	高校入学	卒業時	卒業後		
○ 仲 良雲(矢口久)	20.4……	○……	○	33.3	英語	ナカ/ヤグチ在校中結婚 川中35期 仙波在住
○ 大護八郎	20.5…	○→23.7	定時制			国語/社会/西洋史 ダイゴ川越在住 県博物館長歴任
● 芳村信太郎	20.6……	○……	○	34.6	東洋史/社会	オミオツケ [西川のオヤジ]
● 西川喜四郎	20.6……	○……	○	卒業後	英語シブ六/アマガール	川中8期 愛知・鹿児島等、一中の歴任者
● 佐藤徳四郎	20.7……	○……	○	卒業後	漢文/国語/東洋史/俳句/源氏/論語	トクさん/トクシロウ/トコ
* 佐藤 大尉	20.7…?	?			配属将校	陸軍大尉 動員先に就任か? ほとんど接触もなし
● 鈴木豊和(梁山)	20.8……	○……	●	S24/2/8校	書道/ ラクサン/ジマン	川中21期 葬儀・墓所は観音寺46歳
● 須永西馬	20.9……	○……	?		校医	須永のオヤジ 川中13期 [正華院和教楽山清居士]
○ 秋葉 光	20.10…	○……	○	53.3	数学/幾何/ハナちゃん	川中34期
○ 望月良平	21.1……	○……	○	→23.12	化学	モチ 川中34期 牛乳ビンの底のようなメガネ
○* 秋山ふさ子	21.2……	○……	○	32.3		旧姓島田? 学校看護婦
● 福森 治	21.3…23.3				校長	軍職歴による追放
● 寺島光雅(天海)	21.4…22.7?				教頭	テンカイ/デスネエ
○ 松本利雄	21.4……	○……	○	53.3	体操	イグテン 三芳町で幼稚園長 H5埼玉陸連により表彰
●* 国田伝八	21.6……	○……	○	30.3	臨時校医	眼科 川中21期
● 本橋信治	21.6……	○……	○	34.3	教頭/化学/地学	ペーハー 番号=踏潮 川越工校長 (退職) H3校
* 田口千代子	21.7……	○……	○	28.3		事務員
○ 鶴野(天海)光	21.7~23.3				美術	日展に出品
○ 河盛銳治	21.9……	○……	○	27.12	数学/解析	ヨシゾウ/コースー (河盛好歳の甥)
● 島村盛助	22.1……	○24.4			英語	岩波で辞書を作っていたとか
●* 小沢俊郎	22.4~23.3				?	川中37期
○* 宮坂忠彦	22.6~23.3				?	川中41期、川高で定年 健在
● 小島鴻次	22.6……	○……?			英語	23年の50周年記念誌には載っている
● 日新義虎	22.7~	○24.8			校長	ヨシトラ/シコノヤマザル/ヤマザル
* 宮下盛利		23.4~25.3			解析/幾何	
○ 木村信寿		23.4……	○	26.11	化学/物理	キンタ (23年会報では囃子・物理) 私立麻布高校へ転出
○ 秋吉清雄		23.11…	○	46.4		
○ 大川明治		24.1……	○	37.4	物理	カブラ/オオカワ/アニキ 川中39期
○* 沢原正夫		24.3~25.3			東洋史	その後高校長歴任
● 近藤鉄城		24.4……	○	卒業後	国文	オケンへ転勤) S 6 0 年頃歿
○ 大沢 寛		24.4……	○	62.3	美術	健在
● 高橋 剛(徹?)		24.5……	○	33.3	?	川高定時制主事 現職で歿
○* 榎田英太郎		24.6~25.3			?	健在 川中34期
○ 平塚美治		24.7~25.3			定時制	?
○ 荒井 実		24.8……	○	28.8	校長	ミズク 熊谷在住 (健在)
● 木島平治郎		?……	○	卒業後	英語	キシマ/ヘージ
● 大沢龍男		24.9……	?		書道	(オケンへ転勤) S 6 0 年頃歿 号=史峰
○ 村松		24.秋~25.4			音楽	(初の女性教師・短期間)
○ 石川正明		25.4……	○	45.3	数学	高校長歴任 健在
○* 愛川敬武		25.4……	○	49.12	定時制・兼?数学?	ゴケザル 川女校長で退職
○ 小泉 功		25.4……	○	61.3	歴史/社会	ピテカン 郷土部のレベルアップに貢献
* 岩沢陽子		25.5……	26.3		定時制事務	
○ 末広幸子		25.5……	26.3		音楽	スエヒロ (後年ジャズで活躍)
* 佐々木逸子		25.5……	○	28.12	事務	
* 大沢和子		25.5……	○	30.4	事務	
●* 平 正夫		25.6……	○	42.3		(卒業写真にはお元氣な顔が……)
○ 北野茂夫		25.9……	26.3		社会?	川中39期 入間川から通っていた気さくな先生

◎基本資料=平成元年会員名簿17号

◎補助資料=昭和23年・創立50周年記念誌/昭和53年会員名簿16号

その他 =卒業写真、在学中の写真、80周年記念誌写真、編集室の記憶。

- ①行頭○印は平成5年7月現在、ご健在確認。またはご健在情報が伝わっている教職員。
- ②" ●印は物故された教職員。但し平成元年名簿及び、最近のクチコミ情報の範囲まで。
- ③" *印は記憶が薄い、事務や定時制、または直接授業を受けなかった教職員。
- ④任期は資料により食い違いがありました。嘱託、講師期間を算入していないものもあるようです。
- ⑤*印は資料にも平成元年名簿以上の資料は特になく、十分な追跡ができませんでした。

(1) 入学時におられて、途中で転出・退官された教職員 (退任順)

	入学前	S.20.4 中学入学	23.4 高校入学	26.3 卒業時	卒業後	科目	愛称・記事
吉川静雄	16.8.....	20.4				教頭	ボンチャン 小川高校→三島で教育長
福島 昇	17.4.....	20.5				英語	マンチャン 群馬高専に転出 健在の模様
●*牧野徹夫	16.6.....	20.6				英語	北海道へ転出→道教委入り→後校長
*野原茂之	19.3.....	20.6				?	川中先輩? 川越 (山田) 出身?
●関口文雄	14.11.....	20.8				美術	ゲタさん 熊高へ転出 日展入選
●金久保金治	19.6.....	20.8				教練	(配風将校、陸軍中尉)
吉沢幸一	19.11.....	20.9				教練	バカトレ アフリカ 万軍 (マンガン=万年軍曹)
○*大野誠一郎	19.1.....	20.9				?	毛呂山在住
●間中鹿太郎	?.....	?				剣道	(北辰一刀流七段) 剣道/体育 マヤイ
●長谷川貞平?	?				教務主任	数学 テーさん 軍籍 (海兵) によりバージ
○久保田太郎	18.7.....	21.12				英語	(ナンティン・フォーティシックス) 在郷軍人会役員でバージ
*横田忠輔	15.7.....	21.12				?	S.20.6応召
●小島承一	19.5.....	21.3				校長	(昭和朝の校長) 春日部高校長で退職
○鈴木睦雄	17.4.....	23.3定時制				国文(漢朝の校長)	東京大泉在任幼稚園長
●坂田今朝三	17.9.....	○...?				数学?	
●白井 正	17.4.....	○.....	23.11定時制			工作	ニュートン/ニューター 平成5年6月、80才で歿
○松田丑二	19.7.....	○→	(23.7定時制) →24.4			教頭/漢文/国語ランブー/プーラン	雅号=蘭風 飯能で健在 (89才)
○市川正男	17.4.....	○.....	24.3定時制			音楽社会	ラット 狹山高→蕨高校長→炭山市教育長 (退職)
○原田節二	19.9.....	○.....	24.3定時制→38.4再任			地理/社会/人文	アー坊/ハー坊 川中40期、川越西校長(退職)
●島崎幾雄	19.3.....	○.....	25.3			文法/国語	トーン
●木村 舟	19.5.....	○.....	25.5			教務主任/博物/生物/化学	サイ 番号=すすむ 平成4年歿
●*大塚釜衛	T15.3.....	○.....	○?(S23表彰)			校医	
●*大河内要三	T15.3.....	○.....	○?(")			臨時校医	耳科

(2) 入学時から卒業時までいっしょだった教職員 (着任順)

●長谷川弁治郎	T14.9.....	○.....	○.....	○	卒業後	事務官	
●関根正司	S11.4.....	○.....	○.....	○	27.1	事務官	松高事務長
○田中正雄	14.3.....	○.....	○.....	○	32.3	国語/漢文	ラッキョ 番号=榎魚
●野口邦雄	15.3.....	○.....	○.....	○	卒業後	英語/エクササイズ	/関係代名詞
●忍田豊作	15.4.....	○.....	○23表彰	○	卒業後	代数/数学	オシテン 昭和32年5月歿
○那須大輔	15.4.....	○.....	○.....	○	41.4定時制	→再任 教務主任/物象/物理/地学	ナス/ボケナス 長期入院中
○岡田幹雄	15.5.....	○.....	○.....	○	42.3	園芸/作業/農業	カンチャン 仙波在住 健在
*中島恒子	16.6.....	○.....	○.....	○	27.3	事務/書記心得	
○掛原俊雄	17.3.....	○.....	○.....	○	37.4	解/幾/数2・3	カケゾウ/ボヤソウ 松高(定) 主事退職川中26期
●野村尚良(闊)	17.4.....	(23.5現在、未復員扱い)	○.....	○	33.3	社会	アカジャガ 19年7月応召 平成3年歿
●佐々木太郎	17.7.....	○.....	○.....	○	48.4	西洋史/国史/東洋史	ギリシア/ギリシ屋 昭和62年5月歿
○横田稻吉	17.3.....	○.....	○.....	○	39.4	博物/生物	ゲジ/ゲジさん 82歳 健在
●佐々木信治	19.6.....	○.....	○.....	○	34.3	国文ドンチャン/吞龍	川中25期 (野球部)、大宮壘学校長で退職
●石川正男	19.10.....	○.....	○.....	○	32.3	体操/体育	ゴエモン/アツバク/アツチャク 東松山南
○山口利通	19.12.....	○.....	○.....	○	28.11	定時制	柔道/体育 ヤンチ 仙波在住 番号=柳風

「職員室」担当グループ/西川 博(恩師の倅) 阿部新一(川高教員経験) 小林洋左(川女校長経験) 川合敬三(教育委員会経験)
/担当 水口重雄(小学校長経験) 清水良平/作表 青柳安彦
協力 市川正男先生

パフォーマンスなど

- 木村冉⇒★決まったことは決まったことだ！（生徒会費値上げ反対に対し）
 佐々木太★（大きな声で）第4小隊！（小さな声で）集合終わり。
 ★ギリシアは……。★ミケーネ文化と古代ギリシア文化の……。
 ★自分のシリの穴から出た気体を人の顔の真ん中にある鼻の穴から体内に入れて平気であるというのか？…（授業中、尻をしたヤツに）
 ★「ギリシア」と言おうとして「ギリ」まで言ったところでベルがなり「ギリ……終わり」とやった。
- 西川 ⇒★ア・マ・ゲーる。（I'm a girl.） る！る！……口をよく見て！
 ★よく読めるように。よく訳せるように。暗唱して書き取りを習って来なさい。
 ★Hail to Sie! Bride spirit. Bird, thou never wert. Like a cloud of fire,
 ……
 （リンガフォンが何かレコードを持って来て模範を聞かせた）
- 大護 ⇒★宮本武蔵、巖流島の決闘の話（吉川英治の本だった）
 望月 ⇒★焼いた鉄を水に入れて急激に冷やすと丈夫になる。これを「ヤキを入れる」という。その逆を「なまし」という。（「ヤキヲ入レル」という学生陰語が出たのでみんな大喜び。だが先生、意味が分ならず）
- 久保田⇒★ジス・イズ・ザ・イヤー、ナインティーン・フォウティシックス。
 ★（級長）スタンダップ！（生徒）ア～イ スタンダップ（級長）バウ！（生徒）ア～イ バウ（級長）シッダウン！（生徒）ア～イ シッダウン
 （細淵が「ア～イ スタンダップ」を「オーシテンダップ」と言って面白がっていたっけ）
- 野口 ⇒★Yes, Good! ★オーライ、ザッツライ！ ★関係代名詞
 ★エクササイズ（先生手製のガリ版の副読本でやった）
- 仲→矢口★新婚 ★怪傑黒頭巾（天命堂）……自分が読みたかった？
 日新 ⇒★～テ言うことは…。★～テ言うことであるでシュ。
 島崎 ⇒★おまへたちはだナァ…… ★ザインとゾルレン（態様と当為）
- 鈴木へちマ★（お化け、ブンシローとも）お化けの話が得意
 鈴木楽山★〔飛田井天来の弟子、紀元2600年記念展2位の栄光。在学中逝去）
 ★こう書いて…こう！ ★私のもっともジマンとする所であります。
 ★開成中学では… ★筆を買うのはクスリを買うのと同じであります。
 ★私は好きで赤い襦袢を着ているのではありません。それを笑うとは何たる失礼な！（身体検査で赤い女物の襦袢をダイゴに笑われて）
 ★一波三折。★意前筆後。★その顔の丸い子！（糟谷クマさん？）
- 白井 ⇒★コンクリートのヨウジョウ
 （若い頃のカッコいい武勇伝が伝わっていた）
- 芳村 ⇒★ルビー、サファイヤ、オミオツケ。
 木島 ⇒★アメリカの母親は子供に向かって父親のことを“My husband”と言うんです。
 （商船大学から来たすばらしい先生だった）
 ★At his first appearance in Parliament, he showed himself superior…
 ★Fla-tter-ing and dan-cing with the Da-ffo-dils.（詩の読み方）

（終戦直後の名言集）

- 原田 ⇒★あれは、マ、軍閥にダマサれていたんだナ。（2学期初日、ニヤニヤ照れ笑いしながら）
 山口 ⇒★武士道＝ヤセガマン（黒板に大書した）
 島崎 ⇒★英語を知らないヤツが、ハバ・ハバなんて言っているが、あれは、ハリイ・アップの間違いだナァ。（それも間違いい？）
 掛原 ⇒★お前たちは自由と放縦をハキ違えてらァナ。



- 間中 ⇒★剣道はマヤイが（間合いが…）。 ★1眼2アシ。
- 吉沢 ⇒★こお〜ずかい（気を〜ツケ）、バカタライ！（バカトレ！）
★歩兵操典には、こう書いてある。★「足ヲ少シク曲ゲ……」
★お〜い、ウンコォ？（…教練途中で、トイレへ行く生徒の背後から）
★木銃持って、上半身、半裸体で集合！ ★アシが交差している！
- 岡田 ⇒★お〜い、あっつまれヨーン。
★ヒィ・フゥ・ミィ・シー……ここまでタメかつぎ。
- 松田 ⇒★ピンク、ゲン骨、雨あられッ！
★授業中に雑談していると白墨を投げ付けた。（命中しない）
★庭球部の優勝に感動し、朝礼で自作の詩を発表。（S.21秋県下中等大会）
- 寺島 ⇒★…デスネェ。（戦闘帽がいつもアミダで横っちょ向き）
★来週はですねェ、インそく（遠足）をやりたいとオモウン。
- 那須 ⇒★僕は那須です。（「ボケナスです」と聞こえた）
★天皇陛下の赤子（セキシ）として恥ずかしい！ 情けない！
……もう少し反省したらドーダ？ 終戦5年！
（樺太から川中に転勤して来て「暖かいからボケてしまう」…でボケナス。
アインシュタインに触発され、ヴァイオリンを習おうとしたことも）
- 原田 ⇒★概観的に言うとな。 （後に「景観的」と言い換えるようになった）
★もうオトナなんだから、男同士は「貴様」、「俺」と呼ぶんだナ。
★この戦争は今のままで行って引き分けに終わればオンの字だナ。
（当時としては「勇気ある」というよりは、オソロシイ「国賊的」な発言だ。でも、これは「いいニュースが入った。ルーズベルトが死んだそうだな」と言ったあとに関連的に話されたものではなかったかと思う）
- 忍田 ⇒★第3小隊、集合終リッ。 ★だァだ、だァだ、話オシテのは？
★黒板に白墨でくずし字を書き、ほめられるとゴキゲン。
（空襲警報中に防空壕の中で小用を足し、みんなが壕の外へ逃げ出したので今度は先生が大慌て）
- 石川 ⇒★師範時代に駅伝選手で全国1位にも……。
★グラウンドに線を引き、それ以上飛ぶと2塁打（怪しい野球の講義）
- 佐藤 ⇒★お前たちは、すぐに米1升だ（ワイロを批判して…でも、自分も欲しかった？）
★マルコーの3倍（公定価格の3倍——ヤミ値のこと）持って来い。
★「朝顔の外に漏らすな竿の露」（トイレを汚す奴に。——朝顔には竿の露が良いとか…）
★日本人に生まれた最大の幸せは源氏物語を原語で読めること……。
★もう山もヤメた。野球もヤメた。俳句にすべてが含まれている……。
★丹塗りの矢もてミホトを突く（古事記？） ★戸マラと戸ボソ（ㄥ）
★宦官とは、ノーチン刑にされた者たちのことだ。
（トクさんにはいろいろ逸話が多く、一番懐かしい恩師の一人。教え子に霧島昇、小学校代用教員時代の同僚？ に草野心平、が自慢）
- 佐々木信★（俳句のような）短い文ばかり書いていると長い文章が書けなくなるぞ。（なぜか、ソナタ形式の講義をしたことがある）
- 掛原 ⇒★Yは、エックスの2乗であるからして…。 ★いいな？ 分かるな？
★そんなこと、誰も言っちゃいやしねェヤナ。
★お前たちはタッタ今教えたことをスグ忘れる。まるで田舎のニワトリだ。
★馬鹿、ばか、バカバカバカ……

教職員、住所

(五十音順)

● 私たちの在学中の教職員のみ収録。平成元年の名簿を基礎に ①住所は調査・判明分のみ訂正 ②不明者および、判明せる物故職員は削除。……学校にも平成元年名簿以上の記録はないよう、同名簿以後の移動・変動は必ずしも正確にフォローできておりません。
敬称略)

氏名	在任期間	〒	住所	電話
愛川敬武	二五・四〇四九・一一	三五〇	川越市岸町一―二十三六	〇四九二―四二五二三二
秋葉 光	二〇・一〇〇?	三五〇	川越市松江町一―十四九	〇四九二―二二一〇五九五
秋山ふさ子	二一・二〇三二・三	三五〇	川越市小仙波町一―二十二二	〇四八五―二一―二〇八一
荒井 実	二四・八〇二八・八	三六〇	熊谷市榎町一四一	〇四八六―八三―五二九三
石川正明	二五・四〇四五・三	三三〇	大宮市風渡野三九五―四	〇四二九―九五―〇三四一
市川正男	一七・四〇二四・三	三五〇	川越市川越一六六六	〇四九二―二二―四九三五
岩沢陽子	二五・五〇二六・三	三五〇	川越市仙波町三―一四二二	〇四九二―二四―五八七一
大川明治	二四・一〇三七・四	三五〇	川越市仙波町一―三一九	〇四九二―二四―五八七一
大沢和子	二五・五〇三〇・四	三五〇	川越市仙波町一―三一九	〇四九二―二四―五八七一
大沢 寛	二四・四〇六二・三	三五〇	入間郡毛呂山町諏訪一五二三	〇四九二―二四―五八七一
大野誠一郎	一九・一〇二〇・九	三五〇	川越市仙波町一七五	〇四九二―二四―五八七一
岡田幹雄	一五・五〇四二・三	三五〇	川越市通町九―一二	〇四九二―二二―七五四三
掛原茂雄	一七・三〇三七・四	三五〇	川越市通町九―一二	〇四二四―七一―二七四
北野茂夫	二五・八〇二六・三	二〇三	東久留米市氷川台一―二三一四	〇四八六―八四―五〇六五
木村信寿	二三・四〇二六・一	三三〇	大宮市大和田町一―二三〇一六三	〇四二九―五二―三三五
久保田太郎	一八・七〇二一・二	三五〇	狭山市柏原一四三六	〇四二九―五二―三三五
小泉 功	二五・四〇六一・三	三五〇	川越市仙波町二―七一一七	〇四八六―五二―四七七八
沢原正夫	二四・三〇二五・三	三五〇	大宮市植竹町一―三三四一五〇二	〇四八六―五二―四七七八
楢田英太郎	二四・五〇二五・三	三五〇	川越市郭町一―一一〇	〇三三九―二四―〇六九八
鈴木陸雄	一七・四〇二三・三	一七八	練馬区南大塚四―四五五	〇四九二―四三―二二九九
大護八郎	二〇・五〇二三・七	三五〇	川越市南大塚一〇八六―四	
田口千代子	二一・七〇二八・三	三五〇	川越市宮下町四三二	

田中正雄	一四・三〇三・三	三六九・一一	大里郡川本町田中二八四・一	〇四八五・八三二・一八三
仲良雲	二〇・四〇三・三	三五〇	川越市宮下町二一四・一三	〇四九二・二五〇・七〇四
中島恒子	一六・六〇二・七	三五〇	川越市六軒町二〇〇	
那須大輔	一五・四〇四・四	三五〇	川越市郭町一・一五・九	
原田節二	一九・九〇二・四・三	三五〇	川越市豊田本一・九四・五	〇四九二・四三三・〇四六九
福島昇	一七・四〇二・〇・五	三七〇	高崎市江木町五五三	〇二七三・一三三・一三〇八
松本利雄	一九・七〇三・七	三五七	飯能市稲荷町五・一四	〇四二九・七二五・〇一一
宮坂忠彦	二一・四〇五・三・三	三五四	入間郡三芳町上富一六三・五	〇四九二・五八〇・九六〇
望月良平	二一・六〇二・三・三	三五五	東松山市日吉町二・一六・五	〇四九三・二二二・二二八
山口利通	二一・一〇三・三・一	三五〇	川越市幸町八・三	〇四九二・二二三・〇三〇八
横田稲吉	一九・一〇二・八・一一	三五〇	川越市仙波町三一・九・四	〇四九二・二二三・〇九一七
吉川静雄	一七・三〇三・三	三五七・〇二	飯能市坂石町一〇七・三	〇四二九・七八〇・一一六
吉沢幸一	一六・八〇二・〇・四	四一〇・一三	静岡県田方郡大仁町三福	〇五五八・七六五・一七一
	一九・一一〇・九	三五〇・〇四	越生市古池三七	

物故職員	逝去	〒	墓所	電話
忍田豊作	S・三二・五	三五〇	川越市仙波町三二・一・三三 長徳寺	〇四九二・二二二・二〇三一
近藤鉄城		三五〇	川越市小仙波 光西寺(近藤哲城)	〇四九二・二二二・一六七〇
佐々木信治	S・六二・五	三五〇〇四	入間郡毛呂山町長瀬 一三二二 武蔵野霊園	
佐々木太郎	S・四〇頃	三五〇	川越市小仙波 光西寺(近藤哲城)	〇四九二・二二二・一六七〇
佐藤徳四郎	S・四〇頃	九八三	仙台市宮城野区福宝字松堂七〇 西光寺	〇二二・二五八・〇二〇六
鈴木豊和	S・四七・一一	三五〇	川越市石原町一・一八・一 観音寺	〇四九二・二二二・一七二二
西川喜四郎	S・四七・一一	三五〇	川越市小仙波 一・二〇・一 喜多院	〇四九二・二二二・〇八五九
遺族	注	〒	住所	電話
忍田すみ	忍田先生 娘さん	三五〇	川越市仙波町一・一五・一一	〇四九二・二二二・四四一五
後藤瑛子	佐藤先生 娘さん	一九三	八王子市日吉町八・一二(狭山清陵高校家庭科の先生)	〇四二六・二二二・〇五七六

基礎調査/水口重雄・小林洋左・青柳安彦/協力・斎藤 恒

牛夕・セクスアリス川中

シヨージ・MATSUOCA

(一九九三)

十二歳になって城下町川越の県立中学に入学した。入学式の校長先生のお話は、戦場本土に及んでいる現状での中学生の心がまえを述べられ、お前達は近郷の町や村で一番二番の優秀な者達だけを選んで、この学校に入学させたのだから、たとえそうでない者もそれを誇りに思つて一所懸命勉強して立派に成人し、一日も早く戦場に赴き、天皇陛下の赤子として靖国神社に祀られねばならない、という悲壮なものであった。

そう聞いて周りを見まわすと、土の中から掘り出して来たような田舎の悪童が急に凜とした由緒正しい少年達に見えるから不思議である。

時は昭和二十年四月、桜ほころぶ新学期で、この稿を書いている今から数えて、四十八年前のことであるが、緒戦勝利に沸いた戦局も、四年目に入り相当不利となり、空には硫黄島から飛んでくるP51ムスタングや、沖合の航空母艦を発進した艦載機グラマンが飛び交い、気まぐれに行われる超低空機銃掃射を何回となく体験して慣れてしまったその頃でもあった。

この様な時局をうけて、世の中に流れている情報は、戦争と天皇陛下の事ばかりで人情のあるお話は薬にしたくても皆無で、これでは僕等も色気づきようがない。

小江戸といわれた所故、その昔、ゴッホやモネのど肝を抜いたという歌麿浮世絵の秘本や、歌舞伎町や吉原よりはるかに古い伝統をもつ、小仙波遊郭をかかえる川越だった筈だがその当時の大人達は余程子供にそれをかくすのがうまかったと見え、名門川越中学に入学して来た二百余人の神童達で、この方面の基礎知識をもっている者は皆無であつたのではないかと思う。

そんな時代ではあつたが、人間は個人差、つまり早熟^{ワッセ}と晩生^{オクシテ}がいるもので当時の僕等でも、まるで小学一年生にしか見えぬ坊やから結構、貧弱な先生よりは背丈も大きい位の、一見大人のような者もいたりして、最初の交遊は自然体で体格の似た者同士から始まつたようであつた。夏の終りと共に激しかった戦争も終り、予科練や幼年学校といった軍の学校から帰つて来た、まるでおじさんの様な人が加わつて珍しかった。元戦車隊の関根さん、海軍の岡本さんなど、大きな体を小さな机に押し込むようにして子供に囲まれ、ABCを学ぶ姿は書かれない戦後史の一コマであつた。岡本さんは入学以来のノートをまとめて借りたお礼に、僕を弟のように可愛^{アハレ}がつて下さつたが、二人の身長差は優に六十センチはあつたと思う。時々お説教と称して襲^{ウラガ}ってくる上級生も、岡本さんが一睨みすると逃げていく。全く有難いパトロンであつた。軍隊帰りの彼の可愛^{アハレ}がり方は手荒く、僕を抱き上げて空中に放り上げて受け取つたり、肩車をして校庭を全速力で駆け廻つたりする。或る時興に乗つたか、笑いながら僕の両足首をつかんで逆さにつり下げ、生物室の窓からぶら下げ、ズボンのすそからフウフウ息を吹きかけるといふいたずらをされた。生物室は入学時の一年一組の教室だったが二階ではないが床が高く、その体験はとても恐ろしく、フロイトの精神分析どころではない。窓の横に出張つていたつかえ棒にしがみつき地上に飛び下り、教室に舞いもどつて、笑っている岡本さんの頭をポカポカなぐつてじやれたりしたのも懐かしい。南洋の島では少年の成人の日に割

札とかバンジージャンプと言って、片足に丈夫なゴムひもを括り付けて椰子の木の从上から突き落す儀式があるそうだが、僕は岡本さんにその洗礼をして戴いたことになる。あの海軍特攻隊の卵は今どこにおられるだろうか。

この本も人類有史の記録となつて世に残るものだから真実を書かねばなるまい。残念ながら僕と最初に川中に入学した地元の二百余人の仲間の中には、世にいう美少年と呼べる子は一人もいなかった。浄瑠璃の先代萩にへいずれを見ても山家育ちと云うくだけりがあるがここに集まつた童子達は武州川越、入間、高麗、吾野の山猿っ子、致し方あるまい。

帝都東京が連日のB29の爆撃に遭つた頃、続々と疎開生徒が転校して来た。文化の差というものであろうが、この子達はどことなく垢ぬけていて妙な魅力があった。田舎の子にとつてはこれがコンプレックスだったようで、これを題材にしたイジメ物語の記録も多いが、僕個人は断じてその様なことをした記憶はない。

その一人、M君——都立一中から来た子で色白の超チビちゃん。腫つぶらで奥二重、話す言葉は川越在のダンベエでなく標準語は少しキザな山の手弁。女の子の様なキレイな声で、あの語尾を妙たまなるアクセントで上げて甘えるように話す——例えば「ねえ、君。この問題解けるう？ ポクに教えて！」と小首かしげてニコリと顔をのぞき込まれた時の僕の文化ショックを想像してみろ。赤くなつて「知らねーよ」などとそつげなく睨みつけてはみたものの、新しい文化との出会いになぜかコーンしたものだ。この子の家に行くと疎開のわび住いとはいえども家具・インテリアは何となく東京の香りがただよ。本棚には彼のお父様の教養高い書籍がびつしり並ぶ中、夢に見た南洋一郎、海野十三の少年冒険小説。サトウハチロー、佐々木邦のユーモア文庫、少年文学全集など、川越図書館にもない珠玉の宝がズラーツと揃つていて、「あー、これが都会の文化というものか！」と飢えた小犬のように借りて

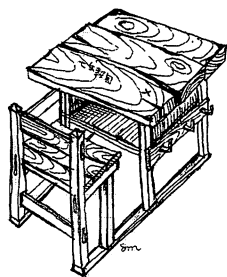
はむさぼり読ませてもらったのも懐かしい。僕の現在の常識というものはこの時の影響が大きいような気がする。同窓の或る偉いジャーナリストも言っておられるが、疎開はその当事者の方々にとっては、さぞ大変なことだったとお察しするが、文化の地方移転に社会史にのこる効果があったという意見に僕もうなずくものがある。

さて、この子達に目をつけた、というとかイヤらしく、この僕が変態みたいで人聞きがわるいが、東京っ子の文化を慕うというプラトニックな気持で彼をつけ廻したのだから誤解のないように。また僕も小柄で、あっちの方も全く目覚めていなかったから、小犬がじゃれ合っているような間柄から一步も出なかったのだ。

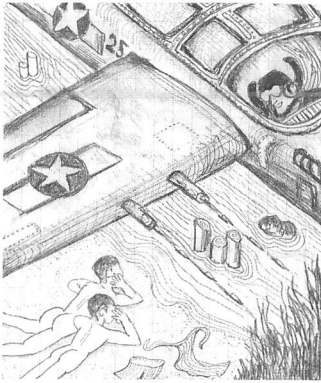
田舎の子は意地悪で「君」とか「僕」とか言っただけで生意気だといじめる風さえあつたりして、特に彼のような可愛い子は「カイボー」という怪しげな遊びの餌食になり勝ちなのだが、僕は彼がそんな目に遇わないようにたびたび陰で番長に話をつけては救ったことを評価してもらいたいと思っている。

思い出したので別の〇君との忘れ得ぬある想い出も書き残しておこう。彼は家も学校も空襲で焼けて川越の親類に預けられた気の毒な少年であつたので学用品を融通してあげたりしたが、チビ同士のよしみでたちまち仲よしになった。彼もよい家庭に育つた可愛いながらも気品のある子だった。

七月の或る暑い日だったがその頃学徒動労動員というのがあつて、僕等は市内の大きな繭まの製糸工場で働く予定であつたのだが、朝からアメリカの艦載機の空襲が激しく工場は休止してしまい、家に帰りそこなつた〇君は僕の自宅で待機をしていた。子供というものはどんな時でも遊びを考え出すもので、このチャンスに入間川の川原に泳ぎに行こう、ということになった。自転車のうしろに〇君をのせ西郊の小ヶ谷の川



カイボー台



空襲下の水遊び

原まで二人、水入らずの空襲下の道行き、ドライブと洒落て川原にたどり着くと、そこは警戒警報が嘘のような静けさで、水の流れの音以外人っ子一人いないロマンの世界。さて泳ぐ段になってO君はさすが東京のいい所の子だけあり、鷹揚なもので、白昼堂々大胆に全裸を見せることを一向気にしない。オロオロして目のやり場に困っている川越っ子の僕を逆に笑ったりする。実のところ僕の家は伝統で男の子は小さい時から越中フンドシなのだ。それを着けたまま泳ぐつもりだった僕は意表を突かれた形でまごまごしてしまっただが、エイままと僕もO君に付き合っテヌードになって水遊びに興じた。二人の白い下腹部は子供のままで、互いに安心した。その頃ともなると、級の中には先にそれを卒業した奴等が、優越感を持ち、寄るとさわるとカミノケや大ききの事を聞いて廻るおせっかい者がいたりしたので、チビの二人は妙に連帯感をもっていたのかも知れない。

水遊びの最中、町の方から空襲警報という断続サイレンの音が聞えて来て二人とも一瞬青くなったが、よく考えれば郊外の水の中に避難しているようなものだから、という理屈をつけて遊びを続けることにした。

ところがこの日は珍しく川越が本当に目標になった日で、いつもと様子が違う。川原の方迄激しい銃撃や爆弾の音が聞えて来た。川越駅で機関車がやられ、暴走した汽車が人をひいたそうだが、その時のことだったかも知れない。不安になった二人が水から上って下着をはこうとしたその時、グラマンの一機がいきなりあつという間にこつちにやって来て丁度僕等の頭の上で何かに向って機銃掃射をやった。すぐそばで聞く機関砲の音というものは、それはものすごい迫力のあるものだよ。ダダダッなんてもんじゃやない。水から上って着衣中の真っ裸の僕等、

河原の真ん中故、身をかくすものは全くなく焼けた砂利の上に折り重なって伏せるのみ。こういう時は恥しいもへチマもあつたものではない。驚いたことにこのグラマン、何ともっと高度を下げて引返してくるではないか！明らかに僕等を意識してだ。川の中に潜ろうかと考えたが膝がガクガクして立てない。手を伸ばせば届きそうな超低空の飛行機の窓から相手の顔もはっきり見えた。ゴーグル付きの飛行帽、白いマフラーをまき、口を開けている。笑っているように見える。初めて見る西洋人の顔だ。今朝沖合の航空母艦から発進し、川越という田舎に飛んて来たら川原に二人の少年が遊んでいて、機銃を撃つたら折り重なって頭かくして尻かくさずを地でやっている。面白かったのかも知れない。彼等だつてティーンエイジャーの悪童だ。いたずらつ気でもう一ぺん見に来たに違いない。笑っていたかどうかは別として僕はこいつと一瞬目が合った。僕等を撃つ程のひまはなかつと見え、そのまま飛び去ったが、彼は今七十歳位かな。ケンタッキーあたりで孫に囲まれ幸せに暮らしているかしら。この日の事は思い出すかしら。

この日の銃弾の薬莖を九発、僕は大切な記念として今でも持っている。またあの時下腹部に感じた焼けた川原の石ころの熱さが、自分の体が子供だった最後の記憶と共に忘れ得ぬ思い出として残った。

貴重な体験を共にしたO君とは兄弟のように仲よしでずうっと級も一緒だったが、卒業後天折された由である。僕が黄泉の辺ほとりに行く日、彼がああ時の姿でニッコリ出てくるような気がしてならない。

こういったメルヘンチックな想い出は、想い出そうとすれば他の人達との事も走馬灯のように場面がでてくる。この感傷を見事に打ち砕いた出来事の一つを書いておこう。

戦争が終り、折角仲よしになった疎開組が続々と東京の学校に復学し、さびしい思いをしたのは僕だけではなか

つたと思うが、前出のM君も都立一中に帰ってしまい、涙の別れとなった。その後六年の歳月が過ぎ心の痛手も癒えたところだ。川高を卒業して東京の街をブラブラ歩いていて、彼にバッテリー道で会ったことがあった。その時僕は長い間抱いていた夢はガラガラと音を立てて崩れた。何故ってあの可愛い坊やは僕よりも十五センチも上背のある気味の悪い位の大男に成長していて、おまけに鈴を転がす様なきれいな坊っちゃん言葉も声変りしてしわがれてしまい、「オウ、松つあん、元気かい」と来た時、幻滅の余り二日程ふとんをかぶって寝込んでしまった程だ。

その時浪人だった彼は一流の大学に進学し、今は機械プラントの有名な会社の社長をしておられるが、あの時のシヨックのおかげでいまは時々会う毎に赤くならないで済んでいる。

中学は剣道と柔道が正課だった。柳田らつきよう、藤田クロ、大沢ヨネさんなんかとダニや蚤の出る、汗くさい柔道場でドタンバタンと乱取りをした思い出がなつかしい。上級生には髻や胸毛だらけの大人のような人もいて勤労員先の工場からもどって来て一年生に稽古をつけてくれる。その中に僕にいやに優しい人がいて、しつこく教えてくれる。初めは自分は見所があるからだろうと光栄に思っ言う事をよく聞くことにしていた。その内押え込みとか、逆手とか、首しめとか段々と恐い技の指南に移ったのだが、何しろ体格がまるきり違うから寝技はワンサイドゲーム以外の何物でもない。その時上級生は僕等と違う匂いすることに気がついた。一歳年上のヨネさんの話では「あれはホルモンの匂いというもので、男ならいずれ誰でもそれが自然に出るようになるのだ。お前は未だなのかい、本当に知らねえのかい？ 子供だなお前は」とすっかり見くびられてしまった。この上級生殿、僕が余程気に入ったのかすぐのしかかつては押え込みをやる。可哀相な僕はすっぽり組み敷かれてしまって、身動き一つ出来ぬ。おまけに彼の臭い胸や脇の下で鼻や口をふさがれムンムンして目が廻る。南大塚、大東村の方に行くと広

い栗林があつて初夏ともなると花粉でそこらが真っ白になるが、あれと同じ匂いである。その内面白がつて本当に首をしめる。参つたのサインで畳をいくら叩いても放してくれない。——失神一步手前まで見計つて平気でやる。正にSM柔道である。習慣とは恐いもので最初は嫌だったがこれが楽しみになつたりしたが、これはフロイトの説ではどう解するのだろうか。時には先輩は僕に花を持たせて大げさに宙を飛んで投げられてくれて、これが元手要らずのご褒美のつもりらしい。何だか一瞬、自分が姿三四郎になつたような快感があり嬉しかったものだ。これにつられて僕はこの人を慕うようにさえなつた。

或る放課後、例によつて夕暮の暗い道場でドタンバタンをやつてるうちに、ふとした成り行きで皆どこかに行つてしまい、この先輩と二人きりになつてしまつた。小動物は猛獣の襲撃を靈感で予測し一瞬前に逃れるという。それと同じような何やら妙な予感がしたのだが上級生にそんな失礼なことは出来ない。彼は例によつて押え込みの技をかけ、ご丁寧に首までしめて、僕がぐったりしたところでいきなり或る処を軽く摑んできて、抵抗しないとみるや徐々に力を入れはじめではないか。僕はこれでもない所の坊やだから、こんなことは生れて初めてだし、又予備知識も全くなかつたのでびっくり仰天してしまつた。でも最初は稽古着の一部と間違えたか、ひよつとすると柔道の技の一つかなと、まだ好意的な解釈をしていた瞬間、彼は髻だらけの顔をほつべたに押しつけてきて耳たぶを齧るではないか。

キャーッてなもんで、僕は絹を裂くようなポインプラノで「山口センサー」と叫んだのが効を奏し、先輩が一瞬ひるんだ隙に子猫のようにするりと脱出し事なきを得



キャーッ 山口センサー

たのだった。師範山口ヤンチ四段は身の丈六尺、三十貫はあろうかと思われる大男で、上級生達が束になっても敵わない。その時先生は助けに飛んでは来て下さらなかつたがお名前の威力だけで充分であつた。くだんの先輩もとぼけた人でその直後もシラケることなく、何事もなかつたような顔をして型通り乱取りを続け、最後は道場正面の天照皇大神宮の神棚の前で最後の正座礼までまとめケジメをつけたから相当な豪の者だ。

この上級生は僕の進んだ大学で一緒になつた。いまでも親しくお付き合いさせて戴いているが、会うたびに不思議に思うのは、今は僕の方が大きくなつてしまつたことと、長い付き合いなのにアノ時の事は互いに覚えていない、未だに話題に出来ない、ということだ。

十三歳になつた。

——終戦直後の極端な食糧不足は続いていて栄養不足気味だが、僕等の体の方もそれなりの発達があつて一年前の上級生達と同じことをやり出した。全学級を挙げてまるでハシカのようにはやつた或ること——それは級友のあそこを矢庭に握る妙な遊びである。その流行を創り出した立役者はこの文集の編集委員にもおられるが、やる人は総じて当時体の大きな人、やられる子はオクテの小柄で可愛い子、という傾向が見られた。『デッチをあげる』という名言を創つたのは番長のY君である。僕は狙われる方の部類に入り、いつも「あいつらが襲つて来たらどう対処するか」ということに気をつけながら校内を歩いたものだ。丁度百獸同居のアフリカの草原の中でライオンのそばを通り抜ける子鹿のような心境である。

この問題は当時の栄光ある川中生のみが全員変態少年の群になつたわけではなく、同時代の男子中学の常識だつたらしい。三島由紀夫さんの佳作の中にも学習院をモデルにしてそれを美麗な筆致で書いたものがある。むしろ高

貴なお坊っちゃんま学校ほどこの流行は激しいという。恐れ多くも我々は明仁陛下と一つ違いか同年齢の世代に当る光栄に浴するが、陛下も御経験があるか否かは別として、この事はよくご存知の筈である。当時の加害者、被害者、共に恥じることはないのである。

僕の息子達に最近の子はコレをやるのか、と尋ねてみたら「飛んでもない！ そんなことをやったら変質者扱いにされ、女の子にモテなくなってしまう。学校中でそんな事がはやるなんて信じられない」と目を丸くした。どうやらこの風習は男女共学のなかった時代のフロイト現象らしいが、思い出してみると実に僕等の時代らしい話で面白い。鷗外先生もこれは書いておられない所をみると明治時代はこの風習はなかったであろう。

十四歳になった。

オクテの子ちゃんだった僕も先に大人になった連中に近づいてきた。背丈や体重が増えるのは当り前の話だが、もっと掘り下げた皆の自分史を思い出して戴く為のサービスとして、少し恥かしいけれど犠牲的精神で、僕流の青い果実の章をここで思い切つて書こう。

僕はあの方は相当オクテだったのでいつカミノケがのびて、その辺がいつ兄達と同じようになったのかは、本当に正直な話、気がつかなかった。或る日の事、それに気付く日が石川アツパク先生ご指導下の体操の授業の時やつて来たのだった。

前に書いたッデッチを上げる。大流行が潮がひくように鎮静化したある日の体操の時間のことだったが、百メートル短距離の記録をとることにになり、アツパク先生は悪趣味にも「少しでもよい記録を出すために今日はサルマタ一ツになって走れ」と来た。現代の子にも解説すると、当時はモノがなくて温かい気候の時は足はハダシ、上半身

はハダカというのが常識だったのだ。当時スパイクシューズをもっていたのは陸上の連中で、塩入リョーゼン坊、平岡マンモス、五十嵐トウショウ、宮崎ゴリさん、中島キサちゃん、橋本ショーチちゃんなんか、すらりと伸びた美しい足にスパイクをはいて、セクシーにトラックを走っていたのを思い出す、この時はハンデなしのため全員ハダシだったね。

身をかくす何物もないグラウンドの真ん中で急にズボンを脱げと言われて僕は青くなった。——というのは実は今でもそうなのだが僕の出身の四国の風習で前にも書いたが、下着は常に越中フンドシだったのだ——訳を話してズボンでかんべんしてもらおうと思ったのだがアツパク先生は「お前一人特別に扱うことは出来ぬ。越中を前後逆にして着けてバンドをしっかりと締めて走ればいい。お前も男だろ？ 何が恥しいか」とおっしゃる。

僕も後に引けなくて、白昼堂々と校庭の真ん中で着替えをして、日本初の陸上競技ハイレグルックとなったのだが、多くの名勝負の行われた百年の歴史をもつ川中のグラウンドで、全裸に近い姿の十四歳の少年が百メートルを全力疾走する——まるでギリシヤ神話のようではないか——栄誉になったのであった。

一緒に走ったのは木村サー坊。藤田クロ、内沼ジープ、石田ジャリ照だったと思うが、この時は僕が先頭を切り十四秒の記録を出したが、ジープはわけがあつてわざとゆっくり走ったようであった。

この時スポーツ選手が、着衣のマサツとかその時の興奮状態で起すという現象がゴールに飛び込んだ後に発生してしまい、それが突っ張って歩くことが出来なくなつてしまった。ジープもそうだったのではないかと思う。一緒にゴールに入った連中からは、それに気取られて仕舞い散々冷かされた。

おかげで一瞬、越中のマツというあだ名をもらい、やっと生え始めたとか、デカかったとか言いふれ廻られて恥

かしかつたが、今思い出してみるとそれも懐かしい。

これとは違う場面だったが、東大に合格した位の育ちのよい秀才のある子が、女物下着をはいているのを見つめられたとのデマが流れ、それにちなむあだ名が付いてしまった例があり、僕は親近感をもっている。彼は世に出てから立派な銀行家、証券畑を歩まれ業界では僕と同様謹厳な紳士で通っているが、今でも親しい仲間からはこの名で呼ばれている。

学校の授業の中でそれらしい想い出と言えば先にも書いたがナンバーワンは何と言っても漢文の徳入道先生が発した宦官ことノーチンだろう。また古事記を引用してニヌリノヤモチモトヲツクなどの名文句もおっしゃった。当時はこんな程度でもポルノ授業として話題になったのだ。国文の島崎トーン先生、すごい恐ろしい人で皆びくびくしていた。この人の笑った顔を見たことがなかったのだが、谷崎潤一郎の『痴人の愛』を教材にして詳しく講義をした時髻づらのトーンンの顔がかすかにほえんでいるのを僕は見逃さなかった。しかし、文中の若い女ナオミが何故主人公に馬乗りになる所がいいのか当時の僕はやはり理解出来なかった。生物の横田ゲジ先生は職業柄めしべ、おしべ、受精に排卵と黒板に五色のチョークでうっとりする様な綺麗な絵を描いて下さったが僕等は笑い声一つ立てられなかった。何故ってこの御方はジル博士的性格の主で生徒がうっかり図に乗ろうものなら、それはスゴイお仕置きをするクセがあたりだからである。僕なんかはマンマとその畏にひっかかりつい何か口走ったばかりに級全員が固唾を飲んで見守る中で、ハイド氏に変身したゲジさんの強烈なSM教育を甘受させられたものだ。その洗礼を喰ったイタイケナ美少年？を思い出してみると僕のほかに、宮崎ゴリちゃん、大井ヤスオちゃん、山田スカチン、渡辺カンちゃんと一人を除いて美形が多い。他の級の事は知らないが当時のことを懐かしく？思い

なくてオロオロしている奴等は、きつとヤケクソになってればかりしていたに違いない。僕は数学が好きだったので、この影響の実験を試みたことがあるが、確かに頭の働きの悪くする事は間違いない。森岡や佐々木や、清水のようにいつも席次が一番上の方の人達はこれを全然やらない人種であるに違いない——などと思ったりした。僕はニギビというものを知らずに大人になったところをみるとこの方も淡白な方だったかも知れない。

その当時の中学の便所というのは勿論水洗ではないから、今の子供達が見たら卒倒するような代物だったと思うが、六年間これを嫌だと思ったことは一回もない。当時の川中の便所は隙間だらけだったせいも、ポルノの落書きは一つもなかった。ただ不思議だと思ったのは小さい方の流末に溜る巨大な泡の「柱」である。休み時間になると何百人もの少年達が一斉に放流するのだから、その量は膨大なもので、泡の「柱」の高さは一メートル位にふくれ上り、盛り上る。

農業の岡田カンちゃん先生の僕にくれた話では、この年頃の少年達の出す物は非常によい物質が豊富に入っていて、これを肥溜でよく熟成させて作物に施すとスゴイききめが実証されるとのことだった。実際に一般のモノと川中から出たもので、きゅうりや茄子で何年もかけていろいろテストをしたが三年生の所から出たものは効果抜群で茄子の大きさは倍位に育ったそうである。あの泡の正体はその貴重な物質であつたらしい。ちなみに一年生のものは全てダメだそうである。

漢文の講義の中で宦官の説明で「ノーチン」の名コピーを吐いた徳入道先生が一時座禪に凝り、その教義をエスカレートさせて、生徒に便所掃除をさせたことがあつたのを皆覚えていると思うが、それは或る時中止になった。それはカンちゃんの抗議によるもので、その訳は「生徒達は嫌々やるから水を沢山使う。壺はすぐ水で溢れうすく

なつて作物に施しても何のキキメもなくなつてしまふ。付近のお百姓も引取り手が無い。佐藤先生がそれ程信念があるなら肥桶かつぎまで禪の教育に含めねばならない」という平素温厚な岡田先生にしては強烈な御主張であつた。佐藤徳入道がそれを受けて、先生を信奉する徳門の十哲を引きつれて肥桶かつぎをやつたかどうかははっきり記憶はないが、当時剣道場の北側と野球場の外野、川越城跡武徳殿間の畑を教場にして、その当時、川中に農業といふれつきとした正課があつた。自分達の尊い所からほとぼしつたものを肥桶という木桶に汲みとつて吊り繩に天秤棒を通し、両端を二人でかついで、ぼつちやん、ポツチャンと皆で仲よく農場の肥溜まで運んだのを思い出す人も多いと思ふ。

いまの川高へ行つてみるとこの辺はプールその他立派な高層の建物が建つていて昔の面影をしのぶべくもないが、一帯は六年間にわたつて僕等の純潔な精気を吸つた聖地と言へば言えないこともない。そんな感慨でトロイの遺跡を訪みたいな気分だ、あの素的だつた明治調の木造旧校舎の跡地に建つた、味もそつけない高層ビル校舎の谷間を訪ねてみるのも又一興かと思ふ。念の為にいうが現校舎は僕等の卒業後二年後の新造ビルなのだ。この事は誰も語りつがぬうちに歴史に埋もれてしまふだろう。だからここに書きとめることにした。

生徒による便所掃除はトクさんとカンちゃんの話し合いがついてしばらくして円満に中止となつた――。

終戦後言論・出版の自由が一挙に到来し、田舎町にもそれは少し遅れてではあるが確実にやつて来た。戦争中は伝染病の様に忌み嫌われた共産党が本川越駅傍に赤旗をなびかせ党支部を堂々とかまえ、天皇制打倒の街頭演説をしてきたのを鮮烈な記憶として覚えてゐる。級友も少年ながら何人か参加する人もいた。それと同じ様なテンポで軟かい方の情報もたちまち天下を席卷した。〇〇実話とか、夫婦生活とか、又入間川のジョンソン米軍基地か

ら流れてくるアメリカの、今というポルノ雑誌は、早熟な連中の愛読書となつたらしいが、残念ながら僕はその当時は目覚めておらず、そういうものがあるらしい、という把握だけにとどまって多くの友人の後塵を拝した。悲しいかな内なる応力が悪かったので申しわけないが社会評論だけにとどめる。僕は今に到るもこの種の雑誌、新聞は買った事がない。海外生活も体験したがよくお土産に本場物のアレをとたのまれるが約束を果したことがない。決して聖人ではないのだが、そのものズバリは少年の時から嫌なのである。

アメリカ映画が続々と上映され、当然接吻のシーンは出てくるのだが、最初は外人を人間と思っていなかったの一向驚かなかつた。初の日本人接吻シーン李香蘭改め、山口淑子と池部良による「暁の脱走」というのを見て仰天したのを覚えているが、それでも「俳優というものは可哀そうだ、あんな不潔な事をカメラの前でやらされて、それを皆に見られて」と同情した位であるから、当時の僕の開眼度のレベルは推して知るべしだろう。

「実演」という言葉は今では死語だが最初に観たのは僕等の年代であろう。川越のタイムズ・スクエア。連聲寺前のさかり場、善男善女集うメッカ、活動写真館鶴川座は忘れられない存在だが、時々東京から御来演のストリップも上演された。僕に十二歳も年上の兄がいて、悪運強く戦争では生き残り、先輩が皆戦死してしまったものだから後輩の陸士、海兵、予科練、はたまた特攻隊帰りの愚連隊のお山の大将になって意気がついていた、或る日、興行師から招待券がとどき皆してくり込むことになり、その一隊にまぎれて見学を許されたことがある。兄貴の名代役、髯づらの海兵帰りのGさんの膝の上でのおしのびの初観劇であつたが、その文化ショックは強烈であつた。



浅草ストリップショー
鶴川座来演

場内超超満員、舞台も客席も真つ暗、一か所だけ検視の警官席だけ灯がともるといふ異様な劇場構成。少しでも明るくしようとしてか、全員が一斉に煙草を吸うので場内は煙の渦。バックミュージックのハワイアンスタンダードの「南国の夜」の妖しい調べに乗って腰ミノ一つ、胸は赤い布を巻きつけた山田邦子を丸ぼちゃにしたような受け口の裸の女が舞台の袖からツツと赤いライトを浴びて出て来て、物の三十秒も踊らないうちに胸の布をハラリと落とし退場してオシマイ。それでも観客は怒るところかヤンヤの大拍手。大熱狂でめでたしめでたしでお開き……というものだった。兄貴達は「生きていてよかった！」などと感激の体であったが子供の僕には何がよかったのかさっぱりだった。だが当時死線を切り抜けた青年達の或る青春の歴史の一こまを見たと思っている。

当時小平義雄という暴行殺人魔が埼玉を舞台に暗躍し、十何人という犠牲者が出て天下が大騒ぎになったことがある。東京から食糧を買い出しに来た女の人に薯や米を世話するといつて林につれこみ手ごめにして殺す、という当時の社会風俗を投映したような痛ましくも恐ろしい事件であった。一時コダイラ、という言葉が「猟奇」を意味する言葉になった位のショックだったのであるが、当時の僕は暴行という活字を単なるなぐる蹴るの意味でしか解釈出来ず、友人達から冷笑された想い出がある。現在十年近く西武線で東京に通う身だが、途中の小平駅を通過する時はこのことを思い出すことがたまにある。

ここまで書いてとうとう出ず終いだったのが異性問題で、読んでいる人も大分待ちくたびれたと思うが、ここで背負い投げて悪いが僕の中学三年までのキタ・セクスアリスには女性性は登場しない。それは僕が少年期の前半は極端なスロースターターだったので止むを得ない。むしろ後半の高校時代になると皆に追いつき追い越せていろいろ面白い話もあるのだがこれは続篇川高時代にゆずることにしよう。

一つだけ痛恨の思い出がある。それはいよいよ来年は高校に昇格という直前になって、川中と県立高女「お県」が合併して生徒をクジ引きで半々に交換して男女共学になる、といううわさが広がり、それを本気にして大いに夢をふくらませ便所の心配までしたことがあったことだ。この話はひよっとすると県議会のロビーで出た話かも知れないが結局はデマで終り、僕は非常にがっかりしたところをみると僕にもその春が始まっていたのかも知れない。

キタ・セクスアリス川中と題した位だからこの稿は僕の数えて十五歳、つまり川中三年生までの未熟な体験話でこれで終る。

何度も言つてくどいが僕は肉体的にも精神的にも相当オクテだったらしくこの程度の事しか記憶がない。早熟で多くの体験のある人達にとっては齒がゆい記述で期待を裏切ったことを深くおわびしてそろそろ終章の準備に入りたいと思う。

みんなもそうだとと思うが夢多かつた筈の十二歳から十五歳にかけての記憶というものは、その変化が激しかったのにも拘わらず意外に残っていないということにこれを書いていて気付いた。何しろ身長も体重も急に五割方増えるのだよ。当然各所の器官も好むと好まざるにかかわらず発達を遂げる。カミノケと言えば頭にしかないものと思つていたらそうではなくなる。体力エネルギーも大きくなる。それは学校の椅子や机を壊したり、級友のデッチをあげたりする衝動だけでは済まなくなり、時々自噴現象さえ起こす。

勿論こんな動物的発達だけでなく、名門中学ともなればここで学問を授けられる。数学英語、国文漢文地理歴史、物理に化学に生物、武道に体操音楽をして戦争のやり方まで仕込まれて現在の自分というものはこの時代に培われ

た土台で生きているということに今更ながら気付いた次第だ。あーそれにしても還らぬ少年時代の想い出！ もう一度やってみたいね。いや、やってみようではありませんか。子供や孫の力も借りてね。それには先ず忘れていた自分史の発掘からだよ。それも一番珠玉のメルヘンを求めて。みんなもこれをヒントに思い出してみるのも意味のあることかも知れませんよ。

ここまで書いて僕は静かに初めから読み返してみた。そして結末まで読んだ時は、夜はいよいよ更けて雨はいつの間にか止んでいた。樋の口から石に落ちる点滴が長い間を置いて深夜に響く他、何の物音もしない。自分はいつの間に六十歳の翁になっていることに気付いた。

さて読み返した所でこれを今回の記念文集に出そうかどうかと迷った。躊躇を覚える。人の皆行うことで人に言わないことがある。pruderyに支配されている社会に身を置いている自分であるが故に尚更である。又文中に登場するモデルや当文集の編集子が僕と同じ考えであるかどうかはわからないし、それが幸か不幸か、それも分らない。Dehanelの詩句に「彼に服従するな、彼に服従するな」というのがある。繊細な感情の持ち主でない人に読まれた時の情報の一人歩きも心細い。

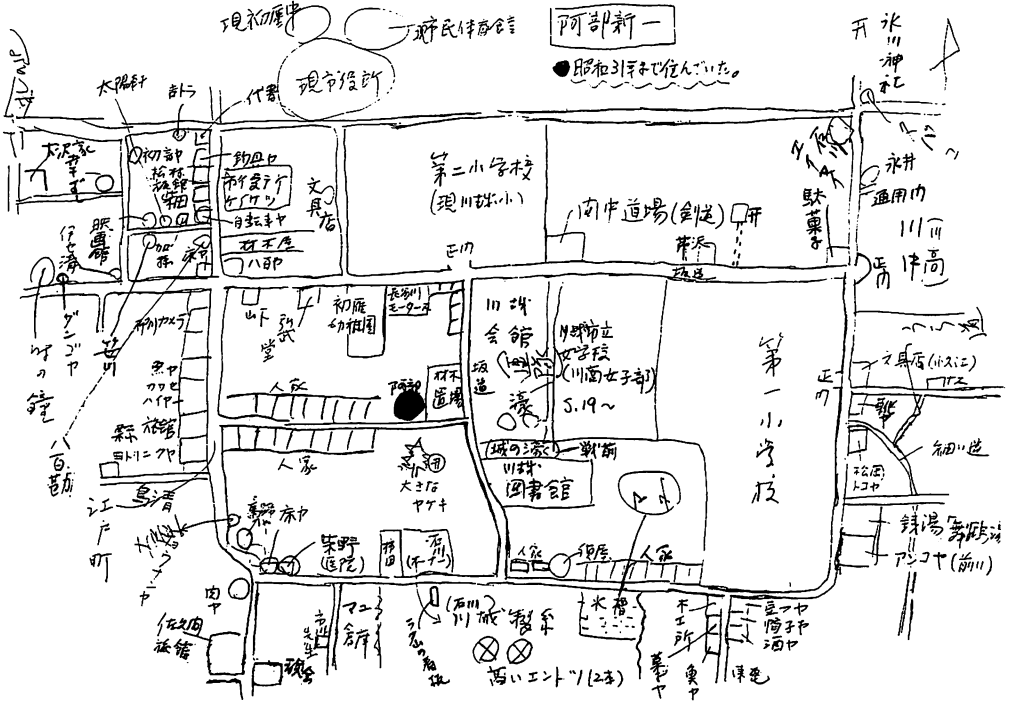
僕は筆をとって表紙にラテン語で VITA SEXUALIS 川中と小さく書いた。そしてこれを川越喜多院前の郵便ポストに当時百獣の王のようだった堀陽君への宛名を書いてはたりと投げ込んでしまった。

第六部 「資料篇」

初期の地図情報／学校地図／学校年中行事
学校文書／学制改革／クラス編成／タイトル案
あの頃・キーワード／級友名簿

【川越地図】に寄せられた情報の一部

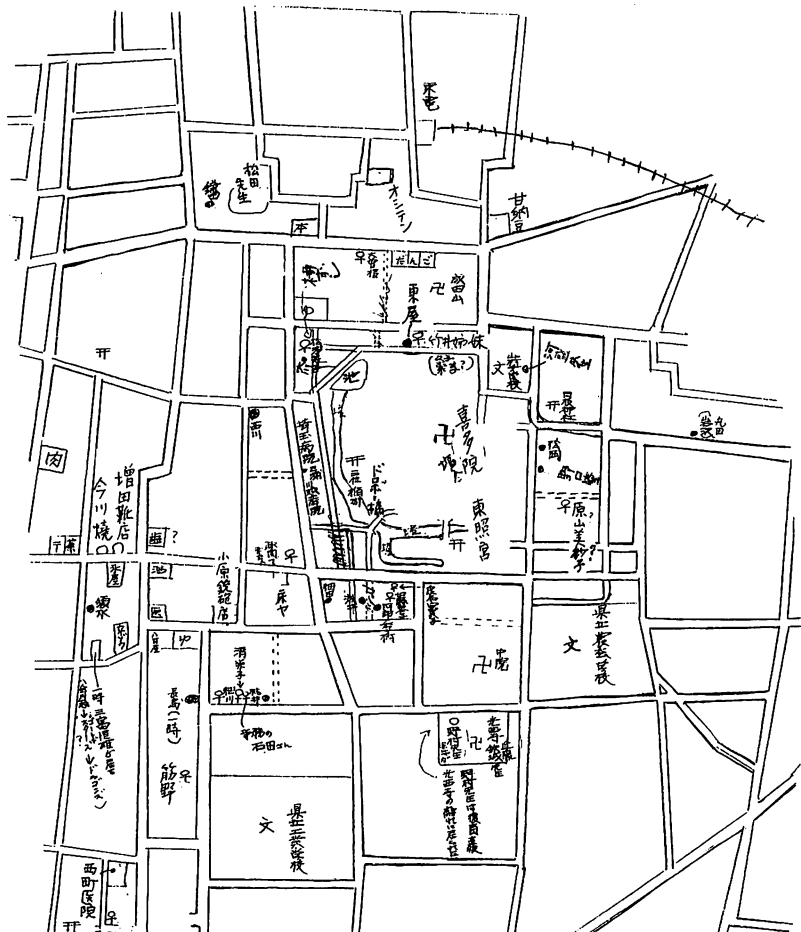
まだ、初期の頃の情報 阿部新一 他



あの頃の川越の地図をつくってみようという編集室の呼びかけにに応じて、たくさん情報を送られて来た。しかし、いざそれを地図の上に転記しようとしてみると、なかなかうまくいかない。画面が小さいだけではない。何しろ、四十数年の昔のことだ。人々の記憶がすっかり風化し、混線が起きているのだ。人によって東西が入れ替わって記憶されたのは意外です。それに地図つものには案外、頭の中で画面になっていない。試みに、今自分が住んでいる街の、自宅から駅までの道を順序よく地図に並べてみればわかるだろう。今住んでいて毎日のようにそこを通過して、目をつぶって歩けるような街でもそんなものなのだ。

おまけに、私達がいた六年間は戦時中と戦後にまたがっている。私達の歴史が変動したように、街もまた大きな変化を強いられている。軍の設備がなくなるのはもちろん、店ののれんも変わる。模型飛行機屋が禁止される代わりに運動具店は増える。食べ物屋が軒を並べるようになる。街並みも活気付く。そしていつの間にか銃砲店が復活している。そんな変化を一枚の画面に閉じ込め、固定しておくことができるのだろうか？ そんな心配をしつつ、丸一年半かかってどうやらやっと地図らしいものができた。

ゴメンね！美女諸君。
——地図について、いいわけ——



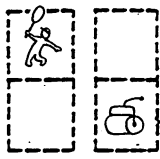
ところで、この地図のベースとして、送られて来た個々の地図にも、個々の情報が盛り込まれて生き生きしているのので、一部をお目につけよう。

右の一枚は市内に住み続けている阿部(新)からのもので、忘れていたあの頃の街のようすがありありと甦ってくるようだ。もう一枚は作者にたいへん申し訳ないのだが、誰が描いてくれたのか、どうしても思い出せない。何しろ新年会の席上で、すっかりデキ上がっているところへ回されて来たものだから作者の顔を見ていないのだ。このページを見て「オレだよ！」と名乗ってくれることを期待している。それにしても、そんなことも思い出せないような者が作った地図だ。間違ひ、勘違いは山ほどあるだろう。ご容赦願いたい。とくにハート・マークの美女諸君はもつともつとたくさんおられた筈なのに、男女の壁の厚かった時代のごとで、どうしても自宅まで思い出せない。「私が抜けるワヨッ」とお怒りの方の声がかえってくる思いだが、そんなことなので、どうかお許し願いたい。(地図係・青柳)

向かいには川商

女子高生が運動会を見に来た柵

日本一! 岡田・芹沢を育てた庭球コート



しょっちゅうローラー引き

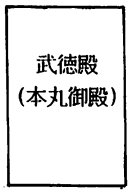
S. 20. 4~S. 26. 3.

川越中学・高校校内マップ

基本地図=昭和17年校舎施設配置図

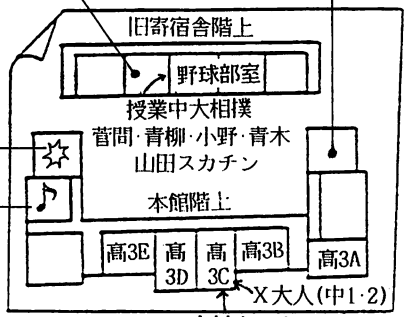
(「遠い飛行機雲」所載)

大正元年大演習で
大正天皇ご宿泊
行在所(アザイン)があった



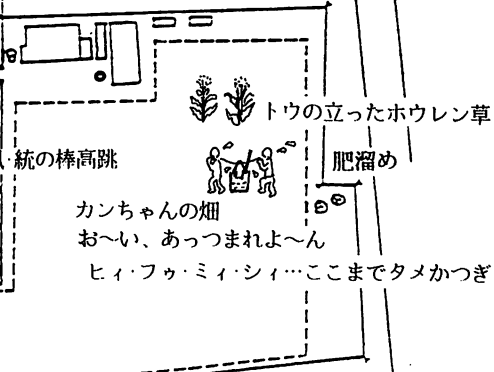
誰かこの辺で
床を踏み抜いた(高2-3?)
田中修のバイオリン
(高2?)

明治文庫



中1・高3はこの2階

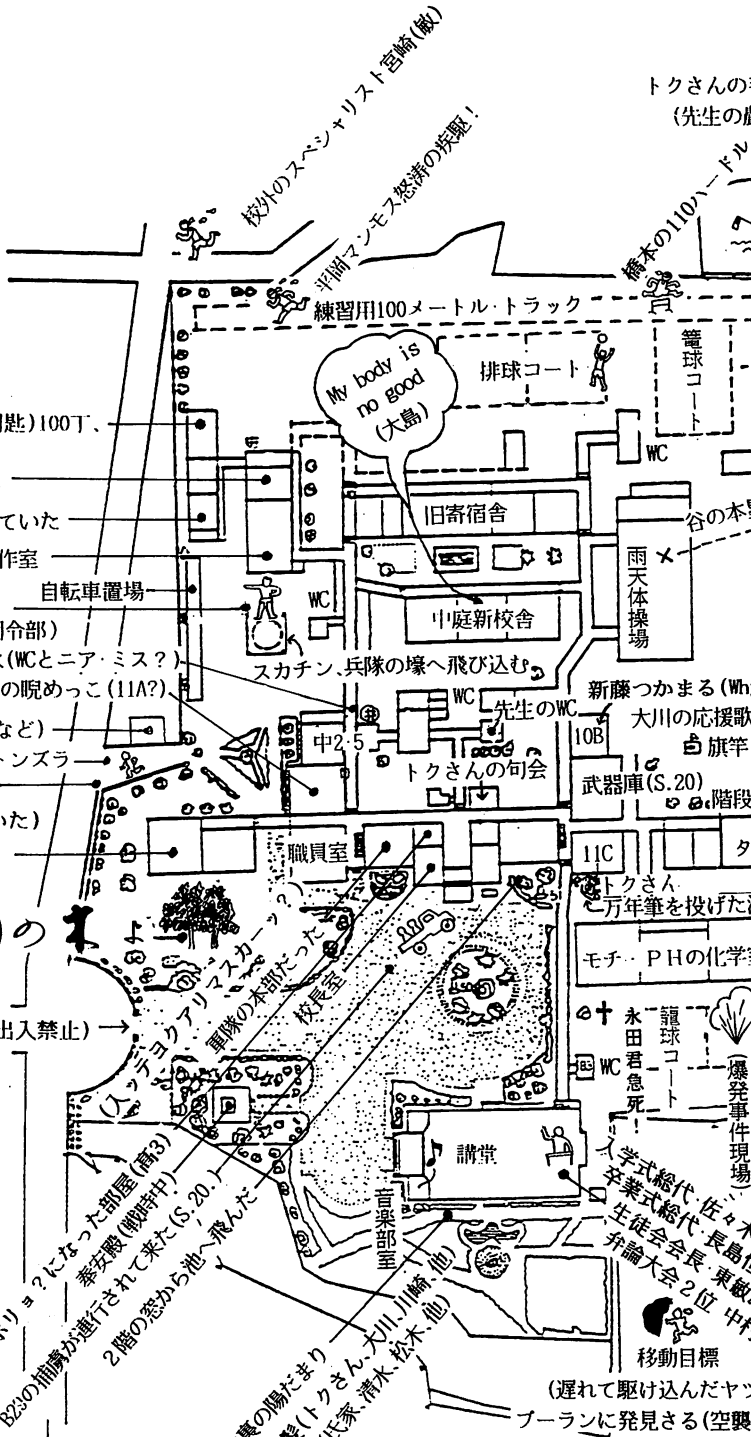
を壊した
この辺、
戦時中は畑
陸上ゴチャまぜ
野球蹴球
中島キサちゃんの勇姿
レフト小野天
オシ天の
「集合終わりッ」
(戦時中の朝礼)
新井・澄の鉄棒



ツルにつかまってターザンごっこ
タケ山の谷
防空壕
空壕で
ンペンしたのだった?
オンタケ山
(富士見櫓)
開
決闘、喫煙、詩吟、苦(句)吟、
階段上りのトレーニング

Y. Araya

トクさんの...
(先生の...)



農具舎にインビ(円匙)100丁、

関口ゲタさんの美術室

兵隊が饅頭作っていた

白井ニュートンの工作室

横綱カンスケの上俵 自転車置場

(戦時中は下に地下司令部)

6年間飲んだ井戸水(WCとニアミス?)

トersonとクラス全員1時間の呪めっこ(11A?)

永井(文房具・帽章・襟章など)

授業中、コロッケ買いにトズラ

沼田・比留間、初逃げ?

(アツバクが見ていた)

横田ゲジさんの生物室

おー、楠の木

正門(戦時中は生徒の出入禁止)

爆発事件で松岡がかり...
 B23の捕虜が連行されて来た(S.20.)
 2階の窓から池へ飛んだ
 授業中も麻雀開帳、高橋宅

職員室
 校長室
 講堂
 武器庫(S.20.)
 新藤つかまる(Why)
 大川の応援歌
 白旗竿
 トクさん
 万年筆を投げた
 モチ・PHの化学
 永田君急死!
 龍球コート
 爆発事件現場
 入学式給代・佐々木
 卒業式給代・長島
 生徒会会長・東殿
 弁論大会2位・中村
 移動目標
 (遅れて駆け込んだヤッ
 プーランに発見さる(空襲)

My body is no good (大島)

スカチン、兵隊の壕へ飛び込む

トクさんの句会

講堂

音楽部

前業部

講堂裏の陽だまり

坊主頭の散敷(トクさん、大川、川崎、池)

猛勉強(長家、清水、松木、池)

学校行事の例

昭和二十四年十二月発行の「生徒会々報創刊号」と同二十五年十二月の第二号に、各年度の学校行事が出ています。それを紹介してみよう。(告別式とは離任式のこと。葬式ではない)

昭和二十四年

四月

四日(金)

入学式、始業式

十二日(火)

近藤鉄城先生就任式

十五日(木)

松田丑二先生告別式

十八日(月)

身体検査

二十七日(水)

〃

二十日(水)

大沢 寛先生就任

二十二日(金)

島村盛助先生告別式

五月

四日(水)

生徒会成立

七日(土)

第一回模擬試験

九日(月)

〃

十二日(水)

高橋 徹先生就任式

十四日(土)

生徒体育大会

十九日(木)

生徒会役員選挙

三十日(月)

中間考査

六月

一日(水)

〃

五日(日)

同窓会総会

六日(月)

梶田英太郎先生就任式

十七日(金)

第二回模擬試験

二十日(月)

〃

七月

九日(土)

後援会PT会成立

十五日(金)

第一学期考査

昭和二十五年

四月

十日(月)

始業式

十七日(月)

島崎幾雄先生、宮下盛利先生
沢原正夫先生 離任式

二十四日(月)

入学式

二十七日(木)

石川正明先生就任式

二十八日(金)

身体検査

二十七日(木)

生徒会役員選挙

十五日(月)

木村 再先生離任式

十六日(火)

歯牙検査

十八日(木)

〃

十九日(金)

第一回模擬試験

二十日(土)

PT会后援会総会

二十二日(月)

第一回模擬試験

五月

末弘幸子先生就任式

六月

平 正夫先生就任式

五日(月)

中間考査

七日(水)

〃

九日(金)

第二回模擬試験

二十七日(火)

〃

二十九日(木)

体育研究発表会

七月

〃

六月

〃

七月

〃

六月

〃

七月

〃

- 十九日(火) 〃
 二十九日(水) 平塚先生就任式、
 〃 第一学期終了式
 二十五日(月) 補充授業
 〃
 二十七日(水) 〃
 八月 十七日(水) 日新義虎校長
 日新義虎校長
 県立熊谷高等学校校長に転任
 県立浦和第一女子高等学校
 荒井実先生本校々長となる
 日新義虎校長告別式
 荒井実校長就任式
 第二学期始業式
 自由作品展覧会
 九月 二日(金) 単位認定試験
 三日(土) 大沢龍男先生就任式
 五日(月) 第二学期課外開始
 九日(金) 第三回模擬試験
 十日(土) 〃
 十一日(日) 同右
 十六日(金) 第二部創立一周年記念
 〃 県民体育大会
 〃
 二十五日(日) 〃
 十月 八日(土) 第二回運動会

●両号とも年末発行のため、年末〜三学期の記載はない。

- 十三日(木) 第一学期考査
 十四日(金) 〃
 十七日(月) 〃
 三十日(木) 終業式
 〃 補充授業
 二十五日(火) 〃
 二十六日(水) 〃
 八月 六日(日) 全校登校日
 〃
 二十八日(月) 第二学期始業式
 〃
 九月 二日(土) 単位認定試験
 〃
 四日(月) 北野茂夫先生就任式
 〃
 五日(火) 自由研究作品展覧会
 〃
 十三日(水) 第三回模擬試験
 〃
 十四日(木) 〃
 十五日(金) 一年審査委員選挙
 〃
 二十九日(金) 進学適性検査
 〃
 十月 七日(土) 運動会
 〃
 十一日(水) P T会後援会臨時総会、
 〃 三年父兄会
 〃 中間考査
 〃
 二十日(金) 〃
 二十三日(月) 〃
 二十四日(火) 〃
 〃
 二十七日(金) 二年修学旅行
 〃
 〃
 二十九日(土) 〃
 〃
 十一月 十四日(月) 三年修学旅行
 〃
 〃
 十八日(金) 〃



生徒会々報
 創刊号 S.24.12. 8 発行
 第2号 S.25.12.23 発行
 題字、荒井校長
 第2号表紙絵 大野良三
 (提供、東、大野)



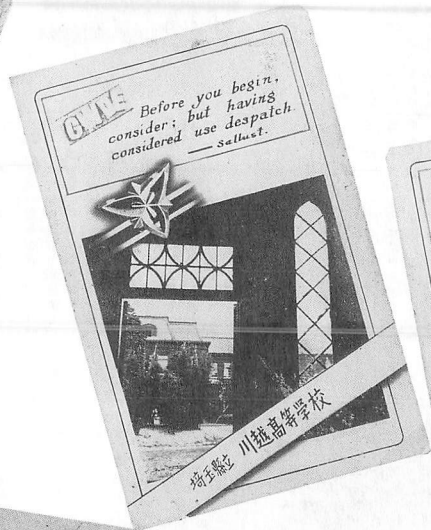
越高校新聞
 刊 S.25.7.18
 行者 那須大輔
 村山利喜
 (川高新聞部提供)



創立50周年記念誌
 S.23.10.20 発行
 題字、鈴木楽山先生
 表紙デザイン、白井先生
 題字、鈴木楽山先生
 (提供 東)

見覚えあるもの、ないもの、いろいろ。

NO. 299
身分証明書
学年 A 組生徒
新入部員
同 川越 新 区 965
名 川越 新 区
昭和三十五年十一月三日
川越高等学校
校長 虎
事務 長 行



模擬試験成績通知票 (昭和25年度) 第3学年C組

回	國語 漢文	英語	數學	化 学	社 会	總 點	受考者 最高點	席次	檢 査
								總員	組主
1	81	130	95	14	19	306		42	
2	144	144	60		26	348		394	
3	179	138	A B	0 0	社			16	
4	国	英	数	0 0	178	495		68	
	120	140	2 2	19 60	35	374		58	
5	英	国	解 答	生日	—			146	
	123	80	0 80	55 75 85	498			23	
								152	

(注意) 父兄保護者閲覧検印後直チ=主任=提出スルコト

埼玉縣立川越中學校

組	氏名	二昇策	總点
A	森 岡 誠		174
D	森 岡 誠		170
A	水 野 洋		169
E	吉 野 正春		166
D	大 野 川		163
D	土 金 岡		162
平	久 水 柳		159
D	清 丸 邦		158
C	青 丸 澄		157
A	C 新 長 内		153
C	E 長 内 菅		
E	A 菅 小 崎		
C	D 崎 氏 金		
E	平 大 松		
A	B 今 高		
C	D 高 山		
E	A 山 五		
A	A 松 村		
D	C 杉 井		
C	D 桃 井		
D	C 松 木		
C	D 内 海		
D	C 内 富		
C	D 細 田		
D	C 栗 島		
D	C 金 木		
D	C 青 村		
D	C 中 鈴		
D	C 神 木		
D	C 萩 原		
D	C 山 崎		
D	C 相 田		



川越図書館に待避中の
模擬試験に馴染まない人たち
前左→斎藤(忠)、広沢、
中→有山、加藤、白井、大島、前田、
後→塩野、安田、青木(勲)、高梨、
(S.25.9.14 青柳写す。他にも大勢いた)

(17 号)

昭和二十五年年度

通知 票

埼玉縣立

学教主任印	保護者印
1	
2	
3	
学年	

3 年 組

小 熊

学制改革に伴う学校・学年名称の推移一覧表

母校	年月	3級上 橋本トウさんの学年 旧46期	2級上 飛行機雲の学年 旧47期・高校1期	1級上 旧48期・高校2期	私たち 高校3期	1級下 高校4期	2級下 高校5期
旧制 埼玉県立 川越中学校	S20/4 (1945)	旧・中4	旧・中3	旧・中2	旧・中1 (新入学)		
	S21/3	(S20/8 敗戦 21/3 福森校長着任) (旧制高校受験可能)					
	21/4	旧・中5	旧・中4	旧・中3	旧・中2	旧・中1 (新入学)	
	22/3	旧・中5卒 (46期卒)	(旧制高校受験可能)				
中学併設 中学校	22/4	(S22.4.1 六・三制発足 川越中学校に併設中学校第2・第3学年設置)	旧・中5 (旧制川越中学)	旧・中4 (旧制川越中学)	新・中3 (旧制川中の併設中)	新・中2 (旧制川中の併設中)	新入生ナシ
	23/3	(S22.7.11 日新校長着任)	(旧制高校受験可能) 一部旧制中5卒・47期	(旧制高校受験可能)			
高校併設 中学校	(23/4) (1948)	(S.23.4.1 新制・県立川越高校創立)	新・高3 (新制川越高校) <12学年> (*)	新・高2 (新制川越高校) <11学年>	新・高1 (新制川越高校) <10学年>	新・中3 (新制川高併設中) <9学年>	新入生ナシ
	24/3 (1949)	(S23.5.28 開校50周年記念祝賀 23.9.15 定時制4分校設置)	新・高卒 (川高1期)	一部旧制中5卒・48期			
新制 埼玉県立 川越高等 学校	24/4			新・高3 <12学年>	新・高2 <11学年>	新・高1 <10学年>	新入生ナシ
	25/3 (1950)	(S.24.8.17 荒井校長着任)		新・高卒 (川高2期)			
	25/4				新・高3	新・高2	新・高1 (新入学)
	26/3				新・高卒 (川高3期)		

●併設中学校とは、旧制中学、新制高校のどっちの併設だったのか？(答え=両方)

○S23年3月、私たちの中3卒業証書で川越中学校の日新校長が「本校併設中学校3個年の…」と言っている。

○創立50周年記念誌に「川越中学校併設中学校第2、第3学年ヲ設置ス」とある。

○S23/11の校門の写真に「川越高等学校併設中学校」とあるが、これはこの年だけ1級下に中3がいたから。

* = 2級上の12学年という記述は、「生徒会報」では使っているが「遠い飛行機雲」では使っていない。

クラス編成と級友たち

(第一回アンケート＋写真＋学校資料＋記憶)

第一回アンケートには六十通の回答がありました。その中で皆さんに、所属学年、担任、級友をお尋ねした結果を集計したものをベースに、文集の原稿や在学中のアルバム、文献などからの情報、記憶などを足したものです。単なるうろ覚えの集計がベースですから、

「オレはそんなところにいなかった」

「オレがいたのを覚えてくれてないのか？」

などとムキにならないでご笑覧あれ。

さすが川高OBは……といたいところですが、ヤツパリ四十幾星霜は大きかった。胸ドキドキの入学の頃や、写真などが残っている卒業時のことなどは比較的覚えていて、あるいは覚えてはいるつもりだけど、真ん中へんはサツパリです。中には同じ年度の別々のクラスの人に同級生にされた人もいました。それにしても中一、一〜三組の人はよく覚えてはいますね。

(順不同・敬称略)

●傍線()は本人の記憶。

●カッコ内は記憶がアヤフヤなもの。

●クラスの記入がなくても組み合わせでクラスが推定できるものはそのクラスに編入。

●欄外はクラスの記入がなく、しかもメンバーの組み合わせからクラスを推定できないものを回答者ごとにかっこで括弧しました。

●高三は卒業写真に欠席者をプラスすれば良いはずですが、それも欠席者が把握できませんでした。

一 那須	二 原田	三 忍田	四 石川	五 佐藤
新井貞 大澤米 朝久野 小川司 松岡 関根 相田 竹沢 小沢昭 森田利 金子武 佐々木雄 大野 朝久野 新井 柳田 奥平 三友 柴田 武長 浦部 岩崎 小峰忠 駒井忠 野口 阿川 石川一 柴野 須永 岡田 吉崎 谷 森下 牛窪	阿部秀 青木安 青柳 堀 松村 長島 水口 水村博 糟谷熊 赤田 五十嵐甫 中村生 吉田景 喜多 高橋 長谷川栄 大島 益子 富沢 千賀 宮崎義 高梨 細淵 柳下 金子勇 市村 豊泉 加藤博	宮崎敏 川合 斉藤恒 阿部新 柳沢 柴崎 加藤康 森田重 中内 鈴木淳 菅間 柴野 須永 岡田立 吉崎 小沢 田中崇 金子勇 野口 笛木 岸 松岡 岡田和 一色 小野 森 岡東 青木勘 沼田 奥村	新藤 畑 橋本 半田 五十嵐統 丸田邦 平岡泰 加畑 永島 松本 中沢 青木勘 石田照 小高 笛木 小林洋 川上 比留間 金島	西川 大山 斎藤賢 正木 小林堅 村山英 山崎 栗原 田村 内海 府瀬川

■ 教室は本校舎の二階だったか？ 確か一階は兵隊が使っていたし、上級生は動員であまりいなかった。疎開クラスの五組が東端、階段教室の手前にてきた。

中二(昭二一・一九四六)

<p>一 那須</p> <p>松岡 関根 大澤米 五十嵐 統 佐々木雄 武長 高橋 大島? 竹内 山田 S 柳沢 奥田?</p>	<p>二 原田</p> <p>赤田 五十嵐 甫 吉田 景 中内</p>	<p>三 忍田</p> <p>柴崎 橋本 斉藤恒 松村 伊藤明 水口</p>	<p>四 石川</p> <p>桃井 稲生 豊泉</p>	<p>五 佐藤</p> <p>青柳 水村博 小沢昭 鈴木美 小島 平岡義 柳田 永田 平井 橘田? (転入) 佐々木良</p>
<p>■教室記憶なし。五組は西袖の井戸端横(通用門正面)にいた。</p> <p>●(一組?) 丸田邦 須永 佐々木 榎本 吉田 市村 石倉 益田 ●(四組?) 菅間 谷 富沢 大島 林 ●(クラス不明) 中村生 越岸 新井澄 (クラス不明) 畑 加藤 加畑 五十嵐 大島 林 ●(野口のクラスというが野口のクラスはない) 長島</p>				

中三(併設中学三年、昭二二・一九四七)

<p>一 那須</p> <p>水村博 小沢昭 水口 大澤米 田中小 西海 佐々木雄 金島 飯田清</p>	<p>二 石川</p> <p>松岡 桃井 (長島) 深井 須永 石倉</p>	<p>三 忍田</p> <p>清水 菅間 柳沢 柴崎 五十嵐 甫 金子武 岡田 森岡 (小野則?)</p>	<p>四 仲?</p> <p>成島?</p>	<p>五 野口</p> <p>関根 憲 中内 吉野 東 小沼 川合 (松木 沼田)</p>
--	--	---	------------------------	---

高一（十学年、昭三三・一九四八）

■「教室の下で」と題して中庭の新校舎の窓の下で撮った中三の写真がある。
 ●（写真あるもクラス不明 二組） ●（写真不明 松村 平岡泰 中 市村） ●（朝久野 阿川） ●（中村生 佐々木良 小畑）
 ●（原田？ 十年にこの組み合わせあり、原田はない。学年の誤りか？） 橋本 小沢孝 水村哲 小川司 金子
 中沢 岡田時 柳沢 須永 府瀬川 木村

A 松田（*、忍田）	B 佐藤	C 望月	D 木村	E 掛原
小熊 桃井 清水 長島 菅間 青木 小野？ 金子勇？ 大川 小鷹邦？	松村 柴崎 五十嵐甫 水口 佐々木雄 浦部 小峰忠 原 沼田 比留間 新藤 岸 （送別写真から） 薮島 阿川 半田 君塚 市村 金子武 大山 原 柴崎 武長 杉本 平岡泰 平岡義 小峰 田中修 小鷹 中島 岡田立 綿貫 豊田 土金 細谷 前田	水村博 松岡 宮崎敏 五十嵐統 石田照 堀 細淵 柴野？ 内沼 島田真（田島？）	川崎 島田真 水村哲 益子 青柳 ●写真数枚あるもクラス不明 D組か？ （校舎は新校舎） 西海 橋本 小沢孝 永沢 小川司 柴野 柳沢 青木勘 稻生 小野則 新井治 中村喜 小島 岡部 高橋光 斎藤忠 山田S （生徒会々報から） 神田	（生徒会々報から） 東 喜多
* 学校の資料では松田先生だが、一三年七月に定時制に回られたという記録もあり、現存している成績表の後半にも忍田先生の印がオシテある。 ■三つのクラスが中庭の新校舎にいた ●（橋本、小島 斉木……橋本、小島の二人はD組と思われる写真に在るが、斉木は写っていない） ●（大澤米 稻生 加藤康 はクラス不明 Ⅱ ドンちゃんのクラスといっているが？） ●（畑 長谷川 守谷 森田賢 原島 半田 中 宮崎敏 大澤米……ヨネさんがいるから前記と同クラスか？）				

高二(十一)学年、昭二四・一九四九)

A	B	C	D	E
<p>佐藤</p> <p>中村生 谷 清水 松岡 菅木勲 青柳 丸田邦 青木勲 関根 大野春 阿部秀 新井添 中島 大沢弘 田中修</p> <p>(十一)A集合写真)</p> <p>藤田 山田S 柳田 高井 中 牧田 石川 鈴木洋 佐々木良 双木 浅見 小畑 阿部秀 水村博 山崎 高梨 森下 鈴木俊 大島 根本 府瀬川 松本 小野則 氏家 奥富 伊藤純 水野 新井澄 正木 鎌田 内海 斎藤清 笛木 大川 高橋元</p> <p>(生徒会々報から)</p> <p>松木 江原 小畑</p>	<p>那須</p> <p>相田 前田 水口</p> <p>(運動会プロから)</p> <p>森岡 君塚 関口 益子 青木安 土金 峰岸 横田 新井貞 粕屋 斎藤 相田 金子勇 田村 石井 川合 田中修 塩入 安田 島田 丸田 小鷹 糟谷熊 奥田 水口</p> <p>(生徒会々報から)</p> <p>渡辺謙 白井 大野哲 奥平 五十嵐威 根岸 新井治 小峰忠</p>	<p>野村</p> <p>川崎、桃井、西川、博 畑、五十嵐甫、橋本</p> <p>(集合写真から)</p> <p>角谷 田中崇 岩澤富 杉本 田口 松本英 金子武 中島正 西海 駒井忠 加畑 小沢孝 小林洋 越 村山英 小川司 加藤健 神田 細谷 竹内 斎藤弘 高山 宮崎敏 伊藤明 宮崎義 浅井 諸橋 鈴木 清水 浦部 新藤 君塚 岸 小鷹邦彦 山田和夫 中義</p> <p>(運動会プロから)</p> <p>伊藤泰 松平 渡辺 山田S (生徒会々報から)</p> <p>内沼 杉本 関根正 石田</p>	<p>掛原</p> <p>小熊、柳沢、豊泉 塩野 (森田重)</p> <p>(運動会プロから)</p> <p>永島 大澤米 細谷 清水 島田 遠藤 阿部新 高橋 高橋光 村山 関根 沢田 小林 喜多 松村久 斉木 奥平 三友 五十嵐 柴田 水村哲</p> <p>(生徒会々報から)</p> <p>佐々木雄 中沢 野口 斎藤守</p> <p>C組説あるもD組? 沢田 宇都野 塩入 町田</p>	<p>野口</p> <p>長島 吉田景?</p> <p>(運動会プロから)</p> <p>東 朝久野 根岸 中沢 広沢 市村 金島 大山 前田 岸智 武長 深井 中島喜 一色 平岡泰 津坂 斎藤 守谷 竹沢 有山 森田 橋田 吉野 飯田 龍島 永田 岩沢謙 中田 橋田 荻野 長谷川 田島</p> <p>(生徒会々報から)</p> <p>柴野 平岡泰 堀</p>

■A組は本校舎西側の袖の一F、井戸の横
 ■C組は本校舎東端一F、トクさんが万年筆を投げた池の横

■西側袖の二FはE組だったか？ その教室の床を踏み抜いたのはこの年だったか？

高三（昭・二五・一九五〇）

A 佐々木信治	B 掛原	C 木村	D 佐々木太郎	E 西川
<p>松岡 大澤米 関根 田沢昭 五十嵐甫 小島 丸田邦 正木 山田 S 水野 双木 塩入 藤田 野口 稲生 遠藤公 君塚 新井貞 森田重 北崎 中島喜 加藤康 根岸 大井 沢田 五十嵐威 中田</p> <p>(卒業写真から追加) 金島 飯田 島田実 松村久 柳田 西 牧田 中義 島田真 竹内 鈴木洋 江原 高橋幸 (故) 斎藤守</p> <p>(休学) 菅間</p>	<p>中村生 谷 畑 柳沢 前田 根本 小川司 喜多 根本 青木勤 田中 鈴木寿 豊泉 塩野 岩沢謙 大沢弘 松平 岡田立 斎藤清 鈴木俊 奥平 中島シ 小鷹邦夫 深井？</p> <p>(卒業写真から追加) 駒井 柳下 伊藤純 牛窪 齋木 横田平 渡辺幹 市村 浅井 高橋光 越 津坂 清水正 山田 笛木 町田 鎌田 小島 越 石井</p>	<p>(卒業写真で確認) 小野 則 沼田 青柳 原 泰 比留間 川合 平岡 泰 柴田 伊藤明 加藤健 神田 山崎 小畑 橘田 斉藤恒 広沢 有山 浅見 小熊 桃井 大島 新井澄 新井涼 丹沢 粕屋 加畑 白井 渡辺譲 安田 高梨 松本 中村喜 鈴木美 佐々木良 加藤博 秋山</p> <p>(生徒会々報から) 大野良</p> <p>(欠席) 新藤 西海 (休学) 内海</p>	<p>(卒業写真から追加) 齋藤賢 阿部秀 松木 金子勇 齋藤弘 高山 田中修 益子 田中崇 奥隅 平岡義 小林洋 角谷 齋藤守 小峰 高山 峰岸 田村 土金 村山利</p>	<p>(卒業写真から追加) 本田 堀 大野春 関口 内沼 中沢 一色 岩沢 荻野 横田 石川貞 竹沢 大山 村山ボチ 柴崎 武長 岩澤富 配島 守長 小鷹邦彦 岸智 武長 諸橋 武田 加藤敏</p>

■本校舎二Fに東から並んだ。3C・3Dは玄関の上。

(集計・作表 青柳)

文集タイトル案

文集タイトルを募集したところ、たくさんの方の応募があった。この他にも口頭による提案等、多数あったが、その主なものと提案者を紹介し感謝の意を表したい。

切り口は、学制改革／還暦・定年・生き甲斐／戦争と平和／楠の木／城址・学校・校歌・応援歌／先生・授業／イメージなど多彩をさわめ、タイトル向きに面白いもの、サブ・タイトルに使いたいもの、いろいろあって選択に困った。結局、A案の検討を経て、

(1) 多数の人が「楠の木」を使いたがっている。楠の木をシンボルとしたい。
 (2) 戦時中から戦後まで、旧制中学から新制高校まで六年間、同じ学舎に学んだという我々にしかない特性を表

現したい。

ということ、B案が提示され、その中から表記のタイトルが決定した。「おーい」の音引きは正規の表記上、やや問題もあったが、呼びかけのムードが欲しいのと、我々世代の用語であるということとで採択された。

(A) 主な応募タイトル案

- | | | | |
|------------------|-------|------------------|-------|
| 県立川中・川高在学の仲間たち | (小熊) | 元祖・新制高校生還暦す | (松岡) |
| 平成四年度還暦記念 | (小熊) | 六・三・三制新教育の初体験者たち | (松岡) |
| 最後の旧制中学生 | (岸) | 生き残り旧制悪童の記録 | (松岡) |
| 川高三回生思い出文集 | (田中崇) | 併設学徒還暦の記録 | (松岡) |
| 県立川中・川高、六年間の仲間たち | (編集) | 最後の白練戦闘帽 | (齊藤恒) |
| 華甲(かこう) | (阿部新) | 赤いちやんちゃんこ | (編集) |
| はなのきのえ | (阿部新) | 昨日そして明日 | (村山) |
| 紫の旅立ち | (畑) | 遥げき春の日々よ | (永島) |
| 生きがい | (大澤米) | これからの旅の半ばで | (喜多) |
| 零から | (沼田) | 平和の芽生え | (竹沢) |
| ああ頼りたくない | (沼田) | 恐くない青空 | (赤田) |
| あ、爆音と楠と | (沼田) | | (平岡泰) |
| あ、爆音と頼りたくない | (沼田) | | |

おち輝くれないと楠の木と

楠の大樹の下で

(沼田)

楠の下で

(平岡泰)

楠を仰ぎ見て

(菅間)

たくましかつた楠木

(菅間)

楠のある風景

(森田)

うちの正門の楠

(伊藤明)

おおい楠よ

(伊藤明)

集合終わり

(松村)

集合終わりッ!

(松村)

四十二年振りの「集合終わりッ!」

(編集)

初雁への回帰

(喜多)

初雁

(喜多)

過日から未来に

(関根・永島・吉野)

茜雲

(永島)

とおりやんせ

(関根)

城趾

(関根)

大きなメモリー

(柳沢)

炎のメモリー

(柳沢)

うたかた

(川崎)

雁が音

(川崎)

秩父嶺

(相田)

秩父の嶺遠く(右記では秩父地元になる?)

(編集)

(B) タイトル、サブタイトル組み合わせ (例)

旧制中学から新制高校まで

お、い、楠の木よ。

学制のはざまを見つめて来た老樟

楠、いまだ枯れず。

ひとつ校舎に六年間

老樟賛歌

悪童見つめて幾星霜

楠の木燦々と

六・三制発足の生証人

老樟燦々と

学制のはざまの生き証人

元祖新制中学生奮闘記

芋兄、初雁健児、そして還暦

ひとつ校舎の六年間

オンボロだけに懐かしい

オンボロ校舎と楠の木と

元祖新制中学生奮闘記

むかし古城の

「頼くれない」の奮戦記

楠の木もれ日の下で

恐くなくなった青空

(編集)

くすの木二〇

(五十嵐甫)

楠は見ている

(宮崎敏)

楠はしげる

(宮崎敏)

楠繁れる(青葉繁れるのイメージ合わせ)

(編集)

青春文苑―楠に集う日々

(新井治)

楠の木之歌

(青柳)

楠は歌う

(青柳)

ヒイ・フウ・ミイ・シイ五十年

(青柳)

我等バカタレ

(青柳)

われら徳門二百五十哲

(青柳)

麦秋

(金子武)

巖祭の春

(伊藤明)

かわうその春(右記に川越の川を生かす)

(編集)

みよしの

(橋本)

ひこうぐも

(橋本)

川は流れて (遠い飛行機雲に近似)

(橋本)

心に鳴る時の鐘

(青柳)

城跡の古い校舎で

(桃井)

悪童たちの古戦場

(青柳)

遠い雷鳴

(編集)

春雷

(編集)

最後の旧制中学生

(編集)

(歌)

入学時は軍歌しか歌えなかった。ドイツのクラシックも軍人にはアメリカの音楽と区別がつかず、レコードもかけられなかった。戦後は「リンゴの唄」で始まり、戦前の歌も次々、あるものは歌詞を一部修正しながら、リバイバルされた。新しい歌も次々に生まれヒットした。

- (戦時) 若鷺の歌 (=予科練) 轟沈 加藤部隊歌 (=隼) 同期の桜 空の神兵
瑞穂音頭 勝利の日まで 愛国行進曲 軍艦行進曲 海ゆかば
(若鷺の歌は18年発売、23万枚。轟沈は19年発売、8万枚。ヒットと感じた割には
実数は少ない。他の芸能が抑えられていたせいもあろうし、映画をはじめ、マスコ
ミヤ公共の場等で効果的に歌われたからでもあろう)
- (戦後、20) リンゴの唄 (12月発売、21年1月新譜)
- (21) 東京の花売り娘 青春のパラダイス 可愛いスイートピー 麗人の歌 悲しき竹笛
長崎物語
- (22) 東京ブギウギ 山小屋の灯 夢淡き東京 誰か夢なき 星の流れに 夜のプラット
フォーム 雨のオランダ坂 港が見える丘
- (23) 懐かしのブルース 長崎のザボン売り 三百六十五夜 湯の町エレジー 東京の屋
根の下 憧れのハワイ航路 帰船 異国の丘 小判鮫の歌 フランチェスカの鐘
- (24) 月よりの使者 熊祭の夜 さくら貝の歌 悲しき口笛 銀座カンカン娘 長崎の鐘
青山脈 さくら貝の歌
- (25) ダンスパーティーの夜 水色のワルツ サンフランシスコのチャイナタウン 山の
彼方 赤い靴のタンゴ 東京キッド 星影の小径 イヨマンテの夜 越後獅子の歌
- (26) 私は町の子 アルプスの牧場 リラの花咲く頃 連絡船の歌 トンコ節 ヤットン
節 僕は特急の機関士で 上海帰りのリル
- (外国) ボタンとリボン テネシー・ワルツ 黄色いリボン トゥー・ヤング センチメン
タル・ジャーニー
(ハワイアン；国産の歌も多かった) アロハ・オエ 南の歌 旅日記 森の小径

(歌手)

(軍歌・戦時歌謡・国民歌謡・時局歌謡)

霧島 昇「若鷺の歌」(=予科練の歌) ……トクさんの教え子

伊藤久男「轟沈」「父よあなたは強かった」

藤山一郎「決戦の上空へ」

灰田勝彦「加藤部隊歌」(=加藤隼戦闘隊)

徳山タマキ「隣組」「大陸行進曲」

永田絃次郎・長門美保「出征兵士を送る歌」

四谷文子・他「日の丸行進曲」

松原 操「兵隊さんよ有難う」(……コロムビア・ローズ。霧島 昇の奥さん。鶴川座に来演の
折、トクさんの所に夫婦で挨拶に来たというのがトクさんの自慢)

大谷洸子(……戦前、オケンに在学歴あり)

その他、小畑 実 藤原義江 波岡惣一郎 山口淑子(李 香蘭)など。

当時のレコードは1枚に大勢の歌手が揃って出て、各番を代わるがわる歌ったものも多い。

(戦後…上記の歌手も戦後活躍) 岡 晴夫 田端義夫 近江俊郎 東海林太郎 デリック・ミネ
川田晴久 エノケン

(女性) 並木路子 渡辺はま子 奈良光枝 淡谷のり子 二葉アキ子 菊池章子 高峰三枝子
高峰秀子 平野愛子 笠置シズ子 美空ひばり 菅原都々子 藤原亮子

〈別表〉昭和25年 川越で上映された映画の一部 (資料提供 小熊忠三郎/編集室・編)

小熊の貴重な資料から抜き書きさせていただきました。当時の銭湯には映画館のピラが貼られ、その隅にピラ下とって三角形の無料観賞券がついていて、その気になれば受験勉強の居眠りの場所として毎週、市内の映画館3館をタダで見られたのだそうです。

○=その上段の映画と同時上映 ☆=東京/但し(I)=池袋(S)=新宿 <直訳>=原題の直訳・邦訳題名不詳
 国名の(奥)はオーストリア カッコ内=制作、監督、主演など。(一部、編集室補筆)

東宝 (舞鶴館)	鶴川座	松竹	上映館不明(含東京)
●待っていた象	●婦系図	●脱線情熱娘	●初恋問答 (山口淑子)
●甲賀屋敷	●ターザンの逆襲 (米・ワイズミュラー)	●難船崎の決闘	☆女だけの都 (仏・J.フェデー監督)
●蛇姫道中 (長谷川一夫・山田五十鈴)	●モホークの太鼓 (米・C.コルベール)	○今宵別れて	☆カチアの恋 (仏・D.ダリユー)
●一匹狼	●影を慕いて	●戦火のかなた (伊R.ロッセリニ監督)	☆おもかげ(マルタ・エゲルト)
●妻も恋す (水戸光子・竜崎一郎)	●暁の脱走 (池部 良・山口淑子)	○東京流	☆ドーヴァーの白い壁
●愛の山河(水谷八重子)	●凸凹西部の巻	○怒濤の果て	☆仔鹿物語 (米・D.シャーマン・J/G・ベック)
●浅草の肌	●(米・アポット・コステロ)	●妖花 (米・ディートリッヒ)	●打撃王 (米・G.クーパー)
●細雪	●楽聖ショパン (米・コーネル・ワイルド)	●天使と悪漢 <直訳> (米・J.ウェイン)	●栄光への道 (I) 大いなる幻影 (仏・J.ルノワール監督)
●海賊島	●石中先生行状記	●拳銃無宿	★極楽ブギウギ (米・ローレル・ハーティ)
○母情 (清水 宏・清川虹子)	●ターザン・紐育へ行く	●母	☆聞けわだつみの声 (東大映研)
●真珠夫人	●凸凹ハリウッドの巻	●舞踏会の手帳 (仏・デュヴィヴィエ・マリール)	大宮 モンパルナスの夜 (仏・デュヴィヴィエ監督)
	○銀座カチンカ娘	○童貞	☆密会 (V.ロマンス)
	鉄のカーテン <直訳> (ダナ・アンドリュース)	●靴みがき (伊・V.デ・シーカ監督)	●ジャングルジム
	●四つの自由のため	○結婚三段とび	●妻恋坂の決闘 (S) 最後の戦闘機 (I) 脱走兵(英)
	●汚名(米・E.バーグマン)	●エンゲージリング (三船敏郎・田中絹代)	(S) 沐浴(仏・モーパッサン原作)
	○また逢う日まで (今井 正監督/岡田英次/久我美子)	●南極のスコット (学校教育映画として観賞)	○白き処女地 (仏・J.デュヴィヴィエ監督)
	●ギルダ(米・リタ・ヘイワース)	●赤い靴 (英・モイラ・シアラ)	☆イースター・パレード(米)
	●青いかみの少年	●ペーブルース物語 (川高野球部資金カンパ)	○執行猶予
	○毒牙	●キャラバン (英・S.グレンジャー)	☆裏切者(仏・V.ロマンス)
	●妖婦 (米・J.メイスン)	○黒い花	○始めか終わりか
	●若草物語 (米・J.アリスン・E.テイラー)		☆ブロンディ・子守の巻 (P・シングルトン)
	●凸凹カウボーイの巻		☆荒野の抱擁 (仏・C.オーブリー)
	●ニノチカ(クレタ・カルボ)		○野性 (S) たそがれの維納 (奥・ウィリー・フォレスト監督)
	●愛憎の曲 (米・ベティ・デイヴィス)		●巴里の暗黒街(仏) (仏・C.ヴァネル)
	●乞食と王子		
	●サラトガ本線 (米・G.クーパー)		
	○戦火をこえて		
	●死の谷(米・V.メイヨ)		
	○もゆる牢獄		
	●田園交響楽 (仏・M.モルガン)		

(映画)

カッコ内の数字は日本封切年度。…川越での上映は東京より半年～1年半は遅れていたと思う。別表・小熊の資料(25年)によれば、当時の川越はあまりレベルが高いとはいえないようだ。因みに我々が川中入学前の少年時代に見た映画はエノケンの西遊記、ちゃっきり金太、ざんざり銀太 秀子の車掌さん 金語楼のあゝ無情 民族の祭典・美の祭典(15) 風の又三郎(15) 燃ゆる大空(15) ハワイ・マレー沖海戦(17) 南海の花束(17) あの旗を撃て(18) 空の神兵 決戦の大空へ 加藤半戦闘隊 愛機南へ飛ぶ 轟沈 などだろう。

(学校で見に行った) キューリー夫人(21) 春のめざめ(22) 未完成交響楽(S.8作、再上映 22) 蜂の巣の子供達(23) 路傍の石(13作;再上映23頃) 汽車は東へ行く(ソ連映画) 石の花(〃)

(川越で学校に内緒で見た)

(20邦)電撃隊出動 最後の帰郷

(21邦)わが青春に悔なし ある夜の殿様 歌麿をめぐる五人の女

(21=22?画家とモデル/パレットナイフの殺人等の中吊が刺激的)

(〃洋)ユーコンの叫び(旧作) 大平原(旧作?) 運命の饗宴 我が道を往く

(22邦)四つの恋の物語 安城家の舞踏会 長屋紳士録 銀嶺の果て 誰か夢なき

(〃洋)心の旅路 オーケストラの少女(旧作;再23?) ターザンの逆襲(旧作?)

(23邦)酔いどれ天使 手をつなぐ子等 王将 今ひとたびの 野球小僧?

ある夜の接吻(24?)

(24邦)青い山脈 銀座カンカン娘 晩春 破れ太鼓 野良犬 ジャコ万と鉄

真昼の円舞曲

(25邦)また逢う日まで 山のかなたに 暁の脱走 羅生門 宗方姉妹 自由学校

佐々木小次郎 おぼろ駕籠 乙女の性典

卒業後…(26)めし 麦秋 源氏物語 愛妻物語 (27)山びこ学校 (28)東京物語 (29)七人の侍

(東京で、主に外国映画)

(21)我が道を往く カサブランカ ガリバー旅行記

(22)荒野の決闘 ブルックリン横丁 石の花 ガス灯 アメリカ交響楽 にんじん

(9公開) 望郷 (11作)

(23)ヘンリー五世 美女と野獣 シベリヤ物語 我等の生涯の最良の年

(24)大いなる幻影(12作) 戦火のかなた ハムレット 腰抜け二丁拳銃 打撃王 仔鹿物語 パラ色の人生 哀愁(旧作) 汽車は東へ行く(23?)

(25)自転車泥棒 赤い靴 白雪姫 情婦マノン 靴みがき 駅馬車 わが谷は緑なりき

イースター・パレード 火を吹く38度線

★23～24年前後に往年のヨーロッパ名画がいっぱい公開された……

パリの屋根の下(5作) 自由を我等に(6作 キンタ推薦) 会議は踊る(6作)

パリ祭(7作) 沐浴(8作) モンパルナスの夜(7作11公開) ミモザ館(9作)

商船テナシティ(9作) 白き処女地(9作 トクさん推奨) たそがれの維納(9作)

女だけの都(11作) うたかたの恋(11作21公開) 舞踏会の手帖(12作) 北ホテル

格子なき牢獄(12作)

卒業後～(26) サンセット大通り バンビ 黒水仙

(27)天井桟敷の人々 第三の男 カーネギー・ホール 陽のあたる場所

(28)禁じられた遊び シェーン ライムライト

(実業之日本社) 塩田 勝「流行語・陰語辞典」・「昭和流行語辞典」(三一書房) 東京国立近代美術館「79 フィルムセンター所蔵映画目録」

IV・スポーツ・映画・芸能

(野球・相撲)

六大学⇒W=森監督 岡本 蔭山 末吉 石井(藤) 宮原 K=大島 平古場 久保木 山村
 R=大沢 五井 藤枝 砂押 H=真山 関根 芳村
 M=杉下 入谷 牧野 T=山崎 加賀山 八百
 プロ⇒ 監督=中島 藤本 若林(投手) 鶴岡(山本) 三原 水原 刘田 浜崎 坪内 小西
 投手=若林 スタルヒン 別所 真田 清水 白木 黒尾 天保 梶岡
 打者=川上 大下 藤村 鶴岡 青田 捕手・野手=土井垣 千葉 呉 山田ヘソ伝
 都市対抗⇒豊岡物産活躍 ⇒草野球ブーム オール○○の全盛期
 相撲⇒ 20.6.20.奉納大相撲初日取組
 双葉山×相模川 前田山×三根山 東富士×佐賀ノ花・他
 20.11.16.戦後初本場所番付上位 (○=横綱 ☆=後に横綱)
 羽黒山○ 安芸ノ海○ 双葉山○ 照国○ 佐賀ノ花 東富士☆ 名寄岩 前田山×
 不動岩 備州山 柏戸 汐ノ海 琴錦 桜錦
 26.1月場所 横綱=東富士、照国、羽黒山 大関=汐ノ海、佐賀ノ花、千代ノ山
 関脇=鏡里、吉葉山、三根山 小結=出羽錦、清水川
 在校時の活躍者=神風 輝昇 力道山 栃錦 八方山 大内山 大起 清惠波 若乃花
 事件⇒24年 シールズ来日中、本場所を休場中の横綱前田山が応援に行き、引退させられた。
 (方々の学校でも似たような事件があったとか……)
 ?年 引退後の双葉山が爾光尊事件に関係した。

(映画スター)

日・女)⇒原 節子 山田五十鈴 田中絹代 木暮実千代 高峰三枝子 高峰秀子 山根寿子
 若山セツ子 久我美子 杉葉子 角梨枝子 島崎雪子 飯田蝶子 東山千栄子 三益愛子
 高杉早苗 三条美紀 淡路恵子 三浦光子 京マチ子 山口淑子 岸 旗江 津島恵子
 野上千鶴子 花柳小菊 小田切みき
 日・男)⇒大河内伝二郎 阪東妻三郎 片岡千恵蔵 嵐 寛寿郎 上原 謙 佐野周二 藤田進
 池部 良 伊豆 肇 三船敏郎 志村 喬 佐分利 信 笠 智衆 水島道太郎 宇佐美淳
 森 雅之 滝沢 修 堀 雄二 山村 聡 菅原謙二 榎本健一 古川祿波 柳家金語楼
 清水金一 灰田勝彦
 米・女)⇒G. ガーソン I. パーグマン M. モンロー C. ヘップバーン M. オハラ C. コルベール
 J. フォンテイン V. メイヨ J. クロフォード B. スタンウィック M. オブライエン
 マーナ・ロイ ロレッタ・ヤング J. ラッセル E. テイラー J. アリソン B. デイヴィス
 D. ダービン シャーリー・テンプル グレース・ケリー
 欧・女)⇒M. ディートリッヒ F. ロゼエ D. ダリュウ M. モルガン V. リー J. シモンズ
 S. マンガーン A. ヴァリ J. マシーナ
 米・男)⇒G. クーパー R. ロジャース J. コットン T. パワー H. ボガード C. ゲーブル
 J. ウェイン H. フォンダ S. トレーシー R. コールマン M. ルーニー G. ペック
 J. ペイン J. ワイズミューラー A. マンジュウ B. クロスビー B. ホープ ローレル&
 ハーティ アボット&コステロ マーチン&ルイス
 欧・男) C. ボワイエ J. ギャパン L. ジュヴェ J. マレー C. チャップリン R. オリヴィエ
 D. ニーヴン E. V. シトロハイム D. リーン

参考文献・自由国民社「現代用語の基礎知識」/キネマ旬報社「戦後キネマ旬報ベストテン全史」/文春文庫「日本映画ベスト150」/洋画ベスト150/倉田喜弘「日本レコード史」(東書選書)/堀内敬三「定本・日本の軍歌」

(来校・来賓・来演)

戦時中→本校に駐屯中の通信部隊の将校がモースル符号を教えた。 田中静一大将 朝久野中将
 戦後(21頃)、文化運動盛んになる→賀川豊彦 森戸辰男 安倍能成 尾崎行雄
 以後→金森徳次郎(21.12) 打木村治(OB・作家) 宮原テイイチ? (OB・作曲家)他
 ピストン堀口(ボクサー) 白木義一郎、大下 弘 他 (職業野球・セネタース=校庭でコーチ)
 (その他 古谷綱武? 尾高朝雄)
 23/2→平田次郎「近代日本文学の展望」(オケンからも聞きに来た)
 23年予餞会→三遊亭円歌 木下華声 25年予餞会→末広ユキ(末広幸子先生、教師として?)
 松旭斉天智(奇術=もと級友の林 智雄君)
 年次不詳、24年? (オケンに) 齋田愛子とNHKサロンアンサンブル

(G | 英語=スラング)……下品な言葉も多い。一部は日本語ともなった

Hey, Joe! (オーイ 誰にでもJoeを付けた=OK, Joe!) Habor, Habor!(ハバ、ハバ=急げ! ……真珠湾攻撃の際、港へ急いだ合言葉。南洋パプア土語説もあり) テークリージー (Take it easy=あばよ……テイキ・レイジーとも聞こえ「適齡児」と覚える人もいた) ネバー・ハッペン (とんでもない! ……日本語と混合して「ネバハチ」「ネバ・ハーチ」とも。また「飛んでも8分、歩いて10分」の流行語の語源ともなった) ジーザースクライス (Jesus Christ!=なんてこった!) シャラップ (Shut up! 黙れ!) ゲラップ (Get up!=起きろ) ゲラリ・ヒア (ゲラ・ウェイ ヒア=Get away here! 出て行け!) チャップチャップ Chop, chop=eat, 食べる。転じて「いただき」) ガッデム (God Damn=畜生!) サナバベッチ (Son of a Witch=くそつたれ) カック・サック (Cock Sack //) ボウ・シエ (Bull shit=牛のクソ=//) ノウ・ファッキン・グウ (No, fuckin' good=ダメだ、ベケだ) ブラウン・ノーズ (Brown Nose=ゴマ播り) クールキャット (Cool Cat=ヤボテン)

III・わが街 川越

(川越市内のランドマーク)

時の鐘 氷川神社 三芳野神社 通りゃんせの道 初雁の杉 霧吹きの井戸趾 浮島神社 底なしの穴 片葉の芦 お米さんの井戸 銀杏窪 喜多院(塩入) 東照宮 左甚五郎の門 成田山(成田不動、比田井天来の碑) 光西寺(鉄城先生) 商工祭 連馨寺(呑龍様) 鶴川座 松竹 舞鶴館(東宝?)
 ホームラン劇場(戦後) 図書館 間中道場 永井 小久江文具 謙受堂 明文堂(菅間) 三松堂書店 懐風堂古書 太陽堂 松崎運動具 山中運動具 弘武堂(武具) 綾部運動具店 川越運動具商会 山中運動具店 岩崎靴店 山久糸店 笠間呉服店 名倉堂(中村) 亀屋ミシン 山吉(デパート、後の木屋→丸広) 八十五(現・埼玉)銀行 武州銀行 貯蓄銀行 丸共パン 吉田万年筆 日の出薬局 八木時計店(時計とレコード) キンカメ時計店(ナイモノハナイ) 奥富時計店 ベビーモーターズ商会 OKラジオ 埼玉ラジオ 桜井銃砲店 小原銃砲店 青山印刷所 佐久間旅館 松村屋旅館 久保町駅跡 教会 大沢旧家 亀屋(餅亀・茶亀) 芋十 東家 小川藤 小川菊 いちのや 吉寅(吉崎) 初音屋 山屋 マズクテ高イ(佃煮屋) 田中ダンゴ けんかダンゴ(津が原ダンゴ) 山のだんご かぶ小川屋(小川章) 菓子屋横丁 万力 焼芋屋 ポンセンベイ屋 芋飴屋 タンキリ飴 千葉屋(ラーメン) 伊勢屋(アイスキャンデー) 鏡山酒造 三徳 川徳 川越製糸(石川蚕糸・石川製糸) 日清製粉 日清紡績 東洋ゴム 初雁球場(市営運動場) 赤間川(新河岸川) 仙波沼 伊佐沼 上江橋 治水橋 めがね橋 木屋(水村) 沼文(沼田) 大黒屋(岩澤) 松定(松村) 藤屋菓子店(伊藤明) 松の湯(小熊) 都寿司(堀) 魚飯(高梨) 岸浅(岸) 稻生歯科(稻生) 佐々木医院(佐々木) 須永医院(須永) 柴野医院(柴野)

(学生生活)

●部活⇒(最初は部と言わず、班と言っていた)

体育系＝ 蹴球 水泳 体操 卓球 排球 野球 籠球 庭球 陸上競技 登山
相撲(自然消滅) 剣道・柔道(廃止)

文化系＝ 英語 化学 生物 物理 国文学 文芸 ラジオ(校内放送) 新聞
郷土 映画 園芸 演劇 音楽 図書 美術 弁論 書道 吟詠

各方面通学団 川越 飯能 所沢 豊岡 入間川 朝霞 越生 坂戸 山田 平方
比企 鶴瀬 大宮 高階(～地区と呼んだ)

個人的倶楽部 プルドッグス 俳句 カムカム英語 他

●運動⇒めがね橋(5000メートル) 運動会 仮装行列 庭球部活躍 籠球部惜敗 大宮球場

●遠足・旅行・吟行会・登山 稲荷山行軍 武蔵嵐山 相模湖 吉見百穴 長瀨 高麗神社→聖 天院 狭山湖 上野美術館→早稲田演劇博物館→魚河岸見学 雲取山 三峰山 尾瀬 南アルプス 甲武信岳

●修学旅行

⇒関西組(25.11.13～17) コース 二見ガ浦→伊勢神社→猿沢の池(金波楼)→二月堂
→三月堂→大仏殿→春日神社→興福寺→清水寺→知恩院→南禅寺→インクライン→銀
閣寺→平安神宮→嵐山(保津川・渡月橋)→東本願寺(高田屋)

○貸切列車 飯G 金波楼(初めての宿泊) 吉田屋(猿沢, オケン宿舎) 鹿センベイ
高田屋(京都東本願寺前 13号室 秀ちゃん) バスガール(1号車・2号車)

モンローとディマジオ(京都駅・新婚旅行中) 京都駅焼失(帰京直後)

⇒日光鬼怒川組(25.11.14～16) ⇒留守組 ⇒反省会(という名の忘年会)

●先生に関するキーワードは610ページ「職員室」にあります。

●生徒の流行語

ウチあたりは…/タクあたりは…/チョイトないよ/愉快チング/タクバン(たくさ
ん)/そうでいさアにイ/ガッカ(ガツカリ)/ゴイス(スゴイ)/ダマらっしゃい/
(WCと転化され、教師を冷やかすWCコールにも発展)/テンコ取る(ハッパをかける)
)/…ツレ!/「必死」/ボンズ(ズボン)。

○ある世界の専門用語? 「スケ」「ヤバイ」「アタマに来た」「いちコロ」「ずらかる」
「ハクイ」「マブい」なども、この頃やっと一部の不良たちの市民権を得たばかり。

これにG Iのスラングや、いわゆる夜の専門英語(P'nglish)が加わった。

○上野→ノガミ 浅草→エンコ 新橋→バシン 新宿→ジユク 池袋→ブクロ
にならって 川越→ゴエ 所沢→ザワ などという言い方もあった。

⇒「バシン火事、カエる」→新橋はヤバイ、ずらかろう(河岸を変えよう)。

●上級生⇒お説教 黙想ーッ! ビンタ トラさん(当時は恐かったが今は懐かしい)

○時々真面目な人までムリして説教に回って来たが迫力なかった。

○(飯能方面通学者)所沢回りは上級生だけ。下級生は「稲荷山歩き」といって稲荷山公
園駅～入間川駅(現・狭山市駅)間、約2キロを歩いた。

○1両目は男子、2両目は女子(東上線は3両目)。但し上級生のバンチョは別

●青春⇒オケン オイチ 手紙 初恋 デート 長髪 文学青年 映画観賞 レコード鑑賞 ワイアン(ハワイアン) ウクレレ アロハシャツ

●不良⇒硬派 愚連隊 ヤサグレ ガン付け(～をトバス) ゴロ(を撒く) ハクイゴロ (カッコいいケンカ=強いこと) ヤキを入れる ヤッパ(刃物) デ○チ上げ 軟派 軟派師 スケ マブいスケ ズベ公 麻雀 パチンコ オシン(シンタン=金) オオ1コ(千円) 鉄カリ(マッチ) モク=ピース コロナ ハッピー 憩光(バツ ト、朝日は辛くて人気なし) 洋モク=ラッキー・ストライク チェスター・フィールド キャメル ベルメル(ポール・モール) バイスロイ フィリップ・モリス クール

II・学校（順不同）

- ①入学／入試 口頭試問 短棒投げ 城壁登り 白線帽 ゲートル 校章入りの表札
 ★口頭試問でB29の撃墜数と殺敵数がテーマに ★入学早々実力テストがあった
- ②戦時教育／一億一心 尽忠報国 減奉奉公 特攻精神 配属将校 万年軍曹 教練 武器庫 木銃 半裸体 歩兵操典 折敷け 匍匐前進 手榴弾投げ 整列登校 朝礼 点呼 復唱復命 体罰 防空壕掘り 待避訓練 通信部隊 疎開者組新設 横田先生 忠応(20.6) 捕虜連行 水練 校庭農園化 農具舎 農作業 円匙
 ★「〇年〇組、××。教練の指示を受けました。入ってよくありますっ!」
 ★「〇番、××。電車が遅れて遅刻しましたっ!」
- ③勤労働員／日清製粉 タラチク・テーヨン（日清製粉の掛け声） 黄粉事件 石川蚕糸（川越製糸）まゆ倉庫 ♪逢いたさ見たさに 荒川農場 農家
- ④敗戦／玉音放送(20.8.15) 奉安殿撤去(20.8 南畑村へ) 防弾ガラス 復員 払下げ品 (S20.9 軍服 毛の生えた背のう サメ皮の軍靴 航空兵の皮手袋・白いマフラー 落下傘の靴紐 航空士官学校から持って来た机) 自治会設置(20.9)一部教師を弾劾 柔剣道禁止(20.9) 豊岡に進駐軍(20.9) 挙手敬礼廃止、ゲートル廃止(20.10) 防空壕埋め 最後の教育勅語奉読(20.10) 学帽復活 修身教科書回収(21.1) 墨塗り教科書 教職員追放令(21.5) 教職員組合(21.6)
 ★授業中に兵隊の置き土産のラップを吹いて説教された
- ⑤戦後／X大人（富沢の起こした怪文書事件。戦後早々？） 幻の男女共学 長髪許可
 ★県下中等学校庭球大会優勝（S21秋 松田先生感激の詩を朝礼で発表）
- ⑥平和／定時制 併設中 遅刻 早逃げ エスケープ 代返 欠席届 早メシ コッペパン・コロケ買い カンニング ポケット検査 ツメ(やに)検査 バンカラ ペテン帽 K〇帽 ほおば下駄 一本歯 ウィークリー エクササイズ 瀬祭 浮巢 匂会 清水権六（アンチョコ）成語集 雲取山遭難事件 東照宮決闘
 ★併設中学(23.4 中学の併設中学という変則的な形)
 ★創立50年(S23=1948) —記念講演会（打木村治、他第一回卒〇B）・記念植樹・記念展覧会 ・記念運動会（S23.5 5000メートル、五十嵐統祥優勝）
 ★校内弁論大会（第1回 S23.11 中村生秀2等） ★大量退学処分（S23～24）
 ★10年生(24.4 学校は高校、学年は小学校からの通算) ★クラス対抗競技会
 ★全日本男子高校庭球選手権優勝（S24.7岡田・芹沢組）
 ★S24頃 初雁球場にスタルヒンが来た（大映スターズ／ロビンス／オール川越）
 〃 セネタースの大下・白木が校庭でコーチしてくれた。
 ★鶴野先生が日展に出品して皆で見に行った ★生徒会長選挙と応援演説会
 ★永田君急死 ★ラクさん川越製糸の看板を揮毫 ★ラクさん逝去(S.24.)
 ★トーン1時間立ちっ放し ★ストライキ ★上級生が2階から飛下り実演
 ★教室の床踏抜き事件 ★化学部爆発事件 ★本校舎2階で掃除の水を床に撒いたら校長室へ ★オケンのダンス部が講堂でダンス ★初めての女性教師（音楽・村松先生。泣かせたヤツもいた）★音楽部発表会（オケンとの合同ならず）
 ★予餞会 ★全校模擬テスト(22.2第1回) ★進学適性試験（23.2浦高で第1回）
 ★受験のための大量転出 ★県民体育大会優勝 ★修学旅行 ★卒業

（校内の構造物・ランドマーク）

正門 楠の木 武徳殿 御岳山 雨天体操場 階段教室 部室(旧寄宿舎) 明治文庫 職員室 通用門 しょうたん池 飯田先生の碑 バックネット テニスコート カンちゃんのみ 先生の菜園 農具舎／戦時中＝行在所 奉安殿 武器庫 行幸記念石碑 防空壕 校庭のみ 土俵下の司令部

当時の思い出の「キーワード」

文集の原稿依頼に当って、皆さんに少しでも当時の思い出の引き金をお願い、乏しい記憶をかきあつめて「キーワード集」を作りました。その後大勢の人からチェックが入り、また新情報も提供されて内容が充実し、なんとなく「キーワード」を通して当時の私達の生活や世相のようなものが見えてくるように思ってきましたので、さらに資料、文献を調べて完成させたものです。「文字によるアルバム」としてご笑覧いただきたいと思います。なお学校関係の記録の一部は「遠い飛行機雲」も参考にさせていただきました。(編集室)

I・社会

- ①戦争／幼年学校 予科練 特攻精神 体当り 神風 東部軍情報 横鎮中管区 敵数目標 空襲 防空壕 艦載機 機銃掃射 薬莖 灯火管制 制限爆弾 電車不通 徒歩帰宅 松根油 新河岸にB29墜落 入間川に友軍機(屠竜)墜落 川越駅空襲 P51に西武線急停車 川越駅～西武線連絡貨物線
- ②戦敗直後／進駐軍 基地 ゲート GI GIカット サージャン MP PX ラッキー(ストライク) DDT ジープ(Jeep) チューリングラム (チューインガム) ギブミー・チョコレート
- 民主主義 男女同権 女尊男卑 新制中学 PTA 男女共学 模型飛行機禁止 貨車通学 飛降り下車 木炭自動車 食糧難 特配 買出し 代用食 栄養失調 タケノコ生活 スケトウ鱈(配給の時間) ララ物資 停電 電気パン焼器 鉱石ラジオ 煙草手巻器 外食券食堂 カツギ屋 ヤミ市 露店 サッカリン ズルチン 洋モク ヒロポン ビンゴ 浮浪児 夜の女 手入れ モク拾い 輪タク メチル中毒 実話新聞 猟奇小説 カストリ雑誌 上海公司(麻雀) アプレゲール 真相はこうだ 尋ね人 ワンマン 四等国 農地改革 不在地主


- 20年⇒GHQ 一億総懺悔 婦人参政権 第一回宝くじ発売 天気予報再開
- 21年⇒天皇陛下神格否定宣言、軍国主義者公職追放 メーデー復活 プラカード事件 (ナンジ人民飢えて死ぬ) 新選挙法による総選挙 プロ野球再開 WVTR放送 ジャノメカサ(ジェネラル マッカーサー) 天皇、マッカーサー訪問 預金封鎖 新円切替え 新憲法公布 のど自慢始まる 話の泉「ご名答」カムカム英語 (平川唯一) ラーメン20円 カケ・モリ10円 アイスキャンデー 2円50銭
- 22年⇒不逞の輩 2.1ゼネスト中止 新憲法施行 八高線事故 片山内閣 日教組結成 学制改革決まる 100万円宝くじ ブギウギ 街頭録音 鐘の鳴る丘 二十の扉 古橋世界新記録 共同募金(最初はバッジ、羽根は23年) 額縁ショー
- 23年⇒財閥解体 帝銀事件 太宰治自殺 美空ひばり 江利チエミ サマータイム 極東軍事裁判判決(デス・バイ・ハンギング) 競輪・パチンコ登場 老いらくの恋 / トランジスタ発明(米・ベル社)
- 24年⇒一般参賀始まる 法隆寺金堂火災 1ドル=360円 シャウプ勧告 ニコヨン 金融引締め 自転車操業 下山・三鷹・松川事件 米プロ野球シールズ来日(見物で停学処分) 湯川博士ノーベル賞 光クラブ 六・三・三制実施 駅弁大学 きけわだつみのこえ アジャパー ギョッ ラーメン23円
- 25年⇒朝鮮戦争 満年齢 千円札 貧乏人は麦を食え 山本富士子 自由学校 レッドパーズ 特需景気 アルサロ 「チャタレイ夫人の恋人」発禁 金閣寺全焼 後樂園初ナイター 警察予備隊設置 オー・ミステーク ラーメン25円 この頃「歌声酒場」起こる
- 26年⇒「山びこ学校」発刊 総評大会 マッカーサー解任(老兵は死なず) ポストンマラソン 田中優勝 「羅生門」グランプリ 民間放送開始 三等重役 ラーメン30円 カケ・モリ17円







川越高校第三期生名簿

(平成五年十月現在)

先生、級友、故人も含め三百余人の波瀾万丈の半世紀を、タツタ四行で書けるとは思いません。でも思ひは一点、全員集合を目指す誌上同窓会。キラキラ輝いていた少年時代の心に帰り、世俗のシガラミをしばし忘れてご参集、ご歓談を戴きたいと、有志の協力を得てやつとここまでまとめました。不正確不行届の部分も多々あるでしょうが、この熱意に免じご容赦、ご笑覧賜りたいと存じます。

偏しゅう人敬白








氏名	現住所	四行小史
 相田 俊孝	和光市	▼アイさん▼新聞部、生物部、音楽部……文化部はしご型少年。当時の白子町(成増駅)から通学▼東京教育大学↓東京医科歯科大学。 ▼現開業医・相田齒科院長▼喜佐子夫人・一男一女・孫一▼バード・ウオッチング、カメラ、音楽鑑賞、コーラス(町の第九合唱団団長) ▼かんすけ・カンちゃん▼相撲部・卓球部。幻のラグビー部発起人。 西武線入間川方面の群雄の一人▼日本大学芸術学部からハンドルをいっばいきって自動車産業へ▼入間三菱自動車販売(株)代表取締役社長。 ▼久江夫人・一女▼ゴルフ(H・Tg)、囲碁二段、麻雀雀聖、書道達人
 青木 勤輔	狭山市	▼ヤッさん▼化学部。小柄で秀才、野球も上手。地味だが努力の人。 将棋は天才、川中でナンバーワンでした。沈黙党では文化部担当。 ▼埼玉大学経済学部▼ニッサンディーゼル桶川ディビジョンで活躍中 ▼令夫人・一男一女▼クラシック音楽鑑賞、麻雀でしたぬ
 青木 安雄	桶川市	▼大頭領▼音楽部、生物班。フリオウ志向型の異色秀才▼慶応大法学部▼協同乳業(株)、朝日広告(株)SP部長、ディレクター。現在はフリーディレクター&デザイナー。当文集編集チーフ▼佳子夫人・一男一女・孫一▼クラシック鑑賞、油絵、麵喰い道楽、第五交響楽の蒐集家
 青柳 安彦	和光市	▼あおかん▼無所属。父上が中佐殿で、バカタレも一目も二目もおく▼名古屋に転校後、名古屋工業大学建築学科▼(株)大林組技術研究所で建築材料セラミック系人造木材などを発明し、建築界に貢献する。 ▼けい子夫人・一男二女・孫三▼ゴルフ(超下手と謙遜)
 青山 幹	保谷市	

 <p>阿部 新一</p>	 <p>浅見 茂男</p>	 <p>浅倉 昭</p>	 <p>朝久野 貞郎</p>	 <p>浅井 敏彦</p>	 <p>秋山 輝一</p>	 <p>赤田 康二</p>
<p>川越市</p>	<p>飯能市</p>	<p>浦和市</p>	<p>横浜市</p>	<p>練馬区</p>	<p>川越市</p>	<p>飯能市</p>
<p>▽シンちゃん▽排球部一直線。県・市バレーボール連盟役員。三代統きの教員一家▽埼玉大学教育学部▽本会唯一母校の先生経験者、オケンにも。県立松山高校教頭で病氣退職。現在は大病を克服し、パソコンに没頭。当文集委員▽和子夫人・一男・孫一▽パソコン、音楽鑑賞</p>	<p>▽自称ホワイトビッグ・他称ロッパ▽書道部。丸顔・ロイドめがね、色白で大柄な温厚少年紳士▽学習院大学経済学部▽地元武蔵野銀行に入行、秩父・飯能・北浦和各支店長を歴任。現入間三菱自動車販売(株)顧問(青木社長の片腕)▽スミ夫人・二男一女▽大酒豪(自称?)</p>	<p>▽アキラ▽陸上競技部。在学中はどちらかというと句会に情熱をもちました▽武蔵大学経済学部▽ダイケンエンジニアリング(株)専務取締役、台建大樓管理技術有限公司總經理Ⅱ社長ですぞ(現、台北市に常駐)▽キミ子夫人・三男▽ゴルフ、読書</p>	<p>▽ミイラ▽生物部。陸軍中将の孫ゆえ、武勇を期待され大弱り。在学中は勉強一筋▽学習院大学↓東京工大大学院、生化学の権威となる。▽住友ベークライト(株)医療機器事業部長付。現在薬事コンサルタント▽みち子夫人・二男一女▽トランペット吹奏、コンピュータ作図</p>	<p>▽チータ▽野球部。名捕手・女房役、浅井の後に浅井なしの活躍(あるのはバックネット?)▽東京学芸大学▽都内中学校の生徒指導主任学年主任など歴任し、中野区立北中野中学校から現在は東京都嘱託。▽信子夫人・一男一女▽勿論野球、次がゴルフなどスポーツ全般</p>	<p>▽キーチ▽国文学部、柔道部。戦後の柔道禁止令後も町道場通い。▽中央大学▽初等教育に専念、川越市内各校で活躍し、市立山田小学校長から現在は川越市教育委員会社会教育指導員として活躍。▽靖子夫人▽囲碁は有段、柔道一直線(自信満々)</p>	<p>▽コージ▽郷土部。古代の遺跡発掘で山野を歩いた。あの「遠い飛行機雲」の編者・赤田先輩の弟。中三(病氣休学)から飯能高校へ転出▽地元の埼玉銀行に入行し、合併後のあさひ銀行でも活躍。定年退職▽繁子夫人・二女・孫二▽大好きな飯能の山野散策、趣味模索中</p>

 <p>阿部 秀樹</p>	<p>府中市</p>	<p>▽ヒデキ（アイドル？）▼野球部。すらりと身体の大きな貴公子。勉強はよくでき、いつも上位にランクされました▼早稲田大学政経学部 ▽日立武蔵協力会社、中野電子工業所。現在は悠々自適。 同窓会に現れるのを楽しみにしています。</p>
 <p>新井 貞夫</p>	<p>川越市</p>	<p>▽アラクマ・貞奴▼映画部。川越っ子には珍しい都会的で端正な、野球熱心な少年。下校途中、敵機の機銃掃射にあう▼立教大学経済学部 ▽日産火災海上保険(株)副部長、東武グループ保険サービス(株)取締役。 保険畑一筋の人助け▽照子夫人・一男二女・孫一▼ゴルフ、旅行</p>
 <p>新井 澄夫</p>	<p>浦和市</p>	<p>▽黒いアライ・別名ターザン▼体操部。英語も得意で、国体出場のス ター▼東京教育大学▽浦高はじめ名門校に勤務。現大宮中央高。日本 体操協会、全国高体連等主要役員。昭和天皇に競技のご説明の栄光。 ▽ミツ子夫人・一男一女▼レタリング、謄写印刷、ビリヤード名人</p>
 <p>新井 涼平</p>	<p>所沢市</p>	<p>▽蒼いアライ・別名ソーヘー▼音楽部でピアノ演奏。カムカム英語も ▼青山学院大学▽意外や技術畑に転向、米国カミンズディーゼル技術 部長の仕事で世界闊歩。三たび転向して現在はグラントハウスビル オーナー社長▽好子夫人・二男二女・孫二▼クラシック音楽、パソコン</p>
 <p>新井 治雄</p>	<p>入間市</p>	<p>▽ラビ（ラビットの略）ハルさん▼籠球部主将。名ポイントゲッター 県大会涙の優勝▼学習院大学▽ゴルフ界一直線、現(株)武蔵野ゴルフク ラブ取締役支配人。川中二〇会ゴルフコンペの永久世話人、ご苦労さ まです▼美和子夫人・二男▼勿論ゴルフ、野球、美術鑑賞など</p>
 <p>荒田 光男</p>	<p>入間郡三芳町</p>	<p>▽アラゴリ▼柔道部、在学中は勉強一筋、力持ちで強かったですね。 ▼早稲田大学理工学部応用化学科▽日産化学工業(株)を経て、現在日産 ガイドラー触媒(株)常務取締役・技術部長と化学三昧の人生。四十年ぶ りに母校訪問、感激の由▼美年子夫人・二男一女▼ゴルフ（腕前？）</p>
 <p>有山 豊</p>	<p>(続編までお待ち下さい)</p>	<p>▽アリスーン▼書道部。高階村の大地主のご子息で、白顔の美少年「楽 山師匠の愛弟子。「楽有」の尊称も賜る。自転車通学部隊の一人。斉 木のトシちゃん、森下モリサダと苦楽をともにしたっけね。 ▽令夫人とご家族▼ツネさんが一所懸命がんばったが連絡とれず。</p>

 <p>石井 保行</p>	 <p>石井 精治</p>	 <p>池谷 治</p>	 <p>五十嵐 甫</p>	 <p>五十嵐 統祥</p>	 <p>飯田 清司</p>	 <p>飯嶋 謙治</p>
<p>新座市</p>	<p>川越市</p>	<p>入間市</p>	<p>入間郡越生町</p>	<p>大田区</p>	<p>鶴ヶ島市</p>	<p>横浜市</p>
<p>▽ポコちゃん▼書道部。楽山センセイの薫陶を受けた達筆少年。徳さんにも可愛がられて困っていましたね▼明治大学▽入間地区の公立中学校事務職歴任、上福岡第一中学校で大団円。現在は悠々自適。</p> <p>▽邦子夫人・一女▼フィッシング・太公望</p>	<p>▽セイチャン▼中一だけ柔道部。禁止解除後は復帰せず、勉学一途。高一から定時制へ。川中・川高七年間の貴重経験・努力賞▽上福岡市立第五小学校校長を勤め、現在は私立若草幼稚園園長として活躍中。</p> <p>▽キミ夫人・三男一女・孫三▼書画鑑賞、ゴルフ!</p>	<p>▽イーキャ▼金子村の英才は稀にみる論客で、口相撲は負け知らず。豊岡・入間川まで自転車通学のリーダー。今ならバイクだろうね。家業・茶園を継承。狭山銘茶、池之屋園を全国に展開。金子村青年団長、農協理事を経て入間農協常務▽政子夫人・二女・孫三▼ドライブ</p>	<p>▽Mr・オゴセ▼仲間と軟式野球に熱中する。ガソリンカーの越生線で通うニキビの甫さんは存在感あり▼明治大学政経学部▽地元の学校を中心に教育界で活躍。毛呂山町立毛呂山中学校を定年退職後は農業に従事(晴耕雨読)▽とみ子夫人・二男▼野球、ラグビー、盆栽</p>	<p>▽トイシヨウ・マラソン王▼陸上競技部の花形選手。校内外の長距離走では常にトップ。棒高跳びでは関東大会優勝、県新記録を樹立す。</p> <p>▽現在は日本電建(株)業務部長代理として現役で活躍中。</p> <p>▽一男一女▼山歩き、エッセイ創作、本文のサエを見よ!</p>	<p>▽トイシヨウ▼卓球部・陸上競技部。長距離走の黙々派、憂愁美・色白のスラリとした勇姿▼卒業後は小学校教諭として児童の教育にあたり、定年退職の現在は華麗に転身し、ビルオーナー。飯田(株)代表取締役社長▽初江夫人・三男・孫二▼美術・音楽鑑賞、スポーツ</p>	<p>▽ケンジ▼生物部。中三から休学して四期生の悪童共のボスに天下り囲りから先輩扱いでイー気分▼東京歯科大学。沈黙覚員、歯科技工で高梨家の土瓶を修理するも不成功▽横須賀で歯科医院長、同市歯科医師会会長。四期生とを結ぶ貴重な人材▽秋子夫人・一男二女▼ゴルフ</p>

 <p>石川 貞夫</p>	 <p>石田 照男</p>	 <p>一色 勲</p>	 <p>伊藤 明</p>	 <p>伊藤 純夫</p>	 <p>稲生 義彦</p>	 <p>岩澤 富世</p>
川越市	大宮市	川越市	横浜市	川越市	川越市	川越市
<p>▽石川のイラツメ(古事記より)▼書道部。鮮やかな墨跡は印象的。澄んだ瞳、温厚な少年で争い事は好まず▽地元川越の中福で長兄と農業の協同経営。一時身体を悪くしたが、現在は回復し元気に。</p> <p>▼書道、無農薬野菜作り、兄上からもよろしくとのこと。</p> <p>▽ジャリ照▼籠球部。ご存じのスター選手。国体出場をかけた対浦高との一点差試合は語り草▼立教大学経済学部▽トヨタ自動車発展と共に歩み、現在は埼玉トヨペット(株)代表取締役副社長として活躍。</p> <p>▽千栄子夫人・一男一女・孫一▼ゴルフ、バスケット(TV観戦)</p> <p>▽イサオ(人格者でアダナがないので実名)▼庭球部。剣道部からの転向組だが、本格派で「タツヒコカイサオか」と言われた名手。▼立教大学▽三楽オーシャンに進み、現在はエクセン(株)取締役。</p> <p>▽玲子夫人・一男一女▼勿論テニスでしょうね？</p>	<p>▽アキラさん▼排球部。野球の応援に熱中、大宮球場は懐かしいとのこと。野球部の連中はうれしいね▼学習院大学▽ソニーでずうっと活躍、最後の仕事フアクトリーオートメーション(ロボット生産設備)に関わっていききたい由▽住子夫人・二女・孫一▼囲碁、読書、スキー</p> <p>▽スミ▼庭球部。「少々やった程度」と奥ゆかしいお言葉はお人柄。</p> <p>▼国際短期大学英文科▽文字通り国際人として、世界中を飛び回る。丸の内のスイスやインドネシアの商社にも。現在はドイツの会社の外商勤務(輸出セールス担当)▽正子夫人・一男・孫二▼読書</p>	<p>▽イナゴ▼映画部。活動写真マニアが集う部活の首領で、三本立てを毎日見て、名画のラブシーンを全部暗記した当時の活動狂のひとり。</p> <p>▼東京歯科大学▽稲生歯科医院院長、旧友多数治療救済。最近は自身を治療▽殖(なか)子夫人・三女・孫一▼ドライブ、ゴルフ</p> <p>▽トミヨ(女の子じゃないヨ)▼書道部。楽山師の愛弟子。川女と作品展を度々開催。温厚紳士型少年▼明治大学▽川越の老舗大黒屋(米穀商)を相続、代表取締役社長。税制申告指導役員。▽初枝夫人・一女・孫一▼カメラ(富士フォトコンテスト金賞)、硬式テニス</p>				

 <p>遠藤 公平</p>	 <p>江原 襄</p>	 <p>榎本 勝夫</p>	 <p>浦部 俊久</p>	 <p>宇都野 正章</p>	 <p>内沼 一雄</p>	 <p>内海 俊郎</p>
<p>狭山市</p>	<p>川越市</p>	<p>志木市</p>	<p>江東区</p>	<p>川越市</p>	<p>横浜市</p>	<p>鎌倉市</p>
<p>▽コーヘー▽排球部。前衛としてアタックにブロックに活躍、温厚な人柄▽昭和医科大学▽狭山市内に遠藤医院（内科、小児科）を開業。地元の人望を集め、学校医としても活躍。最近ますます実績が出る。医道仁術之人生也▽正子夫人・一男▽のんびりとイタリア旅行</p>	<p>▽おジョーさん▽国文学部。徳門十哲の一人、小柄で寡黙な勉強家。▽埼玉大教育学部▽三十八年間の教職生活、入間地区教育研究会会長。川越市立上戸小学校校長から現在は埼玉高校で活躍▽幸江夫人・二女・孫一▽俳句、読書、徳さんと最後まで師弟の情思こまやかに</p>	<p>▽エノカツ▽無所属右派。どういう訳か東上線は大物が多かったが、その中の一人。大人のやること実行先駆者。大きい人は何かと有利。小さい子は損だね▽スター目指して東宝制作部、テレビの世界遍歴。現キュービー流通システムで活躍▽礼子夫人・一男三女▽多芸に秀る</p>	<p>▽デカ▽音楽部。オケン（女子高）音楽部との交流が魅力だった。約五年間東京から通学せる愛校心は今でも▽東京学芸大学▽東京都教員に、江東区立小名木川小学校長（同幼稚園長）。現江東区教育委員会相談員▽紀美子夫人・一女▽テニス、釣り、読書（歴史小説）、卓球</p>	<p>▽雀聖（自称）。転入生のくせにたちまち友人を作る才能あり▽無部活のマルチ手出し器用人でスターに▽青山学院大学▽とみん銀行各支店長↓とみん土地建物(株)常務↓東京フラワー証券(株)社長▽沈黙党員の一人▽淑子夫人・一男一女▽カメラ、ゴルフ、文学書、酒席大好き</p>	<p>▽ジープ▽山岳部・化学部。色白で怒りん坊の秀才、爆弾事件着火係なるも免責▽東京大学・工学博士▽日本石油(株)中央研究所室長、三洋化成工業(株)研究企画部長から現在在は（財）石油産業活性化センター。▽京子夫人・一男一女▽囲碁有段、京都在任の役得を生かし名所巡り</p>	<p>▽トツパ▽籠球部、庭球部、野球部と浮気者。疎開組の一人で高麗からバス・西武・国鉄と三線通学の雄。奇才型少年▽早稲田大学▽(株)電通クリエイティブ・ディレクターを経て、現(株)電通コーテック制作本部▽恭子夫人・二女▽クラシック音楽、ピアノ演奏（鎌倉交響楽団員）</p>

 <p>大川 解</p>	 <p>大沢 弘</p>	 <p>大野 春雄</p>	 <p>大野 良三</p>	 <p>大野 哲哉</p>	 <p>大山 勝地</p>	 <p>岡田 立彦</p>
<p>世田谷区</p>	<p>川越市</p>	<p>練馬区</p>	<p>比企郡小川町</p>	<p>川越市</p>	<p>町田市</p>	<p>川越市</p>
<p>▽ダイセンカイ▽陸上競技部。棒高跳びの勇姿をはじめ、応援団長・弁論大会・予餞会などで同窓の記憶に不滅▽法政大学▽実業界入り、アジアカラー(株)・他を創業し発展させる。親分肌で彼に世話になった級友・後輩もあまた▽令夫人と幸福家庭▽世界三十数カ国を旅行</p>	<p>▽ヒロシ▽物理部。数学は天才級、運動は凡才。才気煥発・眼光炯々の神童▽電気通信大学▽運輸省航空管制官を務めた後、松下電器(株)に入社、その後川越数学塾経営。現在には有機無農薬による農作物の栽培に鋭意専心▽トシ子夫人・三女▽アウトドア・スポーツ、自然愛好家</p>	<p>▽ハルオさん▽部活せずともパフォーマンス豊富。英語が達者でしたね。温顔で落ち着きのある人徳タイプ、いつも笑顔。米軍でバイト。▽早稲田大学▽東京都消防庁入庁、海外関係業務一筋、総務部副参事 全国消防長会調査役▽民子夫人・一女・孫二▽囲碁、ゴルフ、英語</p>	<p>▽大仏、リョウちゃん▽美術部。絵が好きで勉強も運動も、みなこれにつき込み、本物の偉い画家になる。川中時代すでにヌードに挑戦。▽東京芸術大学美術学部▽年賀ハガキ版画で大臣賞受賞。現役で制作活動。当文集の装丁担当▽久子夫人・一女▽東洋蘭、ヨーガは流石</p>	<p>▽テツちゃん▽一年一組の副級長でデビュー。入間川一番の秀才という訳▽相撲部員では級長の雄ちゃんを投げ飛ばす。兄貴の風格でクラス統率。大野画伯と竹馬の友▽ジョンソン基地から横田基地と米空軍をスタッフとして面倒をみる▽礼子夫人・一男▽相撲TV観戦</p>	<p>▽カツジ▽「ラヂオ班」↓物理部。模型作りや鉱石ラヂオから始めたエレクトロニクスの元祖少年▽東京都立大学▽横河電機(株)入社、以来ハイテク人生。現工業所有権協力センター主席部員として技術大國・日本をリード▽幸子夫人・一女▽勿論パソコン、コンピュータなど</p>	<p>▽タツちゃん▽庭球部。岡田の前に岡田なし、前進また前進の勢い。先輩・芹沢氏とのダブルスで全国制覇。ハンサムで秀才▽名門・日清紡にスカウトされ、前後転勤七回のベテラン。現(株)中外東京営業所参与▽凱(よし)子夫人・二男一女▽昔は岩登り・スキー、今は犬の散歩</p>



北海道夕張郡栗山町

▽アキラ▽郷土部。あちこち掘り返して古墳の調査に没頭。「かぶ小川」に疎開し、併設中から都立日比谷高校へ転出。現在は北の大地・夕張に▽東京大学▽王子製紙(株)林材本部、林木育種研究所所長。海外との共同研究も▽陽子夫人・一男一女▽音楽鑑賞(特にフルト曲)



川越市

▽シロちゃん、別名○レン隊長(その貫録十分あり)▽映画部、演劇部「地平線の彼方」で主演、だい分モテたよう▽卒業後、教職に身を投じ児童の教育専心、川越市立霞ヶ関南小学校長で退職後は悠々自適▽貞子夫人・二女・孫二▽美術鑑賞、コケシ集め、お孫さん盲愛



川越市

▽自称ガリ勉▽柔道部。その後部活浪人で勉学一筋、俳句にも傾倒。▽東北大学工学部▽(株)ゼクセル(旧ディーゼル機器(株))取締役・燃料噴射ポンプ事業部長として活躍、現在は(株)テクノニイガタ代表取締役社長▽要夫人・一男二女・孫一▽ゴルフ、囲碁、園芸



入間郡毛呂山町

▽オクさん(ズミちゃん)▽演劇部。大きな瞳に長いマツ毛、その上美声の持ち主▽玉川大学▽中学校教員として入間地区各校で教鞭をとり、坂戸市立泉中学校長に。現在は鶴ヶ島市立富士見公民館長。▽雅子夫人・二女・孫三▽若い時からの写真



川越市

▽オクさん▽卓球部。出入りが激しく浮気者の多い卓球部を最後まで守った律儀部長。堂々たる体躯に温厚なマスク▽埼玉銀行入行、主要部署を歴任。川越都市開発(株)でも活躍。現東京シリコーン(株)社長室長 当文集編集室の一人▽和子夫人・二女▽豪快な海釣り、ピンポン!










熊本市




▽奥さん(彼が家元)▽物理部。城下町川越の貴公子。母校PTA会長のせがれ。現在も相変わらずスリムで、永年健康優良児。成人病には無縁の由▽中央大学法学部▽法曹界で裁判所畑を一貫して歩み、現在は熊本地方裁判所長・判事▽良栄夫人・二男▽何よりも六法全書

















横浜市








▽クマチユウ、忠さん▽排球部・音楽部。川工から転入の奇才、たちまち文武のスターに。映画狂、英語拔群▽早稲田大学▽国際電電(KDD)一期生。国際電話局長や米国駐在など国際業務畑で活躍。英国海外郵趣顧問、当文集委員▽明子夫人・一男二女▽外国語、音楽鑑賞








 <p>槽合 熊</p>	 <p>小畑 温治</p>	 <p>小野 則彦</p>	 <p>小高 省三</p>	 <p>小鷹 邦夫</p>	 <p>小沢 昭治</p>	 <p>小沢 孝志</p>
<p>所沢市</p>	<p>彦根市</p>	<p>横浜市</p>	<p>東松山市</p>	<p>川越市</p>	<p>桶川市</p>	<p>狭山市</p>
<p>▽くまさん▽山岳部・体操部。皆から慕われたビッグホワイトベア、鉄棒では骨折。山登りはキンタさんと南アルプス縦走▽立教大学経済学部▽家業を継いで所沢織布㈱代表取締役社長。(尙)パルカスヤ・(尙)エンジェルなどホテル業や不動産管理と多角経営▽ゴルフ、お酒</p>	<p>▽オンちゃん▽演劇部。おとなしいオンちゃんだが、幕が開くと別人に。記憶に残る舞台多し▽東京教育大学理学部▽本年三月定年退職するまで長らく滋賀県立米原高校で教鞭をとる。今は琵琶湖のほとりで優雅な生活を送る▽千枝子夫人・一男一女・孫二▽読書、音楽鑑賞</p>	<p>▽オノテン▽野球部。投手兼外野の強打者、オノテンの好不調が勝負を左右す。ハンサムで浮き名頻繁▽慶応大学▽(株)東急コミユニティ九州支店長などの要職を歴任。現在は東急ビルメンテナンクス(株)取締役。▽宏子夫人▽休日の朝のビールが楽しみ、読書、朝起きに弱い</p>	<p>▽シヨゾー▽英語部、体操部。当時から端正で威厳のある秀才で、人望あり▽日本大学文学部▽東松山市内で衣料関係の「オダカとチャーム」を手広く営む。三代(父上と子息)川中・川高卒業の誉れが高い。本文集に大感激▽百合子夫人・四男・孫三▽投網とはすごい</p>	<p>▽クニオさん▽美術部。大沢先生を中心に大野良ちゃん、松平理ちゃんなどと熱心に石膏デッサンに打ち込んでいましたね▽東京電気通信学園▽国際電電(KDD) (株)で国際料金関係業務、国際料金の精算ご担当。現在は悠々自適▽好子夫人・一男▽写真 絵画</p>	<p>▽ライギョ▽陸上競技部。自己を鍛えるために黙々とオンタケ山の石段登りは有名▽家業(農業)の傍ら地元青年団長、PTA会長、桶川市農業委員、同社会体育指導委員など要職を歴任し、現在に至る。▽幸子夫人・一男二女▽古銭・古民具の収集、古文書の整理など</p>	<p>▽タカシ▽無所属隠健派。「獺祭(だっさい)」に名句多数存在。長身堂々たる体躯故に、カケゾーの解析、トクサンの漢文の授業では級友の盾▽家業を発展させ、(株)狭山人形社長。製品は世界の皇室・王室・VIPの応接室を飾る▽シズ子夫人・一男一女▽ゴルフ、旅行</p>








 <p>瀧沼 稔</p>	<p>文京区</p>	<p>▽みね公(旧姓峰岸さん)▼籠球部、身体をこわすほどの熱の入れようで、最強チームの一員▼立教大学▽日本一の家具問屋(株)カタヌマ代表取締役社長、東京家具卸商業組合理事長。家具で世話になったご同輩も多し▽琴子夫人・一男二女・孫三▼ゴルフ、スポーツ観戦</p>
 <p>加藤 健</p>	<p>川越市</p>	<p>▽花王大將▼山岳部。秩父の諸峰を踏破したがんばり屋の少年でした▼日本大学▽(株)帝国データバンクに勤務後、現在は運輸業兼加藤美容室代表取締役。髪結いの亭主。左うちわで羨ましいだろうとご自慢。 ▽栄子夫人・一男二女・孫二▼木造船模模型制作、ゴルフ、園芸</p>
 <p>加藤 敏一</p>	<p>伊東市</p>	<p>▽トシ▼書道部。楽山先生の愛弟子の一人、達筆はそのせい。将棋が大好きで、講堂の南側でよくご開帳。穏健派の秀才で、獺祭にも名句多数▼日本大学法学部▽リネン業界に進出、現在は観光地伊豆の伊東市でリネンサプライ会社社長▽陽子夫人・二女▼将棋、俳句</p>
 <p>加藤 博</p>	<p>入間市</p>	<p>▽ハンブル・チビ▼書道部。休み時間は専らテニスボールで素手野球に熱中。兄上がお説教の名人でした▼日本大学▽地元の公立学校に在職、所沢市立松井小学校教頭を経て、現在は入間市立藤の台公民館館長として社会教育に貢献▼賢子夫人・一男▼テニス、ゴルフ、囲碁</p>
 <p>加藤 康夫</p>	<p>所沢市</p>	<p>▽箱入り息子▼生物部。お雛様の様な上品な少年は吾野の山大尽の跡取り息子。市内に下宿し、まじめにお勉強▼東京農工大学林学部▼家業を継ぎ現在はフジミ商事(宅建)社長や顔振峠の富士見茶屋当主。 ▽匡代夫人・二男・孫一▼剣道・スポーツチャンバラ共に五段、利酒</p>
 <p>角谷 文昭</p>	<p>飯能市</p>	<p>▽カド▼文化部。高校二年次に山形県の鶴岡高校からの転入生。小柄だがフアイトを内に秘めた努力家▼東京教育大学▽東京都荒川区役所福祉部長など歴任。現在は同区福祉公社常務理事兼事務局長、在宅福祉サービスマネージャー▼幸子夫人・二男一女▼家庭菜園など</p>
 <p>金島 壮行</p>	<p>上福岡市</p>	<p>▽ソークー▼国文学部。文学研究会に熱中した謹厳実直な勉強少年。座右の銘は「断じて行えば鬼神も之を避く」。外国映画で文化を吸収▼早稲田大学▽長年の教職は上福岡市立第五小学校で定年。今は悠々自適。当文集委員▽一男一女▼趣味絵画、ピアノ、英語ダイベート</p>

 <p>金子 武司</p>	江東区	<p>▽キンコブジ▽郷土部。平方遺跡発掘になど一連の部活に没頭、終戦前に東京九段中より疎開、結果入間川駅で敵艦載機の機銃掃射にあう ▼東京都立大学▽三菱鉱業からセガエンタープライズに二十二年勤務 現(株)ジャレコ取締役営業部長▽正子夫人▽旅行、山歩き、ゴルフ</p>
 <p>金子 勇二</p>	川越市	<p>▽ヤマブシ▽山岳部・図書部。山行ではリーダーの風格、秩父全山の独行。弁論大会のヤジ将軍、歌笑の異名も▽日本大学▽川越市立富士見中学校長から現在は入間教育事務所生徒指導推進委員として活躍。 ▽弘子夫人・二男▽相変わらず登山、剃髪！</p>
 <p>加畑 栄</p>	川越市	<p>▽ばたやん▽郷土部。武蔵之国河肥郷は大昔、縄文文化の栄えし所。熱心な仲間とあちこち、ロマンを求めて古墳発掘に熱中。名細(なぐわし)の里からホツペを赤くして自転車通学▽住宅設備機器関係の業界で活躍▽陽子夫人・一男一女・孫一▽趣味は沢山あつて書ききれず</p>
 <p>鎌田 隆尚</p>	川越市	<p>▽かまさん▽山岳部。黙々と独行で秩父の峰々は総て足下に。忘れ得ぬひと言「人が飯食っているのをのぞくな！」―終戦間近か、防空壕を掘っていた一兵士の言。「あの頃はヒモジかったですな」かまさんの述懐▽中央大学▽兄上と川越印刷(株)▽尚子夫人・二男▽文化全般</p>
 <p>川合 敬三</p>	川越市	<p>▽ケイゾウ、こんにやく▽野球部。名一塁手で柔軟な体から、一度のホームランも。チームのまとめ役▽早稲田大学▽所沢市内各中学校・同市教育委員会に三十七年余、所沢市立向陽中学校長から今は同市民武道館長▽光子夫人・一男二女▽スポーツ全般、8mm撮影など</p>
 <p>川崎 匡</p>	富山市	<p>▽タダシ▽応援団。勉強はできたが運動はまるでダメちゃん？ 草野球では外野▽新潟大学医学部▽富山医科大学医学部教授で、そのすじ(小脳の研究)では有名な学者。富山市永住はどなたの影響ででしょうか？▽岱(たい)夫人・二男一女・孫一▽野球、ゴルフ</p>
 <p>神田 寿夫</p>	板橋区	<p>▽カンちゃん▽庭球部。真っ黒な顔に大きな眼、豪快なサーブはノータッチエース。クラス対抗リレーのメンバー(川合、平岡、小野)のひとつ▽中央大学▽通産省入省、日本産業復興のため貢献する。現在は(財)小型車両振興協会▽和子夫人・一女▽スイミング、ゴルフ</p>

 <p>岸智</p>	 <p>喜多弘</p>	 <p>北崎詔彦</p>	 <p>橋田敏之</p>	 <p>君塚功</p>	 <p>木村定雄</p>	 <p>小島一雄</p>
<p>所沢市</p>	<p>倉敷市</p>	<p>船橋市</p>	<p>大宮市</p>	<p>飯能市</p>	<p>狭山市</p>	<p>武蔵野市</p>
<p>▽ガンチ（ガンジーとも）▽無所属中立派。ヒョロヒョロと首が長く可憐な秀才少年。体操の時間の長距離走は一番苦しかったとの述懐。 ▽日本大学▽東京都水道局水源管理事務所長を経て、日本電気㈱第一販売本部部长として活躍▽恵子夫人・一男一女▽ゴルフ、スキー</p>	<p>▽ヤジキタ・キタコウ▽生物部・化学部。運動は苦手だが、勉強は抜群。長身で大きな目▽東京教育大学理学部（動物学）▽川崎医科大学助教授・川崎医療福祉大学教授（生理学）。著名な学者で女学生に囲まれて幸せ▽邦子夫人・一女▽書籍収集（科学史、ダ・ビンチ研究）</p>	<p>▽ザキ▽無所属。当時はスマートでした▽立教大学▽小幡亜鉛鍍金㈱を経て、㈱エス・ワン（自動車販売）総務部長。日本の自動車産業の発展に尽力。現在は趣味に生きる毎日。それは何でしょう？ ▽孝子夫人・二男・孫二▽日曜大工、何でも作っちゃう</p>	<p>▽キツちゃん▽浮気部（いろいろやった人への敬称）。将棋が好きで授業中没収にあう。バレーや体操にも熱中▽東京都立大学工学部▽国鉄の技師。構造物研究所（橋梁など）研究主幹ののち現在は㈱熊谷組技術開発部長、都立大学講師▽京子夫人・二女▽ゴルフ、車、囲碁</p>	<p>▽ミニズク▽山岳部。コワイ顔してピッケル持って、秩父諸岳を峰から峰へ。生物部でも活躍▽信州大学医学部▽君塚医院院長（内科・小児科・外科）飯能市内で開業。一日百人は助ける名医でアカヒゲの敬称も▽英子夫人・一男一女▽囲碁、ゴルフ、健康のための水泳</p>	<p>▽サー坊▽庭球部。その俊足は陸上競技部の連中も追い付けず。入間川軍団の一人。生家は酒屋さん、強いのは道理。早熟少年は風柳道でも先駆者。これも誰も追い付けず一路自動車業界へ▽埼玉トヨタからトヨタフォークリフト営業部長▽鈴子夫人・一女・孫一▽ゴルフなど</p>	<p>▽さんぞく（ヤマゾクとも）▽山岳部・生物部・化学部。化学の時間に火薬を爆発させ大火傷。さんぞくは山行の支度で登校するほどのマニアへの尊称▽明治大学▽東京プラント㈱取締役営業部長。職場では火傷事故ナシ▽美代子夫人・一男・孫二▽囲碁（ツヨソー）、旅行</p>


 <p>小沼 達之助</p>	<p>川越市</p>	<p>▽タツ▼無所属。ゲール先生に誉められた英語少年▽埼玉県警察本部交通部運転教育課調査官。激しい交通戦争の最前線で活躍。警え級友でも酒酔い運転は許しません。今は晴耕雨読の毎日とのこと。 ▽節子夫人・二女・孫三▼読書など、謹厳居士らしいです</p>
 <p>小林 堅造</p>	<p>越谷市</p>	<p>▽ケン象▼柔道部（終戦で頓挫）。やさしいくせに怒りん坊の東京からの疎開のひとり。色白で太めの秀才で、幻のラグビー部創設にも関与▽榎松屋、榎松美舎などデパート業界で活躍。 ▽民子夫人・一女▼山登りは十年前に止め、今は専ら植木いじり</p>
 <p>小林 洋左</p>	<p>狭山市</p>	<p>▽ヨーザ▼山岳部・郷土部。小柄で可愛い少年の面影は今も。地下足袋、ゲートルで峻峰を踏破▼中央大学文学部▽各高校に在職。県教育局高校教育課、県立川越女子高校長は最高。今は県立南教育センター嘱託。当文集委員▽いと子夫人・二男一女・孫四▼弓道、ハイキング</p>
 <p>齊木 敏雄</p>	<p>川越市</p>	<p>▽トシちゃん▼無所属部。ハンサムでも女性には極めて真面目な人。西川英語はギブアップでも、カケゾウの数学ではヒーローでしたね。 ▼東京理科大学▽技術畑一筋、(株)栗本鉄工所では大径鑄鉄管を全国に敷く▽恭子夫人・一男一女▼園芸（東洋蘭）とは風流ですな</p>
 <p>斎藤 賢治</p>	<p>品川区</p>	<p>▽ケンジ▼新聞部・図書部。本の虫でしたが、運動もそれなりにこなした秀才▼東京大学文学部▽NHK・日本放送協会放送文化研究所、現在は明治学院大社会学部講師（教育論・テーマパーク論・地域社会論）▽迪代夫人・一男一女▼「防災まち造り」など地域社会に貢献</p>
 <p>斎藤 清一</p>	<p>練馬区</p>	<p>▽うらなり▼山岳部。青い顔をして必死に山に登る。また、文学にも傾注し、太宰・織田・坂口・カフカなどを愛読する▼中央大学法学部▽ポौरラ化粧品、日本タッパウエア(株)などを経て、現フォルム(株)社長（健康・美容に奉仕）▽昌子夫人▼ゴルフ、旅行、読書</p>
 <p>斉藤 恒</p>	<p>川越市</p>	<p>▽ツネさん▼剣道部。家近くの小川でひねもす魚釣りを楽しむ。小・中・高校無欠席の真面目少年▼東京交通大▽ミスター西武。高田馬場駅長、所沢地区支配人を歴任、花の勇退。長年同窓生名簿作成に尽力せし最大功労者▽照子夫人・一男一女・孫二▼趣味ゴルフ、マラソン</p>

 <p>齋藤 弘行</p>	<p>川越市</p>	<p>▽ヒロツピン・ガイコツ▽無所属。勉強もできたが、野球もいい線。映画見物好きの賢い少年▽早大・同大学院▽東洋大学経営学部教授。大東文化大、駿河台大、文京女子大の講師と多忙、著書多数。▽静枝夫人・一女▽落語（聞いたり・関係書籍集め）、油絵スケッチ、俳句</p>
 <p>齋藤 守弘</p>	<p>浦和市</p>	<p>▽ドゼウ▽映画部。鶴川座・舞鶴館・松竹館をハシゴし、アメリカ映画を見て教養を身につける。数学は天才肌、カケゾウと丁々発止の大奮闘▽早稲田大学第一理工学部▽㈱トーヨー専務取締役。根っからのエンジニア▽月子夫人・二男▽カメラ、切手収集</p>
 <p>佐久間 幾雄</p>	<p>羽村市</p>	<p>▽ラヂキチ▽ラヂオ部。鉾石ラヂオから出発した電波少年の一人で、電子王国日本を築いた草分け▽日本大学工学部▽沖電気㈱でデータ処理、金融端末器の開発設計。現金自動支払機・キップ自動販売機などは彼の発明！現在は大手液晶メーカー役員▽安子夫人▽音楽鑑賞</p>
 <p>佐々木 雄司</p>	<p>川越市</p>	<p>▽ゆうちゃん▽相撲部。入学式総代。何でも一番トップ勝ち逃げ。体操ダメの平行棒墜落総代▽東大医学部▽医学博士（精神衛生）。東京・埼玉精神衛生センター各所長・琉球大教授。後に東大教授。現在は独協大教授▽道子夫人・二男一女（家族全員がお医者様）▽ゴルフ</p>
 <p>佐々木 良祐</p>	<p>日高市</p>	<p>▽リョーユー▽籠球部。小柄だが動きは俊敏。京都比叡山中学から転入した名門の御曹司▽大正大学▽良寛様よろしく、地元の寺子屋（小学校）で多くの子供を導く。現在は高麗郷の天台宗・松福院ご住職。▽たけ子夫人・一男一女・孫二など八人の大家族▽読経三昧</p>
 <p>沢田 明</p>	<p>大宮市</p>	<p>▽キョード▽郷土部。勉強家で美少年。古墳発掘には取り分け熱心、出土品は今も川高にあるかも▽早稲田大学法学部▽㈱あさひ銀行に入行し要職を歴任。現在は同銀行事務サービス㈱にて活躍▽昌子夫人・二男・孫一▽奥様とフルムーン旅行、ゴルフ、さつき</p>
 <p>塩入 亮善</p>	<p>川越市</p>	<p>▽リョウゼン僧都、ウラナリ▽生物部、陸上競技部、卓球部。法衣の下からラケットチラリは粋です▽大正大学・同大学院▽叡山で修行、武蔵之国河肥の天台宗の名刹・星野山喜多院ご住職。「春日局」ブームで年中ご多忙▽廣子夫人・四女・孫一▽書画骨董鑑賞及び鑑定など</p>








 <p>新藤 邦泰</p>	 <p>清水 良平</p>	 <p>清水 正勝</p>	 <p>島田 真三</p>	 <p>柴野 昭信</p>	 <p>柴田 隆司</p>	 <p>柴崎 建治</p>
朝霞市	横浜市	浦和市	川越市	上尾市	川越市	和光市
<p>▽アブシン▽剣道部、庭球部、生物部、詩吟部、幻のラグビー部をハシゴ。飲み過ぎて卒業式欠席など、波瀾万丈で書き尽くせぬ超ユウメイ人▽明治大学商学部▽油新石油(株)、新和物産(株)などの取締役社長。県下の大ボス▽照美夫人・二男二女・孫三▽写真(県展招待出品)</p>	<p>▽リョーヘー▽書道部部长。満州国奉天中学校より終戦後帰国せし秀才。その苦労は空前絶後、自分史「重ね絵」に詳細▽東京大学法学部▽さくら銀行各支店長歴任、さくらコンピュータ(株)役員。現学習塾経営▽弘美夫人・三男二女▽ダンス(プロ級)、俳句、連歌など</p>	<p>▽マサカツ▽無所属中立派。たとえ嫌いでも、徳さんには俳句をやらされたから「獺祭」には君の名句が残っています▽ハザマ組での東北新幹線荒川鉄橋建設は後世に残る金字塔。現在は傍系会社で現役バリバリとは羨ましい!▽恵子夫人・一男一女▽読書</p>	<p>▽ベティさん▽野球部。でかい身体に大きな目、頼もしく見えた。部活は途中で退いて勉学の道に、だから成績は良いはず▽埼玉大学教育学部▽川越市内の各中学校に長年在職。心臓の大手術の後、市立城南中学校でピリオド。現在は健調▽カノ夫人・一女▽写真撮影など</p>	<p>▽オタンポ、あきのぶちゃん▽部活浪人の花形。いずれにしても群雄の一人。医師・父上の豪快さを受け継いだね。また一年先輩の兄上にはよくお説教をされました。アダ名の訳は、楽山先生の拓本指導の間、巨大なタンポを学校へ持参▽練馬タクシー(株)、同窓会で会おう</p>	<p>▽ゴローちゃん▽野球部。名投手でそのドロップは誰も打てず。名捕手・浅井の言だが今は伝説となりぬ▽日本大学▽川越江戸町の旧警察署前の老舗米穀商「板屋」を相続し社長。家業ますます隆盛発展す。▽秀子夫人・二男▽スポーツ(最近は観戦のみでウズウズ)</p>	<p>▽シバケン▽山岳部。天文学に凝ってひとり星を眺めるロマンチストだが馬力もあった。東上線三人衆。高校二年で早稲田学院▽早稲田大▽(株)あさひ銀行各支店長を歴任、現在は(株)柴崎代表取締役(不動産・米穀)▽容子夫人・二男二女▽写真(受賞歴あり)、登山</p>

 <p>菅間 昭</p>	<p>横浜市</p>	<p>▽ガンマ▽野球部。マネージャー、ベンチでは学生服でナインの世話 三Aの級長▽東大文学部▽NHKインターナショナル(アナでないの は残念)。国際協力交流部長、東京サミットで忙しく、当文集座談会 の司会を棒に▽礼子夫人・一男二女・孫一▽カラオケ、当文集委員</p>
 <p>鈴木 淳一</p>	<p>江東区</p>	<p>▽ジュン▽無所属。教科書がない、弁当には苦勞した疎開少年の想い では尽きず。やがて終戦、都立日本橋高校へ復学後も川中を忘れず。 ▽鈴木雨衣製作所代表取締役社長、(財)モラロジー研究所理事。ポ ランティアとして社会教育活動▽千恵子夫人・二男一女・孫一▽旅行</p>
 <p>鈴木 徹也</p>	<p>(続編に乞うご期待)</p>	<p>▽テツヤ▽国文学部。憂愁を含んだ秀才。国文学部にはこういうタイ プが多かった。徳門十哲の一人。英語のウイークリーはスラスタで、 平治郎と英語で議論する豪傑▽東京外国語大学。外国へ移住したのか な？さすがのツネさんも連絡とれず。その内ひよっこり現れるかもね</p>
 <p>鈴木 俊雄</p>	<p>豊島区</p>	<p>▽のんきめがね▽国文学部。よくいるスラリとしためがねの真面目な 少年。都会的で怒りっぽい疎開組の一人▽明治大学▽建て売りの成田 建設で活躍後、喫茶「からたち」(3-366-8100)を経営。みんなで 訪ねてみよう▽典恵夫人・三男▽弓道・ゴルフなど</p>
 <p>鈴木 洋</p>	<p>練馬区</p>	<p>▽馬さん(自称)、ヨー子とも▽体操部、書道部、国文学部。アダ名 に反し男性的。鉄棒の演技は級友の記憶に永遠。徳門十哲の一人。 戦後、映画館通いも頻繁に▽早稲田大学▽病院の経理主幹、五年前か ら社会福祉・老人介護に奮闘▽紀子夫人▽音楽鑑賞、ランの栽培</p>
 <p>鈴木 美男</p>	<p>海老名市</p>	<p>▽ボタ▽国文学部。小柄で可愛かったので、徳さんにマークされまし たね。お陰で「獺祭」には名句を残す。記念写真には必ずボタの顔が ありました▽卒業後、建設業界で起業の旗揚げ、大奮闘。(有)美鈴建設 代表取締役社長▽アイ子夫人▽海老名の名士です</p>
 <p>須永 徳明</p>	<p>VENEZUELASOUTHAMERICA</p>	<p>▽ノリさん▽浮気部。何でも手を出す人への敬称。和製ハックルペリ ーというこの人の他になし。やがて日本を脱出しベネズエラへ。マ ライカイボ湖畔で、ライフワークのストア経営。住友電工(株)現地REP 元気で時々帰国の由▽和子夫人・一男一女・孫一▽カリブ海の船旅</p>

 <p>高山 恵介</p>	 <p>高橋 幸男</p>	 <p>高橋 光一</p>	 <p>高梨 昌夫</p>	 <p>関根 保雄</p>	 <p>関根 憲治</p>	 <p>関口 英輔</p>
<p>川越市</p>	<p>東松山市</p>	<p>新座市</p>	<p>川越市</p>	<p>富士見市</p>	<p>練馬区</p>	<p>大田区</p>
<p>▽ケースケ▽無所属(バンドのバイトが忙しくて)。オンタケ下の閑静な自宅は校庭のすぐ南側。ご存知ハワイアン・スチールギターやウクレレの名手。当時はブームであちこちの演芸会やダンスパーティーに引っぱりダク▽小川ゴム(株)に勤務▽魚釣り、ミュージックなど</p>	<p>▽サチオ▽無所属の中立派。部活なしで広く付き合った人。とっても小柄で可愛い少年でした。いじめた奴は誰だ！ 今度会ったら百年目だぞ▽明治大学商学部▽東京都新宿区教育委員会に長年勤務し、新宿区の区政推進員として活躍▽加代子夫人・二男▽晴耕雨読、ゴルフ</p>	<p>▽ジャジャ馬、ピカイチ▽蹴球部。ひと所には長居せずハシゴ。ラグビー創部運動の主魁？。盛岡中学校からの風の又三郎、「アメニモ、カゼニモマケタ」とは本人の弁。川高麻雀クラブの胴元。金太さんも参加？▽五味自動車を経て高長商会を経営▽重子夫人・一男一女</p>	<p>▽ウオオマサ▽柔道部。その後部活浪人で広い付き合いは人徳。野球でもなかなかの腕前▽家業「魚敬」相続。店は沈黙党員の巣窟で常に満員、世話になった者多し。のちに中華レストランを経営。現在は川越ハーゲンダッツアイスのオーナー▽美代子夫人・一男一女▽お説教！</p>	<p>▽ウツシー(旧姓から)▽相撲部、陸上競技部。オデコに真一文字のシワ、意志の強さは怒涛の寄りや短距離の勝負強さに。そして六年間の風雪に耐えた自転車痛学で証明▽日本大学▽教職の道へ進み地元の富士見市立諏訪小学校で大団円▽文枝夫人・三女・孫三▽野山の散策</p>	<p>▽ワンちゃん▽化学部、国文学部、生物部。当時自宅がオケン正門前とは羨ましい！。野球熱心な秀才▽千葉大学↓群馬大学↓千葉大学大学院の勉強家▽関根産婦人科病院院長、日本母性保護医協会理事、TV出演しばしば▽紀代子夫人・一男一女▽最近専らワンちゃんと散歩</p>	<p>▽スイッチョン▽国文学部、生物部。高麗の英才は博物室でバツタやスイッチョをいじっている内、医学を志して猛勉強▽東北大学医学部▽防衛医大病院・東所沢病院から東京白十字病院院長として、パリパリの現役で活躍中▽久子夫人・一男一女▽仁術を以て救済に専心</p>

 <p>田中 修</p>	 <p>田島 晃夫</p>	 <p>武長 洋平</p>	 <p>武田 侃藏</p>	 <p>竹沢 靖</p>	 <p>竹内 春男</p>	 <p>竹内 達</p>
<p>座間市</p>	<p>狭山市</p>	<p>板橋区</p>	<p>川越市</p>	<p>川越市</p>	<p>世田谷区</p>	<p>茂原市</p>
<p>▽シユー▼音楽部、演劇部。あの講堂で大聴衆を前にヴァイオリンの演奏会。川高健児にクラシック音楽の香りを▼上智大学▽出版業界に足跡を残す。現(株)出版エリア代表取締役(編集プロダクション) ▽中子夫人・二男・孫一▼ジャズ・モダン・クラシック何でもござれ</p>	<p>▽団長▼郷土部。川工から転入せし猛者連の一人。アダ名のとおりにすごい貫禄。シエークスピアをこよなく愛読し、原書の読破も(自称) ▼埼玉大学教育学部▽入間地区の各中学校に在職、川越市立城南中学校で定年退職▽和美夫人・一男一女▼カメラ少々、自分で散髪</p>	<p>▽ヨーヘイ▼ラジオ部。東京小石川の出身で、川越中学に。当時からシルクロードの研究に没頭▽今は板橋でうまい醬油造りに一意専心。酒は弱いが、東大の農芸化学教室での酒の鑑定コンクールで優勝などの実績が自慢▽泰代夫人・二男一女▼イギリス政治史、酒の鑑定など</p>	<p>▽タケカン▼書道部。読書家を自負、哲学的で難解な書物などを読む ▼中央大学法学部▽(株)都政新報社取締役社長のかたわら、川越市文化団体連合会役員として、同市の市民文化活動向上に協力・貢献。 ▽輝子夫人・一男一女・孫二▼尺八(琴古流師範)</p>	<p>▽タケ▼相撲部。辛くて半年もたず退部。最初入間川族、のち東上線寄居鉢形から通学。中央公論を小脇に朴樹下駄姿が定盤。沈黙党三役 ▼立教大学▽宅急便で有名な黒猫のヤマト運輸(株)常務取締役。運輸事業ただ一筋。但し、運転は人並の腕▽八重子夫人・一男▼ゴルフなど</p>	<p>▽ハルさん▼無所属。部活せず勉強一途。川工から転入組した猛者連のひとり。在学は一年間だったが数学は抜群、将棋も強かったなあ。 ▼早稲大学理工学部建築科▽共立建設(株)技術企画本部長、建築一筋。 ▽保子夫人・一男一女・孫一▼ゴルフ、建築設計とまじめ</p>	<p>▽イタルさん▼生物部。野球好きの利発で温厚な少年。華麗なアンダースローで、時に完封▼千葉大学医学部▽J.R.茂原駅前で竹内医院開業(皮膚科・泌尿器科)。院長さんとして二十五年、税金払いに苦労する毎日との弁▽規矩子夫人・三男▼ゴルフ三昧</p>

 <p>田中 崇</p>	 <p>谷 巖</p>	 <p>田村 武男</p>	 <p>津坂 宗茂</p>	 <p>土金 達男</p>	 <p>豊泉 正次</p>	 <p>豊田 孜</p>
<p>川崎市</p>	<p>杉並区</p>	<p>札幌市</p>	<p>横浜市</p>	<p>横浜市</p>	<p>入間市</p>	<p>松戸市</p>
<p>▽スー▼郷土部、物理部。大東村のスーちゃんは研究心旺盛、工作大好き少年▼千葉大工学部▽ダイヤモンド社印刷局工場長、ダイヤモンド・グラフィック社常務取締役。日本プリンティングアカデミー教授最近ジェットロで発展途上国の指導も▽初子夫人・一男一女▼スキー</p>	<p>▽タニガン、イワオちゃん▼野球部。名二塁手。華麗な守備と黄色い声、確実な打撃。剣道場のカワラを割った主。授業も大分さぼった▼立教大学▽旅行業三十年、南国交通(株)。現代のレジャーブームを見抜いた選球の慧眼は流石▽富美子夫人▼ゴルフ、スポーツ全般</p>	<p>▽いも業平▼山岳部。シユラフ担いでいろいろ山登り。ネアカ少年。▼東京外語大イタリヤ語科、ボン!!▼北海道放送チーフプロデューサーを経て、今はジャンプ台近くに落ち着く▼江戸流かつぽれ踊り、新内。芸名は丸鉢正兵衛、庵号は化日庵竹游。訪札の折りは声かけて</p>	<p>▽ツチャカ▼庭球部。剣道部の少年剣士は戦後やむなく転向しテニスの星に。マラソンも強かったので、めがね橋や校外長距離走では常に上位入賞▽東京ガス(株)に入社、長年勤務し現在は本社監査役室で活躍▽芙美子夫人・二男・孫一▼旅行、テニス</p>	<p>▽ドキン▼英語部、カムカム英語では右に出る者なし。ウィークリーもスイスイと▼早稲田大学↓メリーランド大学▽国際舞台で活躍し、国際協力事業団専門職員(在ブラジル)。コンピュータ関連の業務。(連絡先・E204清瀬市中里1-7335上・土金様方0224-91-2918)</p>	<p>▽ホーセン、ショージ君▼無所属右派。入間弁で「細谷インカヤ?」と誘い、休み時間や放課後にテニスボール野球でスターに。人気者で友多し▽兄上と豊泉工業(株)を経営し専務として活躍、ますます発展。▽富美子夫人・一男一女▼園芸(庭木育成・野菜作り)</p>	<p>▽トヨちゃん▼生物部。田口ヨーセイとのコンビでいろいろ悪戯し、博物室のガイコツを壊したのはどっち? 草野球にも熱中した一人。▼中央大学▽長年都内で教鞭をとり、墨田区立業平小学校を経て、現在は地元で民生委員▽克子夫人・一男▼へら鮎釣り、書</p>

 <p>中田 仁成</p>	 <p>中島 正博</p>	 <p>中島 喜三郎</p>	 <p>中沢 益次郎</p>	 <p>中内 洋一</p>	 <p>中 義智</p>	 <p>中 秀男</p>
<p>西宮市</p>	<p>所沢市</p>	<p>坂戸市</p>	<p>大田区</p>	<p>目黒区</p>	<p>所沢市</p>	<p>東久留米市</p>
<p>▽義子夫人・一男一女▽ゴルフ(宝塚GC・ECC)、来遊大歓迎</p>	<p>▽ジンセイ▽排球部。主将で中衛の強力なアタッカー、チームのポイントゲッター。いい男でオケンにモテました▽大坂歯科大学▽現在は甲子園で開業、中田歯科医院院長。大坂歯科大・朝日大歯学部講師。</p>	<p>▽キサちゃん▽陸上競技部。競技中の勇姿を思い出します。自慢はカモシカのようなそのアシ。それに通学では東上線坂戸方面の大ボス。▽老舗の米穀商を相続し、自家製地粉ウドン・ソバが評判。地元のためにも元気で活躍中▽よし夫人・一男一女▽へボ碁? 仲間も熱心</p>	<p>▽マスジロー▽物理部。川越っ子にしては珍しく洗練され、都会的な少年で、本物の秀才▽慶応大学工学部▽北辰電気工業を経て、住友商事では長い間海外勤務。現北辰工業(株)国際営業を担当。世界中を飛び歩き、たまには日本へ。当文集への原稿が切に間に合わず。</p>	<p>▽ヨオイチ▽柔道部、廃止後は生物部。魚釣りや野球に熱中した。中学二年まで在籍▽東京大学医学部▽国立国際医療センター皮膚科医長として活躍中、日本臨床皮膚科医学会常任理事。著書に「皮膚病の症状と治療」、現在改訂版を執筆中▽聰子夫人・二男▽ゴルフ</p>	<p>▽カムカム▽英語部・体操部。平行棒はナカナカの腕前。英語もスラスラ。神職の家柄▽國学院大学▽所沢を中心に教鞭をとり、地区小学校長会長など歴任。所沢市立三ヶ島小学校長―現所沢市都市計画審議委員、神社庁役員▽久恵夫人・一男二女・孫一▽国際交流、ドライブ</p>	<p>▽ナカ屋▽物理部。アノ時代電気機関車の模型に熱中した理系少年でした▽明治大学政経学部▽(株)丸物百貨店を経て、所沢で酒小売店を開業、東久留米に(株)中屋を設立し代表取締役社長。優良企業に成長(中村弁護士は顧問・監査役)▽和子夫人・一男二女・孫一▽旅行など</p>

 <p>中村 生秀</p>	 <p>長江 不二男</p>	 <p>永島 俊三郎</p>	 <p>長島 恒雄</p>	 <p>双木 貞夫</p>	 <p>成島 庸夫</p>	 <p>西 健美</p>
<p>新宿区</p>	<p>所沢市</p>	<p>川崎市</p>	<p>江戸川区</p>	<p>飯能市</p>	<p>目黒区</p>	<p>豊島区</p>
<p>▽セイシユ、ナマヒデ▽弁論部・体操部。平行棒で名演技、弁論大会では聴衆をウナらせる名人▽中央大学法学部、大学在学中に司法試験に合格▽弁護士、中村法律事務所長。山田照明(甥)・中野産業(甥)監査役など。当文集代表世話人▽琴代夫人▽ゴルフ、カラオケ</p>	<p>▽フジオ▽体操部。新井・牧田とのゴールデン・トリオは有名。その頃からニヒルな雰囲気をもった少年▽東京農工大学↓東京教育大学。▽NHKでは総務部や経理畑を歩む。(聴視料は気持ちよく払おう)▽令夫人と円満家族▽独唱(カラオケ?)、クラシック音楽など</p>	<p>▽白トン(自称)、シユンザ▽物理部。顔に似合わずガンバリ屋で、英語と数学が好きという別世界の少年▽早稲田大学理工学部▽IHI(甥)アイメック取締役。エンジン工学界の大先生、早大理工学部講師▽淀子夫人・二女▽ロシア語技術書翻訳・出版、他に著書多数</p>	<p>▽ながいも、もう一つはナイシヨ▽バレエ部(バレエって踊りですか)国文学部でも才能を発揮す。卒業式の総代でズゾ▽東京大学法学部▽(甥)埼玉(あさひ)銀行から新日本証券(甥)・同調査センター常務。現両社顧問▽淑子夫人・二男▽執筆講演・俳句日記は有名、本来謹厳居士</p>	<p>▽イチロ(漫才の一路・突破から)▽生物部。飯能郵便局長の御曹司飯能通学部隊のスター、愉快小僧で勉強も良くできた▽早稲田大学法学部▽新電元工業(甥)社員相談室長。(財)予防医学協会監事、心理相談員会常務理事▽希代子夫人・三男▽植物栽培、宴会大好きおじさん</p>	<p>▽本人も「さあ?」と首をかしげるほどの超・短期間在学。中三高一の頃、新校舎で授業中に窓の外を通った四組の中にいた。東京の大久保小で長江、青柳と同級生だった▽東京大学▽NHKの大河ドラマ「花神」の制作者▽現・NHKソフトウェア。菅間と隣の職場とか</p>	<p>▽ケンビ▽無所属。小柄で寡黙な勉強家、確実に歩むタイプでした▽埼玉大学▽貿易商社NSフアスナズ(甥)代表取締役として活躍。▽浩子夫人・一男一女▽奥さんと一緒に外国語(ドイツ語、韓国語、中国語)を学習中。そのほか家庭菜園、山歩き</p>



西川 博

川越市

▽おたまじゃくし（現在はゲールを襲名？）▽父上の手前、何かと苦
労が多くて、お陰で英語部にも入れず。野球はうまかった▽東京都立
大学▽東亜火災海上保険(株)取締役外国部長、監査役など歴任。現駿台
商事(株)。「父上と生き写し」に▽弥栄夫人・二女・孫一▽ハイキング



西川 正則

春日部市

▽ピンブリキ、この不可思議なアダ名は教科書のちよつとした読み違
いによるものとか。眼光炯々、出色の秀才少年。日新校長のセガレと
よく遊ぶ▽早稲田大学▽日産自動車販売(株)。天下のニッサン「ピン」
でもつ、そりゃ豪気だね▽治子夫人・二女▽打倒トヨタ！



西海 英夫

狭山市

▽セイカイ入道▽排球部。前衛センターとしてチームの司令塔、トス
ワーク抜群。長身で坊主頭で鉢巻き姿が印象的▽立教大学▽地元を中
心に中学校教育に専心。狭山市立堀兼中学校長で定年退職。現在は晴
耕雨読の日々▽千鶴子夫人・二男一女・孫二▽ドライブ、園芸



沼田 芳造

三鷹市

▽ヌマ公▽籠球部。正選手で大活躍。仮装大会でも大スター。アマの
映画狂の行く末は、医者か月給取りがオチだが、彼は本物の活動屋に。
▽日本大学芸術学部映画学科▽大映撮影所でメガホンではスター乱造
一直線放物線人生。現在はマンション経営▽和子夫人・一男▽ゴルフ



根岸 宏

川崎市

▽ねぎ▽蹴球部。その頃人氣がいまひとつの部活のヒーロー。演劇部
でも千両役者&演出家は立派なもの▽国学院大学▽広告の途一筋でマ
スコミ業界で活躍。映像文化の世界で奮闘中。(株)セディック管理部長
▽玲子夫人・三男▽芝居見物、サッカー(ブームでウハウハ)



根本 暎男

板橋区

▽ニッサイ(自称・入西)▽国文学部、文芸部。陸上競技部ではマン
モスと並んで俊足、小柄でも馬力マン▽立正大学▽板橋区立中台中学
校長となり、現在は同区教育委員会教育相談所(成増)カウンセラー
▽洋子夫人・一女▽往年の馬力充電中の由










野口 八郎

和光市




▽ハチロー、エケン▽国文学部、郷土部。熱血漢で徳さんの授業では
先生にヒケを取らない雄弁家。井草村から自転車通学の一群の雄。
▽明治大学▽日興証券(株)、みんなにアノ勢いでバリバリ株券を売って
儲けさせ、営業管理部長に▽真澄夫人・一男一女・孫二▽ゴルフ







 <p>半田 登</p>	 <p>原島 淡</p>	 <p>原 泰英</p>	 <p>早川 昇一</p>	 <p>畑 喜千松</p>	 <p>長谷川 栄</p>	 <p>橋本 正一</p>
<p>東村山市</p>	<p>入間市</p>	<p>志木市</p>	<p>練馬区</p>	<p>目黒区</p>	<p>つくば市</p>	<p>袖ヶ浦市</p>
<p>▽ロクさん(ハンダツケ)▼卓球部。小柄だったロクちゃんの球は偉力抜群。名細(なぐわし)村の英才は一念発起し教育界へ▼東京芸芸大学▽練馬区立開進第四小学校長を経て現在は同区総合教育センター教育研究調査員▽温(はる)子夫人・一男・孫一▼盆栽、ゴルフ</p>	<p>▽ドバ▼生物部。在学中はもっぱらホモサピエンスの「♀」のハントに熱中し、生物学的に解明した由▽狭山茶の本場で製茶業(自営)を手広く営業する。現在も元気で活躍中。▽かづ子夫人・一男一女・孫一▼囲碁、ゴルフ</p>	<p>▽ハラヤス▼生物部。一年だけやって、オモ舵いっぱいの文系志願。▼青山学院大学英米文学部▽(株)パイロット貿易部長。仕事の関係で世界を飛び回り、日本と海外生活が半々の「流浪の民」とは本人の弁。▽一男一女▼バタ臭いものはアキアキ、日本調なら何でもOK</p>	<p>▽サル▼庭球部。ボールを打つことよりも、ローラー引きが主な活動高校一年生で慶応高校へ▼慶応大学▽ニッポン放送を経て、イワデ(株)大手文具流通で活躍、ますます好調▽慶子夫人・一男一女▼珍しくもフィールドホッケー(学生時代、一部リーグで二度の優勝が誇り)</p>	<p>▽チヨロマツ(キチマツ)▼郷土部。入間西部の山村民俗学の調査研究、同地区の古跡の発掘調査。川越市駅ホームで大怪我、九死一生の強運▽木邨紙業(株)取締役を経て、現在は東弘商事(株)▽ミネ子夫人・二女・孫三▼サッカー(熟年クラブに所属、今夏ドイツ遠征スゴイ!)</p>	<p>▽パセリン▼図書部。グリッとした目に真つ赤なホツペタ、勉強ばかりしていた「明治文庫」の主。だから成績は常に上位で、学者になる▼東京教育大学▽筑波大学教授・教育学系長。大学の仕事が忙しくて大病もしたが、今は元気に活躍中▽志奈夫人・二男一女▼囲碁など</p>	<p>▽ショーちゃん▼陸上競技部。ハードル競走の花形で全国大会に出場▼立教大学▽航空自衛隊(奈良・岐阜・木更津など各基地に勤務)、補給幕僚幹部(昔の大佐殿)で昭六十年に退役。現東電不動産(株)で調査役、古美術商も▽佳子夫人・二女・孫四▼旅行、古美術鑑賞</p>

 <p>馬場 尚世</p>	<p>Hamburg 65 DEUTSCHLAND</p>	<p>▽チャンピオン（旧姓白井、白井義男に因み）▽部活など問題外。高IQの革新少年三人組の一人。卒後渡欧し、キーキ作りのマイスターに。商社も経営。ハンブルグ在住、ドイツ日本人会幹事▽アンケ夫人一男一女▽スキュー（所沢市牛沼町250-2 関沢英子・姉上0429-22-1046）</p>
 <p>東 敏雄</p>	<p>水戸市</p>	<p>▽ダン吉▽陸上競技部。めったに出ない文武両道派。生徒会長になり本物のダン吉に。ハダシで好記録、キサちゃんのスパイク借りて転ぶ▽東北大学▽学者の道を歩み、茨城大学教授・人文学部長として活躍 当文集委員▽峯子夫人・二女・孫三▽山歩き、水泳で健康維持</p>
 <p>平井 功</p>	<p>所沢市</p>	<p>▽あんだや（飯能在のアクセント）▽籠球部。高麗郷の運動一家で、六年間籠球漬け。県大会優勝など数々の足跡を残す。沈渡党の要人。▽東京学芸大学▽東村山市立東村山第四中学校長で大団円。▽厚子夫人・一男▽スポーツ観戦、麻雀、いつでも原稿用紙持ち歩く</p>
 <p>平岡 泰之</p>	<p>清瀬市</p>	<p>▽マンモス▽陸上競技部。短距離走にこの人あり、百象驀進を見るが如き迫力。当時雲つく大男も不思議や背丈も同窓と同じ人に▽早稲田 大学文学部▽文筆稼業、フリーライターとして数々の創作を。現在は書籍・雑誌の校正。本文集の編集・校正の主力▽昭子夫人▽山歩き</p>
 <p>平岡 義男</p>	<p>入間市</p>	<p>▽小マンモス▽物理部。運動は苦手でしたがよく頑張った。理数は天才的でした▽横浜国立大学工学部機械工学科▽三菱化成エンジニアリング(株)専務取締役。チェコ動乱の折プラント建設に従事、西独に脱出を体験▽静子夫人・一女・孫一▽野菜作り、ドライブ、旅行</p>
 <p>比留間 和夫</p>	<p>中野区</p>	<p>▽メタテ屋（堪忍）▽籠球部、音楽部。バスケでは華麗なプレー。徳川家剣術指南役、甲源一刀流・比留間半蔵利充の末裔。山岡鉄舟の碑文あり▽武蔵野音楽大学▽音楽教室主宰・武蔵野音楽学園講師など、幅広い音楽活動▽俊子夫人・一男一女・孫一▽古典落語、オーディオ</p>
 <p>廣沢 聡</p>	<p>上尾市</p>	<p>▽トラゾー▽無所属右派。どことなく貫禄がありました。徳さんにマークされ大健闘、いい俳句「獺祭」に多数あり▽明治大学・文系から華麗な転身▽ロボット&自動機械で独立、オーソリティに。数々の製造ラインを世に送る▽由子夫人・二女・孫一▽ゴルフ、麻雀、旅行</p>


 <p>堀陽</p>	 <p>細谷哲夫</p>	 <p>府瀬川忠芳</p>	 <p>藤田岩雄</p>	 <p>福田實</p>	 <p>深井康弘</p>	 <p>菅木勇三</p>
川越市	富士見市	川越市	(次編までお待ち下さい)	東松山市	所沢市	比企郡川島町
<p>▽アカブタ、ホリサン(級友唯一のさんづけの称号)。▽野球部は一年間でも、草野球では剛球投手で球がホップ▽立教大学▽(株)ツガミ 経理課長、カセイ商事(株)取締役総務部長を歴任。現在は堀アパートルメ ントオーナー▽朋子夫人・一男一女・孫一▽ゴルフ、将棋</p>	<p>▽テツちゃん▽野球部。守備範囲の広い外野手で、難球をニッコリ好 捕しチームのピンチを救う▽明治大学政経学部▽教育界に身を投じ、 教育委員会などを経て富士見市立みずほ台小学校長に。今は保護司と して活躍▽竹子夫人・三男・孫一▽趣味旅行、庭作りなど、ニッコリ</p>	<p>▽ポツポ屋、チューホー▽英語部。すらりとした色白の魅力的な転校 生、英語は堪能。沈黙党の要人▽埼玉大学教育学部▽入間地区の各中 学校で教鞭をとり、川越市立大東西中学校長から現在は埼玉高校へ。</p>	<p>▽クロ、クロバエ▽柔道部。戦後は部活浪人。入間川地区の群雄のひ とり。入間川七夕祭りに自宅前で、オノテン・ソーヘー・ベース・ラ ッキョ・へんじん・カンスケなど集め、屋台の水屋をやり大儲け▽芝 浦工業大学▽どうしても連絡とれず、昔のクロに戻ってくれることを</p>	<p>▽ゴイチ、映画「路傍の石」の片山明彦ばりの美少年は映画見て泣く ▽国文学部。俳句をよくしたり、サウスポーからの快速球でも有名。 ▽東京薬科大学▽東松山市市民病院事務部長。余人を以て代え難く、 現役で続投中▽従子夫人・一男一女▽園芸(山野草)</p>	<p>▽フカ(鱻)▽郷土部。シャークの様な悠揚さで校外をエレガンスに 遊泳、オケンのキレイどころも喰ったとか。(古墳時代の美人も?) ▽慶応大学法学部▽大井地所(株)・盈和産業(株)代表取締役、所沢の大地 主▽美沙子夫人・三男▽ゴルフ川中二〇会常連</p>	<p>▽ユーゾー▽渡り鳥部(あちこちでモテたり、ケンカもした傑物)。 伊草村の鬼才は「自転車に乗って颯爽と通学したり」山田村の主ツネ さんの所で馬に乗ったことも▽家業菅木醬油「金笛」造りに二十年。 現(株)ミツワ常務取締役(包装機器大手)▽富江夫人・三男▽家庭菜園</p>

 <p>前田 行雄</p>	<p>市川市</p>	<p>▽メガチビ▽卓球部。当時麻雀・ハワイアンなどに熱中。学校の禁令もどこ吹く風。堂々たるアバンギャルドで川中の誉れを外に輝かす。 ▼明治大学商学部▽協和観光企画(株)代表取締役。ツーリストの最先端を行く▽芙美子夫人・一男二女・孫四▼囲碁、ゴルフ</p>
 <p>牧田 幸雄</p>	<p>市川市</p>	<p>▽ベース▽体操部。小柄な体躯でひたむきな精進。徒手体操の名演技に顧問のアツパク先生、感涙にむせぶ。映画少年で鶴川座・松竹館で洋画漬け、洋行の稽古▽憧れの日航へ、ジェット機の整備エンジニア現在、日航整備サービース(株)で活躍中▽趣味はボーリング</p>
 <p>正木 一男</p>	<p>渋谷区</p>	<p>▽キマサのオカズ▽庭球部、郷土部。疎開の可愛い坊や、決してイジメませんでした。今は六尺豊かな大男。都立日比谷高校に戻ったが、ずっと川越つ子と付き合う▽東京教育大学▽石川島汎用機サービース(株)代表取締役社長▽八重子夫人・一女▽ゴルフ、料理(日経に連載)</p>
 <p>益子 弘道</p>	<p>川越市</p>	<p>▽マーちゃん、コードー▽剣道部、郷土部、国文学部。野球少年にしては分別臭く俳諧の道へ。徳門十哲の一人▼中央大学法学部▽山田照明(株)常務取締役。法曹の道ならぬ光の道へ。高級なシャンデリアを安く買った級友多数▽日出子夫人・一男一女▽ゴルフ、苦吟(俳句)</p>
 <p>町田 郁夫</p>	<p>川越市</p>	<p>▽アニキ(兄貴)▼柔道部、陸上競技部。三保谷村の鬼才で、風雪に耐えし自転車通(痛)学部隊の大ボス。級友も兄貴と崇拜。〃おいしいセンベイ炭火焼き〃で全国的に有名な炭火焼本舗▽(株)川島屋常務取締役▽令夫人・子供四・孫五▼小言幸兵衛がイタに焼きつく</p>
 <p>松岡 章次</p>	<p>川越市</p>	<p>▽へんじん・偏仁▼化学部。トム・ソーヤー志向少年で騒動願望型、同類を求めて努力精進。爆弾事件はその例、沈黙党员▼早大理工▽冷凍機のマエカワで鎮静、長期の海外駐在。現前川産業(株)常務、(財)和敬塾評議員。文集委員▽紘子夫人・一男二女▼カントリー&ウエスタン</p>
 <p>松木 信</p>	<p>豊島区</p>	<p>▽正統ポツポ屋▼国文学部。のっばで眼鏡に温顔の少年は佐藤トクさんに見込まれ俳諧の道へ。徳門上席の鋭才▼早稲田大学商学部そして文学部へも▽東京恵泉女学園高校(世界史担当)に奉職し、現在に至る。女子学生に囲まれ、いつもニコニコ、いつまでも若い事▼旅行</p>



 <p>水口 重雄</p>	 <p>丸田 謙三</p>	 <p>丸田 邦夫</p>	 <p>松本 英男</p>	 <p>松村 祐二</p>	 <p>松村 久</p>	 <p>松平 理</p>
川越市	川越市	狭山市	所沢市	川越市	狭山市	川越市
<p>▽コツケ▼社会部、終戦後の一時期、IQの高い少年はこぞってマルクス・エンゲルスの弟子に。早熟?▼青山学院大学▽教職の道を選び入間郡大井町立大井小学校長。現在は悠々自適。当文集委員。</p> <p>▽雅枝夫人・三男▼観劇、川越祭り囃子(山車の上でバチ捌き)</p>	<p>▽ケンゾーさん▼陸上競技部。大柄な体格で貫禄十分、温厚で人望があり、友達も多かった▼中央大学▽川越久保町通りの越健産業㈱代表取締役社長。精麦産業をハイテク産業に発展させ、今日の隆盛の基をなす▽喜代子夫人・一男二女・孫一▼園芸</p>	<p>▽シャチヨウ(遅刻が多くて?)▼化学部。坊主頭のよく似合う、めったに笑わない秀才。爆弾事件の時、珍しくはじめてニッコリ。少年時代すでに威厳を備える▼一橋大学▽安田火災海上保険㈱、現在は自動車保険料率算定会▽圭子夫人・二男▼特になしと自称もまたヨシ</p>	<p>▽英代夫人・二女・孫一▼歴史、美術鑑賞など</p> <p>▽ヒデちゃん▼郷土部。やはり古いものには愛着があります。西武線所沢通学組の穏健派の一人▼産能短期大学▽侑ユニ(文具問屋)社長。狭山市駅ビルと小手指で手広く営業し、ますます発展隆盛。</p>	<p>▽ゆうちゃん、マツサダ▼郷土部。古墳を掘ったり返したり、野球をしたり人間性豊かで友達多数。川越老舗の「松定」ハカリ店の次男坊▼早大政経▽日本経済新聞社入社、現在は日経BP販売㈱代表取締役社長、当文集委員▼恵美子夫人・二男・孫一▼きのこ同好会、郷土史</p>	<p>▽馬力マン、急行列車▼本来なら陸上競技部なのだがスカウトされず短距離はマンモスに、長距離はトシヨウにヒケをとらなかつた隠れたエースの一人。真面目な勉強家▼名門東京ゴルフ倶楽部に勤務。</p> <p>▽令夫人と幸せ家族▼ゴルフでしようね! 勿論</p>	<p>▽マツちゃん、リーちゃん▼生物部。部活の同志田口ヨーセイ・朝久野ミイラ・新井アラクマ達と、博物館で熱心に顕微鏡を覗いて何が見えたのかな?▼東京教育大学▽都立竹早高等学校などに長い間勤務。</p> <p>▽静江夫人(著名な版画家)▼釣り、将棋など</p>

 <p>水野 洋策</p>	<p>狭山市</p>	<p>▽ヨースク▼各部活の顧問格。休学の事情で上級生から天下り、級長菅間も気を遣う。卒業まで別格で、オノテン・カンスケ、大頭領も常に一目置く▽プラチナ万年筆(株)、アジアカラー(株)を経て、現在は日本梱包運輸倉庫(株)▽陽子夫人・一男一女・孫三▼海釣り(大鯰)</p>
 <p>水村 博光</p>	<p>清水市</p>	<p>▽ヒロちゃん(海行かば……を歌うと怒る)▼ラジオ部。当時の電子少年、今は名医に▼信州大学医学部▽医療法人社団博恵会理事長・草薙整形外科医院院長。開業二十五年の今も手術の腕は冴えわたる。▽千恵子夫人・二男一女▼日曜大工(人間以外も治す?) 静岡大好き</p>
 <p>道又 正達</p>	<p>福生市</p>	<p>▽おミチ▼蹴球部、機甲班(戦時中シンガポールで分捕った自動車があり、校庭で乗り回した)▼岩手医科大学▽道又医院院長。東京都医師会学校医委員、福生市学校保健会会長など要職を歴任。性教育の権威▽博子夫人・一男二女・孫二▼中央競馬、カラオケ、川柳など</p>
 <p>宮崎 敏昭</p>	<p>大宮市</p>	<p>▽坂戸のゴリさん▼山岳部、陸上競技部。アツパク先生のお導きで長距離選手の道へ。駅伝のキャップに▼明治大学▽教育出版(株)編集局次長。俳句結社「霜林」会員、句集「流鏑馬」出版。当文集制作実務の中心▽美子夫人・二男▼落語、ソフトテニス、バードウオッチ</p>
 <p>宮崎 義宣</p>	<p>狭山市</p>	<p>▽ヨシノリ▼生物部、山岳部。入曾の英才は一所懸命学業に励み、医道仁術の途を志す▼岩手医科大学▽宮崎医院院長。内科・小児科・外科を狭山市内で開業。酒豪の赤ヒゲだが、地元の人望はとみに厚い。▽美智子夫人・一男二女・孫三・▼往診(実益を兼ねて?)</p>
 <p>宮寺 威</p>	<p>豊島区</p>	<p>▽タケさん、毛呂のイーちゃん▼図書部。声変わりが長く続き、ズーっとハスキーでした。本の少ない明治文庫で勉強三昧。イー俳句多数▼早稲田大学商学部▽実教出版(株)制作部長、現在は(株)実教エンタープライズ調査部長▽とみ江夫人・二男・孫一▼読書、旅行</p>
 <p>村山 祥男</p>	<p>所沢市</p>	<p>▽ポチ・ポテ▼生物部。博物室で田口君や加藤君、松平君などと顕微鏡三昧の日々でした▼早稲田大学商学部▽(旬)丸屋酒店代表取締役社長家業を継いで販路を拡張し、ますます隆盛をたどる。下戸で商売専念の故か▽秀子夫人・一男一女・孫一▼ジュースで酔える特技を持つ</p>

 <p>村山 利喜</p>	<p>入間郡大井町</p>	<p>▽シンブン屋▽新聞部。転校生なれど、たちまちクラスの情報独占川高新聞創刊(?)▽中央大学法学部▽税理士の難関を突破し独立。(株)MMCシステム代表取締役社長。東奔西走の毎日。文集続編の委員当確▽光代夫人・二男一女・孫一▽溪流釣りポチャン!</p>
 <p>村山 英夫</p>	<p>大宮市</p>	<p>▽ヒデちゃん▽文化部(無所属の文化少年への敬称)。馬宮村に疎開した都会少年は当時の食糧不足解決に農耕二に勉強の二宮金次郎▽埼玉大学文学部▽日本たばこ産業(株)専務取締役。現(株)ジービーワン社長、印刷工業会理事▽節子夫人・一男一女▽囲碁、旅、ゴルフ</p>
 <p>桃井 良之</p>	<p>川崎市</p>	<p>▽モモちゃん▽排球部。ふだんは謹厳実直な性格もいざ試合になるとファイト満々、中衛のアタッカーで峻烈なスパイクは見事▽中央大学法学部▽神奈川県川崎市役所に三十四年間勤務し、現在は(株)小川組土木事業部▽幸子夫人・一男▽読書、オリエンテーリング</p>
 <p>森岡 昇</p>	<p>小平市</p>	<p>▽ピーナッツ、麒麟▽物理部。のつぼでハンサムで減法よくできた。数学・物理は先生より上? でも体操では仇をとられる▽東京大学。原子力開発の先駆者▽関西電力(株)支配人。原発の鬼、現レーザー濃縮技術研究組合専務理事▽明子夫人・二女▽パソコン、焼物、スキー</p>
 <p>森下 貞夫</p>	<p>川越市</p>	<p>▽モリサダ▽柔道部。戦後禁止されたが以後はフリー。テニスボール野球の星。福原村のボンボン。ウィークリーでは脂汗をかき、カケゾーの数学でも大奮闘。福原の名譽を堅持す▽現在は肥沃な大地を生かし農業経営、特に野菜作り▽徳子夫人・一男一女・孫三▽ゴルフ</p>
 <p>森田 重敏</p>	<p>墨田区</p>	<p>▽タコ(自称)、ジューピンとも▽図書部。川中一年ではザリガニ取りに熱中、やがて野球・読書へと進化。句集「獺祭」に名句多数あり▽東京都立大学経済学部▽(株)リズム靴店代表取締役社長・わかば進学塾代表▽幸(こう)夫人・一男一女▽クラシック音楽鑑賞、ゴルフ</p>
 <p>森田 利寛</p>	<p>国分寺市</p>	<p>▽ポン、リカン、としのぶ▽野球部、庭球部、生物部。それぞれの部で活躍したが、特に生物部では全校回虫検査も▽東京学芸大学▽東京都昭島市立富士見丘小学校長を経て現在は同市教育委員会みどり教育相談室に勤務▽沙永(さえ)子夫人▽囲碁、将棋、麻雀とスポーツ</p>

 <p>森田 賢</p>	 <p>守谷 互</p>	 <p>柳下 満</p>	 <p>安田 孝一</p>	 <p>柳沢 隆</p>	 <p>柳田 径伸</p>	 <p>山崎 孝雄</p>
<p>佐世保市</p>	<p>小平市</p>	<p>和光市</p>	<p>志木市</p>	<p>入間市</p>	<p>春日部市</p>	<p>北足立郡吹上町</p>
<p>▽マサル▽無所属疎開ッ子賢ちゃん。指扇村から徒歩&汽車で三時間痛学で鍛え、マラソンで見事地元ッ子に勝ッ▽慈恵高に進むもお医者はやめて中央大学へ▽裕次郎時代の日活を経てニューオータニ常務。ハウステンボス・NHVホテル専務▽文子夫人と長崎オランダ村逍遥</p>	<p>▽アフリカ、やもり▽生物部、新聞部。予餞会の演劇「坊っちゃん」で野だいこ熱演。劇中で悪役の出来る人はホントに偉いことを実証▽早大法学部▽(株)共同石油↓(株)ジャパンエナジー専務取締役。日本一の共石女子バスケット部長も▽千里夫人・三男▽スポーツ観戦、ゴルフ</p>	<p>▽ミツル▽山岳部。クマさんなどと質素な装備で南アルプスを縦走。サテンに日夜出没し、クラシック音楽を聴く▽大畑伸銅(株)工場長、営業部長。今は和光市議会議員で同窓唯一の政治家、地域発展に貢献。キンタ先生とは今でも師弟の情思▽光子夫人・二男▽山は勿論、旅行</p>	<p>▽ヤツちゃん▽英語部、美術部。大仏の良ちゃんと絵筆を競い、カムカム英語に熱中▽卒業後、所沢米軍キャンプにクラークで入隊(?)。後に公務員として志木市役所へ、現在は志木公民館スタッフ。▽智江夫人・二女・孫一▽お孫さんの盲愛、絵画など</p>	<p>▽タカシちゃん▽中立部。休み時間よくテニスボール野球をしたり、オンタケ山のツタのブランコでも遊ぶ。「獺祭」に名句多数あり。▽入間市役所広聴課長、今は入間市立医師会准看護学校事務局長▽千代子夫人・一男一女・孫三▽園芸、ゴルフ</p>	<p>▽らつきよう▽体操部。鉄棒の美しいフォームは永遠。入間川の七夕祭りで、水屋の屋台を出し大当り。この企業家精神は後に役立ッ▽早稲田大学文学部▽(株)ダスキン一晃(イチアキ)社長、ビジネスますます好調▽茅子夫人・二男一女・孫三▽クラシック音楽鑑賞など</p>	<p>▽徳門の十哲▽国文学部、図書部。卒業の頃は師範代に。文学書はバイトの明天堂で全部読破▽國學院大学▽県立浦和高、NHK学園に長年勤務。現盛岡大学助教授・女子聖学院短大講師。龍昌寺ご住職▽恵(よし)子夫人・四男▽テニス、スキー、囲碁、俳句など</p>







 <p>吉野 正武</p>	 <p>吉田 浩一</p>	 <p>吉田 景美</p>	 <p>吉崎 聰</p>	 <p>山田 和宏</p>	 <p>山田 和夫</p>	 <p>山下 文司</p>
<p>保谷市</p>	<p>板橋区</p>	<p>入間市</p>	<p>名古屋市</p>	<p>小平市</p>	<p>所沢市</p>	<p>川越市</p>
<p>▽啓子夫人・一男二女・孫一▼料理、読書、ゴルフは病気で断念</p> <p>▽保険畑一筋、大東京火災海上保険(株)各支店長歴任、現代理店経営。</p> <p>▽マサタケさん▼庭球部。運動も上手な英才がコートで汗。英会話は進駐軍の兵士やその恋人たちにも通じました▼早稲田大学政経学部</p>	<p>▽パンチョ▽無所属右派▽ご存知東上線四天王(シバケン・エノカツ・アブシン)の一人、成増から通った筋金入りの川中ファン。勝負した人は光栄。強い人しか相手にしなかった▽家業継承。町のエネルギー産業、吉田薪炭社長▽喜美夫人・一男一女・孫四▽アユの溪流釣りに</p>	<p>▽カーソル▼排球部。色白なタイプで、マネージャーとして活躍。幼くして篆刻の鬼才あり。一方図書館に立てこもり、情報をむさぼる。</p> <p>▼埼玉大学文理部▽日本電気(株)社長室長など歴任。このたび退職し現在新しい仕事に備えて充電中▽リエ子夫人・二男▼ゴルフ</p>	<p>▽ヨシトラ▼卓球部、庭球部。川越老舗「吉寅」の御曹司。野球も勉強も良くできて敬愛の的。家業を継がず▼慶応大学医学部▽藤田保健衛生大学医学部第二教育病院院長、同大医学部外科学教授、現医療法人大医会顧問▽瑠子夫人・二女・孫三▼カメラ、音楽鑑賞</p>	<p>▽スカチン(永久登録)▼野球部。右翼手の華麗なプレーは印象的。自他ともに許すダンディズムとファッションは長く校史に留め、殿堂入り確実▼明治大学政経学部▽池野通建(株)営業部次長、(株)テレコムイケノ社長。現山田通信情報社代表▽美千代夫人・一女・孫一▼ゴルフ</p>	<p>カズちゃん▼文化部(無所属の文化少年への敬称)。英語のウィークリーには脂汗びつしよりだが、数学や物理はお得意▼東京電気大学▽鈴木シャッター工業(株)に四十七年まで勤務、現三和シャッター工業(株)設計管理部長▽瑠美子夫人・二女▼ゴルフ、観劇</p>	<p>▽ブンちゃん▼籠球部、郷土部。部活よりも野球に熱心で、運動は苦手なように見えて俊敏▼埼玉大学教育学部▽地元中学校を中心に在職、入間教育事務所長を経て川越市立初雁中学校長から現在は県立南教育センター▽博子夫人・一男一女▼囲碁など勝負事は負け知らず</p>

 <p>渡辺 幹夫</p>	 <p>渡辺 謙</p>
<p>(続編乞御期待)</p>	<p>飯能市</p>
<p>▽ケンちゃん▼無所属。遠い遠い飯能の町から通ったボンボン。ウィークリーでは泣かされたが、カタキはセガレのオタマジヤクシを野球で見事三振に打ち取り、大いに溜飲をさげる▼立教大学▽(株)大成電機総務課に勤務▽江美子夫人・一女▼……。</p> <p>▽カンちゃん▼図書部。入学時には一番小さくカワユイ坊や。銀幕の「シエーン」の子役みたいでした。それが卒業後はクラス一番のノッポさんに▼東京大学▽その後、どこかで活躍中……。</p> <p>カンチャーン・カンバック ツーミー!</p> <p style="text-align: right;">THE END</p>	

どこかにいる筈の旧友達（※住所は在学当時のまま）

もつと探さないでご免なさい▽書き漏らした方は許して下さい。締切までの努力もここまででした。
▽皆さんからのご連絡をお待ちしております。

偏・しゅう人

氏名	住所	四行小史
 阿川 洋	入間郡奥富村	▽目玉・アーガヨウ▽美術部。楽山・トウソン・蝸入道・アツパク・バカトライ軍曹・ゲジさんなど、彼をマークしない先生はいません。恐ろしきオシオキ台に登場は彼がトップでしょう。絵は天才でした。特に運動会の先生の似顔絵のパノラマ！何故保存しなかったのか？
 飯田 宏	北足立郡平方町	▽ひろし▽武蔵嵐山に徳さんと遠足に行った時、威張って写っていないですね。疎開組だったかな？こうなったら何がなんでも探しますよ。どこにいるか早く教えて下さい。平方なら石倉俊ちゃんと一緒に自転車部隊だね。
 石川 一次	北足立郡指扇村	▽イー公▽生物部。あのイーという黄色い声が耳に残ります。弁もたち大抵の子は頭が痛くなって降参。そのせいかスパルタ先生の標的になって、コブだらけ。池谷君とイー勝負だったね。森田マサルと同村で仲良しだった。三年から慈恵医大高校？何科のドクターになった？
 石倉 俊治	北足立郡平方村	▽シュンちゃん▽平方村は校外マラソンのメガネ橋の先にある里。その旧家で酒屋の息子。博多人形みたいにキレイな秀才兄弟の末っ子・シュンちゃんは流石に良くできた。オシテンが孫のように可愛かった。東京に転校後、東大医学部へ。現在は東京理科大学薬学部教授
 岡田 和夫	川越市	▽カオヤク▽土地っ子代表の大家君です。ハクトンも一目置いていました。赤間川のほとりの自宅で腕を磨き、野球もうまかった。何しろ強かったが、弱いものイジメはせず、もっぱら校外に遠征して川中の名誉を輝かせてくれました。会いたいですね。
 岡田 時男	入間郡柏原村	▽ハクトン▽色白で大柄な少年で、眼のまわりがいつも紅潮。霜降り服にツバの長い慶応帽。疎開してきた時は弱虫みたくだったが、青柳・細淵と同盟を結んで、侮りがたい勢力に。新宿の大きな服地問屋のツバで、当時としてはバリエーションが豊富だった。卒業と共に東京へ出て



入間郡吾野村

▽キツネ、フォックス▽生物班、プレーボーイ部。吾野の山のさらに奥深い所から通学。日本語のアダナが英訳されて、そのままアダナになった幸運児。オケン・オイチ・ハンGどれでもござれのダテ男？所沢のM(店名秘)に屯し、時には硬派も気取ったが、根は優しい。



入間郡霞が関村

▽海軍さん▽復員除隊のレッキとした日本海軍さん。ガキに混じってウイークリーで脂汗を。川越線の汽車から飛び下りの通学はサスガに特攻隊帰り。お説教の上級生は決まって返り討ちに。貫禄が違いますぞ！ 何しろ本物のタマをくぐってきた人だから……。今いざこ。



▽ダイ・カ▽本人は忘れて欲しいアダ名だろうが、バカタレ命名の貴重品。教練中、不覚にも用が足しなくなり、願い出たら大声でそう言われた。最後の「か？」が「家」になった災難。豊岡小学校では塩野・柳沢・青柳が同窓。入学時は四組で、担任はアツパク先生。



▽アダ名のつく暇もなし、風の又三郎みたいな幻の貴公子▽入学後少なくとも二組では最初の転入生。その次は多分、田村君だったかなーその後新設の五組へ……。そこで消えた？ 色白のいかにも坊ちゃん的で「ボク」という一人称が新鮮で、初期疎開派には懐かしかった



東京都千代田区

▽コボちゃん▽典型的な疎開坊や。川越つ子に混じって苦労したろうね。何しろ田舎の子は教練だけは強かったから。決してイジメたりしなかったが、バカタレ軍曹が先頭になってシゴクから気の毒でね。ネバーフォーゲット「川中」！










入間郡大東村

▽ゴリラ▽大東村自転車部隊の一人で大柄な少年。川越図書館の主、図書館と自宅を勘違いした子が多かった。不思議にスパルタ先生の標的に。世の中にはそういう損な巡り合わせもありますね。今は「厄」を落として幸せになっていると思うが……！



東京都中野区

▽チュウウさん、チュウウチャン▽「麻雀部」「幻のラグビー部」の仕掛人の一人。ご幼少の砌、高田馬場にいたと言っていた。度胸のいい人で、弁論大会ではクラス代表をかって出たし、予餞会では青柳、佐々木良をケシかけて、一緒にハーモニカを吹いた。写真好きでも有名。

	千賀 凡		丹沢 鋭次郎		高橋 敏夫		関根 サン		鈴木 寿夫		白木 クン		柴崎 明
入間郡入間川町	入間郡所沢町	入間郡飯能町原町		入間郡飯能町	東京・山手?	(どうしても分からない)							
<p>▽チンガ、せんがぼん▽入間川に疎開してきた、やや背丈の大きな少年。何となく教練には不向きで、たちまちバカタレの好餌に。ちよつと大人くさくて優しい人だった。センガボンと通して読んだフルネームがそっくりそのままニツクネームになった珍しい人。父上は将校?</p>	<p>▽エージロー▼姓はタンザワ、名はエージロー。所沢は久米の住人、久米の仙人というアダナで通ってました。大井康夫さんと仲良しでしたね。もつと探さなくてはね。ご免ね!</p>	<p>▽としお▼D組の卒業写真ではゾウリを履き、堂々たる風格。幼年学校のお古の軍服もよく似合っております。思わず「敬礼」がしたくなりますね。この次は元気で登場して下さい。飯能原町からの通学でしたかね?</p>	<p>▽陸軍さん、元戦車兵▽復員入学したこの人は、新米の先生よりずつと貫禄あり。上級生のお説教の時、我々一年生には守護神でした。トーソン先生と級全員の一時間の睨み合い対峙事件で和陸軍使に。そして最後は先生に花を。その後消息は不明ですが、今は何処に?</p>	<p>▽可愛い目立つ少年でした。誰かが知っている筈なんですがなあ。今回の問い合わせで一発で分かるでしょう。次回スターでご登場下さい。飯能の川寺でしたね。</p>	<p>▽シラケン▽メガネの疎開つ子で、何のテライもなく「キミ・ボク」など連発。先生の質問に「ハア?」なんてやるもんで、田舎つ子は照れて少しいじめました。文化マサツですからどうぞ赦して下さい。いい所のボンボンだったんでしょね。川中にも来てくれるといいね。</p>	<p>▽シバザキ▼郷土部。部活では裏方の仕事に徹し、みんなから感謝されました。古谷方面からの自転車通学で、川中の学帽姿がよく似合う美少年でした。</p>							



塚原 くん
東京・下町？

▽東京つ子らしくない疎開派。宮崎グリさんと喧嘩したすぐ後の授業で今度は、ゲジさんに手ひどくやられて気の毒でした。自転車部隊でヨネさんと仲良しでした。東京に帰ってどんな方になったでしょう。会いたいものですね。



土屋 くん

▽ツチャロー▽数学のオシテン先生はお歳のせいか、石倉と渡辺ケンちゃんとの三人を良く間違えました。「自分が本当のツチャローです」と叫び、これで君のアダナが決定しました。何処でどのように過ごしているのでしょうか？ 元気でいてね。



堤 三津夫
入間郡入間川町

▽宗教的なアダナでしたので、気を使って間接表現とします▽大きな人でしたね。力持ちなのに、大人しい人でした。こういう人は軍事教練では標的にされたようで、大変苦労したようです。青木カンちゃんがいともかばってましたね。入間川軍団の一人でした。



遠山 融治
川越市

▽(すごいアダナの記録があります)川越つ子の猛者のエリートでしたが、徳さんには目をつけられました。授業中の名セリフなど、逸話は山ほど。ダブリューシー(だまらっしやい)斉唱騒動の時はスターだったかな。再登場をクビを長くして待ってます。



富沢 弘
入間郡入間川町

▽エックス大人、キツネ、銀キツネ▽四谷からの疎開組。入学試験の「短棒投げ」ではタツタ二米、でも数学では大天才。卒業までいたら森岡・氏家と三羽鳥で川高の数学の名を大いにあげたことだろう。X大人の名でワル共に呼び出しのフミを送った度胸ある弱虫少年










永沢 誠一
比企郡川田谷村





▽セイちゃん▽川越唯一の軍需工場「三徳工業」に疎開してきた坊やで、小沢ライギョの親友。自転車通学部隊の野球チームでは投手としてライギョとバッテリーを組む。戦後、東京へ戻り立教大へ進まれたとか。



林 智雄

▽背番号2▽蹴球部▽一所懸命サッカーしている彼を〇〇派悪童達が「セバンゴ2」と言っただけでしたが、メゲずに頑張っていました。現在のブームを喜んでいましょう。「ザマーミロ！」と元気に現れて下さい。球友ネギちゃんも同感。イジメた奴、今は紳士です。

 <p>諸橋 一郎</p>	 <p>森 俊雄</p>	 <p>萩山 精一</p>	 <p>松岡 龜雄</p>	 <p>古屋 クン</p>	 <p>日新 豊</p>	 <p>樋口 クン</p>
<p>北足立郡志木町</p>	<p>東京都日本橋室町</p>	<p>入間郡高麗村</p>	<p>入間郡芳野村</p>	<p>東京・山手？</p>	<p>熊谷市</p>	<p>東京・山手？</p>
<p>う「なぜ俺に聞かない」と言っ</p>	<p>▽モロちゃん▽東上線志木方面の四人組、エノカツ・ハラタケ・アブシンそしてモロちゃん。分からない筈はないんだが。このプロックに入れるのがとても残念です。きつと、アブシンが残念がることでしょう。</p>	<p>▽トシ▽疎開の人は苦労しました。地元</p>	<p>▽カメちゃん▽「龜」という字は誰も書けないが、彼は見事に書けました。芳野村北田島の大地主の跡取りで、自転車通学隊の北部総司令官。正木スルメとオケンのIちゃんの親衛隊を自負していたとか。スマートで美男、人望がありました。</p>	<p>▽黒ビョータン▽疎開組少年のもう一人のエリートでした。先生も田舎っ子よりは、こういう人が好きなんでしょう。あまりエコヒキするから、つい嫉妬してイジメでご免なさい。今でも君が好きです。キが谷河原と一緒に機銃掃射を浴びた戦友？ だもんね。色は黒かった。</p>	<p>▽ヒヨシ丸▽日新校長サンの息子さん。苦労したろうね、親父が校長の学校に転校してくるとは、考えただけでも同情……。イジメはしませんでした。何かとハンディ。でも頑張りましたね。コケシみたいなの可愛い子でした。やがて父上が熊高へご栄転で、熊谷へ苦労の旅</p>	<p>▽青ビョータン▽疎開組の中のエリート。剣道部ではなかなかの太刀さばき。弱味は突然、真っ青になって失神すること。勉強は良くできましたね。いわゆる都立○中の超秀才で、終戦になるとすぐに東京に戻りました。きつと立派な人になったでしょう。川中の事を忘れずに</p>

 <p>山田 政見</p>	 <p>山本 繁</p>	 <p>吉川 晃</p>	 <p>綿貫 林造</p>
<p>入間郡三芳野村</p>	<p>入間郡東吾野村</p>	<p>入間郡毛呂山町</p>	<p>入間郡古谷村</p>
<p>▽セイケン▽どういう訳か、先生が山田君をよく指しました。カケゾーの解析、ゲールのウィークリー、徳さんの漢文が恐怖の三連チャンでしたが、とにかく不思議に「ヤマダ！」との指名。お陰で他の者は助かりました。申し訳なく思っています。ご恩返ししたいのですが・</p>	<p>▽スコ、タヌキ▽生物班。東吾野に疎開した陸軍大尉殿の御曹司。帽子の横に何の略称か「SKO」と書いてあった。それがそのまま「スコ」と呼ばれてアダナに。ご両親も本人も明るい性格で、いつも笑いがあつた。タヌキは岡部のキツネに対応したもの。千葉県八街に転校</p>	<p>▽革命トウ▽IQの高い少年は、猫もシャクシも丸共パンに……………。革命四天王のリーダー格で張り切っていました。子供だったのに偉いものです。大人のような政治理論を堂々と弁じました。だから、口では負けるので、腕力では対抗出来なかった。ご免ね……………。</p>	<p>▽リンゾー▽国文学部。空襲で東京から古谷村に疎開してきた美少年のリンちゃん。大沢ヨネさんがよくかばっていましたね。良くできた東京の子ですから当たり前です。東京へもどったあとどうしていますかね。</p>

物語者（ご冥福をお祈りしつつ・・・）

物語の級友を掲載するについては、いろいろ論はありましたが、やはり少年時代の仲間をこのような機会に懐かしむことになればと思ひ、編集させて戴きました。ご遺族の方々には何卒、お許しを願ひたいと存じます。
川高三期会同窓会は彼の地でも行いたいと念じております。
偏しゅう人

氏名

四行小史

市村 栄一



▽エテムラ▽山岳部を一所懸命に。狭山の大きな茶園の御曹司。四日クラブなど地元で大活躍。そして級友唯一の県議までに。元首相の竹下さんに似ていましたね。逝かれなければ国会の赤ジュウタンを踏んだかも……。そして天下を取ったかも……。

岩崎 治



▽オサム▽無所属▽東上線は朝霞からの逆コース通学組の一人。あの頃の東上線は東京からの買出しで、いつも超満員の混雑ぶり。その中で勉強したのでしよう。良くできましたから……。

氏家 昭次



▽うじけ▽国文学部。徳門十哲の一人。徳さんより先に逝ってしまった。勉強はよくできたね。特に数学が……。無愛想だったが、友達は大勢いた▽東大かと思つたが、早稲田でしたね。

大井 康夫



▽オーイ、またはヤス▽弁論部。転校してきた時は高井君だった。都会的な、目のクリクリした巻き毛の可愛い坊やは、卒業までそのイメージのままだった。弁論大会では子供が叫んでいるようだったが、部長として一所懸命だった▽明治大学。ある日訃報が……。

大沢 昭



▽でかせん▽生物部。飯能のお医者様のお坊っちゃん。色白で背が高く、勇ましいことが大好きで、学生服（当時ガクランはない）がよく似合いました。喜多院で他校生との決闘に勝って、一躍スターになりました▽慈恵会医科大学。その後、東京で大活躍。大奮闘・大発展。



大澤 米吉



大島 和道



奥富 弘明



小鷹 邦彦



小野 陽一



岸 昌次



越 克己

▽ダンゴ・ヨネさん▽国文学部。南畑村(富士見市)の生んだ英才は、雨の朝も嵐の夕べも自転車通学で、六年間無遅刻無欠席。徳門十哲の特待生▽横浜市立大学▽富国生命で生保烟一筋。むらさき会の世話人で、本文集の大功労者の一人。発刊を喜んでくれるでしょう。

▽デシャ……▽何部だった……？ とにかく何処にでも顔を出したね。予餞会の「赤シャツ」の演技は本當にうまく演じていた。「山あらし」の川合が本當にナグツタくらい迫真の名演技▽本田技研では宗一郎社長に可愛がられていたのに、オートバイで逝ってしまった。








▽シヨカツコトメイ▽ホリカネ村のオクトミコトメイ。当時の皇太子様にそっくり。学習院と同じ制服を着ていた秀才▽東大に進み農林省の役人になった。オケン演劇部出身の寺田女史のやっていた麴町の酒亭「初雁」ではいいカオでしたね。先に逝ってしまったなあ！




▽オダカデアリマース……の声が忘れられない。豊橋中学からの転入生で、陸軍中佐の父上を持つ、名古屋弁の色白の大人しい美少年。数学が得意で▽東京理科大学へ進み、中学校の数学の先生に。高麗にずーっと住んで、今は良祐和尚の松福院に墓が……。

▽デカメン▽芸能部。井戸端の教室では斎藤守弘(ドジョウ)の前にいて、いつも青柳と三人でバカを言っていた。周りのマジメ君には苦笑され、白い目で見られていた。名前の如く陽気で、ダジャレのうまい人で、笑っている顔しか思い出せないよ。なあ、ドジョウ君？

▽シヨージ▽生物部。銀ブチ眼鏡で、ちよつとクールでイカしていたね。徳さんに目をつけられたが、俳句はうまかった。パフォーマンスが「英雄的」だったので、川越っ子には珍しいタイプの好青年だった▽東京経済大学▽川越喜多町で旧家の名門岸浅(荒物間屋)を継いだが。

▽コシマキ▽化学部。特に数学がよくできたね。カケゾーの解析の時間スラスラやったので、先生は指さなくなりました。次の時間には数学の問題をこしらえてきて、先生をテストしてしまいました。化学部の爆発事件ではコマクを破って病院へ……。

 <p>駒井 忠彦</p>	 <p>斉藤 守弘</p>	 <p>塩野 和雄</p>	 <p>杉本 雅夫</p>	 <p>高橋 信良</p>	 <p>田口 陽世</p>	 <p>竹内 健治</p>
<p>▽グイトームラ、タダヒコ▽澄んだ大きな目をした赤い顔で、大東村の豊田本から自転車通学。目立つからナグル先生の標的にされたが、一向にへこたれなかった。徳さんにとても可愛がられていたね。</p> <p>▽東京経済大学▽八晃産業。レインコートでは級友が世話になった。</p> <p>▽モリヒロ▽文化部。所沢の本店のご子息で、何となく都会的で少しマセていたようですね。部活もほとんどやらず、喧嘩もせず、運動もしかり。才気も出さない奥ゆかしい人。でも存在感があったのは人柄のせいかな。あの頃の日々が忘れられません。</p>	<p>▽シオ、ブルドッグ▽豊岡小では人望のある級長さん。川中では好奇心いっぱいヒョウキン族。修学旅行のアルバムでバスガールさんと写った写真、何となくテレくさくて、それでも好奇心にはとうとう勝てず、といった彼の素顔がよく出ていると思うんだけど。</p>	<p>▽キューピー▽籠球部のマネージャー一本だった。父上が軍人だったので、学校へはズーツと軍服を着て来たね。我慢強いところがあって、いじめられても「参った」を言わなかった。あの分厚いメガネで睨まれるとタジタジとなったもの……。▽東大組。</p>	<p>▽シンリョー▽無所属で革新派。大宮方面から国鉄のガソリンカーで荒川を渡って、通学していた好人物。とても進歩的な人でした▽中央大学▽司法試験合格組だから大した人だった。革新系の弁護士として活躍したのだが……。</p>	<p>▽ヨーセイ▽生物部。人気の生物部長だったので、君のことはみんなよく知っていた。父上が医者だったので、親分肌のところがあり、本当に人気者だった。いつのまにか逝ってしまった英才の一人。</p> <p>▽慈恵会医科大学▽医師（内科）。</p>	<p>▽ケンジ▽無所属。福岡村（上福岡）から自転車で通学していた大柄な秀才だった。大きな肥料商の御曹司▽立教大学。篤実なクリスマスチャンド、川越松江町のツタの教会で日曜学校の子供達を熱心に指導する優しさも持ち合わせていましたね。</p>	

 <p>永田 正</p>	 <p>中村 喜代治</p>	 <p>長谷川 忠夫</p>	 <p>原 武</p>	 <p>細田 英雄</p>	 <p>細淵 偉佑</p>	 <p>本田 啓</p>
		<p>(旧姓小峰)</p>				
<p>▽ナガタくん▽心臓が悪くて体操は休んでいたがある日、ヤもタテもたまらずバスケットボールに参加して倒れ、救急の甲斐もなく逝かれました。円空の彫った菩薩のような人徳のある顔立ちで、すごく力持ちだったのね。全級友シヨックでした。川高三期会の彼岸会で……▽キユウリ、きよーじ▽疎開先のヒヤーシカネコ(東金子)村は、母上のキユウリ(旧里)。豊岡(入間市)駅まで自転車来て、豊岡・飯能グループと合流。稲荷山歩きで米兵と堂々と渡り合った会話の実力は卒業後、ジョンソン基地で遺憾なく発揮されたと聞いたけど……▽フオックス、コンちゃん▽物理部。数字が抜群にできました。オシテン、カケゾーをへこまして得意なポーズは今でも忘れられません。▽東京経済大学▽公務員として長い間、板橋区役所などに勤務、ご苦労様でした。(最近ご病気で逝去されました)</p>	<p>▽ハラタケ▽音楽部。当時本格的に楽器を習っていた唯一の級友。質実剛健の川高ではキザに浮くところだが、そうならなかったのがこの人の人徳。運動はイマイチだったが、芸術論(本文に詳細)は流石です。彼に触発され楽器を始めたり、音楽趣味に目覚めた人も多かった</p>	<p>▽エイユー▽豪傑部? たくましい腕、分厚い胸板―何しろ強そうだった。そのころプロレスがあったら入門してスターになっただろうね。マスクも素敵でサムライ・古武士の雰囲気……。勉強もできたし三拍子そろった少年。なぜ早く逝ってしまうのだろうか?</p>	<p>▽ギョロブチ▽元狭山村の大茶園の御曹司。とてもおっかなかった。趣味はキマツた。持った物はみな当時の一流品。万年筆はウオーターマン、時計はエルジン、カメラはライカ、中学生ながらシガレットはチェスター、ライターはロンソン、レコードも沢山持ってたね。▽ブウ▽国文学部。「獺祭(ダツサイ)とは、川ウソが食べもしないのに、道楽で魚を捕って岩の上に並べるサマだそうです……。ハジメちゃんは、川ウソみたいに名句を沢山作りましたね。「獺祭」に載せきれないくらい……。</p>			

正木 茂



▽するめ▽弁論部。三芳野村の大きな旧家のご息子さま。家には先祖伝来の刀が沢山あって、学校にも持ってきたっけ。今でも沈黙党にひと振り保管。自転車通学一群の雄。高三の秋の県弁論大会に出場、等外だったが、大井部長激賞。その一文は生徒会報に永遠に残る。

増田 クン



▽マス公△父上は強い軍人さんで、その気性を継いで負けん気は人一倍。大きな人にも勇敢に勝負。学校に刀を持ってきて、危なく引っこ抜きそうになり、みんなでマーマーと止めました。二年B組で起きた「松の廊下」事件。浅野内匠頭長矩の心境だったでしょう。天才夭逝

松本 進



▽デコ▽野球部。小柄だが左投左打の好打者。俊敏なプレーが目立っていた。どういう訳か、入間川にはスゴイ人が続出。仲間も彼に一目置いていたようで、彼の球を受けた竹沢・高梨両君の思い出は尽きず。どこか身体の具合が悪かったようですね。でも有名人だった。

水村 哲也



▽スカシ(所沢のスカチンの良きライバル)▽野球部。川越木屋製作所の御曹司。立派なボディにあまいマスク、スポーツ万能。加山雄三なんかよりずっと、乾杯!若旦那”でした▽慶応大学。業績隆盛と順風満帆だった。アメラグもやったり、川越三田会のリーダーでした。

三友 善夫



▽タドン of ゼンちゃん▽生物部。色は黒いが貴公子で、シンボルの大きなホクロが首筋に。友達の敬愛を集めた秀才。野球も熱心でポップ・フェラーりばりの速球でした▽日本医科大学▽埼玉県立がんセンター病理部長として活躍したが、急逝してしまつた。級友は逸材を失つた。

武藤 元造



(旧姓高橋)

▽ガンゾー・モトゾー▽化学部。高一から化学の助手になって、一応センセイになりました。自転車通学一番のハンサムで、女子学生の憧れの的でした。化学部爆弾事件では原料担当なるも時効不起訴。武藤に姓が変わりました。

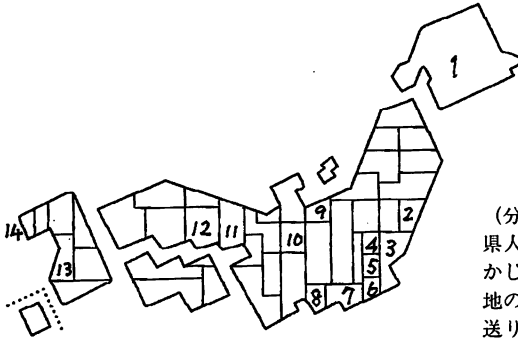
横田 平三郎



▽ヘイザブロー▽国文学部。芥川龍之介を少年にしたような鬼才で、体操なんか見向きもしないで本ばかり読んでいました。無類の将棋好きは有名。授業中やっていて駒を没収され、教員室で正座させられましたね。思い出のひとつです。

川越高校第三期生名簿<付録>

データ その1 「どちらにお住み？」同期生(213名)、日本列島分布之図



◎海外在住者 ()長期赴任者

ベネゼエラ	マラカイボ	1
ドイツ	ハンブルグ	1
台湾	台北	(1)
ブラジル	サンパウロ	(1)

(分析)

県人氣質か、地元にかじりつき気味。遠地の級友にエールを送りましょう。

No.	住 所	人
1	北海道・札幌市	1
	(2) 栗山町	1
2	茨城・水戸市	1
	(2) つくば市	1
3	千葉・市川市	2
	(6) 松戸市	1
	船橋市	1
	茂原市	1
	袖ヶ浦市	1
4	埼玉・浦和市	4
	(127) 大宮市	5
	上尾市	2
	桶川市	2
	越谷市	1
	春日部市	2
	東松山市	3

4	埼玉・川越市	47
	坂戸市	1
	鶴ヶ島市	1
	日高市	1
	狭山市	11
	飯能市	6
	入間市	8
	所沢市	12
	上福岡市	1
	富士見市	2
	志木市	3
	朝霞市	1
	和光市	5
	新座市	2
毛呂山町	1	
越生町	1	
大井町	1	
三芳町	1	
川島町	1	
小川町	1	
吹上町	1	

5	東京・文京区	1
	(48) 墨田区	1
	江戸川区	1
	江東区	3
	品川区	1
	大田区	3
	渋谷区	1
	目黒区	3
	世田谷区	2
	新宿区	1
	中野区	1
	杉並区	1
	豊島区	4
	板橋区	4
	練馬区	6
	武蔵野市	1
	三鷹市	1
	府中市	1
	国分寺市	1
小平市	3	
東村山市	1	

5	東京・町田市	1
	福生市	1
	保谷市	2
	東久留米市	1
	清瀬市	1
羽村市	1	
6	神奈川・横浜市	10
	(17) 川崎市	4
	鎌倉市	1
	座間市	1
海老名市	1	
7	静岡・清水市	1
	(2) 伊東市	1
8	愛知・名古屋市	1
9	富山・富山市	1
10	滋賀・彦根市	1
11	兵庫・西宮市	1
12	岡山・倉敷市	1
13	熊本・熊本市	1
14	長崎・佐世保市	1

データ その2 「ご家族はお元気ですか？」古希の会(21世紀)には孫1,000人確実!

	息子・娘や孫は全部で?	一家族あたり		息子・娘や孫に恵まれたご同輩		コメント	
		平均	最高	グランプリに輝く栄誉者	惜しくも第2位		
子	息子	212人	1.076人	4人	小高省三、山崎孝雄(各4人)	浅倉 昭ほか13名(各3人)	家内安全を祈る
	娘	195人	0.989人	4人	塩入亮善(4人)	稲生義彦ほか3名(各3人)	賑やかでしょう
孫	合計	407人	2.065人	5人	清水良平(5人)	新井涼平ほか7名(各4人)	家運益々隆盛
	孫	144人	0.730人	5人	町田郁夫(5人)	小林洋左ほか3名(各4人)	うらやましいね!

(資料 197名)



入間三菱自動車販売株式会社

代表取締役 青木 勲 輔 (3回卒)

常務取締役 青木 功 吉 (8回卒)

顧 問 浅見 茂 男 (3回卒)

営業店のご案内

カープラザ武州 茨山市上赤坂617-3
☎0429(57)5131番
カープラザ狭山 茨山市富士見1-25-3
☎0429(58)6411番
カープラザ磯ヶ島 磯ヶ島市脚折町5-4-45
☎0492(85)7161番
グリーンカー狭山 茨山市富士見1-16-23
☎0429(58)6411番

取扱車種のご案内

RVR / MIRAGE / ETERNA
GTO / DIAMANTE / LIBERO
CHARIOT / DELICA / STRADA

狭山 **清玉** 作

(株) 狭山人形

代表取締役社長 小沢孝志

狭山市富士見1-3-5 TEL0429-57-1121

行く道 帰る道に



マークの油新石油がある



アブシン

油新石油株式会社

代表取締役社長 新藤邦泰

本社 志木市本町1-6-15 TEL 048(471)0079

愛情満タン
ネットワーク

- 営業所 ● 志木 ● 和光 ● 朝霞 ● 朝霞中央 ● 浦和 ● 与野 ● 春日部 ● 春日部中央
● 北本 ● 川越 ● 所沢 ● 鶴ヶ島 ● 野本 ● 寄居 ● 鶴ヶ島蔵前 ● 岩槻
● 北所沢 ● 春日部栄 ● 浦所三芳 ● ニュー北本 ● 三原油槽所 ● 川越民間車検工場
● 東日本通商㈱ ● レストラン・タイム ● 大和田(予定=川口/鳩ヶ谷/新座東北)



おまかせ下さい。毎日精米、品質保証の地元の米屋!!



(有) 柴崎米店
柴崎建治

当日精米・当日配達
酒・米・銘茶・日石灯油

本店 和光市白子2-23-5
電話 (61) 2008(代)

中村法律事務所

辯護士 中村生秀

〒151 事務所 東京都渋谷区代々木2丁目20番19号
新宿東洋ビル402号(新宿南口・甲州街道側)
電話 03(3379)8711/FAX 03(3379)8714
〒160 自宅 東京都新宿区西新宿4丁目3番4
ハynesロフティ1009号室
電話 03(3375)9279



総合家具商社



株式
会社

カタヌマ

代表取締役 瀧沼 稔 (旧姓 峰岸)

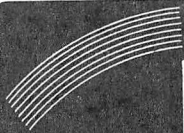
本社 東京都台東区元浅草1-6-15 〒111

☎(03) **3842-1911**(代)

営業本部 埼玉県草加市谷塚上町471 〒340

☎(0489) **25-1111**(代)

営業品目 和洋家具・住宅設備機器等の卸販売及び
インテリア内装工事……他



HY'S

HOTEL

ホテル ハイッ

所沢店(西武遊園地際)・三芳店(所沢IC近く)

所沢織布株式会社

所沢市小手指町4-18-3 TEL 0429-49-1751(代)

取締役社長 糟谷 熊(所沢市山口2888)



ダスキンの全商品取扱い

イデ アキ
(株) **ダスキーン** 晃

代表取締役社長 柳田 径伸

県内各地の係員が身近にサービス致します。

 **0120-327262**

春日部市一の割1230-1 ☎(048) **736-7262**(代) FAX (048) 738-8585

奥武蔵グリーンライン 顔振峠展望台

手打 顔振そば

富士見茶屋 加藤康夫

飯能市長沢1552 TEL 0429-78-0898

丸田 謙三

埼玉県川越市久保町2-1

PHONE: (0492) 24-1277

FACSIMILE: (0492) 25-1821

スポーツ・カジュアル & キングサイズ
& キングサイズ 各種シューズ

安さの秘密=問屋直営

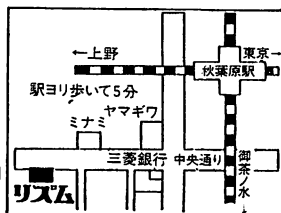
靴のリスム

代表 森田重敏
秋葉原中央通り店

千代田区外神田3-14-9 TEL 03-3253-8220

■営業時間 ■AM 10:00~PM 7:30 年中無休

リーガル・シューズ
ジャーマン・シューズ
他、世界の一流ブランド



医療法人



草薙整形外科

水村博光

〒424 清水市草薙2丁目24番15号



地粉めん ● 地そばめん

中島製粉

中島喜三郎

坂戸市森戸522/TEL 0492-85-0319

ハウステンボス

格別の出会い、格別のひととき

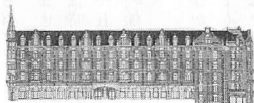


HOTEL EUROPE

ホテル ヨーロッパ

A member of

*The Leading Hotels
of the World*



NHV HOTELS
INTERNATIONAL

株式会社NHVホテルズインターナショナル

〒839-32 長崎県佐世保市ハウステンボス町7番地7 TEL.0956-58-1111/東京営業所 03-3486-0787/大阪営業所 06-348-0408/福岡営業所 092-482-1333
ホテル ヨーロッパ(329室)/ 迎賓館(9室)/ ホテル デンハーグ(228室)/ ホテル アムステルダム(203室)/ フォレストヴィラ(105戸)

ご予約お問い合わせ:ハウステンボス総合予約センター/TEL.0956-27-0011

編集後記

●「時は春、日は朝」の青春記と呼ぶには些か重い文集にもなったが、一つの時代の誇りに足る叙事詩ができたと思う。還暦を迎え、名利を離れて己れを語れる歳になったのだなあと感じ一入だ。(金鳥)

●「文は武に勝る」。教練やシゴキの先生より、ゲル先生や徳さんへの憶いが強い我々は、やはり名門川高三期生といえるのかな？ 常用漢字表にない「獺祭」的な原稿は校正者を泣かせた。(小熊)

●パソコンでの名簿作りに協力要請があり、一枚のミニディスクを渡されたのが五月末。僅か一万字分の原本は、九月末には何と十七万字分にも。貴重なデータベース、大切に保存したい。(阿部新)

●記念すべき写真を皆さんが大量に保存され、今回提供していただいで感激しています。私のような中退者も仲間に入れていただき、ありがたく、衷心より感謝します。(水口)

●偏執人が出しやばり過ぎて恐縮。またヒヤヒヤさせたり怒らせたり反省！本が重くてご免ナ？皆を中學時代に呼び戻したくてネ。次は古希記念でやろうや。彼岸会と競作？僕はどっちかな。(松岡)

●今年も間もなく秩父夜祭がやってくる。その日に私は、必ず一歳年をとることに

なる。還暦を過ぎてはじめての一年である。しかし私は人生七掛で生きている。精神的にも肉体的？にも。(若澤富)

●「温故知新」徳さんの漢文の授業で返り点を学んだ。人間常に進歩を心がけたいもの。この文集が青雲の志を抱いた中、高時代を回顧し、還暦を過ぎたこれからの指針となる事を願っている。(益子)

●卒業以来四十余年、その間殆どごぶさたに過ぎた。その罪滅ぼしという意識も手伝って、厚かましくも若干のお手伝いをさせていたのだ。暖かく迎えてくれた旧友に心から感謝している。(清水)

●われらがW杯は堀、斉藤、阿部、水口ほか優秀な選手の堅いディフェンス、FW青柳、宮崎、平岡、松岡選手などの果敢な攻撃で大量得点。小生はただゴールあたりでウロウロ。そして笛。多謝。(松村)

●僕らの還暦は定年とともに、長雨と冷害、地震災害、不況など暗いことばかりだが、同期各位の協力と、企画から完成まで気張った諸兄のお陰で、予期以上の出来映え。三期生万歳。(小林洋)

●同級生数人除四十三年間不会浦島如最近編集委員等再会集喜或時中高時代戻春返空白次第理盡当文集発起人大感謝今後皆益々元氣健康爽快風光清流流緑紅葉自然永久春夏秋冬芸術水人生短。(大野良)

●屢々会合に参加したが、皆が生き生きとして、作業に当たっており、中学・高校時

代に戻った感がした。立派な記念文集が出来たのは青柳、松岡、松村その他の編集委員諸兄に負うところ大である。(西川)

●午前午後各一回、わが家の郵便受を覗き込むのが今年に入ってから楽しい日課でした。懐かしい発信人の封筒を拝見して嬉しかった。発刊を契機に、同期の桜の交友が更に深まる事でしょう。(堀)

●埋め草の一言。しよせん人は時代の所産。しかしまた、人は時代をつかみ、時代を創る。あの八・一五を挟んだ桶の青春。時代とわれ等。映像、ひとこまでも遺せば望外の幸せ。(東)

●一緒に卒業はできなかったが、記念文集作りの仲間に加えてもらったことを只管感謝。殆どお役に立てなかったが、昔の応援歌の歌詞を思い出すのに、いささか貢献できて嬉しかった。(菅間)

●川越プリンスの同期会で突然文集作成提案が出た時は驚嘆し、酔いが一度に冷める思いがした。昨年西武鉄道を定年退職身軽になり、編集会議も皆勤し立派な本ができた。誠に本懐なり。(斉藤恒)

●最初は、子供の頃からの思い出を思ったが、取って多少は自慢でつて年を食ったも可能な私の趣味「釣り」について書いてみた。相変わらずの宮仕えままだらぬ休みに行く釣りは又、格別だ。(奥田)

●機銃掃射、勤労動員、徳さんの思い出を大勢が書いた。空襲、疎開の文に友の

編集室から

平成三年十月二十七日、金島君の文集提案があつてから早くも二年余。その間議事録記載分だけでも十六回、延べ百六十六人による会議・打合せがあつた。スタッフは担当ごとの班に分かれ、土日昼夜の区別なく連絡があつた。そして多くの人が「縁の下の力持ち」の役を喜んで引き受けてくれ、すでに亡くなつた級友や転校などで行方知れずの人までも、この「紙上同窓会」に出席させてくれた。

今や「還暦」という言葉はある意味では死語になつてつある。古い言葉だからというだけではない。昔ほどには内容が伴わないのだろう。同じ六十歳でも「還暦」よりは、サラリーマンの「定年」や「リタイア」のほうが大きな響きを持つていようだったが、我々は「還暦」の年ではあつても「リタイア」にはまだ生臭すぎると思つてゐる。

無論、病気とか、不遇のために筆を執る気になれない人もあつたかも知れないけど、今回寄稿のなかつた人は概ね「還暦、まだピンと来ない」組ではないかと思つたと愉快な気さえしてくる。「今さら昔のことなど……」という人も考えてみれば、それだけ「ただ今、現役」ing

だということであり、友人として喜ぶべきことではないだろうか。

しかし、それぞれの六十年だ。いろんな還暦があつて当然だ。この本も作る以上は他人にも見られるし、後世にも残らう。それを喜んでくれる人もいたし、躊躇する人もいた。だがこの本は、まず第一に現在の私たちが自身をそれぞれの業し間で、喜びのために作りたと思つた。世間や後世の評価はその結果に過ぎないと考えるべきだろう。第一、作り物の歴史を後世に残したつて何の価値もない。

その点、今回の寄稿の殆どが本音で語られており、事実を活写している。その上、寄稿者百七十人は予想をはるかに超えるものであり、文集は大成功だった。

途中、編集陣のカナメである大澤米吉君を失つたのは痛恨のことだったが、ともかくここまで来られたのも、原稿を寄せてくれた人たち、そして予算をバックアップしてくれた広告主の皆さん、それに絶えず精神的なエールを送つてくれた「飛行機雲」の先輩たち、貴重な時間を割いて編集会議に集まつてくれたスタッフの皆さん。そして何よりも、これらの原動力となつた川中・川高の歴史と先生方の大きな「置き土産」のお陰だ。これらの全てに感謝の意を捧げ、また大澤君始め、物故級友、先生方のご冥福を祈つて編集後記に代えさせていただきます。(編集室)

顔を思い浮かべながら涙した。編集会議の際に川越の街を歩き、しばしば黒髪少年時代へ遡つた思いがした。(宮崎)

●膨大な本文の校正を担当した。仕事を進めていて「今年」「昨年」「この三月」などという言葉になんども接したが、これは大方の皆さんの原稿執筆時の一九九三年(平成五年)度に基づいている。それだけにこの前半半までに還暦、定年という人生の節目を体験して、走りつづけた来し方を顧み、これからのゆとりある生活を夢みてペンを走らせ、ワープロを操つた方が多かつたのに相違ない。皆さんのご健康をお祈りする。(平岡泰)

●「命余りの、ゼニ足らず」も困るけど、「ゼニ余りの、命足りず」ではしようがない。身体に気をつけましょう。次回は「古希」か「喜寿」か? その時は「原稿余りの、ゼニ余り」で行こう。(X大人)

●分を弁えず、おだてられて木に登つてしまったことを反省。でもおかげさまで遠い昔に旅することができ、二倍長生きした気分。ポケ防止にもなりました。終わったあと一氣に進むのかナ? (青柳)

●この本は途中転校休学等に関係なく同期の級友によって作られました。一人でも多くの級友の消息をお待ちしています。なお、再会しても年賀、挨拶、などのお付き合いは増加させない約束です。(編)

川越高校第三期生 還暦の文集 スタッフ

文集発起人代表

編集事務局長

編集長(永久欠番)

編集会議議長・書記長

編集ディレクター

編集会議 レギュラー(五十音順)

青柳安彦 阿部新一 内海俊郎 大野良三

奥田 誠 小熊忠三郎 金島壯行 小林洋左

齊藤 恒 清水良平 菅間 昭 中村生秀

西川 博 東 敏雄 平岡泰之 堀 陽

益子弘道 松岡章次 松村祐一 水口重雄

宮崎敏昭 (故)大澤米吉

岩澤富世 宇都野正章 加藤 健 柴崎建治

新藤邦泰 丸田謙三 村山利喜 桃井良之

森田重敏

特別参加

本文割付/校正 平岡泰之 宮崎敏昭

アシスト 青柳安彦 小熊忠三郎 金島壯行 清水良平

「口絵ページ」構成

「応援歌」復活 青柳安彦 内海俊郎 小熊忠三郎

大川 解 菅間 昭 沼田芳造 東 敏雄

比留間和夫 松岡章次 水口重雄 森田重敏

「座談会」企画・司会・進行 松岡章次(サブ) 青柳安彦

出席 青木勤輔 朝久野貞郎 内海俊郎 小野則彦

齊藤 恒 新藤邦泰 長島恒雄 中村生秀

西川 博 沼田芳造 東 敏雄 正木一男

山田和宏 阿部新一 小熊忠三郎 清水良平

スクリーン

「職員室」取材/監修

阿部新一 川合敬三 小林洋左 清水良平

西川 博 水口重雄 協力：市川正男先生

ワイワイ・ガヤガヤ……大騒ぎの一年半でした。

……弁護士活動で培った人脈・調整力をイカンなく發揮し、難問も解決

……連絡のカナメとして、鉄壁のゴールキーパー振り。

……どうして、こんなことになったのか。一番熱心な人だったのに。

……自分は脱線しても？ 会議の脱線・暴走は未然に防ぐ、万全の舵取り。

……オタテに弱いのではあ頃のまま。器用貧乏であちこち手を出しカキ回す。

……ともかく救ってこなくて米吉親分のアナを埋めた。

……金島は文集の言い出しっぺ。途中、奥さんを亡くしながら超絶の協力。

……小熊、清水、菅間は多摩川を、東はなんと利根川を越えてはるばる参加

……恒さん、中学高校に続いてこども皆勤賞。座談会にも出演の大車輪。

……六十の手習い結実。阿部「パンソン新ちゃん」の活躍。見習うべし。

……奥田の勤め先(開始時)川越都市開発の会議室は編集陣の我が家同然。

……ちよつともノウハウを持っていそるな人はみんな引つ張り出した。

……「昔古城の」を歌ってくれた人もいたっけ。

……思わぬ人の思わぬ飛び入り、本当に嬉しかった。忘れないよ！

……平岡・宮崎両プロの校正がなければ本文集は誤字だらけでしたゾ！

……静かて無口で、いきなり鋭く訂正する清水にも随分助けられた。

……懐かしくって、なんだか自分のアルバムを整理しているみたい？

……菅間の記憶力がなければ、一番は迷宮入り？だった。

……東、大川、沼田の電話の向こうでの熟睡なくば、メロディもアヤフヤ。

……比留間、内海なかせば、せつかくの記憶もオタマジヤクシにならず。

……懐かしや小野テンの登場。カンスケ、スカチン、新藤、沼田との対面

……朝久野、西川、正木、内海の技能派力士に、東、長島の総代組も加わって。

……恒さん、生秀ともども、松岡庄之助の軍配鮮やかに水入りの大勝負。

……このメンバーで時々飲みたいねえ。

……喋り放題の二時間のテープを文字に移した「書き取り」の名人技。

……シプロク先生の特訓の賜物？

……川高職員、教育委員会、オケンの校長、小学校校長の経験者に加えて。

……恩師のセガレ「ゲール二世」に昇格したオタマン・ヤクシと豪華な顔触れ。

「悪童風雲録」キタ・セクスアリス

イラスト 松岡章次

「川越地図」「川越年表」「校内地図」

「学制推移」クラス編成」 集計 作図・作表 青柳安彦

「キイワード」 青柳安彦 小熊忠三郎 菅岡 昭

「級友名簿」 平岡泰之 宮崎敏昭 他

住所電算集計 阿部新一 斎藤 恒 堀 陽

松岡章次 松村祐二 阿部新一

パソコン・ワープロ 阿部新一 (青柳安彦)

題字 青木勲輔

装丁 大野良三

見返しイラスト 松岡章次

イラスト・カット 大野良三 松岡章次 (故) 原 武 松平静江

扉写真 柴崎建治

資料管理 清水良平 水口重雄

印刷・製本・発注管理 田中 崇 平岡泰之 宮崎敏昭

広告・渉外 堀 陽 松村祐二 中村生秀

広告デザイン・補作 青柳安彦

財務/会計 中村生秀 松村祐二 堀 陽

協力 教育出版株式会社

ダイニツク株式会社

計画発案 H. 三. 一〇. 二七 川越プリンスホテル同窓会にて

第一回会議 H. 四. 八. 三〇 川越都市開発会議至九名

H. 五. 一〇. 一一現在 公式会議一六回 出席者延数一六六名

寄稿 一七二八 本文寄稿数一七五通

それにしては市川先生の記憶力の鮮やかさは脱帽。

…… 展覧会での賞は無用。隠れた天才画家を発見。今後の活躍に期待。

…… 高校時代、郷土部にいれば、もう少し役に立つ仕事が出来たかもね。

…… いろんな人のいろんな記憶、こんがらがった糸をほぐすのも楽しかった。

…… 整理が大変だった。

…… 恒さんの四つ相撲と、偏仁・松岡のケタグリが生んだ名勝負。

…… しかし、これも「パソコン新ちゃん」の技術がなければ「絵に描いた餅」

…… パソコンで一発、ズルイ。いや、エライ！

…… 青柳はワープロ。ミニフロッピー一枚半。字数？ワープロじゃ出ないよ。

…… 寄稿も筆書きの書家。「悪ガキ」のイメージ今いすこ。

…… なんだって、ホンモノの「絵の先生」登場です！

…… 本職は絵描きでも、漫画家でもありません。漫画的大家物だって？

…… 思いがけず、原武のイラストに出会えた。松村の几帳面さの賜物。

…… まさか、お米屋さんで、受賞写真家とは思わないうでしょう。ホントです。

…… これって、目立たないけど、とってもシンドイ役目なんです。

…… 広告主のおかげでページも増え、文字も「読める大きさ」になりました。

…… 集まったたいせつなお金。ガッチリ、ガードしてくれました。

…… 宮崎敏の元勤務先。校正に会議室を貸してくれました。受付も美人です。

…… 表紙のクロスを寄付してくれました。おかげで豪華本ができました。

…… 川越都市開発(株)の他に、

…… 市駅前「喫茶「ラブ」」菅原町そば「尾張屋」でも打合せ。すっかり

…… おなじみに……おせわになりました。

表紙のことば

最近、時々あの楠の木が頭の中に浮かび上がってきて、葉と葉がふれあう音があの時の我らがざわめきにも聞こえてくる。そのうち葉と葉がだれかれの顔に見えてきて、あの先生やあの友とのやりとりが始まってくるのだ。etc……。楠の木にまつわる思い出は尽きないから、表紙の色は濃緑の楠の葉の繁みにした。カバーは我々同期生一人一人の足跡を表すかの如く、二百余枚の楠の葉と二百余本の線で構成した。そしてこの線はいつまでも広がっていくであろうとの思いをこめて。

大野良三

おいしい、楠の木よ

頒価 五〇〇〇円

平成六年三月十日 発行

編集 埼玉県立川越高等学校第三期生
発行 還暦の文集刊行委員会

代表者 中村 生秀
事務局 堀 陽

〒350 川越市三光町七ノ三(堀方)
電話 ○四九二・二二一・〇五四四

製版 東京写真植字株式会社
印刷 田中製本印刷株式会社
クロス ダイニツク株式会社